

**第7次大口町総合計画策定のためのアンケート
結果報告書**

令和2年10月

大口町

目次

はじめに 調査の概要.....	1
1. 回答者のプロフィール.....	3
1-1 性別・年齢（問 51・問 52）.....	3
1-2 居住地域（問 53）.....	5
1-3 居住年数（問 54）.....	6
1-4 職業（問 55）.....	7
1-5 同居の家族（問 56）.....	8
2. 住み心地と定住意向について.....	9
2-1 まちの住みやすさ（問 1）.....	9
2-2 定住意向（問 2）.....	11
2-3 移転理由（問 3）.....	14
3. 町政等の満足度と重要度について.....	15
3-1 満足度の評価.....	16
3-2 重要度の評価.....	22
3-3 施策に対する満足度と重要度の評価（ポートフォリオ分析）.....	26
4. 子育て・教育について.....	31
4-1 子どもの発育環境（問 5）.....	31
4-2 子どもの教育における家庭の役割（問 6）.....	35
4-3 子どもの教育における地域の役割（問 7）.....	38
4-4 力をいれるべき教育分野（問 8）.....	42
4-5 教員が授業以外で優先すべき業務（問 9）.....	45
5. 環境に配慮した暮らしについて.....	50
5-1 暮らしの中での二酸化炭素排出削減の取組み（問 10）.....	50
5-2 家庭におけるごみ減量化の取組み（問 11）.....	53
6. 身の回りの安全（防犯・防災）について.....	56
6-1 犯罪の未然防止のための地域の役割（問 12）.....	56
6-2 詐欺や悪徳商法についての注意喚起（問 13）.....	59
6-3 地震の備え（問 14）.....	62
6-4 防災訓練等への参加（問 15）.....	66
6-5 災害に備えた家庭内備蓄（問 16）.....	69
6-6 災害時の避難方法等についての確認（問 17）.....	72
6-7 地震による家具等の転倒防止策（問 18）.....	75
6-8 住宅用火災報知器の設置（問 19）.....	78
6-9 救命救急講習受講の有無（問 20）.....	81
7. 健康や食生活について.....	84
7-1 健康への不安（問 21）.....	84

7-2	健康に気がつかった暮らし（問 22）	88
7-3	かかりつけ医の有無（問 23）	92
7-4	歯科検診の受診（問 24）	96
7-5	運動ができる環境（問 25）	99
7-6	健康的な食生活（問 26）	102
7-7	朝食の摂取（問 27）	105
7-8	地産地消を意識した購買行動（問 28）	108
7-9	心豊かな生活（問 29）	112
7-10	力を入れるべき健康づくり施策（問 30）	116
8.	これからのライフスタイルと社会貢献について	120
8-1	豊かさの考え方（問 31）	120
8-2	時間をとりたい活動（問 32）	124
8-3	社会貢献に関する意識（問 33）	128
8-4	具体的貢献内容（問 34）	131
9.	人や地域のつながりや地域自治活動、行政と住民の協働について	136
9-1	地域でのあいさつ（問 35）	136
9-2	子ども達とのあいさつ運動（問 36）	139
9-3	高齢者・障がい者等への手助け（問 37）	142
9-4	地域自治組織の認知（問 38）	146
9-5	地域自治組織への参加意向（問 39）	150
9-6	ボランティア活動への参加（問 40）	155
9-7	住民の町行政への関わり（問 41）	159
9-8	住民参画のまちづくり（問 42）	163
9-9	まちづくり活動における主体性の考え方（問 43）	167
10.	地域の情報化について	179
10-1	「広報おおぐち」の利用状況（問 44）	179
10-2	個別受信機による放送状況（問 45）	182
10-3	インターネットの利用（問 46）	185
10-4	インターネット活用による地域情報化施策への期待（問 47）	187
11.	町の事業やサービスなどの認知状況について	190
12.	公共施設と住民負担の関係について	193
12-1	公共施設の利用（問 49）	193
12-2	公共施設の利用と負担の関係（問 50）	195

資料編

アンケート調査票（原票） 199

はじめに 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、「第7次大口町総合計画」の中間見直しをするにあたり、多くの町民に町政等の満足度や重要度、分野ごとの町民生活の実態や意向、将来のまちづくりの方向性などについて把握することによって、「第7次大口町総合計画」の達成状況を評価するとともに、町民の意向を十分に反映した見直しをする上での基礎資料を得ることを目的に実施しました。

なお、調査票の設計にあたっては、平成27年度に実施したアンケートや国や県が実施したアンケート結果との比較分析ができるよう配慮に努めました。

2. 調査対象者

令和2年4月末時点において大口町内に住民登録している20歳以上の町民を対象に、無作為に3,000人を抽出しました。

3. 調査実施方法

郵送で配布し、郵送で回収しました。

4. 調査実施期間

令和2年5月1日（金）～令和2年5月18日（火）

※締め切り後に回収できたものも極力結果に反映した。

5. 調査票の回収状況

表0-1 回収状況

配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
3,000	1,955	1,953	65.1%

6. 標本誤差の範囲

標本誤差の範囲は、結果との比率の関係から以下の式であらわすことができます。

$$\sigma = k \sqrt{\frac{M-n}{M-1} \cdot \frac{p(1-p)}{n}}$$

M : 母集団
 n : 有効回収数
 p : 結果の比率
 k : 信頼度による定数
 σ : 標本誤差

ここで信頼度を95%でとると、定数kは1.96となるので、これをもとに誤差を算定すると表0-2になります。

表 0-2 標本誤差の範囲 (±%)

P	10%・90%	20%・80%	30%・70%	40%・60%	50%
標本誤差	±1.28	±1.77	±1.95	±2.08	±2.13

7. グラフの見方に関する注意事項

- ・グラフは、帯グラフ、横棒グラフ、ダンゴグラフ、折れ線グラフ、散布図の5種類を必要に応じて使い分けています。例えば、クロス集計の場合、表頭が単数回答 (SA) の時は帯グラフとし、複数回答 (MA) の時は、ダンゴグラフとしています。該当サンプル数については、帯グラフの場合は図中右に、ダンゴグラフの場合は表側の横の () 内に表示しました。
- ・本文中の割合の合計は、各項目を合計した後、小数点以下第2位を四捨五入した数値となっています。また、算出した評点については、小数点第3位で四捨五入しています。
- ・クロス集計の表側における「回答なし」は省略してあるので、表側の各項目のサンプル数の合計と全体のサンプル数は一致していません。
- ・図中の構成比 (%) は帯グラフ、ダンゴグラフとも小数点以下第2位を四捨五入してあるため、帯グラフの場合でも構成比の合計は必ずしも 100.0% にはなりません。
- ・複数回答 (ダンゴグラフ) の場合、割合 (%) の合計は、100.0% を超えます。

8. 調査実施方法

居住地域別のクロス集計は、3つの地域自治組織の区分で行いました。

区分	地区
南地域自治組織	秋田、豊田、大屋敷
北地域自治組織	外坪、河北、上小口、中小口、下小口
中地域自治組織	余野、垣田、さつきヶ丘

1. 回答者のプロフィール

1-1 性別・年齢 (問51・問52)

問51 あなたの性別はどちらですか【回答数：○印を1つだけ】

問52 あなたの年齢はいくつですか【回答数：○印を1つだけ】

回答者の性別は、「女性」が「男性」を上回っています。

回答者の年齢は、「70歳以上」が23.9%と大口町の実際の年齢構成よりも高齢者層が多くなっています。

【性別：全体】 (図1-1-1)

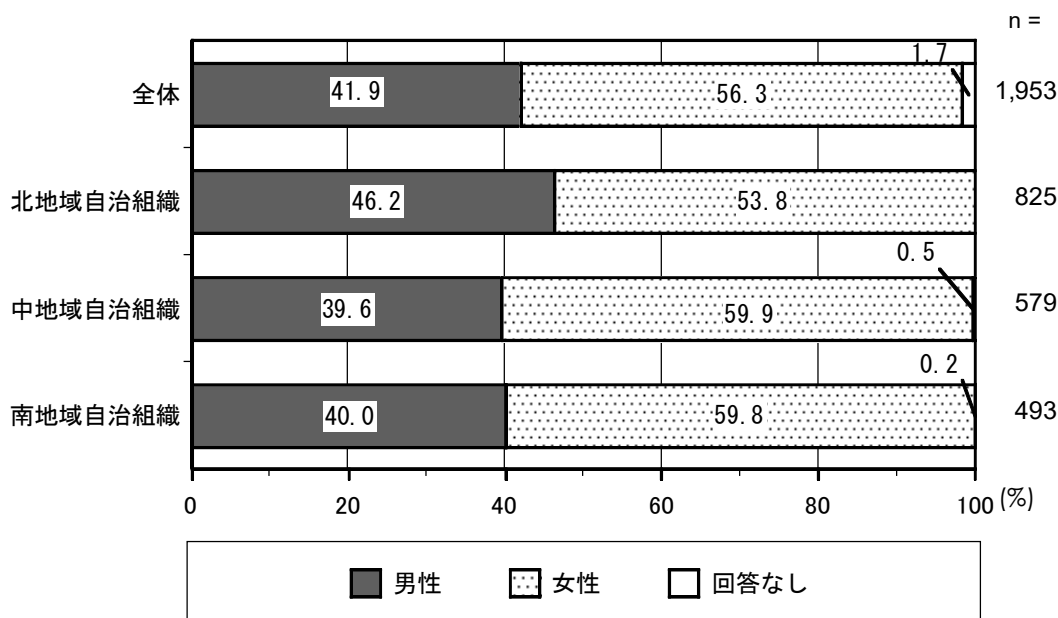
○「男性」が41.9%、「女性」が56.3%と「女性」が「男性」を上回っています。

○調査時点における町内全体の男女の比率が、ほぼ同じ割合であるのに対して、今回の調査では「女性」の割合が「男性」の割合を14.4ポイント上回る結果になっています。

【性別：居住地域別】 (図1-1-1)

○居住地域別にみると、特に南地域自治組織と中地域自治組織で「女性」が「男性」を大きく上回っています。

図1-1-1 居住地域別「性別」



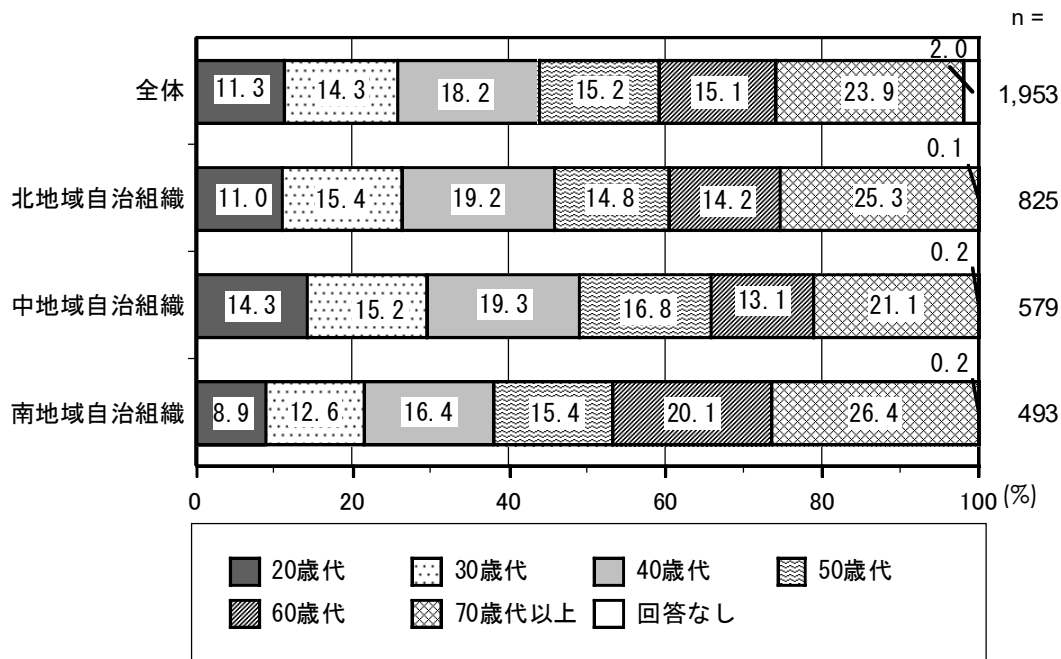
【年齢：全体】 (図 1-1-2)

- 「20 歳代」が 11.3%、「30 歳代」が 14.3%で、これらを合わせた若年層は 25.6%となっています。
- 「40 歳代」が 18.2%、「50 歳代」が 15.2%で、これらを合わせた壮年者層は 33.4%となっています。
- 「60 歳代」が 15.1%、「70 歳以上」が 23.9%で、これらを合わせた高齢者層は 39.0%となっています。
- 回答者は、大口町の実際の年齢構成よりも高齢者層に偏っています。

【年齢：居住地域別】 (図 1-1-2)

- 居住地域別にみると、南地域自治組織では、60 歳代が全体値に比べて若干多くなっており、その分、20 歳代が若干少なくなっています。

図 1-1-2 居住地域別「年齢」



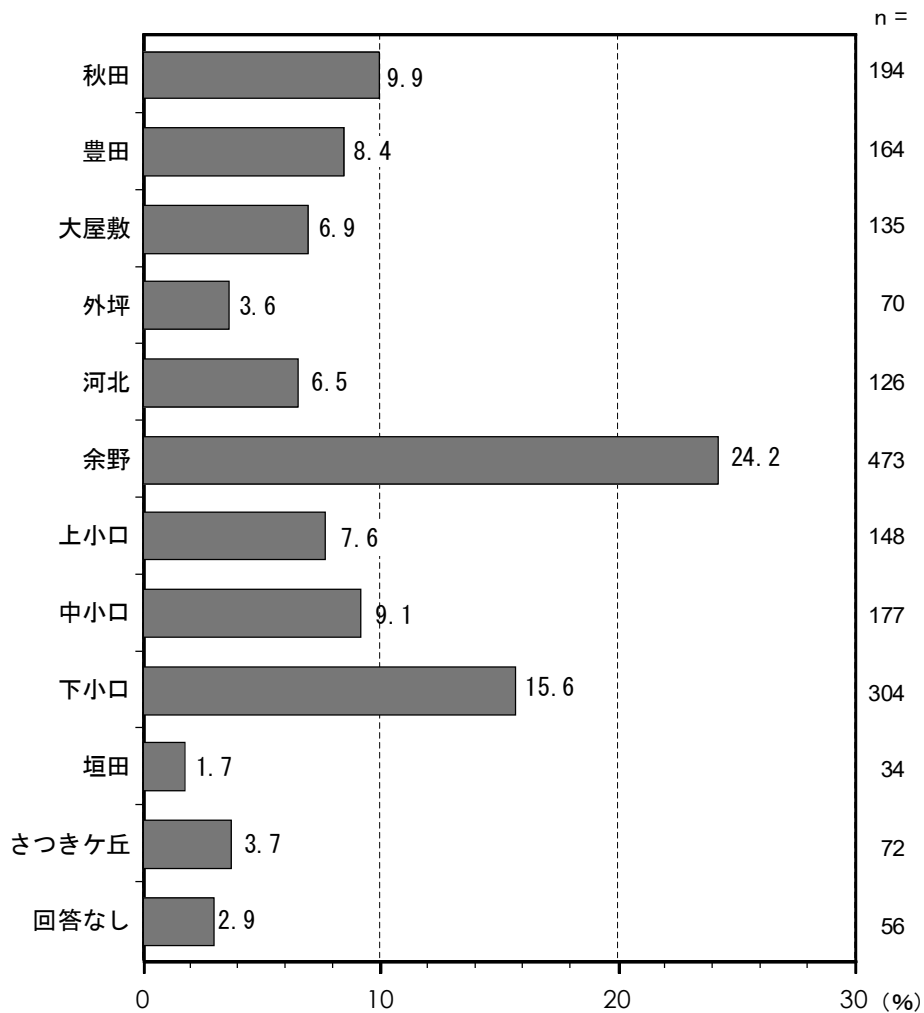
1-2 居住地域 (問 53)

問 53 あなたは、どの地区にお住まいですか。【回答数：○印を1つだけ】

【全体】 (図 1-2)

○「余野」が24.2%と最も多く、次いで「下小口」が15.6%、「秋田」が9.9%となっています。

図 1-2 居住地域



1-3 居住年数 (問 54)

問54 あなたは大口町に住んで何年くらい経ちますか。【回答数：○印を1つだけ】

居住年数が「30年以上」という町民が44.8%と最も多くなっています。南地域自治組織では居住年数が30年以上という町民が他の地域に比べて多く、6割近くとなっています。

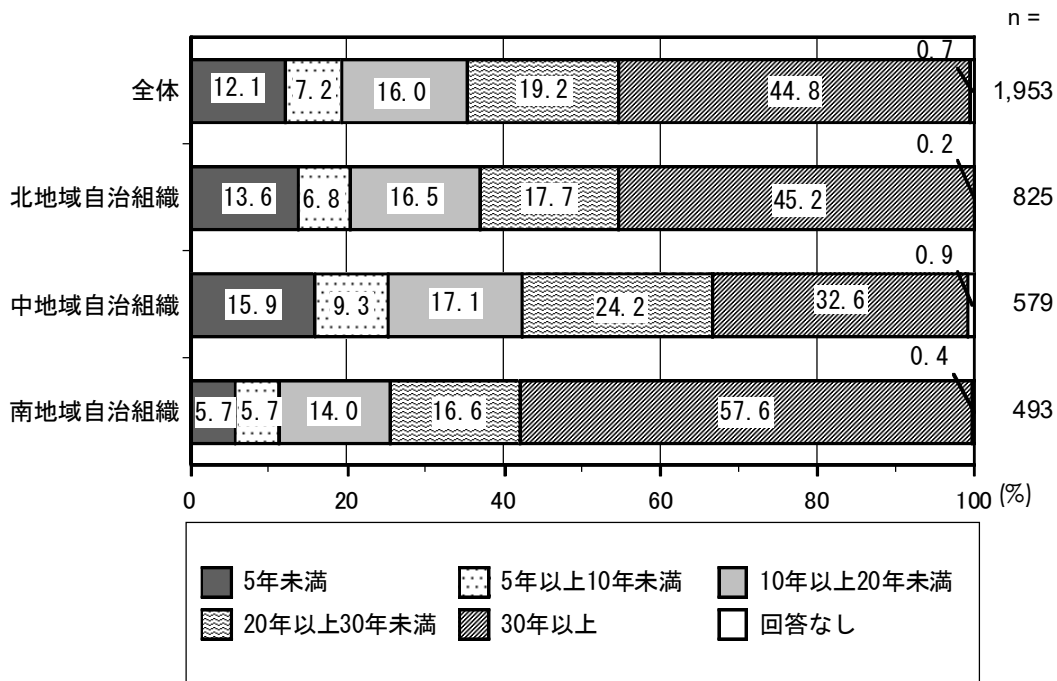
【全体】 (図1-3)

○「30年以上」が44.8%と最も多くなっています。次いで多いのが「20年以上30年未満」(19.2%)となっています。

【居住地域別】 (図1-3)

○南地域自治組織では「30年以上」が他の地域に比べて多く、57.6%となっています。一方、同自治組織では、「5年未満」が5.7%と全体値よりも6.4ポイント下回っています。

図1-3 居住地域別「居住年数」



1-4 職業 (問55)

問55 あなたの職業は次のうちどれですか。【回答数：○印を1つだけ】

「家事従事・無職」が31.2%と最も多く、次いで、「会社員・店員等」が28.8%と多くなっています。

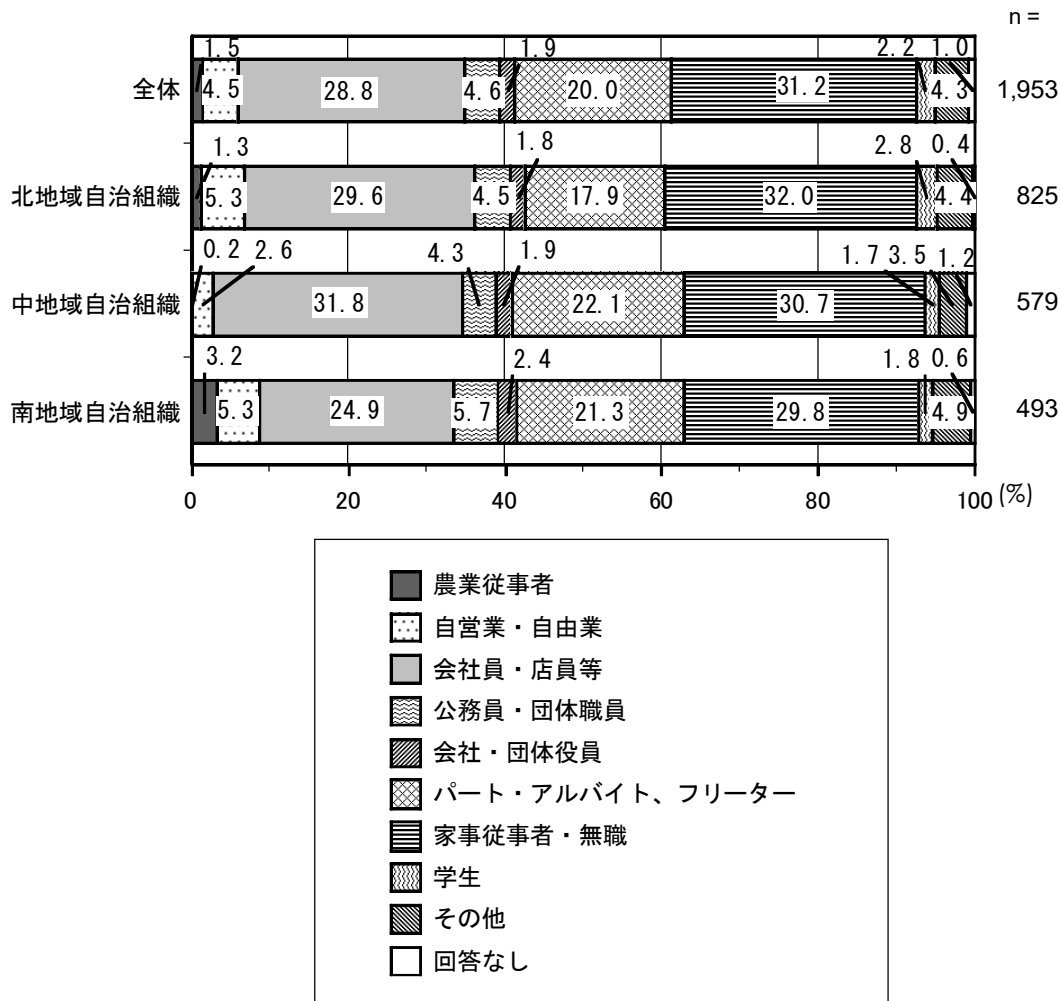
【全体】 (図1-4)

○「家事従事・無職」が31.2%と最も多く、次いで、「会社員・店員等」が28.8%、「パート・アルバイト、フリーター」が20.0%となっています。

【居住地域別】 (図1-4)

○南地域自治組織では、「会社員・店員等」が24.9%と他に比べて少なくなっていることが特徴としてみられます。

図1-4 居住地域別「職業」



1-5 同居の家族 (問56)

問 56 あなたの同居家族の中には、次のいずれかにあてはまる方はいますか。あなたご自身も含めてご回答ください。【回答数：あてはまるものすべてに○印】

「75歳以上の同居人がいる」が30.3%と最も多くなっています。

【全体】 (図1-5-1)

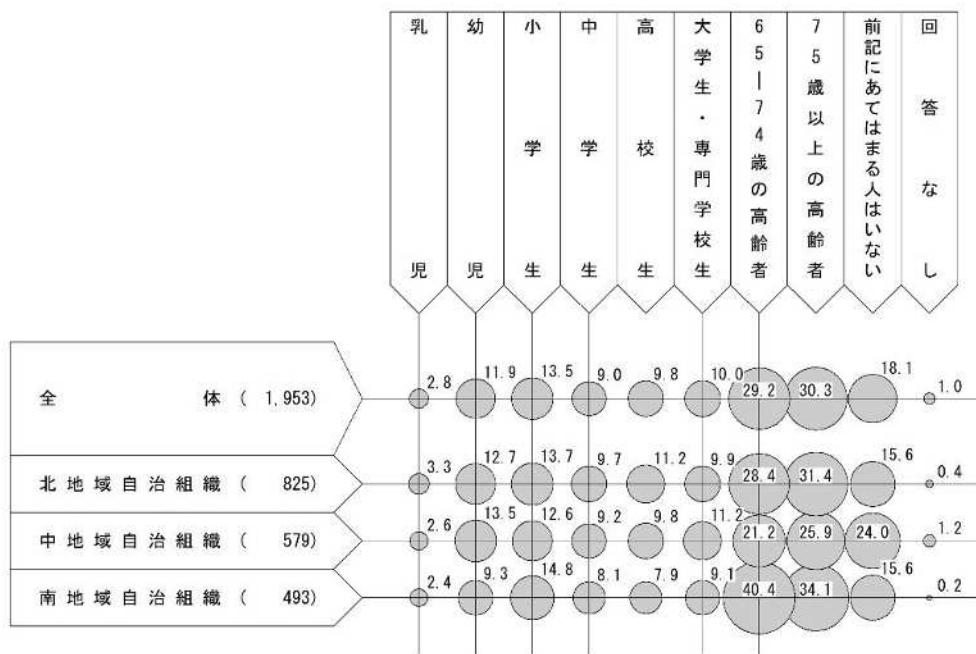
○後期高齢者にあたる「75歳以上の同居人がいる」が30.3%と最も多くなっており、次いで、「65歳以上74歳の同居人がいる」についても29.2%と多くなっています。

○子どもの有無について目を向けると、「乳児（1歳未満）」は、2.8%、「小学校入学前の子どもがいる」が11.9%、「小学生がいる」が13.5%、「中学生がいる」が9.0%、「高校生がいる」が9.8%、「大学生（専門学校生）がいる」が10.0%となっています。

【居住地域別】 (図1-5-1)

○南地域自治組織では、「65歳以上74歳の同居人がいる」が40.4%と他の地域より多くなっています。一方、中地域自治組織では「65歳以上74歳の同居人がいる」(21.2%) および「75歳以上の同居人がいる」(24.0%) が他の地域より少なくなっています。

図1-5-1 居住地域別「同居の家族」



2. 住み心地と定住意向について

2-1 まちの住みやすさ（問1）

問1 大口市は住みやすいまちだと思いますか。 【回答数：○印を1つだけ】

大口市に住みやすさを感じている市民は、9割超を占めています。「住みやすい」という回答は、20歳代と70歳代以上の高齢者層で多くなっています

【全体】（図2-1-1）

- 「住みやすい」が51.4%、「どちらかといえば住みやすい」が41.8%となっており、これらを合わせた大口市に対して住みやすさを感じている市民の割合（以下“住みやすいという評価”）は93.2%を占めています。
- 一方、「どちらかといえば住みにくい」が4.4%、「住みにくい」が0.7%となっており、これらを合わせた大口市に対して住みにくさを感じている市民の割合（以下“住みにくいという評価”）は5.1%にとどまっており、総じて、大口市はほとんどの市民から住みよいまちであるとの評価が得られています。

【前回・前々回比較】（図2-1-1）

- 平成17年、平成27年に実施した調査結果と概ね同様の結果となっています。

【年齢別】（図2-1-2）

- “住みやすいという評価”はいずれの年齢層においても9割を超えています。
- 「住みやすい」という回答は、20歳代（56.4%）や70歳代以上（55.2%）といった若年層や70歳代以上の高齢者層で多くなっています。

【居住地域別】（図2-1-3）

- “住みやすいという評価”はいずれの地域自治組織においても9割を超えています。
- 「住みやすい」の回答は、中地域自治組織で57.7%と過半数以上を占め、他地域に比べて多くなっています。

図2-1-1 前回・前々回比較「まちの住みやすさ」

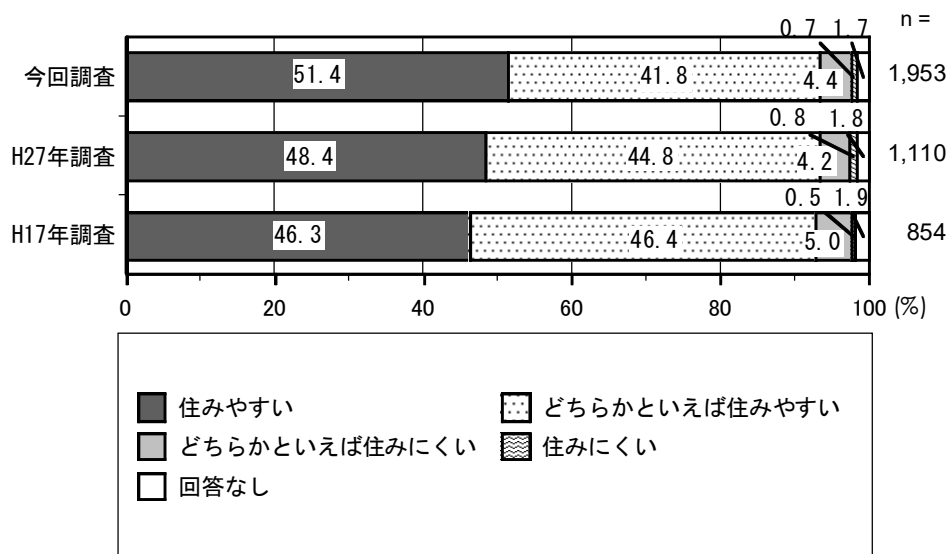


図2-1-2 年齢別「まちの住みやすさ」

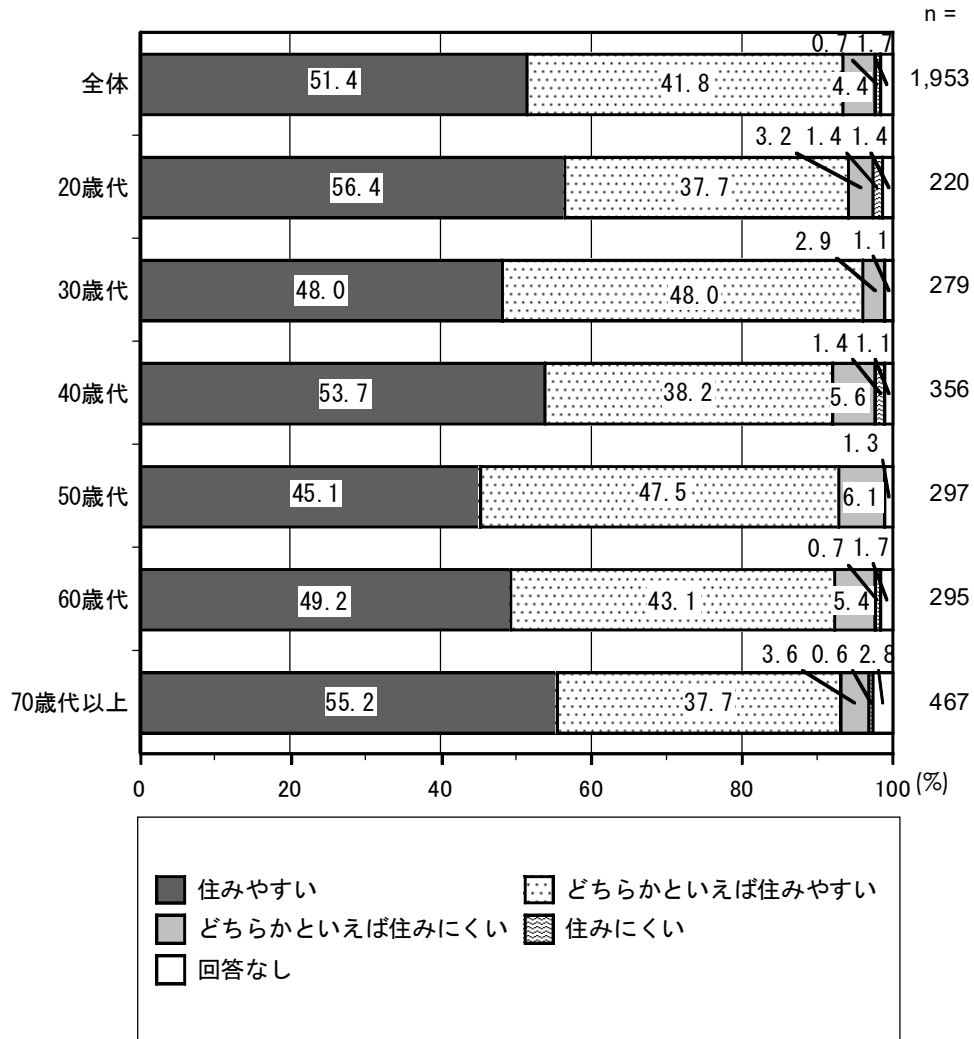
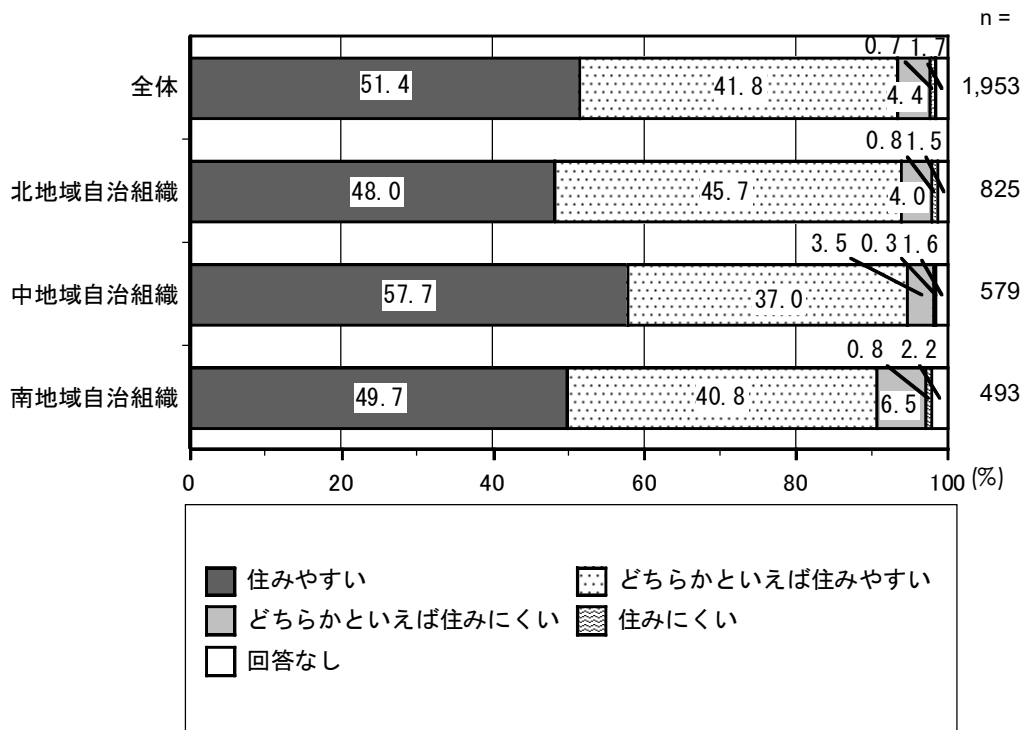


図2-1-3 居住地域別「まちの住みやすさ」



2-2 定住意向（問2）

問2 あなたはこれからも大口町に住む予定ですか。 【回答数：○印を1つだけ】

大口町に“定住意向”を示している町民は、85.4%を占めています。平成27年調査と比べると、ごく僅かですが定住意向が低くなっています。

【全体】（図2-2-1）

- 「ずっと住み続ける」が52.7%と過半数を占めています。「できれば続けたい」という町民32.7%を合わせた大口町に定住意向を持つ町民（以下、“定住意向”）は、85.4%になります。
- 「できれば町外に移り住みたい、または移り住む予定がある」（4.2%）と「できるだけ早めに、町外に移り住みたい」（0.5%）は合わせても4.7%と僅かになっています。

【前回・前々回比較】（図2-2-1）

- 平成27年調査と比べると、ごく僅かですが定住意向が減少しています。

【年齢別】（図2-2-2）

- 年齢別にみると、“定住意向”を示している町民の割合が最も少ない20歳代でも63.1%の町民が“定住意向”を示しています。
- 年齢が高くなるにつれて、「ずっと住み続ける」という町民の割合が多くなる傾向がみられます。70歳代ではその割合は74.3%に及んでいます。

【居住地域別】（図2-2-3）

- 居住地域別にみると、中地域自治組織では、「ずっと住み続ける」という町民の割合が他に比べて少なくなっていることが特徴としてみられるものの、“定住意向”を示す町民の割合についてはほとんど差が認められません。

図 2-2-1 前回・前々回比較「定住意向」

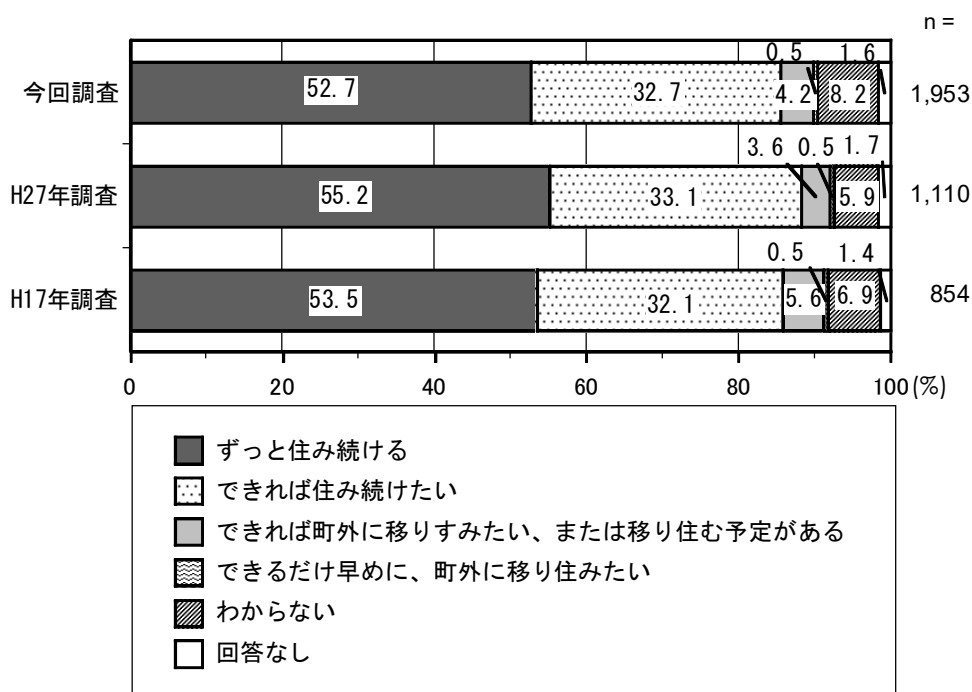


図 2-2-2 年齢別「定住意向」

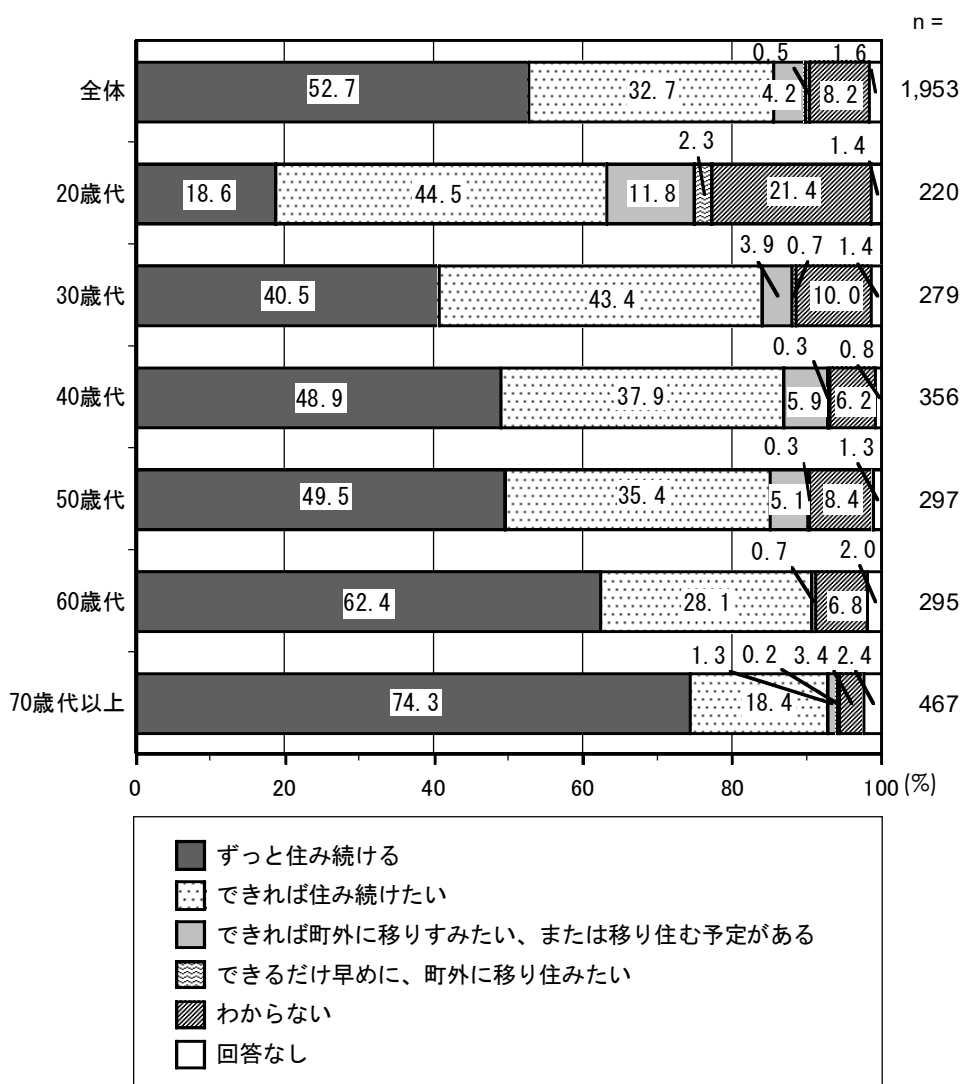
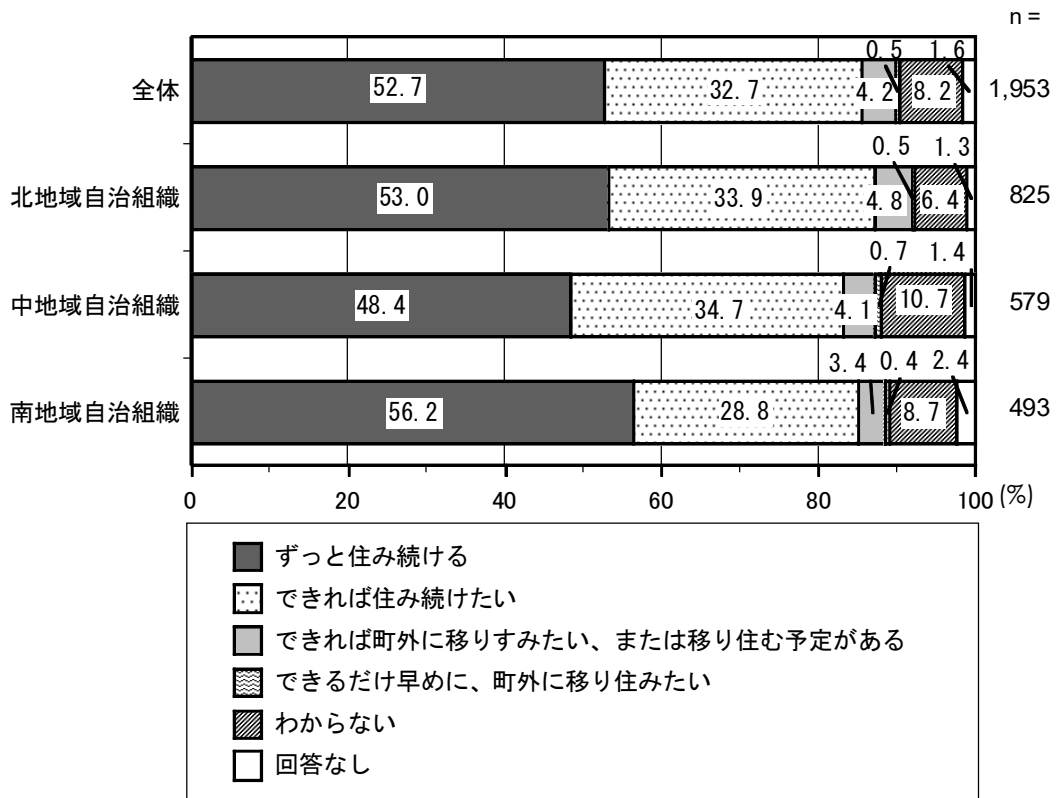


図 2-2-3 居住地域別「定住意向」



2-3 移転理由 (問3)

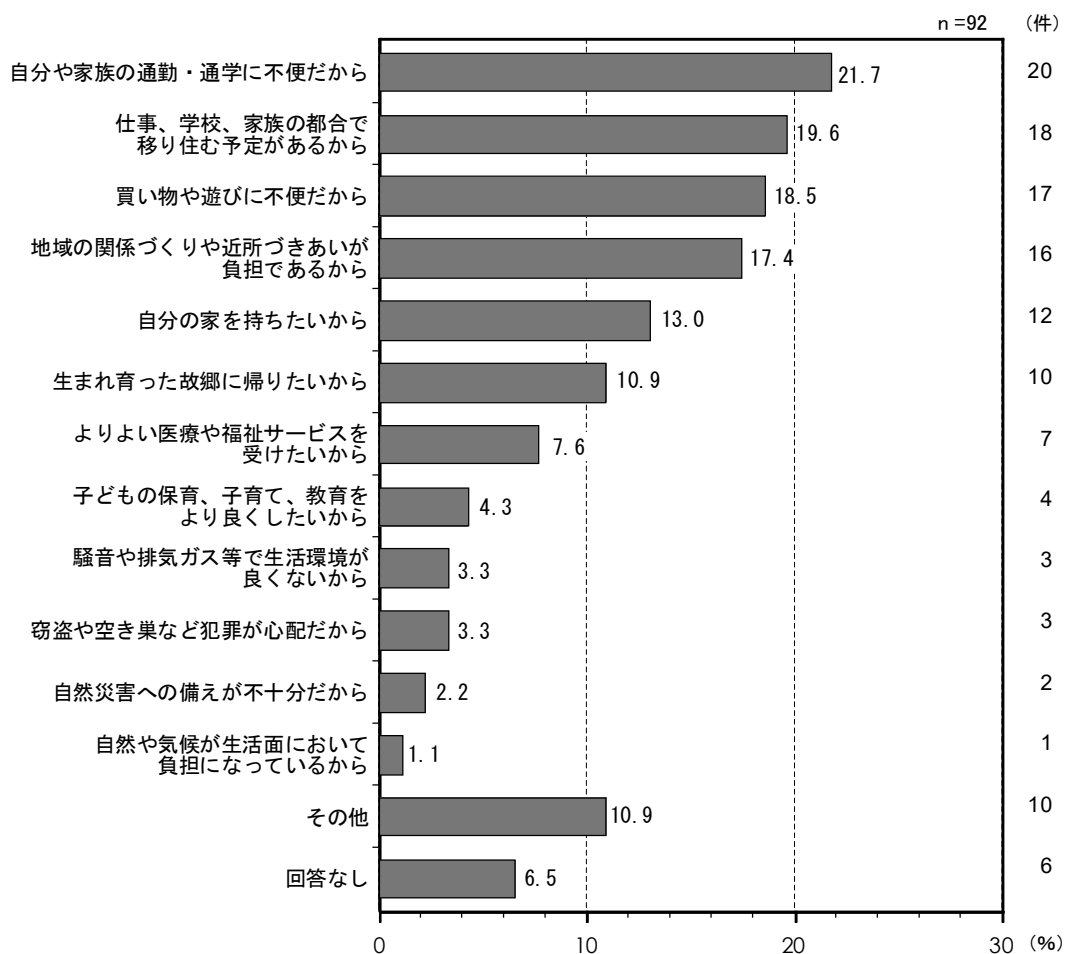
問3 問2で「3.」、「4.」と回答された方のみにかがいます。あなたが町外へ移りたい、または、移る予定の主な理由は何ですか。【回答数：2つまで○印】

「自分や家族の通勤・通学に不便だから」(21.7%)や「仕事、学校、家族の都合で移り住む予定があるから」(19.6%)が主な移転理由になっています。

【全体】 (図2-3)

- 「できれば町外に移り住みたい、または予定がある」や「できるだけ早めに、町外に移り住みたい」と回答した町民(92人)にその理由を聞いたところ、「自分や家族の通勤・通学に不便だから」が21.7%(20人)と最も多く、2番目に「仕事、学校、家族の都合で移り住む予定があるから」が19.6%(18人)、3番目に「買い物や遊びに不便だから」が18.5%(17人)と多くなっています。
- そして、「地域の関係づくりや近所づきあいが負担であるから」17.4%(16人)と「自分の家を持ちたいから」13.0%(12人)が続いています。

図2-3 転居理由



3. 町政等の満足度と重要度について

大口町の施策に関する各項目の満足度及び重要度について、下記の方法により4段階の得点を付け、平均得点を算出しました。この評点を指標として、満足度と重要度の分析を行いました。平均得点は、+2点に近いほど満足度または重要度が高いことを示し、逆に-2点に近いほど満足度が低い(不満度が高い)、または重要度が低いことを示しています。

【満足度・重要度の平均得点の算出方法】

満足度	重要度	得点(評点)
満足	非常に重要	+2点
やや満足	重要	+1点
やや不満	あまり重要でない	-1点
不満	重要でない	-2点

満足度の平均得点

$$= \{ \text{「満足」の回答数} \times (+2\text{点}) + \text{「やや満足」の回答数} \times (+1\text{点}) + \text{「やや不満」の回答数} \times (-1\text{点}) + \text{「不満」の回答数} \times (-2\text{点}) \} \div \text{総回答数}$$

重要度の平均得点

$$= \{ \text{「非常に重要」の回答数} \times (+2\text{点}) + \text{「重要」の回答数} \times (+1\text{点}) + \text{「あまり重要でない」の回答数} \times (-1\text{点}) + \text{「重要でない」の回答数} \times (-2\text{点}) \} \div \text{総回答数}$$

3 町政等の満足度と重要度について（問4）

問4 町で行う様々な地域づくりや施策・事業の現状について、あなたはどの程度満足していますか。また、どの程度重要であるとお考えですか。次の(1)～(34)の各項目について「満足度」「重要度」ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。

【回答数：○印を「満足度」「重要度」ごとにそれぞれ1つずつ】

3-1 満足度の評価

【全体】（図3-1-1）

○プラスの評価の項目は、34項目全てがプラス評価で、その中でも満足度が高い項目トップ10は、下表のとおりです。

満足度（ベスト10）			
①五条川や桜並木などの整備・維持管理状況	(1.06)	⑥健康診断・保健指導などの健康づくり	(0.80)
②消防・救急体制	(1.01)	⑦受付・窓口などにおける町職員の応対	(0.76)
③町による家庭ごみの収集回数	(0.97)	⑦保育サービスや相談窓口などの子育て支援	(0.76)
④広報おおぐちによる町の情報提供	(0.84)	⑨ごみの分別やごみ出しのルールが守られている状況	(0.66)
⑤安心して子どもを産み育てられるまちとしての魅力	(0.83)	⑨緑地・公園などの憩いの空間	(0.66)

○一方、マイナスの評価の項目はなく、その中でも満足度が低い（不満度の高い）項目ワースト10は下表のとおりです。

満足度（ワースト10）			
①巡回バスの利便性	(0.03)	⑥交通事故からの安全性	(0.25)
②段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性	(0.13)	⑦大口町議会の活動	(0.29)
②町民の交通ルールやマナーを守る意識	(0.13)	⑧道路や交通安全施設の維持補修の状況	(0.32)
④地域に住む外国人との交流・共生	(0.24)	⑨町立図書館の規模、運営	(0.33)
④地震や水害など防災に対する安心感	(0.24)	⑩犯罪にあうことのない安心感	(0.35)

【前回・前々回との評点比較】（図3-1-1）

○評価項目34項目中、「町による家庭ごみの収集回数」の1項目を除く残り全てが平成27年調査と平成17年調査（平成17年調査の同じ項目は19項目）の結果に比べて満足度の評点がポイントアップしています。

○中でも、平成27年調査との比較では「街灯や道路の花壇など住みやすい住宅地環境」（0.34ポイント：0.15⇒0.49）や「緑地・公園などの憩いの空間」（0.33ポイント：0.33⇒0.66）などの満足度が大幅にポイントアップしています。

図3-1-1 前回・前々回との評点比較「満足度の評価」

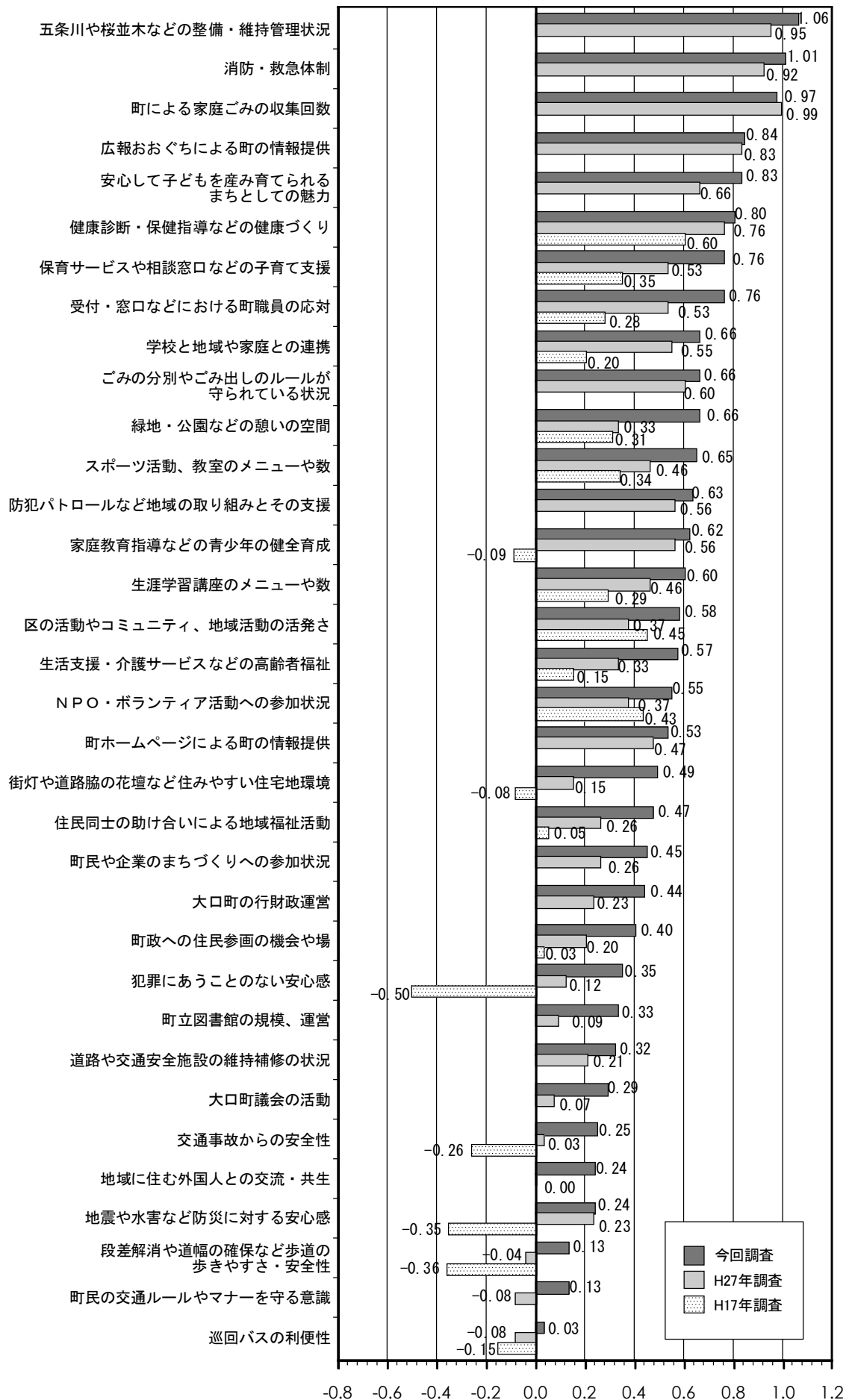
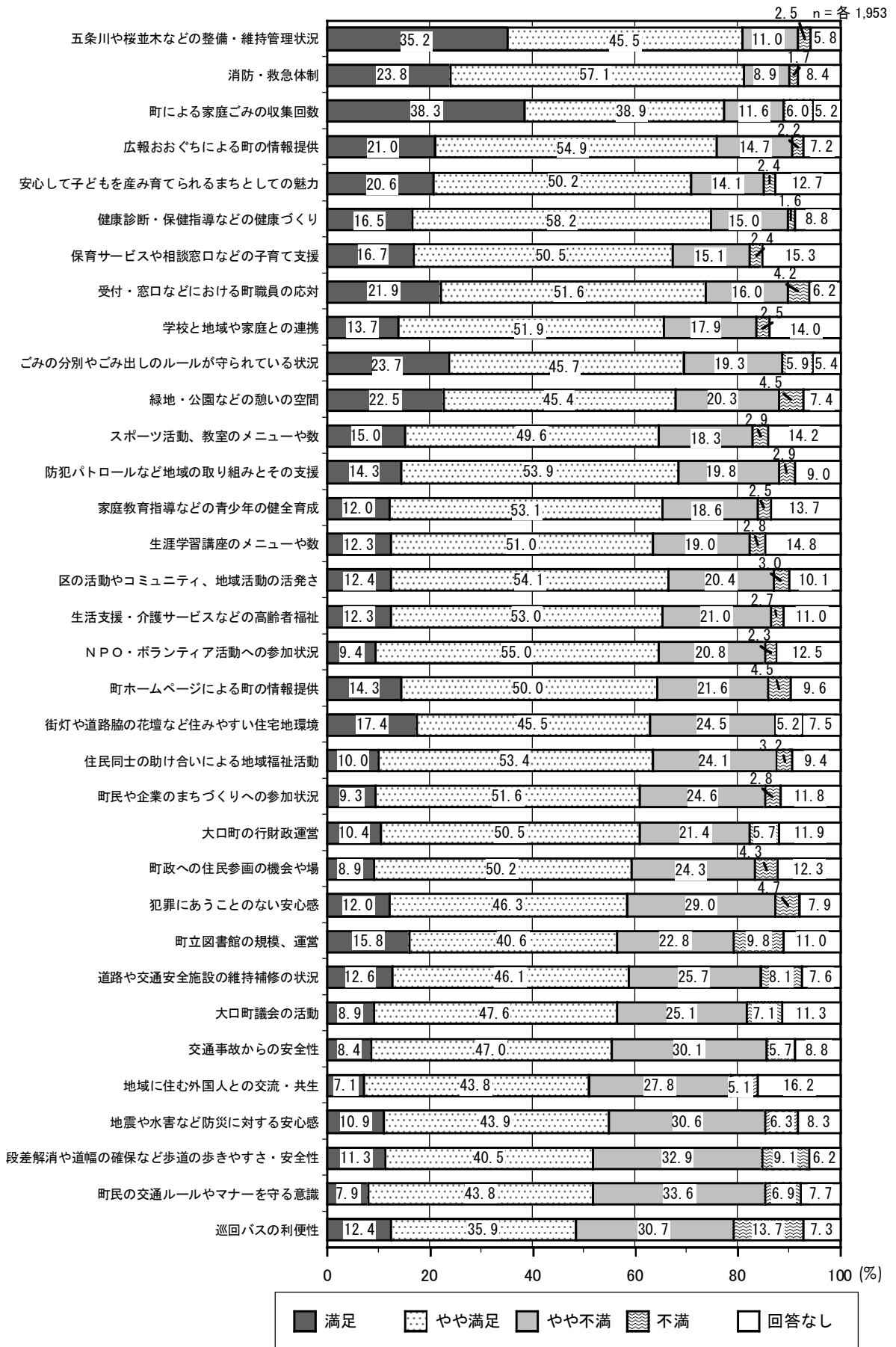


図3-1-2 満足度 (%表示)



【年齢別】 (図 3-1-3)

- 年齢によって満足度の評点格差が大きい項目についてその特徴について記述すると、まず、満足度が一番高い「町による家庭ごみの収集回数」については、70 歳代以上における満足度が高くなっていますが、30 歳代における満足度は低くなっています。
- 「段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性」については、20 歳代で比較的満足度が高くなっていますが、60 歳代では他の項目の中でも最も低いマイナス評価となっています。
- 「地震や水害など防災に対する安心感」については、20 歳代で比較的満足度が高くなっていますが、60 歳代ではマイナス評価で低くなっています。
- 「受付・窓口などにおける町職員の対応」については、70 歳代以上で満足度が高くなっていますが、50 歳代では低くなっています。
- 「NPO・ボランティア活動などへの支援」については、20 歳代で満足度が高くなっていますが、60 歳代では低くなっています。
- 「町民や企業のまちづくりへの参加」についても、20 歳代で満足度が高くなっています。逆に、60 歳代では低くなっています。
- 「緑地・公園などの憩いの空間」についても、20 歳代で満足度が高くなっています。逆に、60 歳代で満足度が低くなっています。

【居住地域別】 (図 3-1-4)

- 居住地区別の満足度については、項目によっては地域性が見受けられます。
 - 評点格差が大きい項目についてその特徴についてみると、「巡回バス（大口町コミュニティバス）の利便性」については、中地域自治組織における満足度がプラス評価で高くなっており、逆に他地域自治組織の満足度はどちらもマイナス評価で低くなっています。
 - また、「緑地・公園など憩いの空間」についても、中地域自治組織における満足度が他地域に比べてかなり高くなっています。一方、南地域自治組織ではプラス評価ではあるものの他の2地域と比べて目立って評点が低くなっています。
 - さらに「段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性」、「街灯や道路脇の花壇など住みやすい住宅地環境」、「道路や交通安全施設の維持補修の状況」についても、中地域自治組織における満足度は、他地域に比べて高くなっています。
-

図 3-1-3 年齢別「満足度の評価」

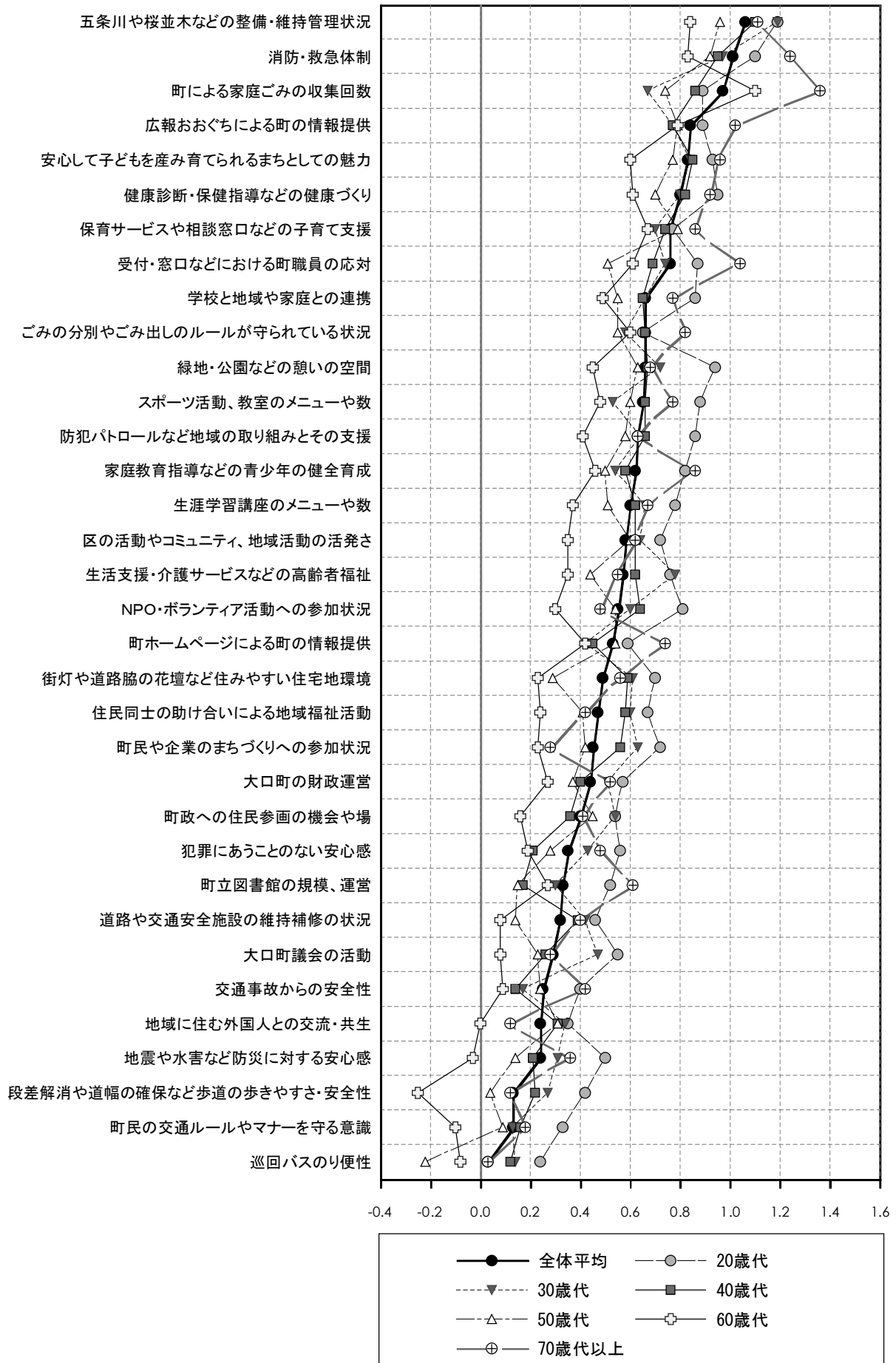
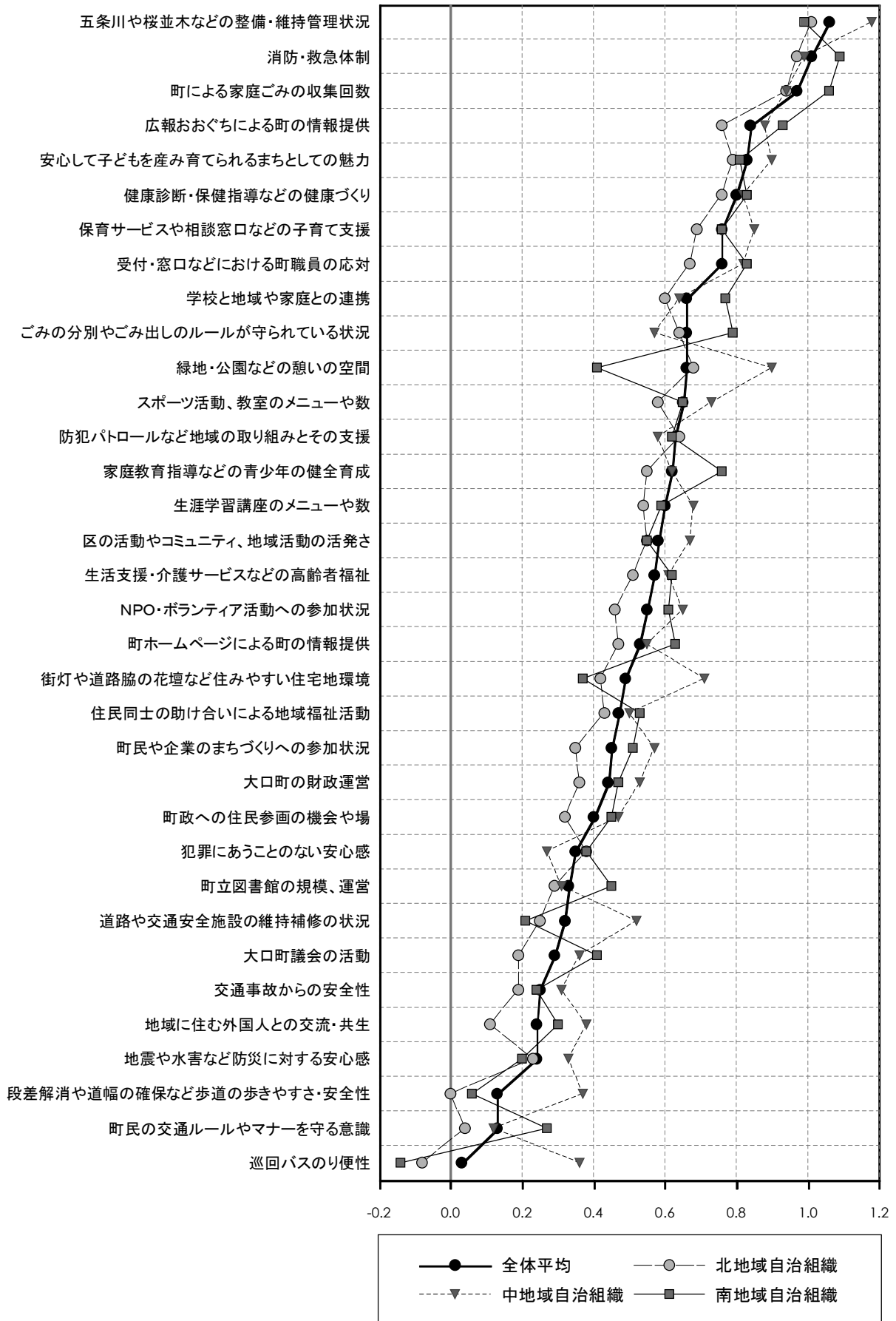


図3-1-4 居住地域別「満足度の評価」



3-2 重要度の評価

【全体】 (図 3-2-1)

○34 項目すべてがプラス得点となっています。その中でも満足度が高い項目トップ 10 は、下表のとおりです。

○防災や防犯、消防救急体制などの安全・安心に関する施策項目や子育て支援に関する施策項目などの重要度が高くなっています。

重要度 (ベスト 10)			
①地震や水害など防災に対する安心感	(1.52)	⑥町民の交通ルールやマナーを守る意識	(1.39)
②犯罪にあうことのない安心感	(1.51)	⑦保育サービスや相談窓口などの子育て支援	(1.37)
③消防・救急体制	(1.49)	⑦町による家庭ごみの収集回数	(1.37)
④交通事故からの安全性	(1.47)	⑨ごみの分別やごみ出しのルールが守られている状況	(1.33)
⑤安心して子どもを産み育てられるまちとしての魅力	(1.45)	⑩段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性	(1.28)

【前回との評点比較】 (図 3-2-1)

○平成 27 年調査の結果に比べて 34 項目中、27 項目の重要度がポイントアップしています。中でも、「町ホームページによる町の情報提供」(0.24 ポイント : 0.69⇒0.93) や「緑地・公園などの憩いの空間」(0.18 ポイント (0.78⇒0.96)) の重要度がポイントアップしています。

○逆に、平成 27 年調査の結果に比べて 5 項目が重要度の得点がポイントダウンしています。中でも、「家庭教育指導などの青少年の健全育成」(-0.09 ポイント (1.11⇒1.20) や「住民同士の助け合いによる地域福祉活動」(-0.07 ポイント : 0.94⇒0.87) の重要度が若干、ポイントダウンしています。

【年齢別】 (図 3-2-2)

○満足度 (図 3-1-3) に比べると、全般的に年齢による評点格差は小さくなっています。

○評点格差が比較的大きい項目についてその特徴について記述すると、「区の活動やコミュニティ、地域活動の活発さ」と「広報おおぐちによる町の情報提供」については、70 歳代以上における重要度が高くなっていますが、前者は、30 歳代、後者は 20 歳代における重要度が若干低くなっています。

【居住地域別】 (図 3-2-3)

○居住地区別による有意な差は認められません。

図3-2-1 前回との評点比較「重要度の評価」

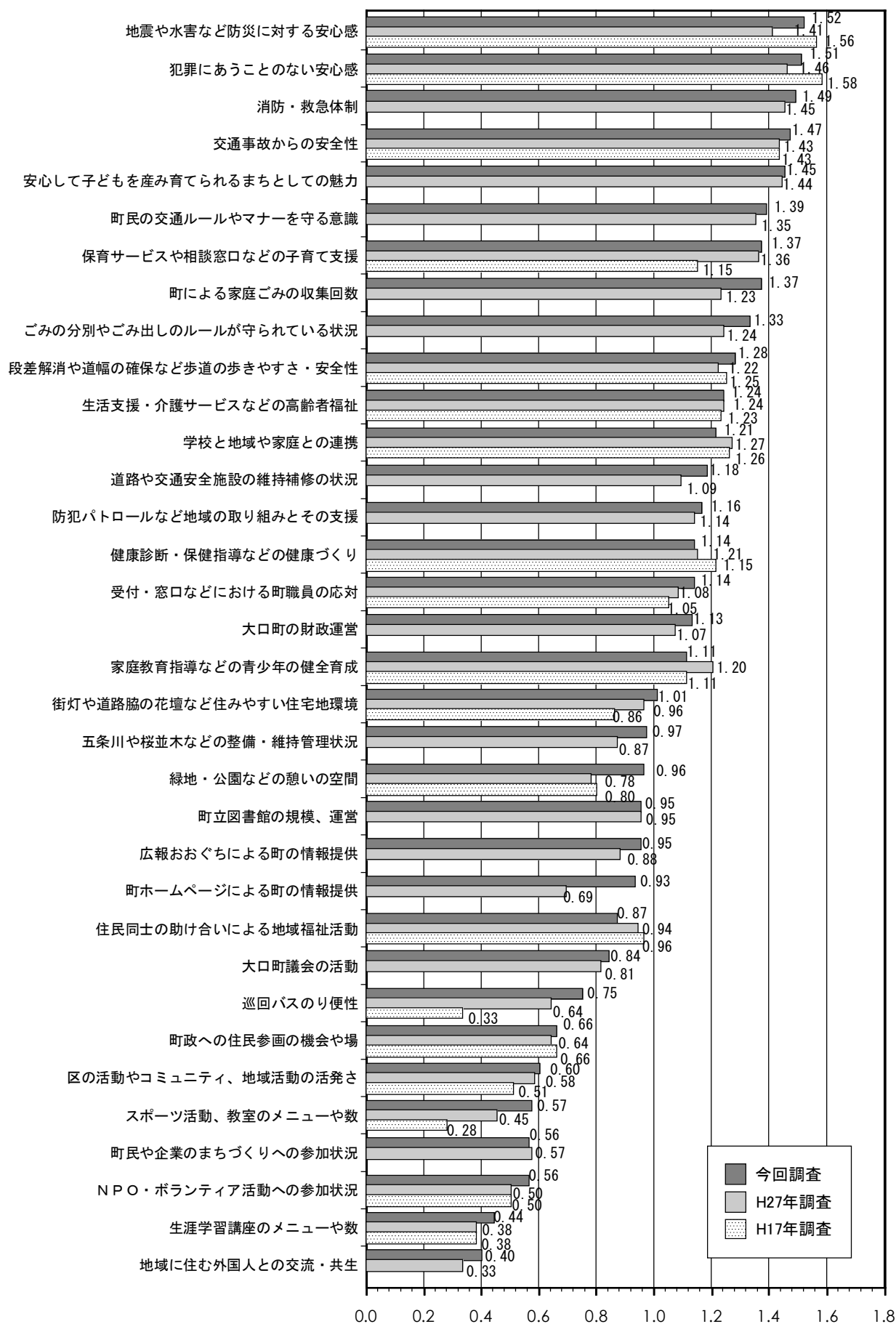


図3-2-2 年齢別「重要度の評価」

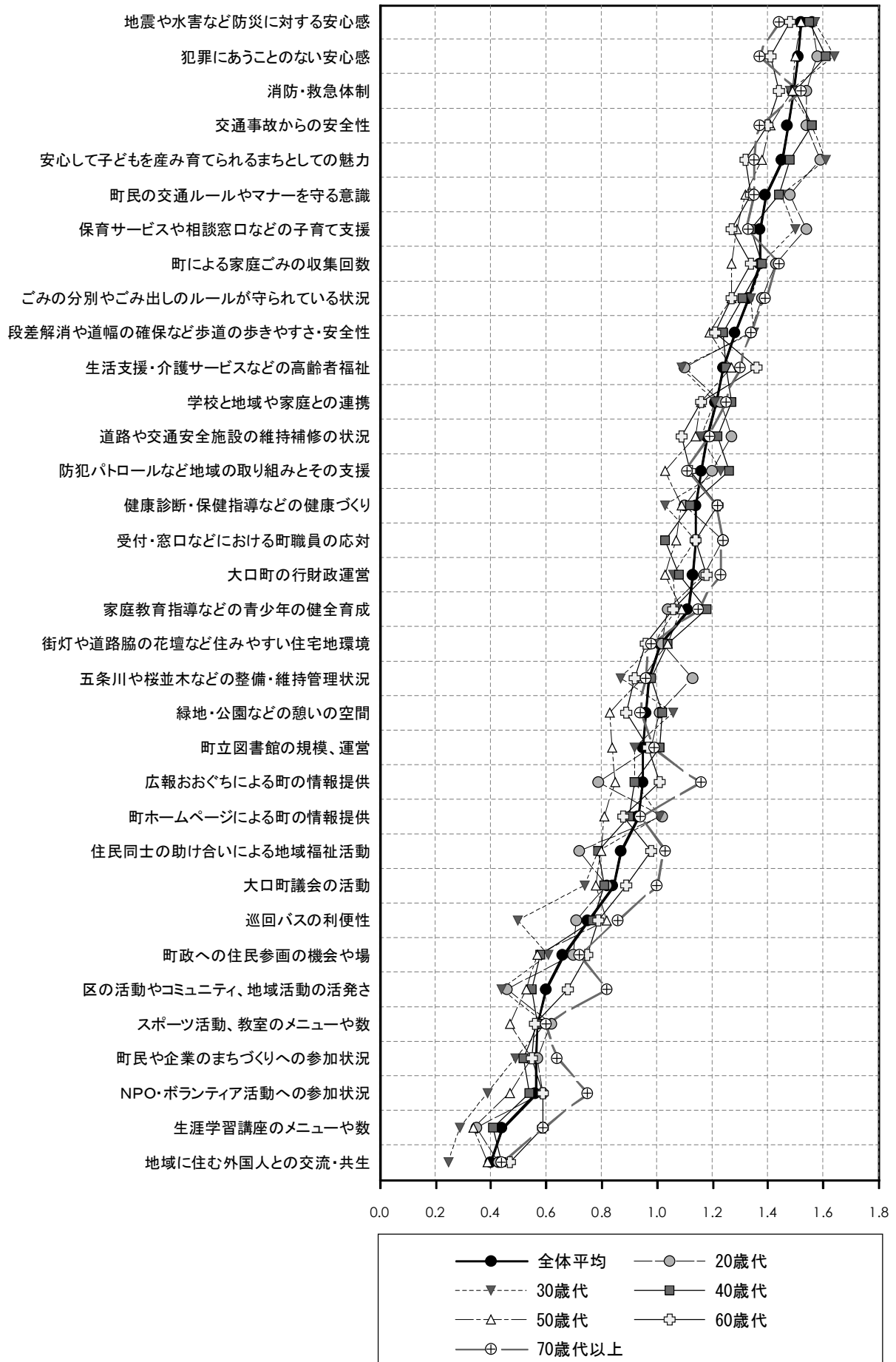
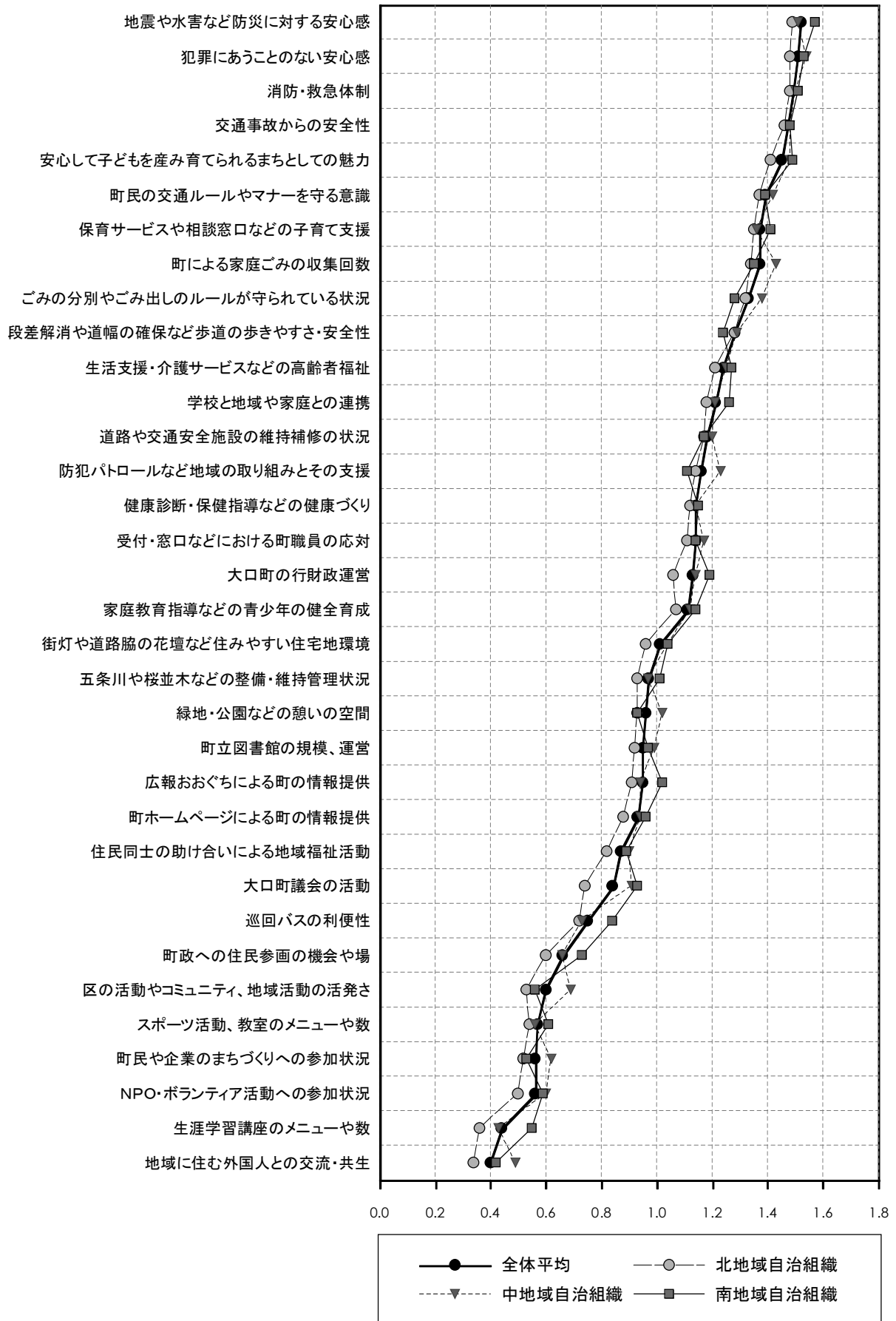


図3-2-3 居住地域別「重要度の評価」



3-3 施策に対する満足度と重要度の評価（ポートフォリオ分析）

- 大口町の施策に対する町民の満足度の平均得点を横軸、重要度の平均得点を縦軸にして散布図を作成しました（図3-1-1）。
- 34項目全体の満足度の平均得点は、0.54となっています。図に示してある、0.54の線よりも左側にある項目は、満足度が34項目の平均よりも低い項目（相対的に満足度の低い施策項目）であり、逆に右側にある項目は平均得点よりも高い項目（相対的に満足度の高い施策項目）です。
- 一方、34項目全体の重要度の平均得点は、1.04となっています。図に示してある、1.04の線よりも下側にある項目は、重要度が34項目の平均よりも低い項目（相対的に重要度の低い施策項目）であり、逆に上側にある項目は平均得点よりも高い項目（相対的に重要度の高い施策項目）です。
- 着目すべきは、満足度が低く重要度が高い項目、すなわち、当該項目について重要と考えているにもかかわらず、現状において満足していない人が多い施策項目であり、図の左上の領域に該当する項目です（図3-3-1の下図「A：重点改善施策項目」）。
- 重要度がより高く、満足度がより低いほど、優先させて行っていく必要がある施策項目として捉えることができることから、「重要度と満足度の差（重要度－満足度）」を施策の「優先度」と定義づけ、施策の優先度を算定したものが表3-3-2です。その内、上位15位を抜粋し、優先度によって整えたものが表3-3-1です。

【優先度の高い施策項目】（図3-3-1、表3-3-1）

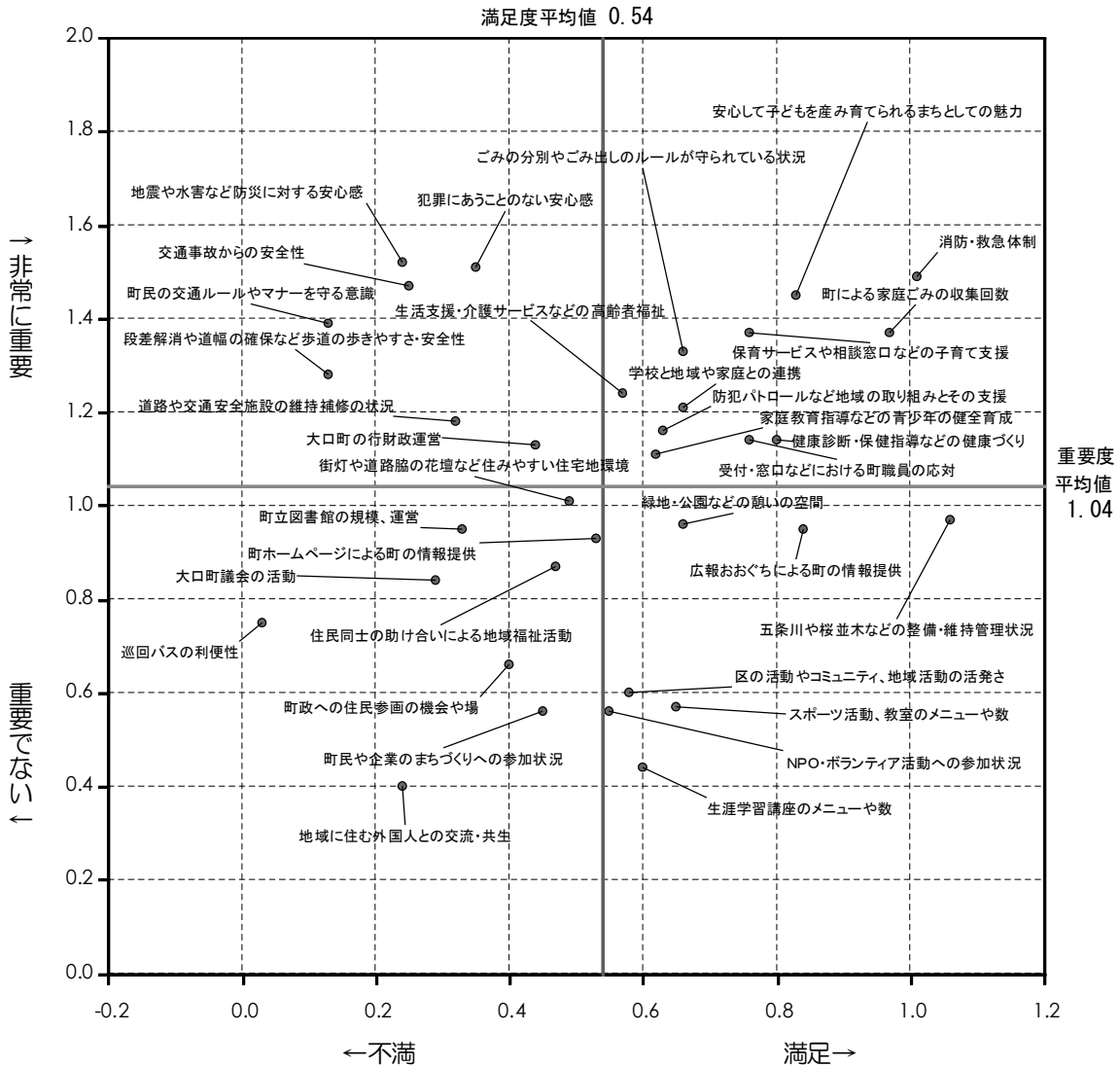
- 優先度の高い項目は、表3-3-1のとおりで、中でもゴシック文字の項目（図3-3-1の下図「A. 重点改善施策項目」の領域に該当する項目）を優先的に進めていく施策項目として位置づけることができます。
- 地震や水害などの防災や交通安全、防犯などの安全・安心に関する施策項目や歩道の整備やバリアフリーに関する施策項目、大口町の行財政運営に関する事項の優先度が高くなっています。

表3-3-1 満足度と重要度の評価（施策の優先度）トップ15

順位	項目	優先度	満足度	重要度
		重要度－満足度		
1	地震や水害など防災に対する安心感	1.28	0.24	1.52
2	町民の交通ルールやマナーを守る意識	1.26	0.13	1.39
3	交通事故からの安全性	1.22	0.25	1.47
4	犯罪にあうことのない安心感	1.16	0.35	1.51
5	段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性	1.15	0.13	1.28
6	道路や交通安全施設の維持補修の状況	0.86	0.32	1.18
7	巡回バスの利便性	0.72	0.03	0.75
8	大口町の財政運営	0.69	0.44	1.13
9	ごみの分別やごみ出しのルールが守られている状況	0.67	0.66	1.33
9	生活支援・介護サービスなどの高齢者福祉	0.67	0.57	1.24
11	安心して子どもを産み育てられるまちとしての魅力	0.62	0.83	1.45
11	町立図書館の規模、運営	0.62	0.33	0.95
13	保育サービスや相談窓口などの子育て支援	0.61	0.76	1.37
14	大口町議会の活動	0.55	0.29	0.84
14	学校と地域や家庭との連携	0.55	0.66	1.21

※ゴシック体の太字は図3-3-1の下図「A. 重点改善施策項目」にあたる項目を示しています。

図3-3-1 ポートフォリオ分析



ポートフォリオ分析図の見方

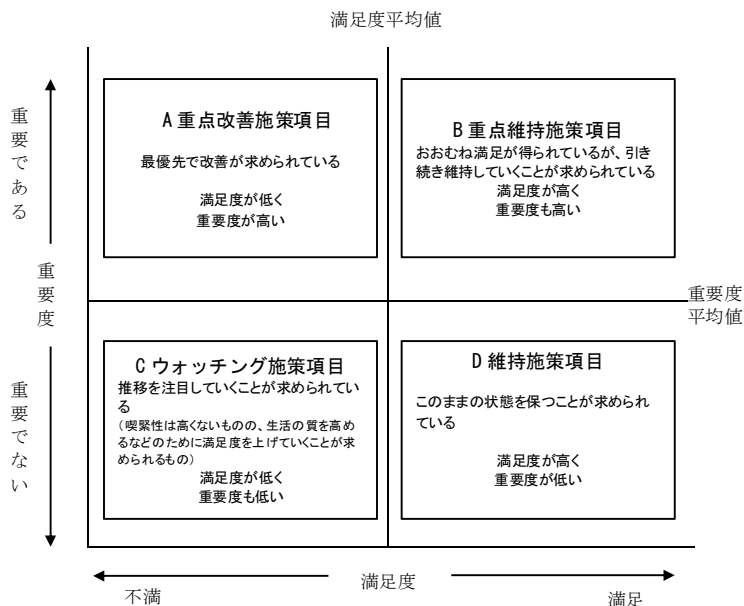


表 3-3-2 満足度と重要度の評価（施策の優先度）

項目	満足度	順位	重要度	順位	優先度		
					重要度-満足度	順位	
1	家庭教育指導などの青少年の健全育成	0.62	14	1.11	18	0.49	18
2	学校と地域や家庭との連携	0.66	9	1.21	12	0.55	15
3	生涯学習講座のメニューや数	0.60	15	0.44	33	-0.16	34
4	スポーツ活動、教室のメニューや数	0.65	12	0.57	30	-0.08	32
5	町立図書館の規模、運営	0.33	26	0.95	22	0.62	12
6	地域に住む外国人との交流・共生	0.24	30	0.40	34	0.16	27
7	安心して子どもを産み育てられるまちとしての魅力	0.83	5	1.45	5	0.62	11
8	保育サービスや相談窓口などの子育て支援	0.76	7	1.37	7	0.61	13
9	町による家庭ごみの収集回数	0.97	3	1.37	7	0.40	20
10	ごみの分別やごみ出しのルールが守られている状況	0.66	9	1.33	9	0.67	9
11	五条川や桜並木などの整備・維持管理状況	1.06	1	0.97	20	-0.09	33
12	緑地・公園などの憩いの空間	0.66	9	0.96	21	0.30	25
13	街灯や道路脇の花壇など住みやすい住宅地環境	0.49	20	1.01	19	0.52	17
14	巡回バスのり便性	0.03	34	0.75	27	0.72	7
15	道路や交通安全施設の維持補修の状況	0.32	27	1.18	13	0.86	6
16	段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性	0.13	32	1.28	10	1.15	5
17	住民同士の助け合いによる地域福祉活動	0.47	21	0.87	25	0.40	21
18	生活支援・介護サービスなどの高齢者福祉	0.57	17	1.24	11	0.67	9
19	健康診断・保健指導などの健康づくり	0.80	6	1.14	15	0.34	24
20	地震や水害など防災に対する安心感	0.24	30	1.52	1	1.28	1
21	消防・救急体制	1.01	2	1.49	3	0.48	19
22	防犯パトロールなど地域の取り組みとその支援	0.63	13	1.16	14	0.53	16
23	犯罪にあうことのない安心感	0.35	25	1.51	2	1.16	4
24	交通事故からの安全性	0.25	29	1.47	4	1.22	3
25	町民の交通ルールやマナーを守る意識	0.13	32	1.39	6	1.26	2
26	区の活動やコミュニティ、地域活動の活発さ	0.58	16	0.60	29	0.02	30
27	町民や企業のまちづくりへの参加状況	0.45	22	0.56	31	0.11	28
28	NPO・ボランティア活動への参加状況	0.55	18	0.56	31	0.01	31
29	町ホームページによる町の情報提供	0.53	19	0.93	24	0.40	21
30	広報おおぐちによる町の情報提供	0.84	4	0.95	22	0.11	29
31	町政への住民参画の機会や場	0.40	24	0.66	28	0.26	26
32	大口町議会の活動	0.29	28	0.84	26	0.55	14
33	大口町の財政運営	0.44	23	1.13	17	0.69	8
34	受付・窓口などにおける町職員の応対	0.76	7	1.14	15	0.38	23

	重要度-満足度のトップ 1~10
	重要度-満足度のトップ 11~20

※ゴシック体の太字は図 3-3-1 の下図「A. 重点改善施策項目」にあたる項目を示しています。

【満足度と重要度（施策の優先度）の前回比較】（図 3-3-2）

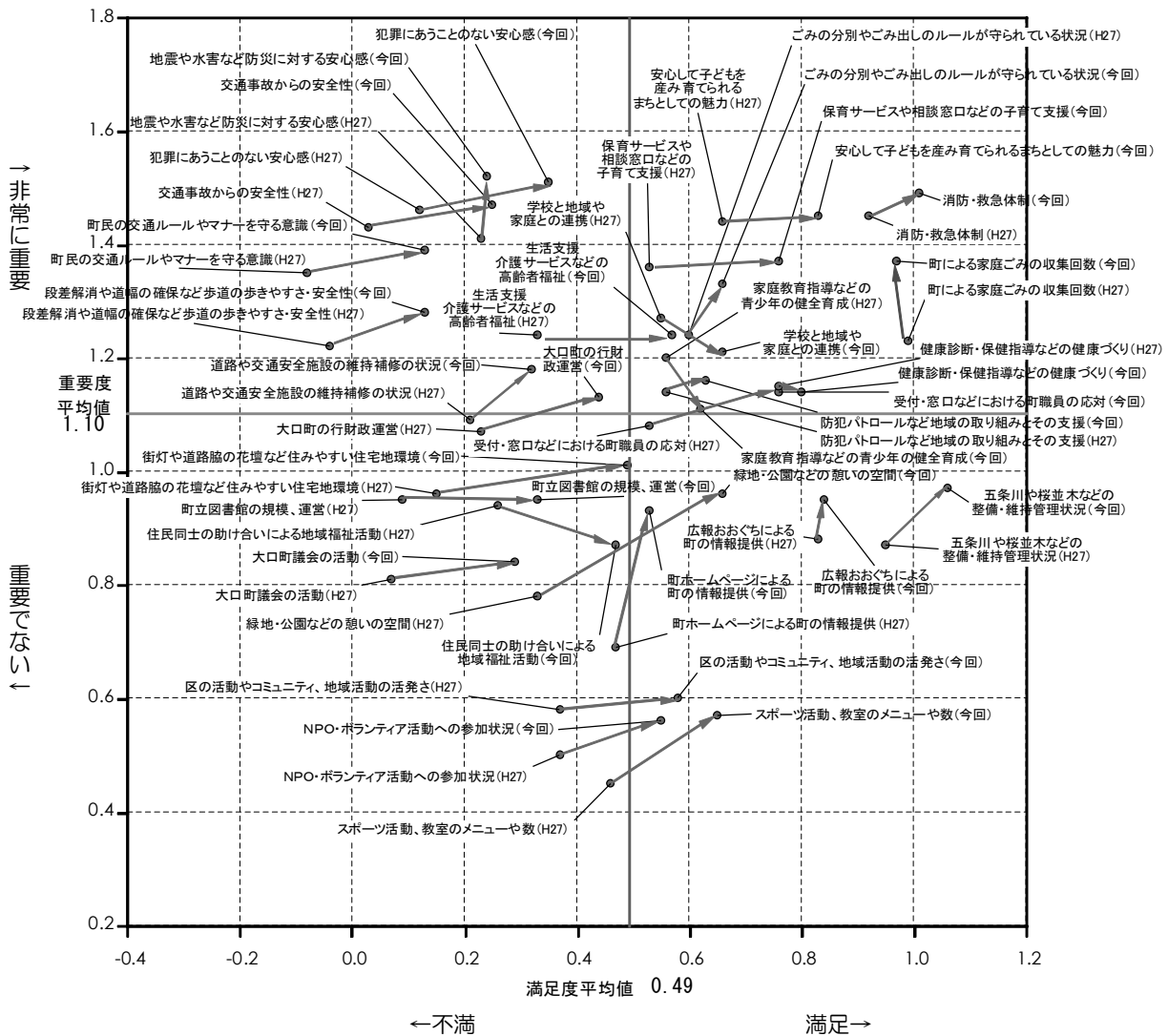
○重点改善施策項目（表 3-3-1：ゴシック体の太字）については、平成 27 年調査では 8 項目ありましたが、この中で「生活支援・介護サービスなどの高齢者福祉」は優先度順位が 9 位（前回調査では 6 位）にランクダウンしたことから、今回調査では 7 項目となっています。

○また、「地震や水害など防災に対する安心感」前回調査の 5 位から 1 位に浮上していることが特徴としてみられます。近年、台風や豪雨、地震などの災害が頻繁にみられることから重要度が上がったと考えられる。

【居住地区別の施策の優先度】（表 3-3-3）

○居住地域別の施策の優先度は、表 3-3-3 のとおりで、地域によって優先順位に多少の差異がみられます。

図 3-3-2 ポートフォリオ分析（前回比較）



※34 項目中、今回調査で満足度と重要度の高い値、29 項目を表示しています。

表 3-3-3 各居住地域の優先度順位

項目	全体	順位	北地域	順位	中地域	順位	南地域	順位
地震や水害など防災に対する安心感	1.28	1	1.26	4	1.18	3	1.37	1
町民の交通ルールやマナーを守る意識	1.26	2	1.33	1	1.30	1	1.12	5
交通事故からの安全性	1.22	3	1.27	3	1.17	4	1.24	2
犯罪にあうことのない安心感	1.16	4	1.10	5	1.27	2	1.15	4
段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性	1.15	5	1.28	2	0.92	5	1.18	3
道路や交通安全施設の維持補修の状況	0.86	6	0.92	6	0.68	7	0.96	7
巡回バスのり便性	0.72	7	0.80	7	0.37	21	0.98	6
大口町の財政運営	0.69	8	0.70	8	0.61	11	0.72	8
生活支援・介護サービスなどの高齢者福祉	0.67	9	0.70	9	0.64	10	0.65	11
ごみの分別やごみ出しのルールが守られている状況	0.67	9	0.68	10	0.81	6	0.49	17
安心して子どもを産み育てられるまちとしての魅力	0.62	11	0.62	13	0.58	12	0.68	9
町立図書館の規模、運営	0.62	12	0.63	12	0.68	7	0.52	13
保育サービスや相談窓口などの子育て支援	0.61	13	0.66	11	0.51	15	0.65	12
大口町議会の活動	0.55	14	0.55	15	0.55	14	0.52	13
学校と地域や家庭との連携	0.55	15	0.58	14	0.57	13	0.49	17
防犯パトロールなど地域の取り組みとその支援	0.53	16	0.50	19	0.65	9	0.49	16
街灯や道路脇の花壇など住みやすい住宅地環境	0.52	17	0.54	16	0.33	23	0.67	10
家庭教育指導などの青少年の健全育成	0.49	18	0.52	17	0.50	17	0.38	20
消防・救急体制	0.48	19	0.51	18	0.51	16	0.42	19
町による家庭ごみの収集回数	0.40	20	0.40	22	0.49	18	0.29	25
住民同士の助け合いによる地域福祉活動	0.40	21	0.39	23	0.40	19	0.36	21
町ホームページによる町の情報提供	0.40	21	0.41	21	0.39	20	0.33	22
受付・窓口などにおける町職員の応対	0.38	23	0.44	20	0.35	22	0.31	24
健康診断・保健指導などの健康づくり	0.34	24	0.36	24	0.32	24	0.32	23
緑地・公園などの憩いの空間	0.30	25	0.25	26	0.12	26	0.52	13
町政への住民参画の機会や場	0.26	26	0.28	25	0.19	25	0.28	26
地域に住む外国人との交流・共生	0.16	27	0.23	27	0.11	27	0.12	27
町民や企業のまちづくりへの参加状況	0.11	28	0.17	28	0.05	29	0.02	29
広報おおぐちによる町の情報提供	0.11	29	0.15	29	0.06	28	0.09	28
区の活動やコミュニティ、地域活動の活発さ	0.02	30	-0.02	31	0.02	30	0.01	31
NPO・ボランティア活動への参加状況	0.01	31	0.04	30	-0.05	31	-0.02	32
スポーツ活動、教室のメニューや数	-0.08	32	-0.04	32	-0.17	32	-0.04	34
五条川や桜並木などの整備・維持管理状況	-0.09	33	-0.08	33	-0.21	33	0.02	29
生涯学習講座のメニューや数	-0.16	34	-0.18	34	-0.25	34	-0.04	33

4. 子育て・教育について

4-1 子どもの発育環境（問5）

問5 あなたは、大口の子どもたち（小・中学生）はのびのびと育っていると思いますか。

【回答数：○印を1つだけ】

大口の子どもたち（小・中学生）はのびのびと育っていると思っている町民は、75.8%を占めています。年齢別にみると「そう思う」の割合は、70歳代以上（23.8%）、20歳代（20.9%）で若干多くなっています。

地域別では、のびのびと育っていると思っている町民は、南地域自治組織で79.8%と他の地域より多くなっています。

【全体】（図4-1-1）

○大口の子どもたち（小・中学生）はのびのびと育っているかどうかについて尋ねたところ、「あまりそう思わない」（6.5%）と「そう思わない」（1.5%）という回答は合わせても8.0%です。

○一方、「そう思う」と回答した町民は17.4%、「まあそう思う」は58.4%となっており、合わせて75.8%を占めており、「あまりそう思わない・そう思わない」という回答割合を67.8ポイントも上回る結果になっています。

【前回比較】（図4-1-1）

○平成27年調査の結果と比較すると、「そう思う」で3.5ポイント、「まあそう思う」で2.1ポイントそれぞれ増加しており、「あまりそう思わない」は5.3ポイント減少しています。

【年齢別】（図4-1-2）

○年齢別にみると、「そう思う」の割合が70歳代以上で23.8%、20歳代で20.9%と若干多くなっています。

図4-1-1 前回比較「子どもの発育環境」

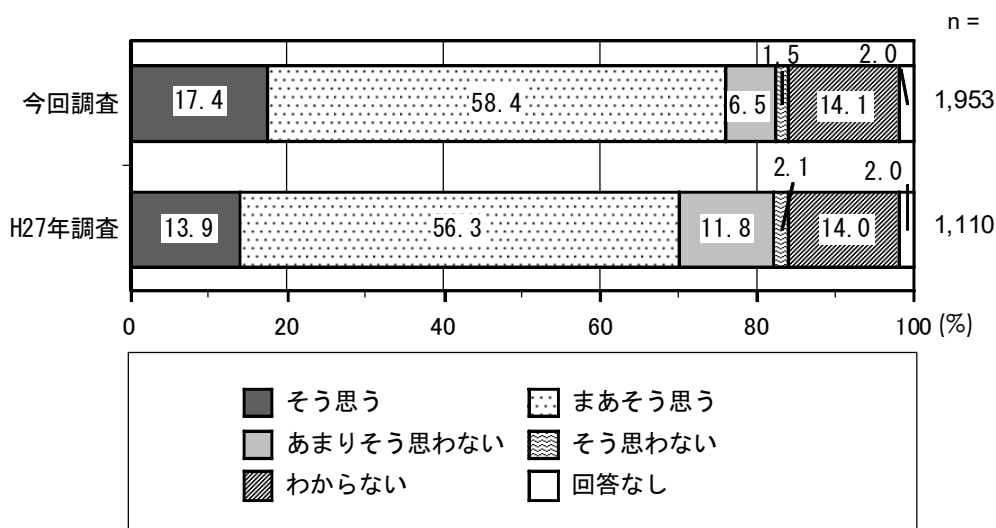
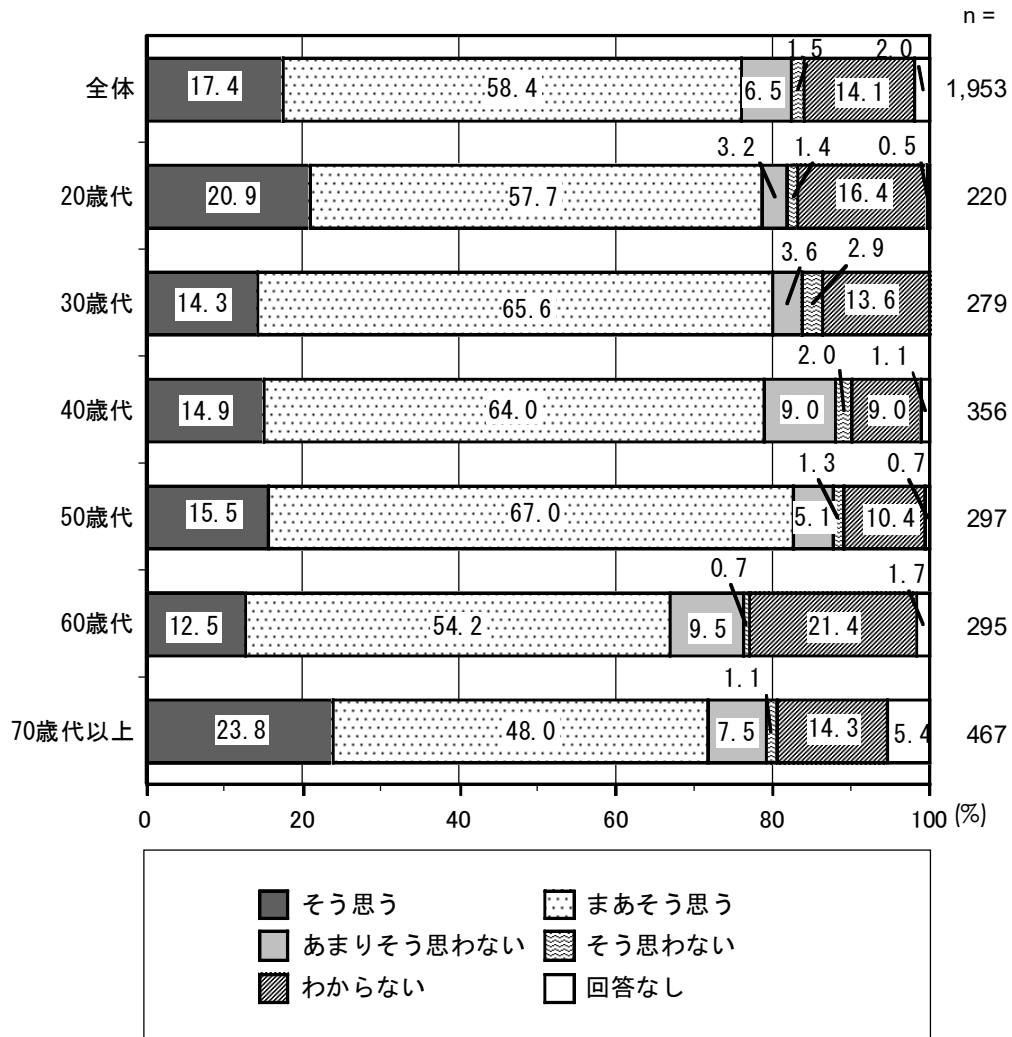


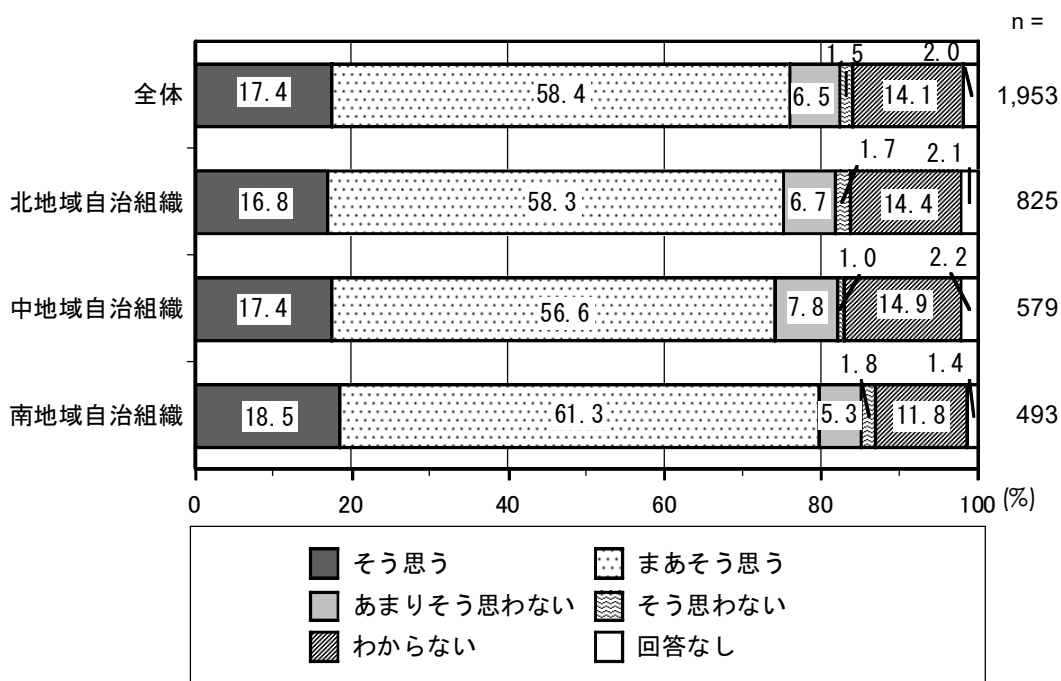
図4-1-2 年齢別「子どもの発育環境」



【居住地域別】 (図 4-1-3)

○居住地域別にみると、農村的な雰囲気が残っている南地域自治組織で「そう思う・まあそう思う」の割合が79.8%と他の地域に比べて若干多くなっていることが特徴としてみられます。

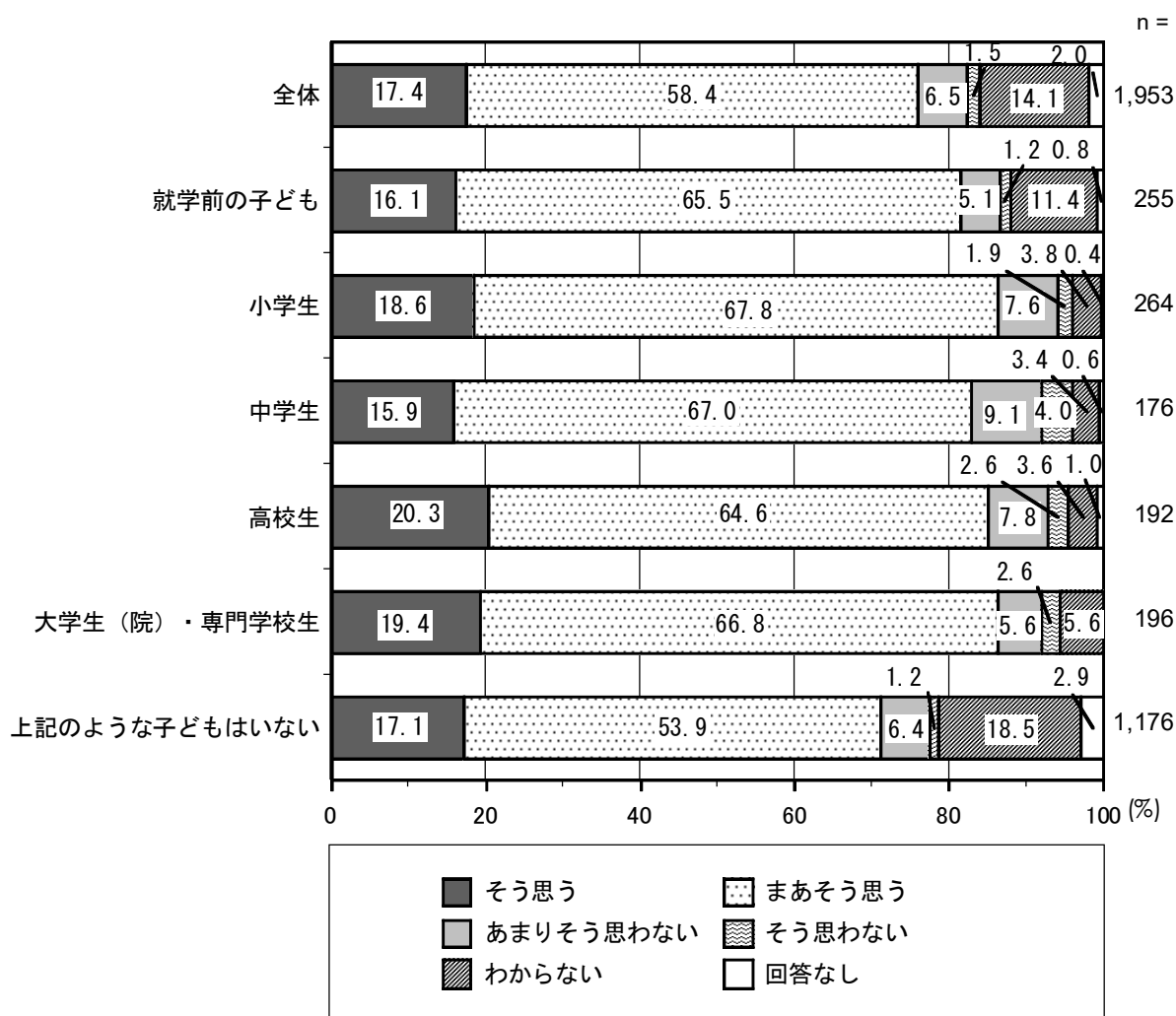
図 4-1-3 居住地域別「子どもの発育環境」



【大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別】 (図 4-1-4)

- 「そう思う・まあそう思う」の割合は、全般的に同居家族の中に「子ども」がいる町民において割合が多くなっています。
- 「子ども」がいない世帯では、当然ながら「わからない」(18.5%)という回答が多くなっています。

図 4-1-4 大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別「子どもの発達環境」



4-2 子どもの教育における家庭の役割（問6）

問6 あなたは、子どもを教育していく中で、家庭の役割としてどのようなことが重要であると思いますか。 【回答数：2つまで○印】

子どもの教育における家庭の役割としては、「親が責任を持ってしつけを行うこと」が56.9%と最も多くなっています。次いで、「子どもに規則的な生活習慣を身に付けさせる」(47.1%)、「家族で団らんの時間をつくること」(42.5%)が多くなっています。

「親が責任を持ってしつけを行うこと」と「子どもに規則的な生活習慣を身に付けさせる」については、県政世論調査の結果よりも上回っています。

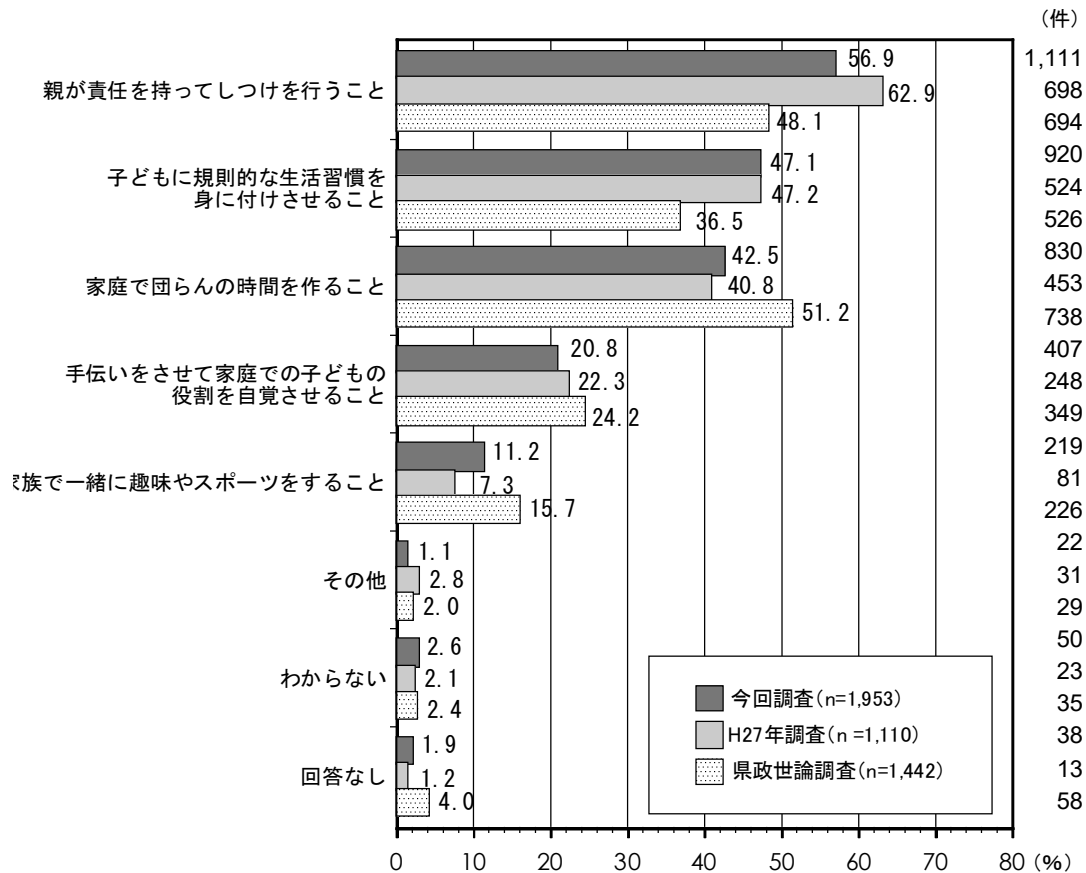
【全体】（図4-2-1）

○子どもの教育における家庭の役割として回答が最も多いのは、「親が責任を持ってしつけを行うこと」で、56.9%になっています。次いで、「子どもに規則的な生活習慣を身に付けさせる」が47.1%、「家族で団らんの時間をつくること」が42.5%となっています。

【世論調査比較】（図4-2-1）

○県政世論調査の結果と比べると、「子どもに規則的な生活習慣を身に付けさせる」が10.6ポイント、「親が責任を持ってしつけを行うこと」が8.8ポイント県政世論調査の結果よりも上回っています。

図4-2-1 世論調査比較「子どもの教育における家庭の役割」



県政世論調査(令和元年11月)

【年齢別】 (図 4-2-2)

- 「子どもに規則的な生活習慣を身に付けさせる」の回答は、学齢期の子どもがいるような世代にあたる40歳代 (53.4%) や50歳代 (53.5%) で若干多くなっています。
- 「家族で団らんの時間をつくること」については、20歳代 (56.4%) や30歳代 (59.9%) といった若い世代で多くなっている一方で、70歳代以上の高齢者層では30.4%と少なくなっています。
- 逆に、「手伝いをさせて家庭での子どもの役割を自覚させること」については、年齢が高くなるにつれて回答割合が多くなる傾向がみられます。

【居住地域別】 (図 4-2-3)

- 居住地区別による有意な差は認められません。

図 4-2-2 年齢別「子どもの教育における家庭の役割」

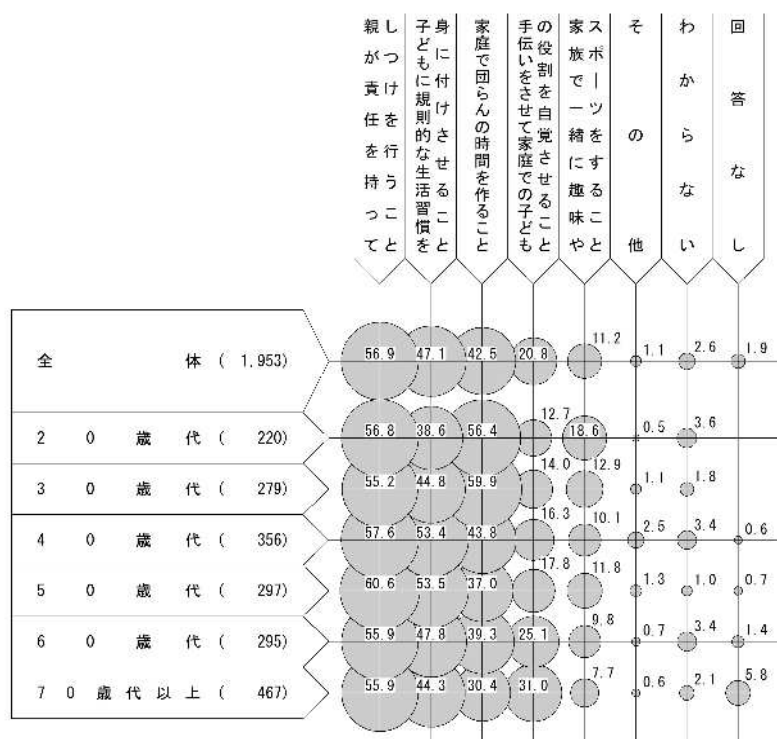
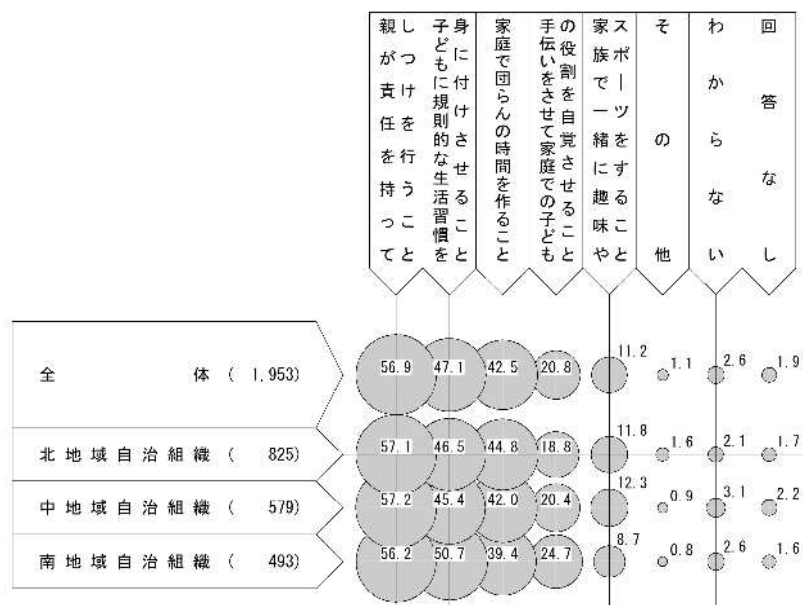


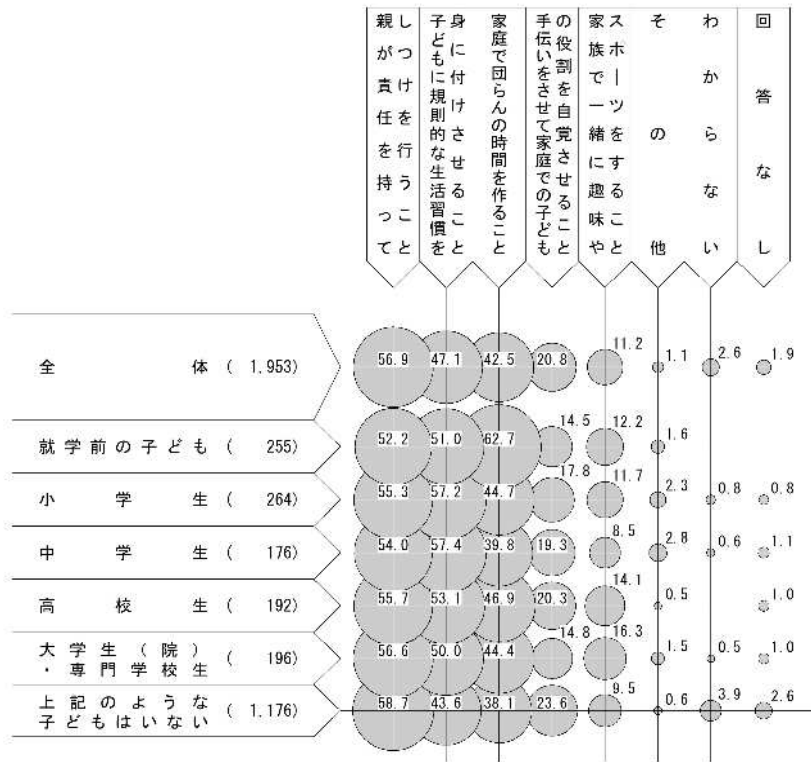
図 4-2-3 居住地域別「子どもの教育における家庭の役割」



【大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別】 (図4-2-4)

- 「子どもに規則的な生活習慣を身に付けさせる」の回答は、全般的に「高校生以下の子ども」がいる町民において多くなっています。中でも、「中学生」がいる町民で57.4%、「小学生」がいる町民で57.2%と多くなっており、
- 「家族で団らんの時間をつくること」については、「就学前の子ども」がいる町民で62.7%と多くなっています。

図4-2-4 大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別「子どもの教育における家庭の役割」



4-3 子どもの教育における地域の役割（問7）

問7 子どもの教育には地域社会の役割が欠かせません。あなたは、地域ではどのような取組が重要であると思いますか。【回答数：2つまで○印】

子どもの教育における地域社会の取組として重要な取組として最も多くの町民が「地域の住民どうしが気軽にあいさつすること」（67.8%）をあげています。次いで、「地域の子どもに、地域の大人が働く姿を見せることや、職場の見学や体験ができる機会を与えること」（31.1%）や「大人や子どもが交流できる機会を増やすこと」（29.4%）が多くなっています。

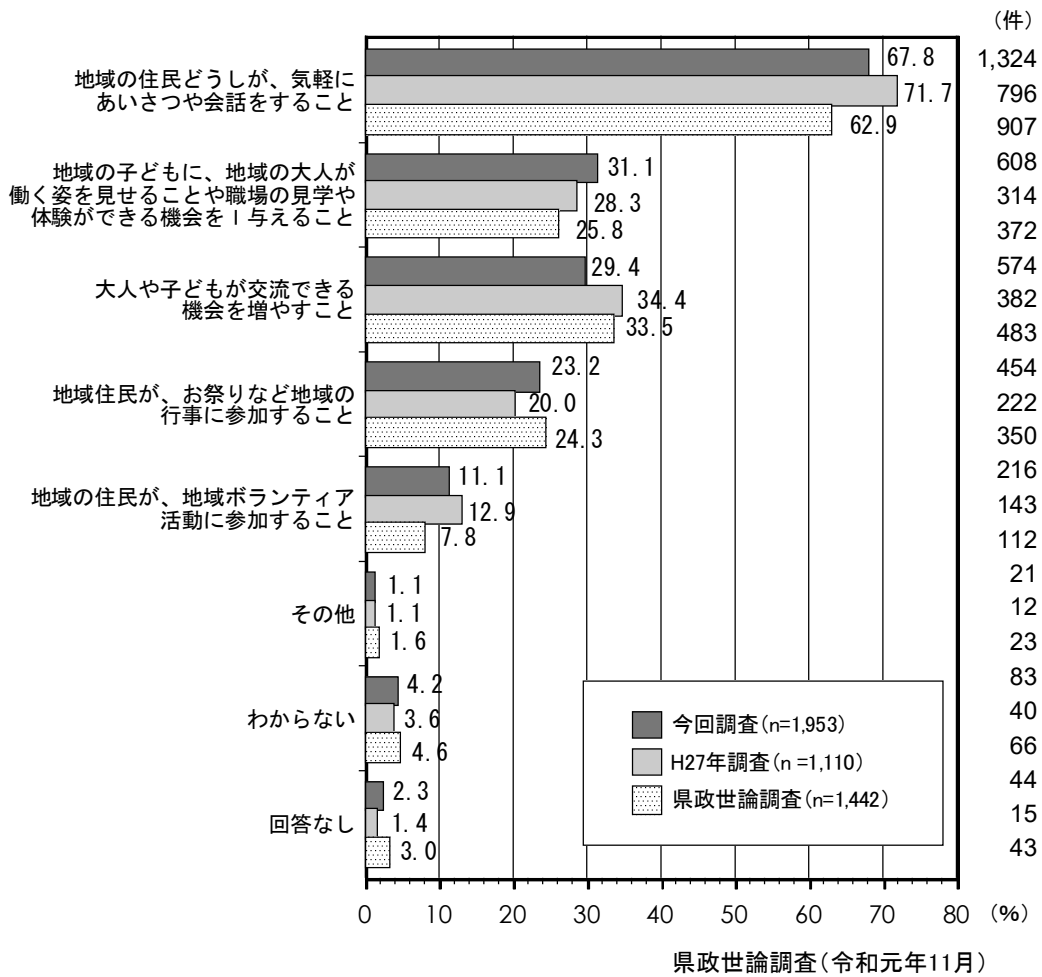
【全体】（図4-3-1）

○子どもの教育における地域社会の取組として重要なものとして最も多いのは、「地域の住民どうしが気軽にあいさつすること」で、67.8%になっています。次いで、「地域の子どもに、地域の大人が働く姿を見せることや、職場の見学や体験ができる機会を与えること」が31.1%、「大人や子どもが交流できる機会を増やすこと」が29.4%、となっています。

【世論調査比較】（図4-3-1）

○県政世論調査の結果と比べると、「地域の住民どうしが気軽にあいさつすること」や「地域の子どもに、地域の大人が働く姿を見せることや、職場の見学や体験ができる機会を与えること」などが県政世論調査結果よりも僅かながら上回っているものの、「大人や子どもが交流できる機会を増やすこと」については、僅かながら下回っています。

図 4-3-1 世論調査比較「子どもの教育における地域の役割」



【年齢別】(図 4-3-2)

- 「大人や子どもが交流できる機会を増やすこと」については、70 歳代以上 (35.3%) といった高齢者層で若干多くなっている一方で、「地域の子どもの、地域の大人が働く姿を見せることや、職場の見学や体験ができる機会を与えること」については、幼児や小中学生等の子どもがいる世代にあたる 30 歳代 (39.8%) と 40 歳代 (40.4%) で若干多くなっており、70 歳代 (21.0%) で少なくなっています。
- 「大人や子どもが交流できる機会を増やすこと」については、20 歳代で少なくなっています。
- 「地域の住民が、お祭りなど地域の行事に参加すること」については、30 歳代 (32.3%) で若干多くなっている一方で、50 歳代 (18.2%)、70 歳代以上 (18.0%) で少なくなっています。

【居住地域別】(図 4-3-3)

- 居住地区別による有意な差は認められません。

図 4-3-2 年齢別「子どもの教育における地域の役割」

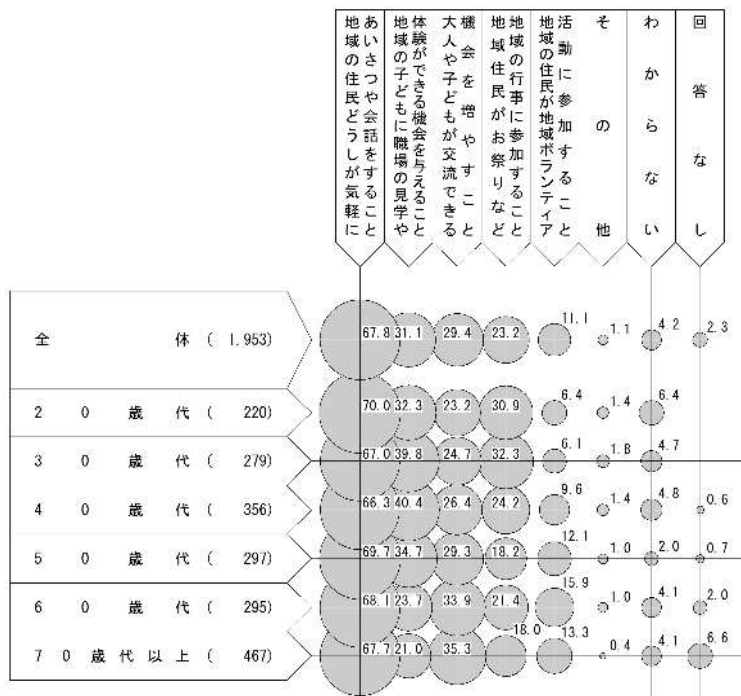
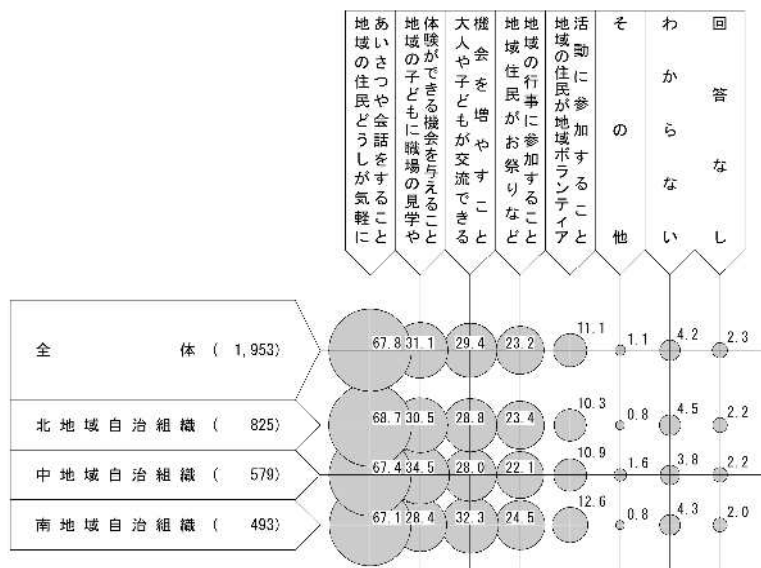


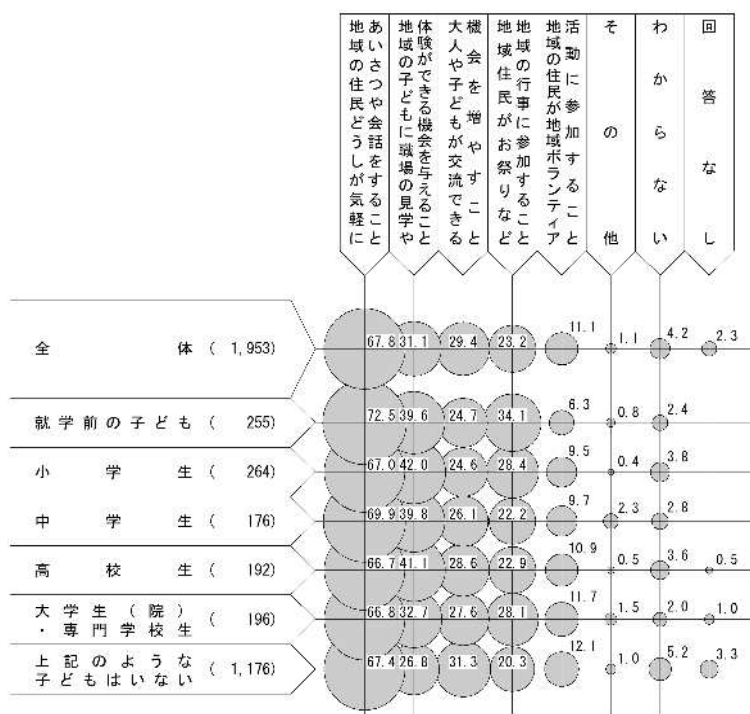
図 4-3-3 居住地域別「子どもの教育における地域の役割」



【大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別】 (図 4-3-4)

- 「地域の子どもの、地域の大人が働く姿を見せることや、職場の見学や体験ができる機会を与えること」については、「小学生」がいる町民 (42.0%) や「高校生」がいる町民 (41.1%) で多く、また、「中学生」がいる町民 (39.8%) 「就学前の子ども」がいる町民 (39.6%) でも若干多くなっています。
- 「地域の住民が、お祭りなど地域の行事に参加すること」の回答は、「就学前の子ども」がいる町民で 34.1%と多くなっています。また、「小学生」がいる町民 (28.4%) で若干多くなっています。

図 4-3-4 大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別「子どもの教育における地域の役割」



4-4 力をいれるべき教育分野（問8）

問8 子どもの将来のために、大口町は、どのような教育分野に力を入れていくべきだと思いますか。

【回答数：2つまで〇印】

子どもの将来のために力をいれるべき教育分野として、最も多くの町民（43.8%）が「道徳教育」をあげています。次いで、や「学力の育成」（29.7%）や「キャリア教育」（25.8%）などが多くなっています。

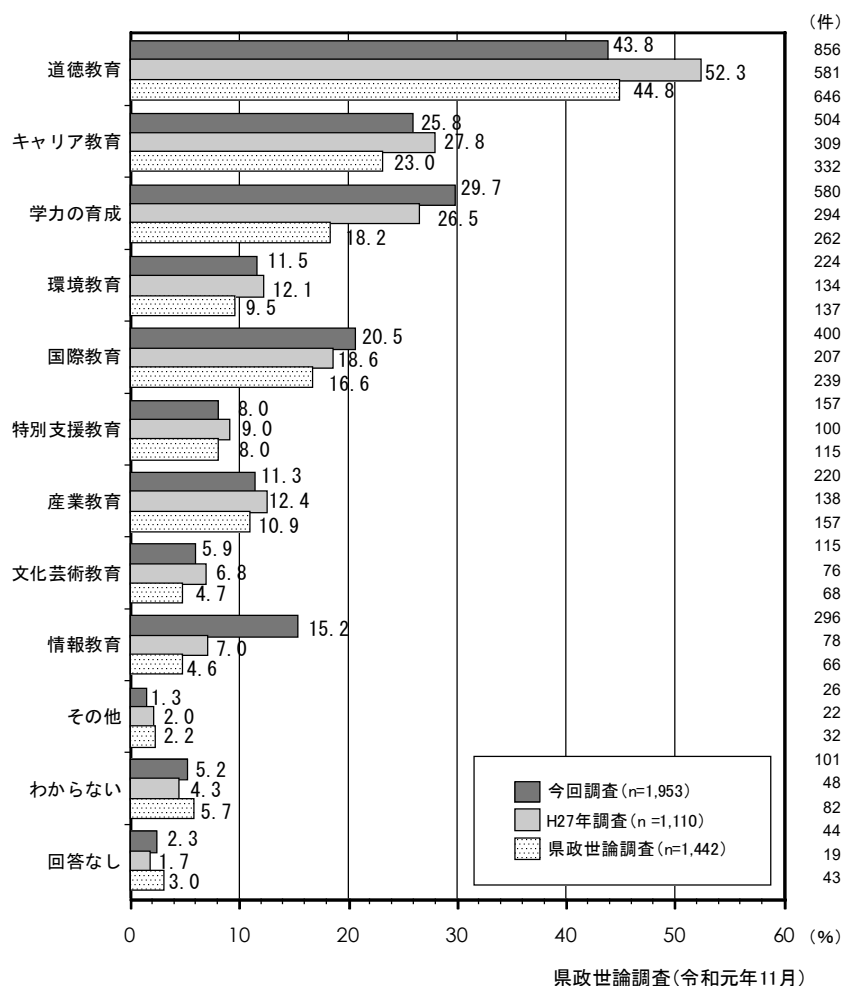
【全体】（図4-4-1）

- 子どもの将来のために力をいれるべき教育分野について尋ねたところ、「道徳教育」が43.8%と最も多くなっています。次いで、「学力の育成」が29.7%、「キャリア教育」が25.8%、「国際教育」が20.5%、「情報教育」が15.2%と多くなっています。
- 「学力の育成」や「キャリア教育」を重視する町民よりも「道徳教育」を重視する町民が多くなっていることが特徴としてみられます。

【世論調査比較】（図4-4-1）

- 県政世論調査の結果との比較においては、「学力の育成」と「情報教育」で大きく上回っています。

図4-4-1 世論調査比較「力をいれるべき教育分野」



【年齢別】 (図 4-4-2)

- 最も多くの町民が力を入れるべきとしている「道德教育」については、年齢が高くなるにつれて回答割合が多くなる傾向が顕著にみられ、70歳代以上では53.1%になっています。
- 逆に、「キャリア教育」については、年齢が高くなるにつれて回答割合が少なくなる傾向が顕著にみられ、70歳代以上では18.8%になっています。
- 「国際教育」についても似たような傾向がみられ、年齢が高いほど割合が少なくなる傾向がみられます。

【居住地域別】 (図 4-4-3)

- 居住地区別による有意な差は認められません。

図 4-4-2 年齢別「力を入れるべき教育分野」

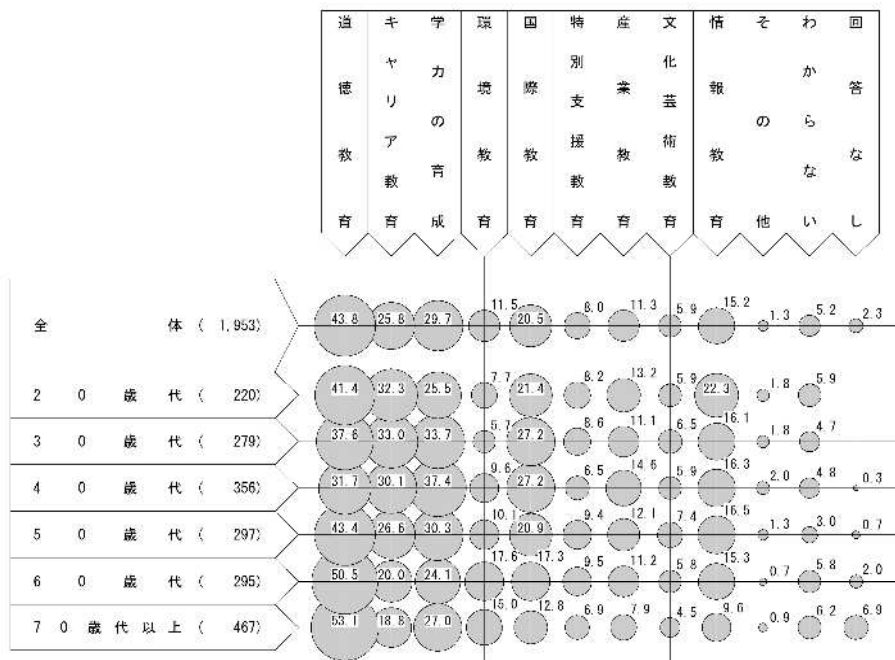
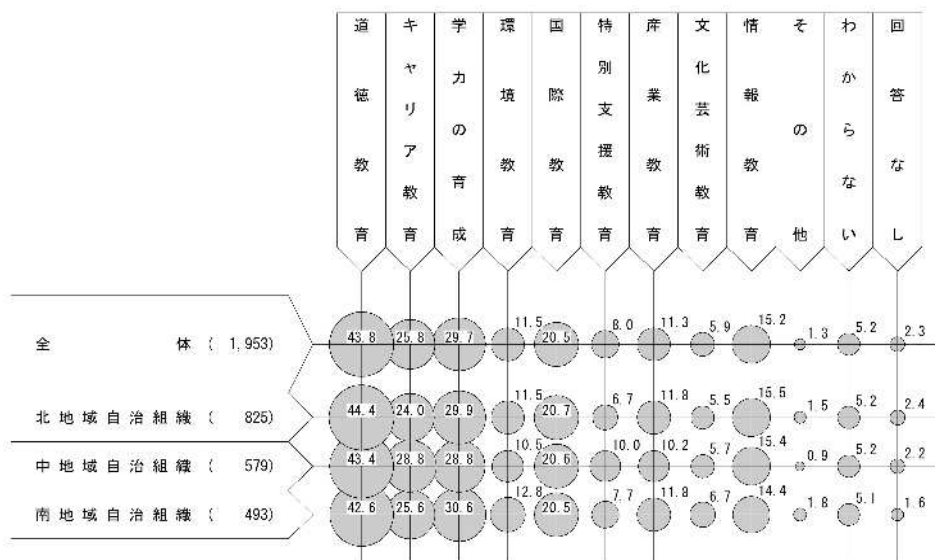


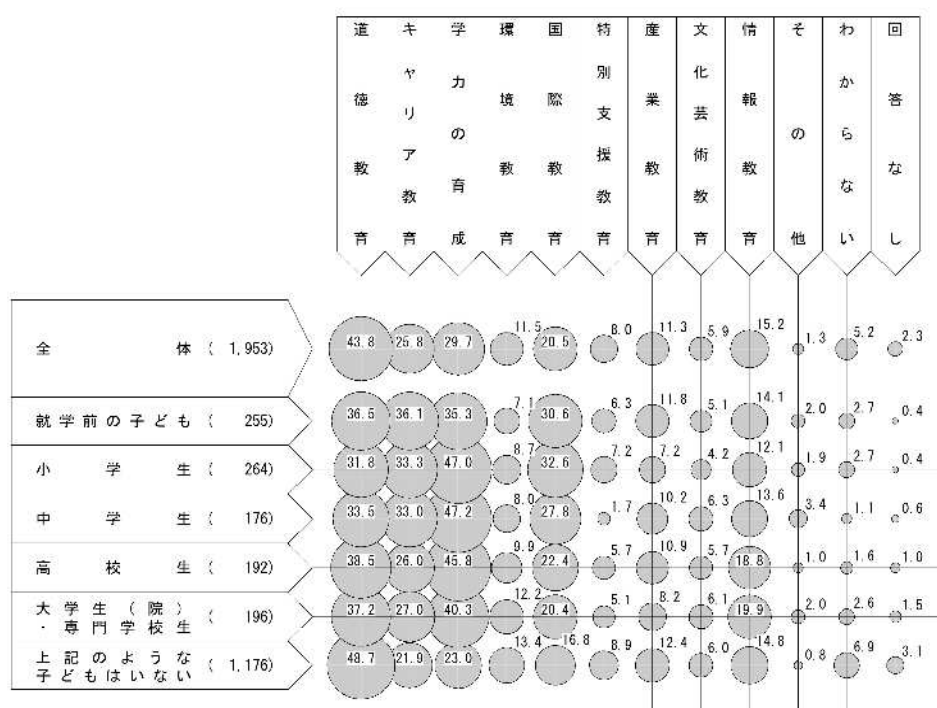
図 4-4-3 居住地域別「力を入れるべき教育分野」



【大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別】 (図 4-4-4)

- 最も多くの町民が力を入れるべきとしている「道徳教育」については、「小学生」がいる町民 (31.8%) や「中学生」がいる町民 (33.5%) で少なくなっている一方で、「子ども」のいない町民 (48.7%) で多くなっています。
- 「キャリア教育」については、「就学前の子ども」がいる町民 (36.1%) で多くなっています。また、「小学生」がいる町民 (33.3%) や「中学生」がいる町民 (33.0%) でも若干多くなっています。
- 「学力の育成」については、「小学生」(47.0%) や「中学生」(47.2%)、「高校生」がいる町民 (45.8%) において多くなっています。
- 「国際教育」については、「小学生」(32.6%) や「就学前の子ども」がいる町民 (30.6%) で多くなっています。また、「中学生」(27.8%) でも若干多くなっています。

図 4-4-4 大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別「力を入れるべき教育分野」



4-5 教員が授業以外で優先すべき業務（問9）

問9 「教員の多忙化」により教員が子どもと向き合う時間を十分に確保できないことが課題となっています。あなたは、授業以外で教員が行っている次の業務のうち優先すべき業務は何だと思えますか。

【回答数：3つまで○印】

授業以外で教員が行っている業務のうち優先すべき業務は、「礼儀やマナー等のしつけに関する指導」が37.0%と最も多くなっています。次いで、「教員自らの資質・能力向上のための研修・研究」(34.7%)や「基本的な生活習慣を確立するための指導」(31.9%)が多くなっています。

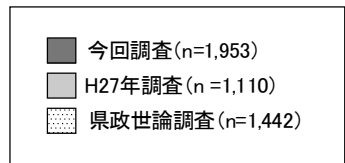
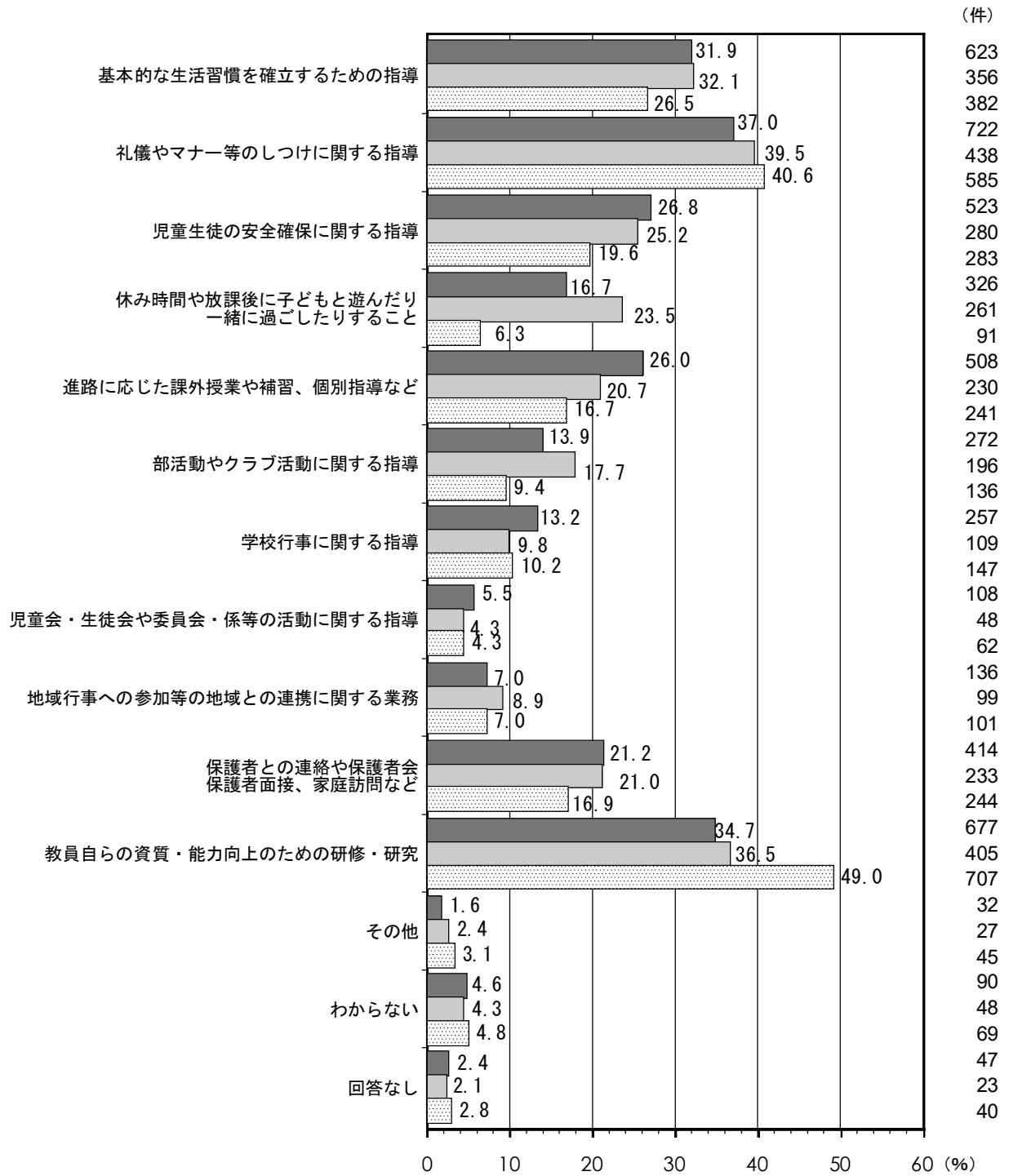
【全体】(図4-5-1)

○授業以外で教員が行っている業務のうち優先すべき業務について尋ねたところ、「礼儀やマナー等のしつけに関する指導」が37.0%と最も多くなっています。次いで、「教員自らの資質・能力向上のための研修・研究」が34.7%、「基本的な生活習慣を確立するための指導」が31.9%、「児童生徒の安全確保に関する指導（登下校の指導や学校内での安全）」が26.8%、「進路に応じた課外授業や補習、個別指導など」が26.0%と多くなっています。

【世論調査比較】(図4-5-1)

○県政世論調査の結果との比較において「礼儀やマナー等のしつけに関する指導」と「教員自らの資質・能力向上のための研修・研究」については、県政世論調査の結果が上回る結果となっています。特に、後者は14.3ポイントも上回っています。

図 4-5-5 世論調査比較「教員が授業以外で優先すべき業務」

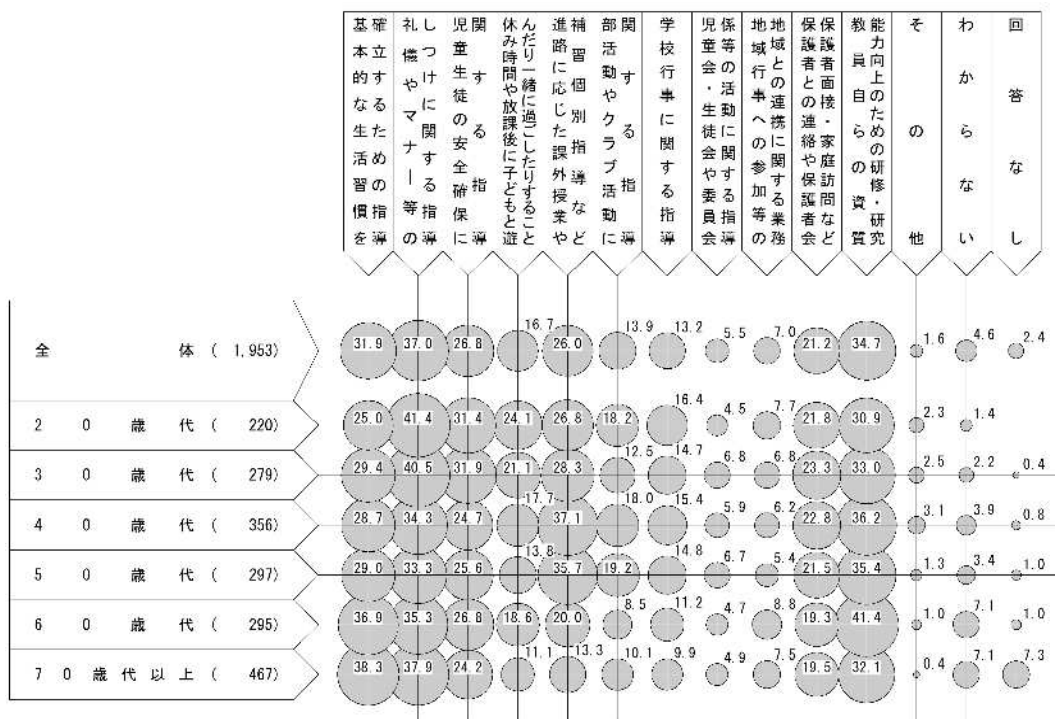


県政世論調査(令和元年11月)

【年齢別】 (図 4-5-2)

- 最も多くの町民が優先すべきとしている「礼儀やマナー等のしつけに関する指導」については、年齢による有意な差は認められません。
- 優先すべきとしている町民が2番目に多い「教員自らの資質・能力向上のための研修・研究」については、60歳代(41.4%)で他の年齢層に比べて若干多くなっています。
- 優先すべきとしている町民が3番目に多い「基本的な生活習慣を確立するための指導」については、年齢が高くなるにつれて回答割合が概ね多くなる傾向がみられ、20歳代で25.0%、30歳代で29.4%であるのに対して60歳代で36.9%、70歳代以上では38.3%となっています。
- 優先すべきとしている町民が4番目に多い「進路に応じた課外授業や補習、個別指導など」については、40歳代(37.1%)、50歳代(35.7%)が多くなっていることが特徴としてみられます。これは、40歳代、50歳代の町民はちょうど受験生を抱えるような年齢層であることが影響しているものと考えられます。

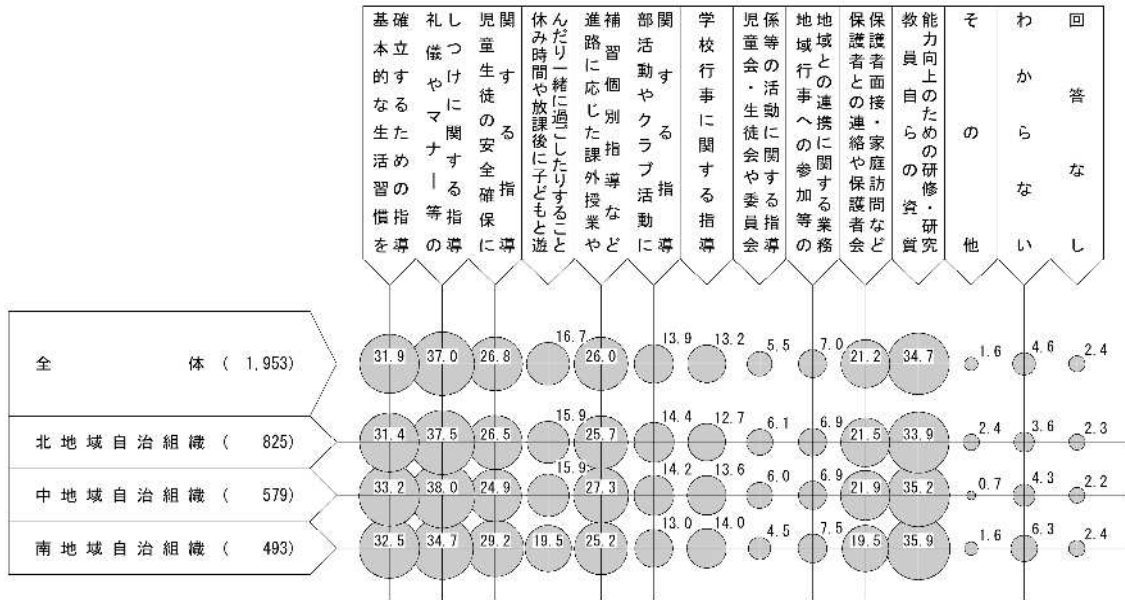
図 4-5-2 年齢別「教員が授業以外で優先すべき業務」



【居住地域別】 (図 4-5-3)

○居住地区別による有意な差は認められません。

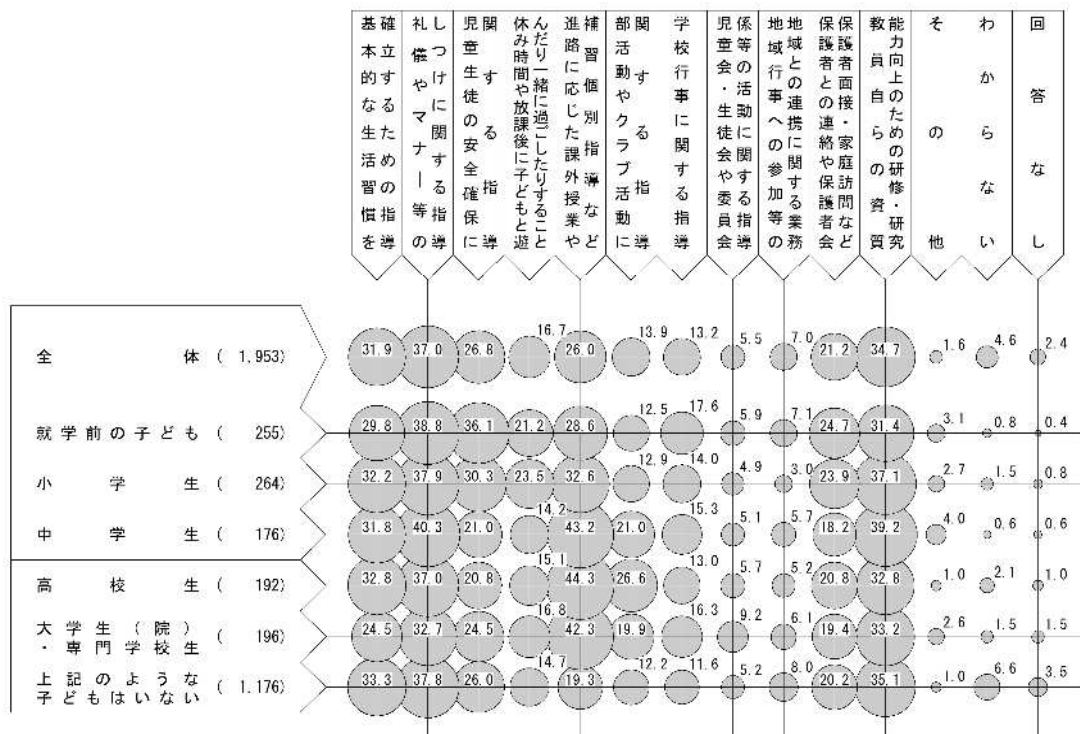
図 4-5-3 居住地域別「教員が授業以外で優先すべき業務」



【大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別】 (図 4-5-4)

- 最も多くの町民が優先すべきとしている「礼儀やマナー等のしつけに関する指導」や優先すべきとしている町民が2番目に多い「教員自らの資質・能力向上のための研修・研究」については、子どもの有無等による有意な差はみられません。
- 優先すべきとしている町民が3番目に多い「基本的な生活習慣を確立するための指導」については、「大学(院)生・専門学校生」がいる町民において若干少なくなっています。
- 優先すべきとしている町民が4番目に多い「進路に応じた課外授業や補習、個別指導など」を優先すべきとする割合は、「中学生」がいる町民 (43.2%)、「高校生」がいる町民 (44.3%)、「大学(院)生・専門学校生」がいる町民 (42.3%) が多くなっていることが特徴としてみられます。
- そのほかには、「部活動やクラブ活動に関する指導」については、「高校生」がいる町民 (26.6%) や「中学生」がいる町民 (21.0%) で多くなっています。

図 4-5-4 大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別「教員が授業以外で優先すべき業務」



5. 環境に配慮した暮らしについて

5-1 暮らしの中での二酸化炭素排出削減の取組み（問10）

問10 あなたのご家庭では、節電などの省エネの実践やマイカーの利用を控えるなど日常的な暮らしの中で二酸化炭素の排出の削減に取り組んでいますか。【回答数：○印を1つだけ】

日常的な暮らしの中で二酸化炭素の排出の削減に「取り組んでいる・まあ取り組んでいる」という町民は約4割を占めていますが、「あまり取り組んでいない・取り組んでいない」という町民も約2割を占めており、決して少なくありません。年齢の低い町民ほど、「あまり取り組んでいない・取り組んでいない」の割合が多くなっています。

【全体】（図5-1-1）

- 日常的な暮らしの中で二酸化炭素の排出の削減の取組状況について尋ねたところ、「取り組んでいる」と回答した町民は11.0%、「まあ取り組んでいる」は32.4%で、合わせて43.4%を占めています。
- 一方、「あまり取り組んでいない」と回答した町民は17.8%、「取り組んでいない」は5.2%で、合わせて23.0%で、「取り組んでいる・まあ取り組んでいる」という回答割合を20.4ポイント下回っています。しかしながら、その割合は、決して少なくない割合であり、二酸化炭素の排出の削減の取組をより一層多くの町民に浸透させていくことが求められます。

【前回比較】（図5-1-1）

- 平成27年調査では、「取り組んでいる」と回答した町民は14.1%、「まあ取り組んでいる」と回答した町民は35.9%で、合わせて50.0%だったことから、6.6ポイント減少しました。

【年齢別】（図5-1-2）

- 「あまり取り組んでいない・取り組んでいない」という回答は、年齢が低いほど多い傾向がみられ、最も多い20歳代で、31.8%（20.0%+11.8%）次いで30歳代で31.1%（22.9%+8.2%）の結果となっています。

図5-1-1 前回比較「暮らしの中での二酸化炭素排出削減の取組み」

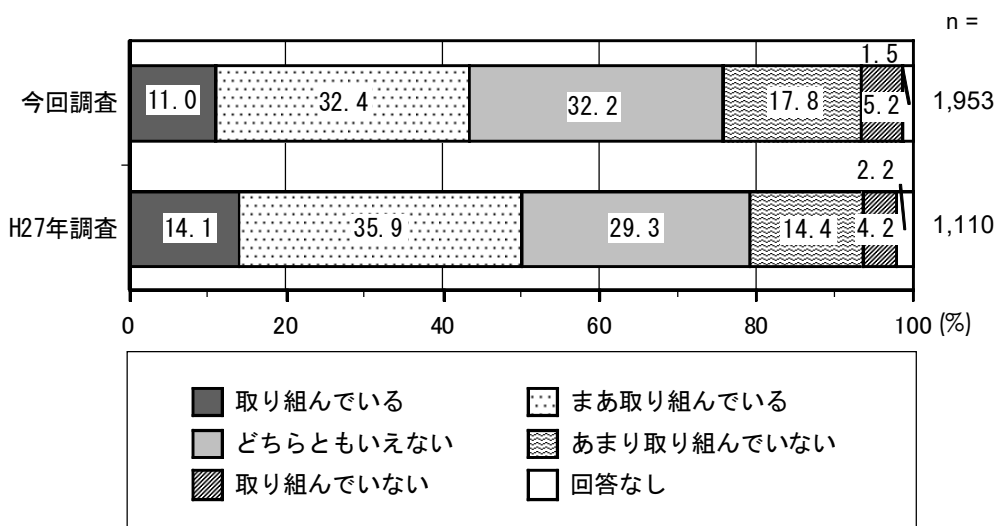
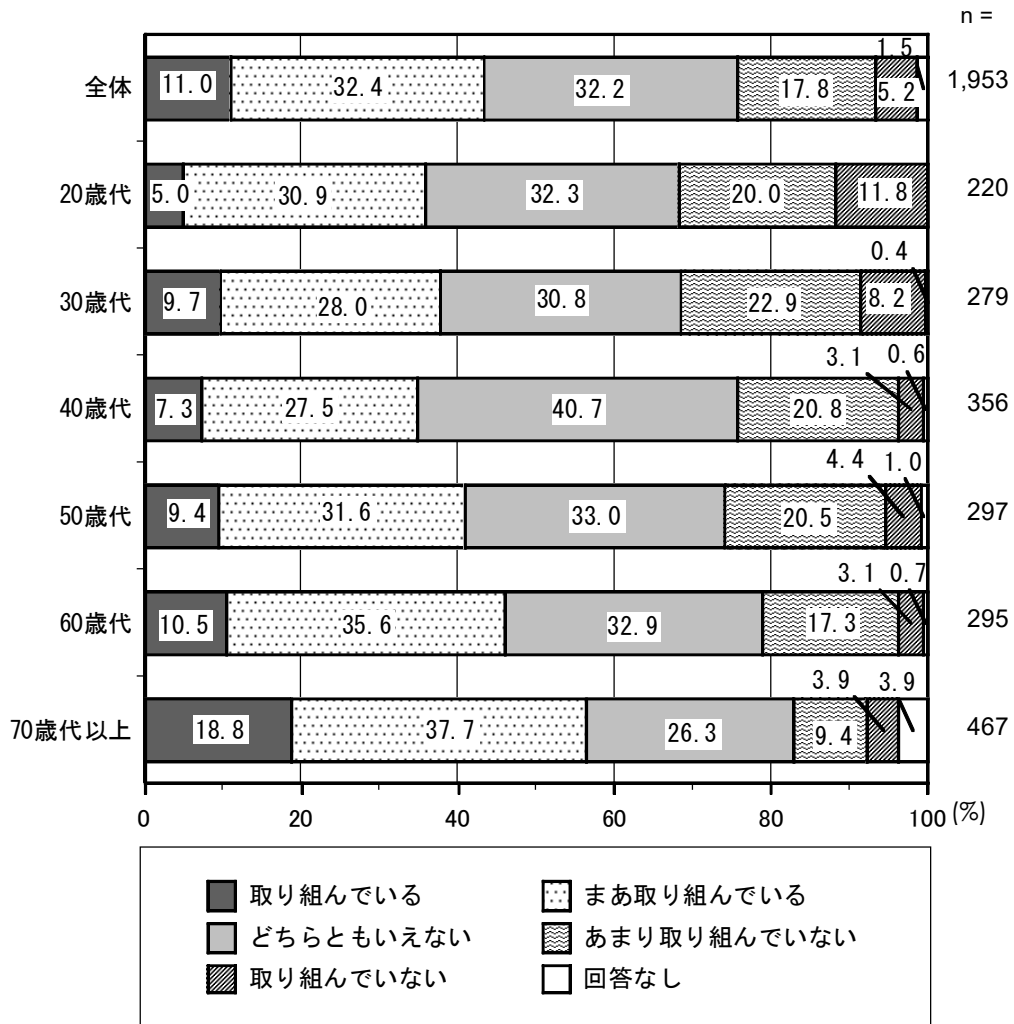


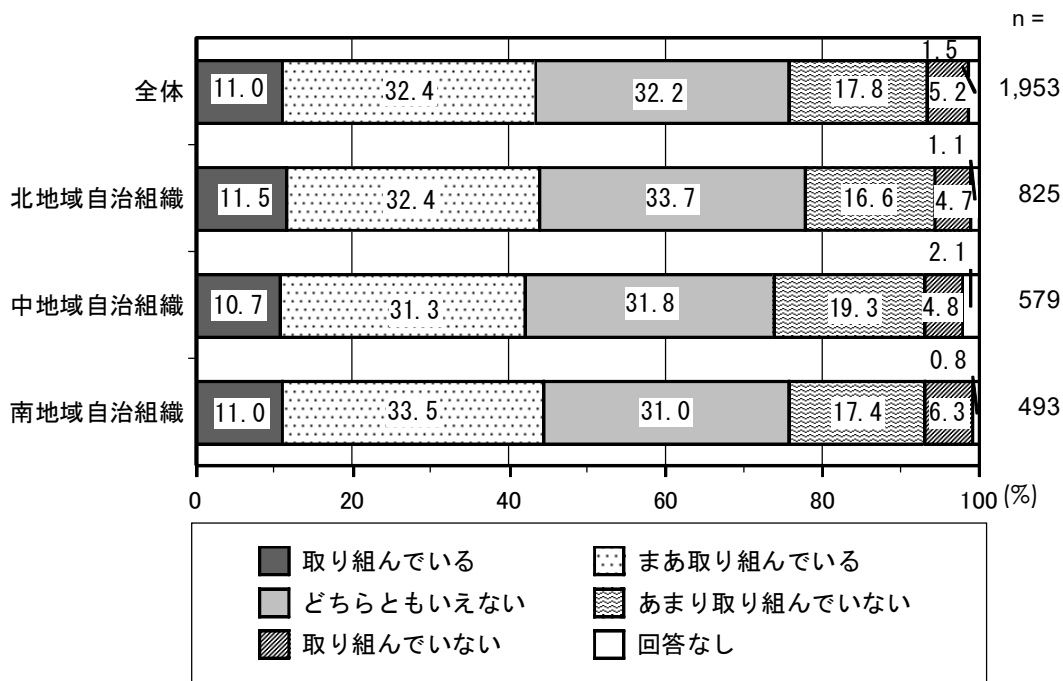
図 5-1-2 年齢別「暮らしの中での二酸化炭素排出削減の取組み」



【居住地域別】 (図 5-1-3)

○居住地区別による有意な差は認められません。

図 5-1-3 居住地域別「暮らしの中での二酸化炭素排出削減の取組み」



5-2 家庭におけるごみ減量化の取組み（問 11）

問 11 あなたの家庭では、ごみの減量化や分別によるごみの資源化に取り組んでいますか。

【回答数：○印を1つだけ】

ごみの減量化や分別によるごみの資源化に「取り組んでいる・まあ取り組んでいる」という町民は8割を占めています。

【全体】（図 5-2-1）

○ごみの減量化や分別によるごみの資源化の取組状況について尋ねたところ、「取り組んでいる」と回答した町民は35.2%、「まあ取り組んでいる」は46.1%で合わせて81.3%を占めています。

○一方、「あまり取り組んでいない」と回答した町民は3.9%、「取り組んでいない」は1.0%と合わせても4.9%と僅かです。

【前回比較】（図 5-2-1）

○平成27年調査結果との比較では、ほとんど差は認められません。

【年齢別】（図 5-2-2）

○「取り組んでいる」という回答割合は、60歳代が38.6%、70歳代以上が50.3%と、概ね年齢が高いほど多くなる傾向がみられます。

図 5-2-1 前回比較「家庭におけるごみ減量化の取組み」

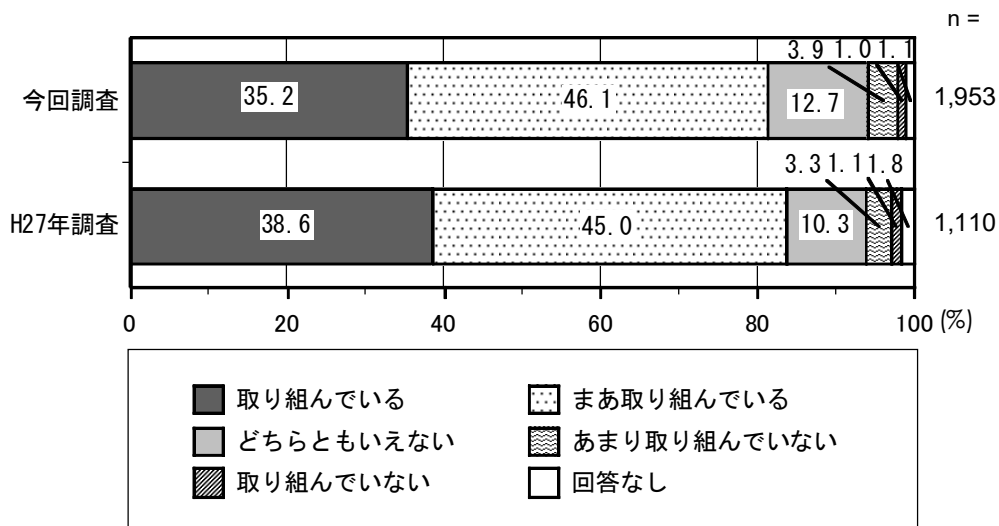
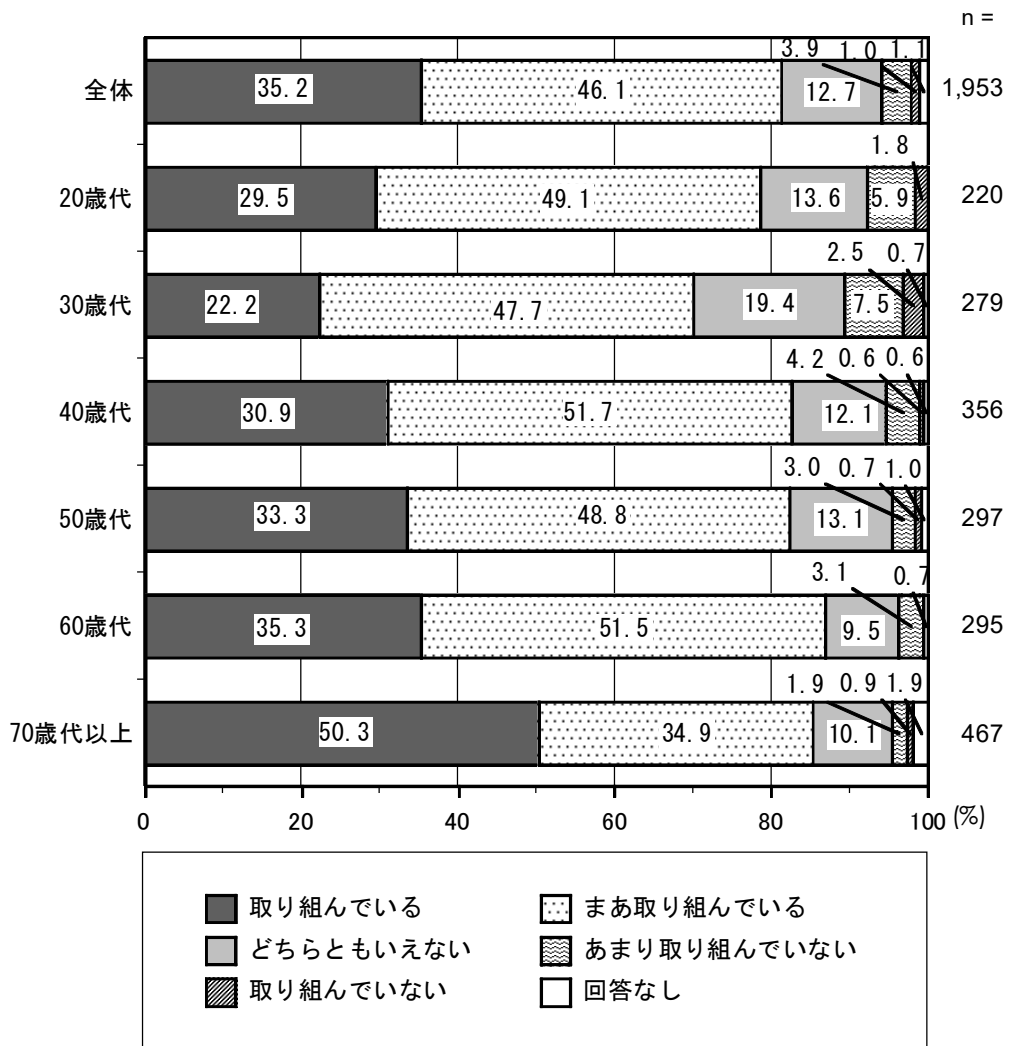


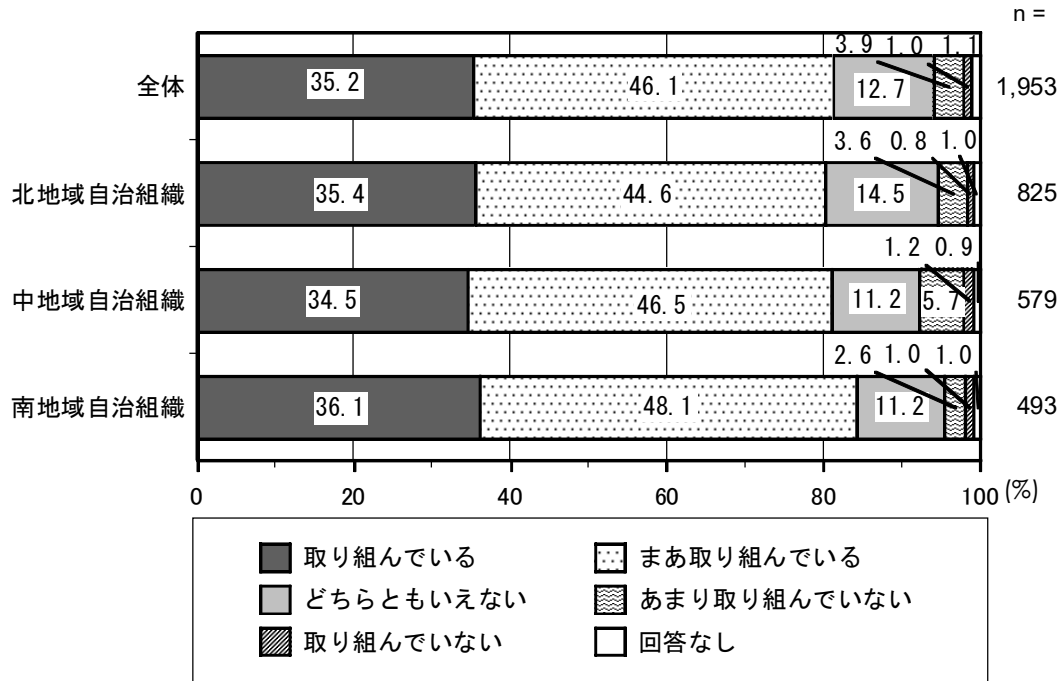
図 5-2-2 年齢別「家庭におけるごみ減量化の取組み」



【居住地域別】 (図 5-2-3)

○居住地区別による有意な差は認められません。

図 5-2-3 居住地域別「家庭におけるごみ減量化の取組み」



6. 身の回りの安全（防犯・防災）について

6-1 犯罪の未然防止のための地域の役割（問12）

問12 あなたは、身の回りで起きる犯罪を未然に防止するため、地域の役割としてどのようなことが主に重要だと思いますか。 【回答数：3つまで○印】

犯罪の未然防止のための地域の役割としては、「日頃から近所づきあいやコミュニティ活動を活発にし、犯罪に強いコミュニティをつくる」が52.1%と最も多く、次いで、「地域安全パトロール隊の活動を進める」（41.7%）、「各世帯で防犯カメラや防犯ベルなどの防犯機器を設置する」（40.3%）、「地域の犯罪が起りそうな場所の点検を行う」（39.9%）が多くなっています。

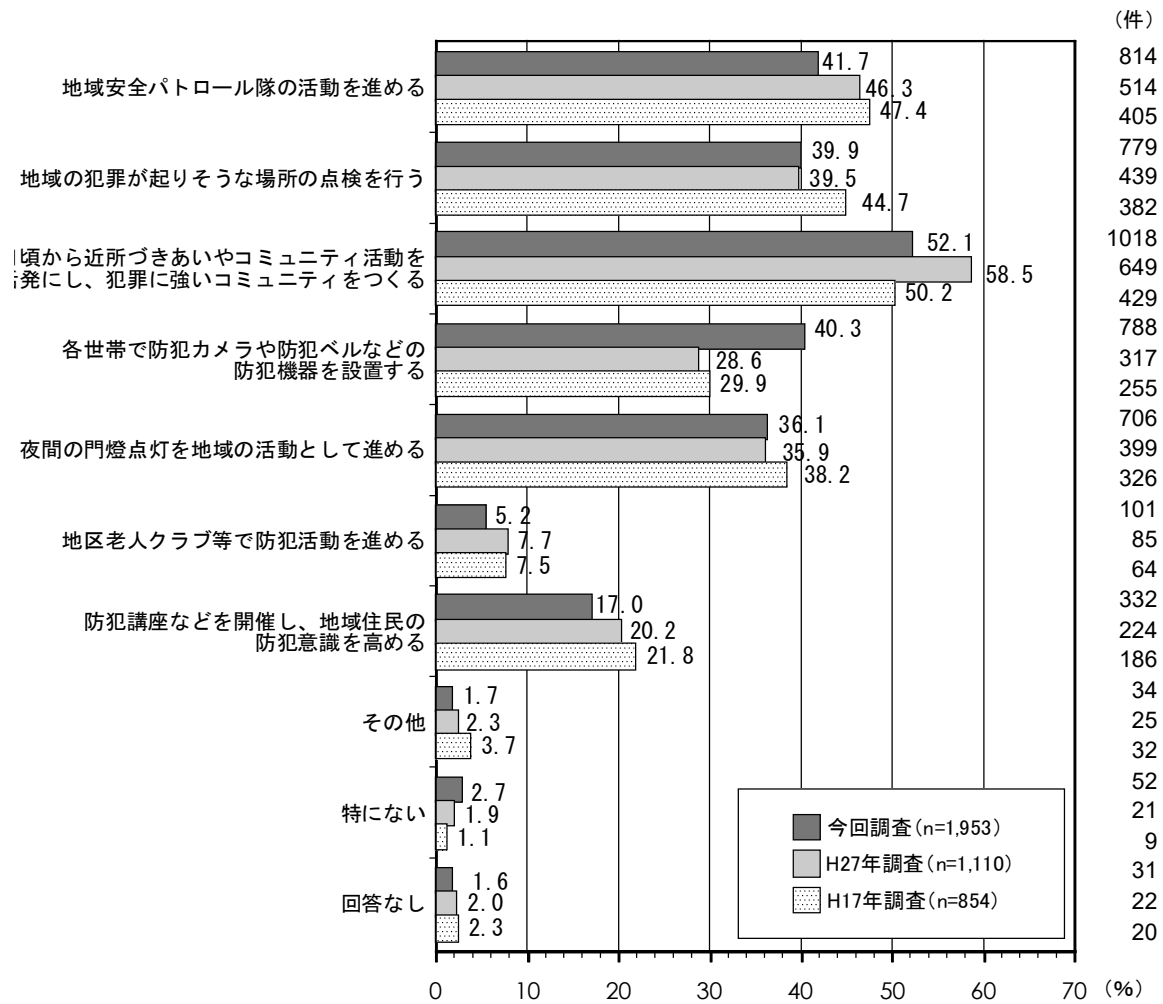
【全体】（図6-1-1）

○犯罪の未然防止のための地域の役割としては、「日頃から近所づきあいやコミュニティ活動を活発にし、犯罪に強いコミュニティをつくる」が52.1%と最も多くなっています。次いで、「地域安全パトロール隊の活動を進める」が41.7%、「各世帯で防犯カメラや防犯ベルなどの防犯機器を設置する」が40.3%、「地域の犯罪が起りそうな場所の点検を行う」が39.9%、「夜間の門燈点灯を地域の活動として進める」が36.1%となっています。

【前回・前々回比較】（図6-1-1）

○平成27年調査と比べると、今回の調査で最も多かった「日頃から近所づきあいやコミュニティ活動を活発にし、犯罪に強いコミュニティをつくる」については、前回調査よりも6.4ポイント減少しています。逆に、今回の調査で3番目に多かった「各世帯で防犯カメラや防犯ベルなどの防犯機器を設置する」については、前回調査よりも11.7ポイント増加しています。

図6-1-1 前回・前々回比較「犯罪の未然防止のための地域の役割」



【年齢別】 (図 6-1-2)

- 年齢別にみると、全般的には、年齢による大きな差異はみられませんが、最も多くの町民が地域の役割として重要であると回答している「日頃から近所づきあいやコミュニティ活動を活発にし、犯罪に強いコミュニティをつくる」の割合は、60歳代(57.3%)や70歳代以上(57.6%)で若干多くなっている一方で、20歳代(42.3%)で若干少なくなっています。
- 3番目に多くの町民が地域の役割として重要であると回答している「各世帯で防犯カメラや防犯ベルなどの防犯機器を設置する」の割合については、40歳代(45.8%)で若干多くなっている一方で、60歳代(34.6%)と70歳代以上(33.4%)で少なくなっています。

【居住地域別】 (図 6-1-3)

○居住地区別による有意な差は認められません。

図 6-1-2 年齢別「犯罪の未然防止のための地域の役割」

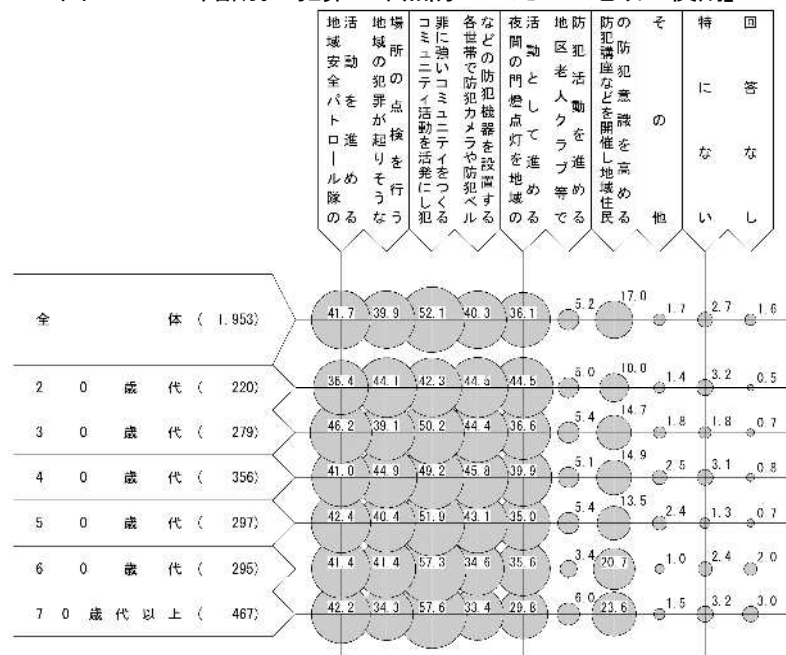
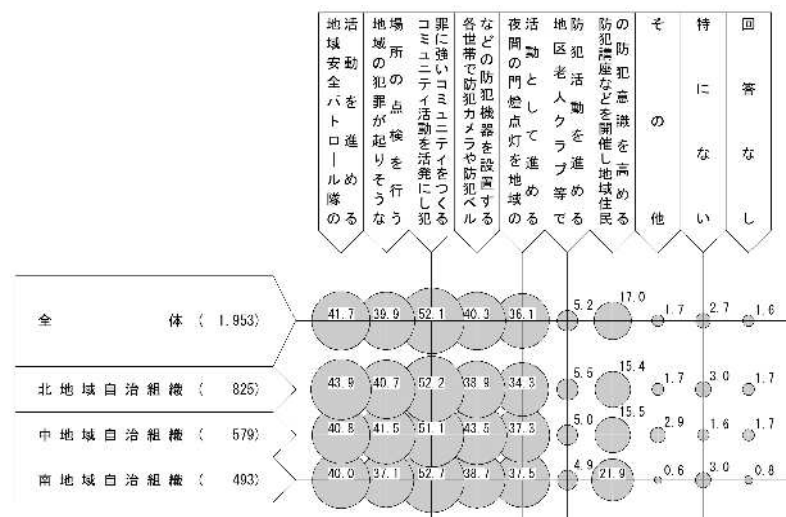


図 6-1-3 居住地域別「犯罪の未然防止のための地域の役割」



6-2 詐欺や悪徳商法についての注意喚起 (問 13)

問 13 あなたは、ここ1～2年ぐらいの間に、家族や身近な人と振り込め詐欺や悪徳商法について話し合うなど被害にあわないよう注意していますか。【回答数：○印を1つだけ】

振り込め詐欺や悪徳商法について被害にあわないように「注意している・まあ注意している」という町民は8割になります。その割合は、年齢が高くなるにつれて多くなる傾向がみられ、70歳代以上の高齢者層では、9割を占めています。

【全体】 (図 6-2-1)

○ここ1～2年ぐらいの間に、振り込め詐欺や悪徳商法について被害にあわないように「注意している」という町民は、46.3%と半数近くを占めています。「まあ注意している」の33.6%と合わせると、「注意している・まあ注意している」という町民は、79.9%になります。

○一方、「注意していない」は5.3%と僅かですが、「あまり注意していない」の13.9%と合わせると、19.2%と決して少なくありません。

【前回比較】 (図 6-2-1)

○平成27年調査と比べると、ほとんど差は認められません。

【年齢別】 (図 6-2-2)

○年齢が高くなるにつれて「注意している・まあ注意している」の割合は多くなる傾向がみられ、70歳代以上の高齢者層では、90.8% (69.2%+21.6%) を占めています。

図 6-2-1 前回比較「詐欺や悪徳商法についての注意喚起」

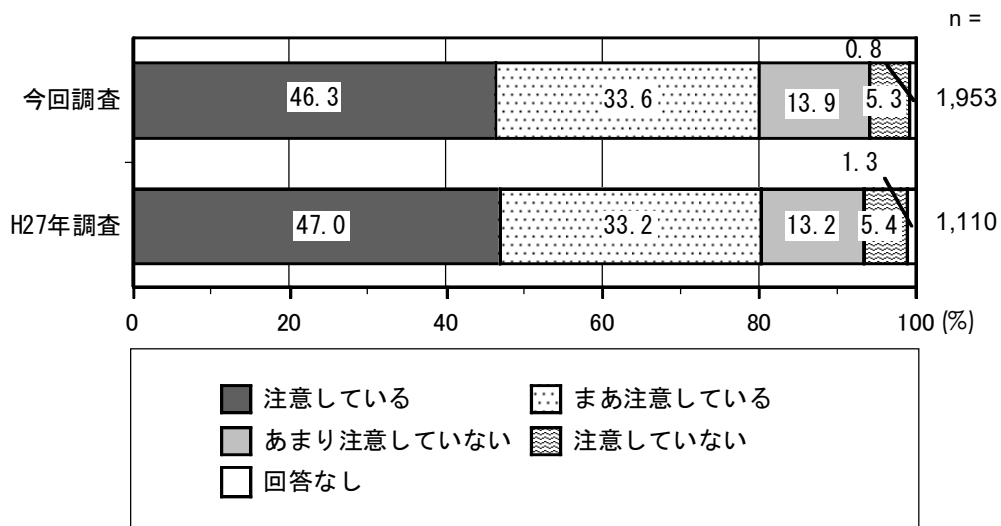
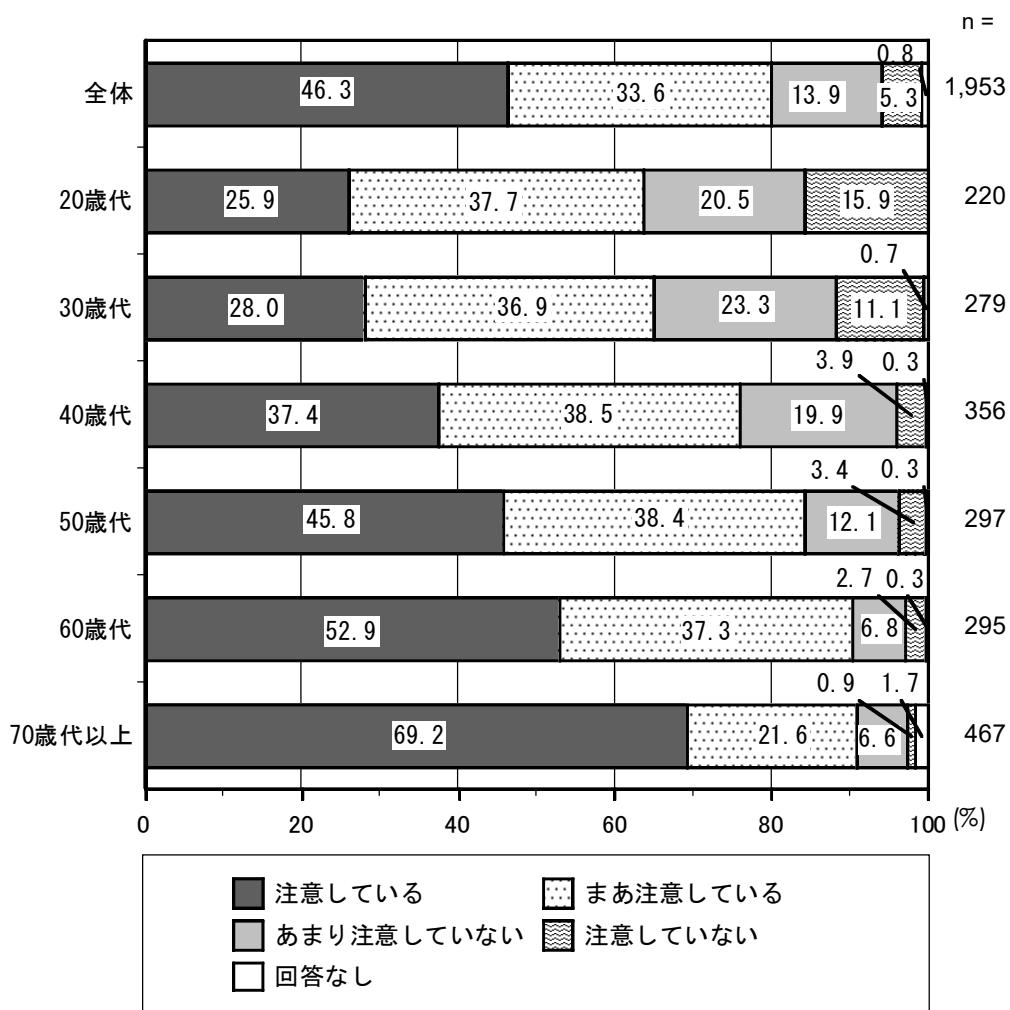


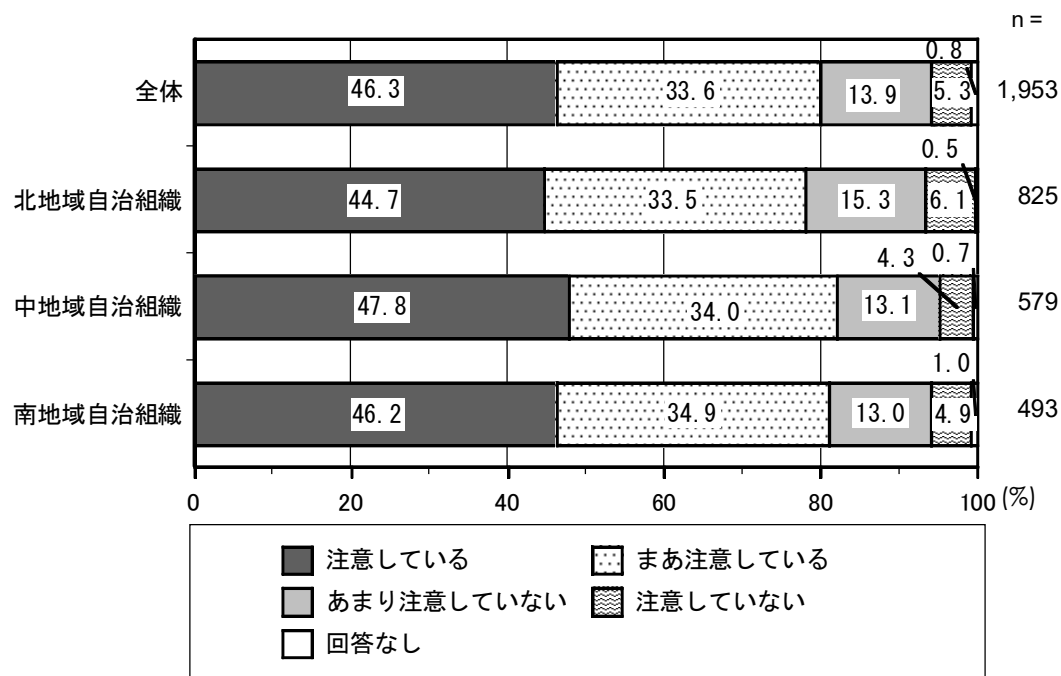
図 6-2-2 年齢別「詐欺や悪徳商法についての注意喚起」



【居住地域別】 (図 6-2-3)

○居住地区別による有意な差は認められません。

図 6-2-3 居住地域別「詐欺や悪徳商法についての注意喚起」



6-3 地震の備え (問 14)

問 14 あなたのご家庭では、大地震が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。

【回答数：あてはまるものすべてに○印】

家庭で行っている大震災対策としては、「食料や飲料水を準備している」が 52.2%と最も多くなっています。次いで、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」(52.1%) や「自宅建物もしくは家財を対象とした地震保険に加入している」(47.4%) が多くなっています。

国が実施した防災に関する世論調査の結果と比較すると、「自家用車の燃料が半分以下になれば満タンにするようにしている」(大口町：25.4%、国：14.1%) をはじめとした、15 項目中 4 項目については、実践している人の割合が国よりも上回っていますが、「家具や家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」をはじめとした 11 項目については、国よりも実践している人の割合が下回っています。

【全体】 (図 6-3-1)

○家庭で行っている大震災対策として最も多いのは、「食料や飲料水を準備している」で 52.2%になっています。2 番目に多いのは「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」で 52.1%、3 番目は「自宅建物もしくは家財を対象とした地震保険に加入している」で 47.4%、4 番目は「近くの学校や公園など避難する場所を決めている」で 37.0%、5 番目は「耐震性のある家に住んでいる」で 33.3%となっています。

○逆に、「感震ブレーカーを設置している」(8.6%) や「防災訓練に積極的に参加している」(5.3%) はいずれも 1 割未満となっています。

○また、携帯ラジオや食料や飲用水等の非常用の持ち出し備品を準備している町民は多いものの、「貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している」(17.3%) や「非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している」(12.1%) となると、少ない状況にあります。

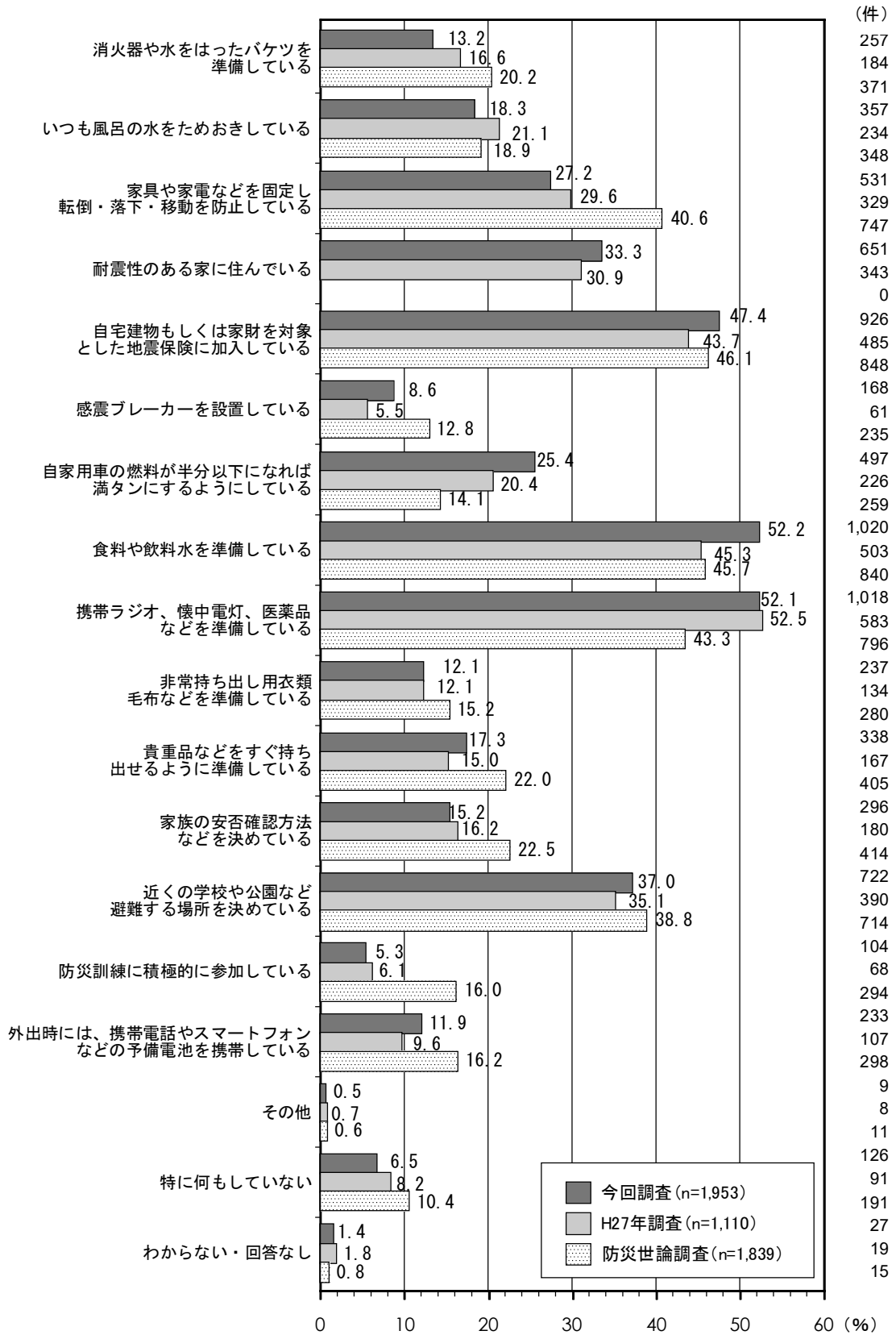
【世論調査比較】 (図 6-3-1)

○国が実施した防災に関する世論調査の結果と比較すると、「自家用車の燃料が半分以下になれば満タンにするようにしている」(大口町：25.4%、国：14.1%) をはじめ、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」(大口町：52.1%、国：43.3%)、「食料や飲料水を準備している」(大口町：52.2%、国：45.7%) などの 15 項目中 4 項目については、実践している人の割合が国よりも上回っています。

○一方、15 項目中 11 項目については、実践している人の割合が国よりも下回っています。中でも、「家具や家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」については、実践している人の割合が国よりも 13.4 ポイント (大口町：27.2%、国：40.6%) も下回っています。

○また、「防災訓練に積極的に参加している」(大口町：5.3%、国：16.0%) や「家族の安否確認方法などを決めている」(大口町：15.2%、国：22.5%)、「消火器や水をはったバケツを準備している」(大口町：13.2%、国：20.2%) についても、それぞれ、10.7 ポイント、7.3 ポイント、7.0 ポイント、国よりも実践している人の割合が下回っています。

図6-3-1 世論調査比較「地震の備え」

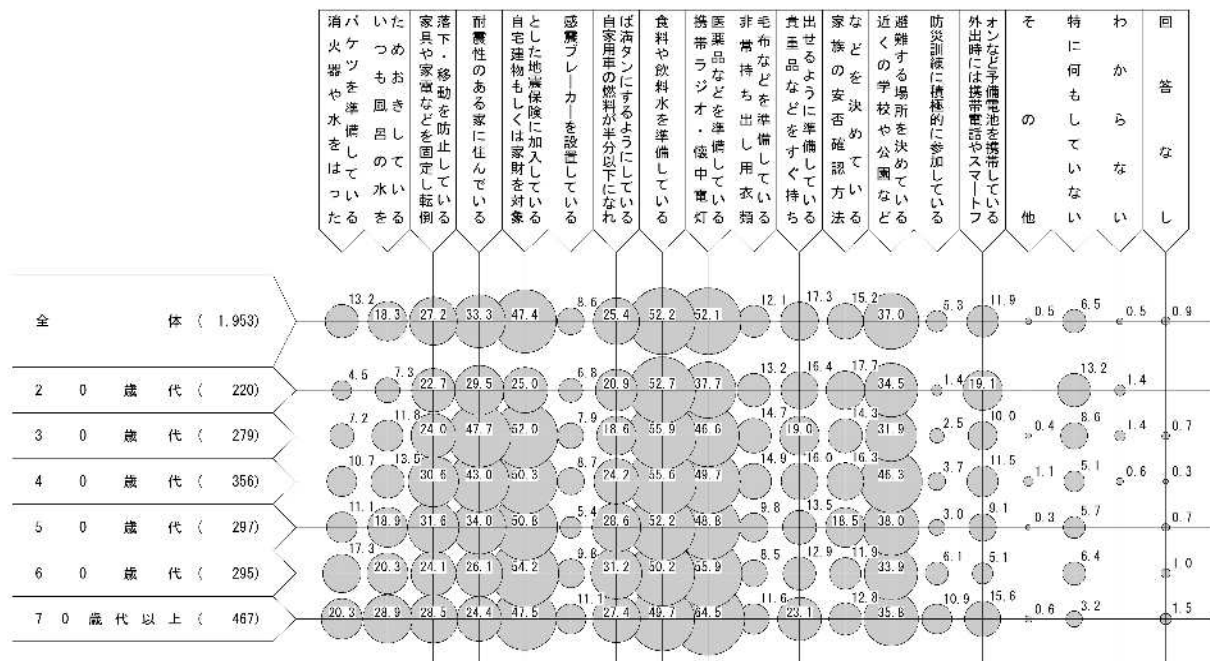


防災に関する世論調査(平成29年11月)

【年齢別】 (図 6-3-2)

- 年齢別にみると、20 歳代では、「外出時には、携帯電話やスマートフォンなどの予備電池を携帯している」については、他の年齢層に比べて割合が若干多くなっているものの、そのほかの事項は全般的に他の年齢層に比べて少なくなっています。その中でも、や「いつも風呂の水をためおきしている」(7.3%) や「消火器や水をはったバケツを準備している」(4.5%)、「防災訓練に積極的に参加している」(1.4%) などの割合が少なくなっています。
- 一方、70 歳代以上において、家庭で行っている大震災対策を行っている割合が全般的に多くなっており、中でも、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」(64.5%) や「いつも風呂の水をためおきしている」(28.9%) や「消火器や水をはったバケツを準備している」(20.3%) などが、他の年齢層に比べて多くなっています。
- 家庭で行っている大震災対策として割合が最も多い「食料や飲料水を準備している」については、ほぼ全ての年齢層で半数以上となっています。
- また、家庭で行っている大震災対策として割合が2番目に多い「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している」については、20 歳代が 37.7% で他の年齢層よりも少なくなっています。
- 「耐震性のある家に住んでいる」の割合が、30 歳代 (47.7%) や 40 歳代 (43.0%) で多くなっていますが、この年齢層の町民は新たに住宅を取得する年齢層であることが影響しているものと考えられます。逆に、60 歳代 (26.1%) 70 歳代以上 (24.4%) では、「耐震性のある家に住んでいる」の割合が若干少なくなっています。

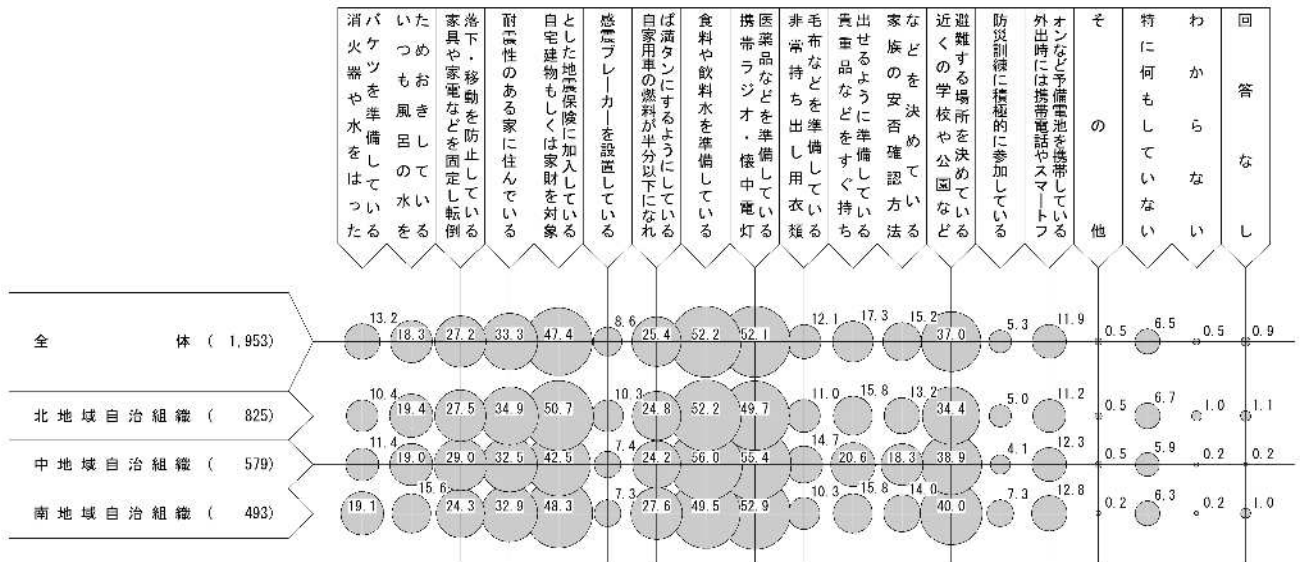
図 6-3-2 年齢別「地震の備え」



【居住地域別】 (図 6-3-3)

○他の地域に比べて南地域自治組織において「消火器や水をはったバケツを準備している」の割合が 19.1%と若干多くなっているほかは、居住地区別による有意な差は認められません。

図 6-3-3 居住地域別「地震の備え」



6-4 防災訓練等への参加（問15）

問15 あなたは、お住まいの地域で災害に備えた話し合いや防災訓練に参加していますか。

【回答数：○印を1つだけ】

地域で災害に備えた話し合いや防災訓練に「参加している」という町民は僅か 4.7%で、「まあ参加している」の 10.6%と合わせても 15.3%にとどまっています。年齢が低いほど「参加している・まあ参加している」の割合が順次少なくなる傾向がみられ、最も少ない 20 歳代では僅か 3.7%となっています。

【全体】（図 6-4-1）

○地域で災害に備えた話し合いや防災訓練に「参加している」という町民は僅か 4.7%で、「まあ参加している」の 10.6%と合わせても 15.3%にとどまっています。

○一方、「参加していない」は 29.0%、「あまり参加していない」は 20.1%で合わせて 49.1%と半数近くを占めています。また、「やっていることを知らない」という回答も 19.7%と少なくありません。

【前回比較】（図 6-4-1）

○平成 27 年調査との比較では、ほとんど差は認められませんが、参加率はやや低下しています。

【年齢別】（図 6-4-2）

○年齢が低いほど「参加している・まあ参加している」の割合が順次少なくなる傾向がみられ、最も少ない 20 歳代では僅か 3.7%（0.5%+3.2%）となっています。

○その一方で、20 歳代では、「あまり参加していない・参加していない」が 43.7%（13.2%+30.5%）、「やっていることを知らない」が 41.8%も占めています。

図 6-4-1 前回比較「防災訓練等への参加」

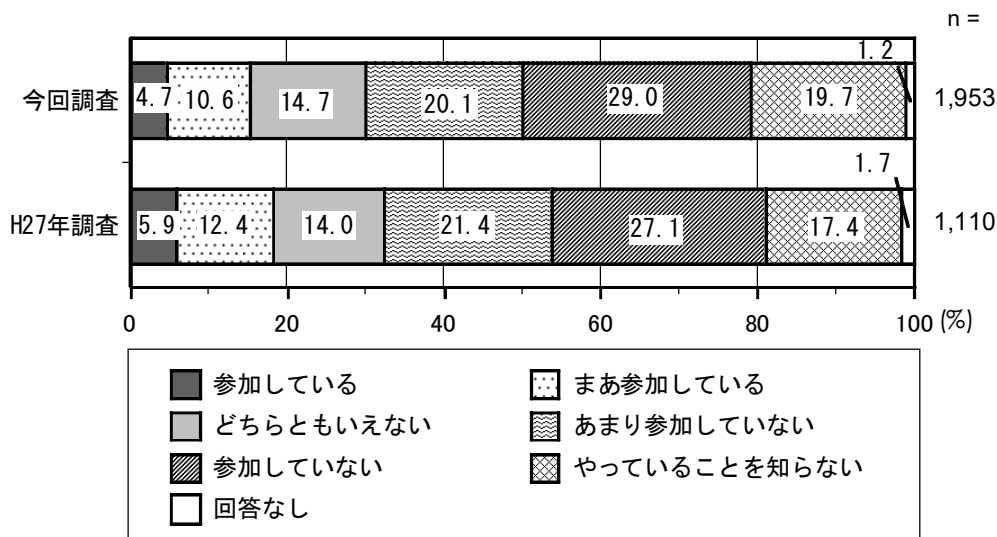
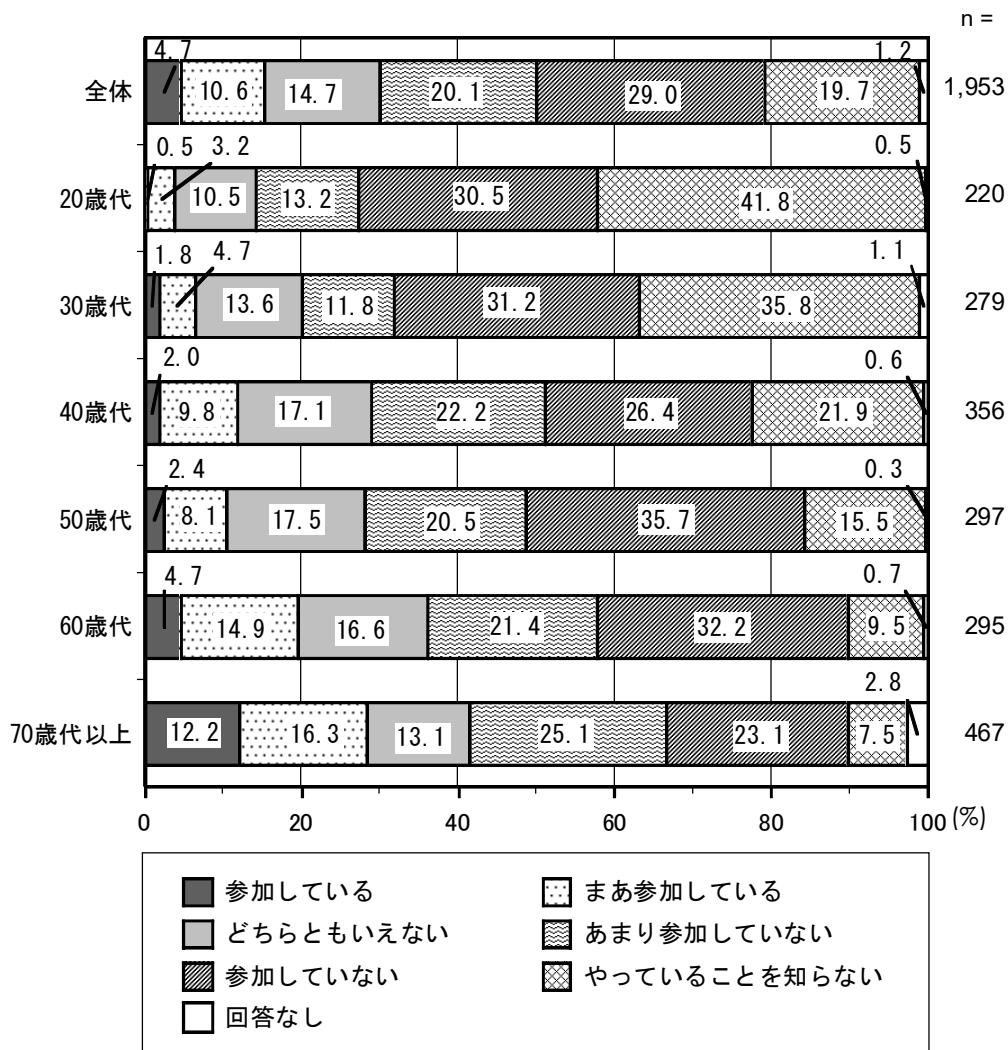


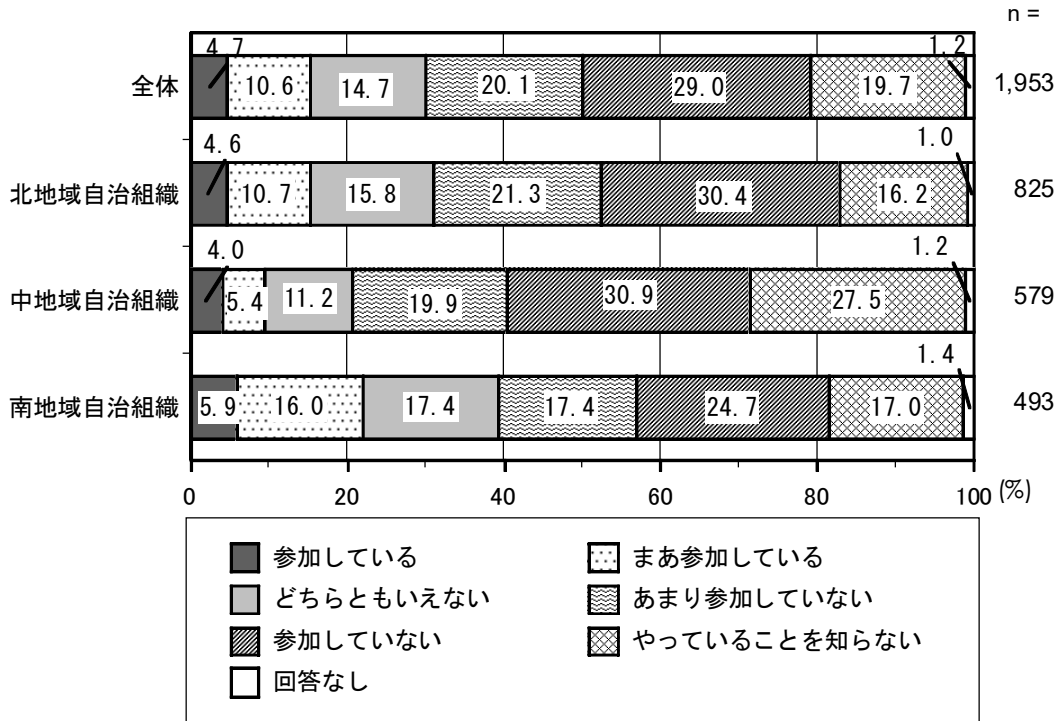
図 6-4-2 年齢別「防災訓練等への参加」



【居住地域別】 (図6-4-3)

○中地域自治区では、「やっていることを知らない」が27.5%を占めており、他の地域に比べて多くなっていることが特徴としてみられます。

図6-4-3 居住地域別「防災訓練等への参加」



6-5 災害に備えた家庭内備蓄（問16）

問16 あなたのご家庭では、災害に備えて食料や水など家庭内備蓄を行っていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

「家庭内備蓄は何も行っていない」が約2割を占めています。以前の目安である「3日分の家庭内備蓄を行っている」については、4分の1とあまり多くありません。現在の目安とされている7日分以上の備えをしている町民は、僅か4.0%にとどまっています。

【全体】（図6-5-1）

- これまで、阪神・淡路大震災を教訓に、各家庭で3日分の水や食料などを備蓄することが目安とされてきましたが、東日本大震災を踏まえ、1週間分の備蓄が新たな目安として国から示されています。
- そこで、災害に備えて食料や水など家庭内備蓄をどの程度行っているか尋ねたところ、「家庭内備蓄は何も行っていない」が19.3%と、約2割の町民が何の備えもしていない結果となっています。
- 備えをしている町民であっても、以前の目安とされてきた日数分を確保していない「1～2日分程度の家庭内備蓄を行っている」が44.0%を占めています。また、「3日分の家庭内備蓄を行っている」については、24.7%とあまり多くありません。さらに、現在の目安とされている7日分以上の備えをしている町民となると、僅か4.0%（7日分：2.4%、8日分以上：1.6%）にとどまっています。

【前回比較】（図6-5-1）

- 平成27年調査と比較して、「家庭内備蓄は何も行っていない」が6.1ポイント減少しています。
- 一方、「3日分の家庭内備蓄を行っている」が6.2ポイント増加しており、災害に備えた備蓄は以前に比べて若干浸透しています。

【年齢別】（図6-5-2）

- 年齢が低いほど「家庭内備蓄は何も行っていない」の割合が順次多くなる傾向がみられ、最も少ない20歳代では26.4%も占めています。

図6-5-1 前回比較「災害に備えた家庭内備蓄」

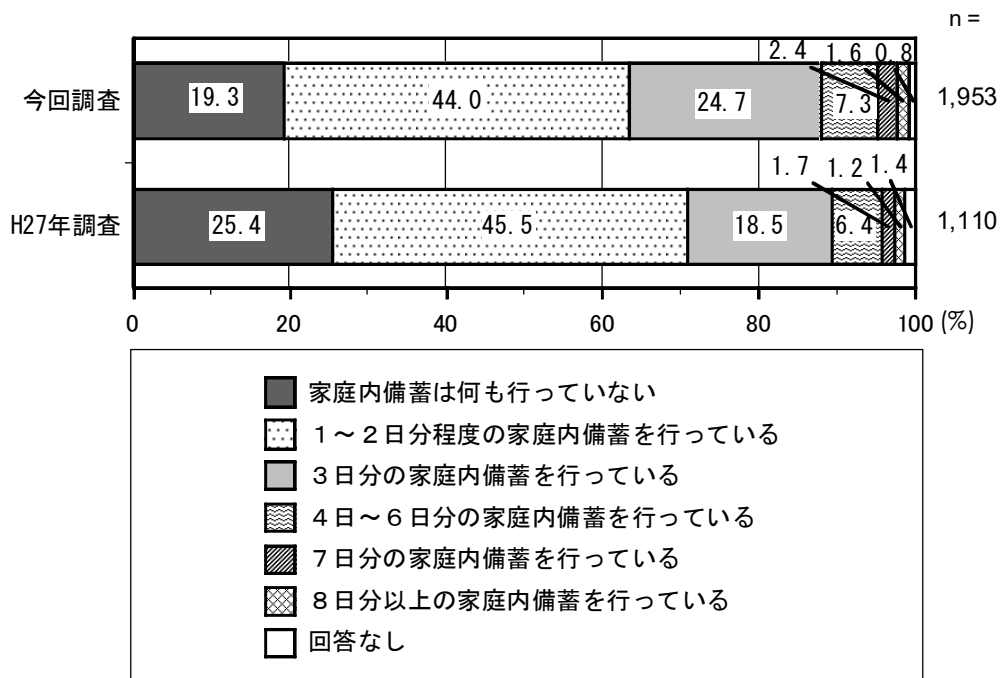
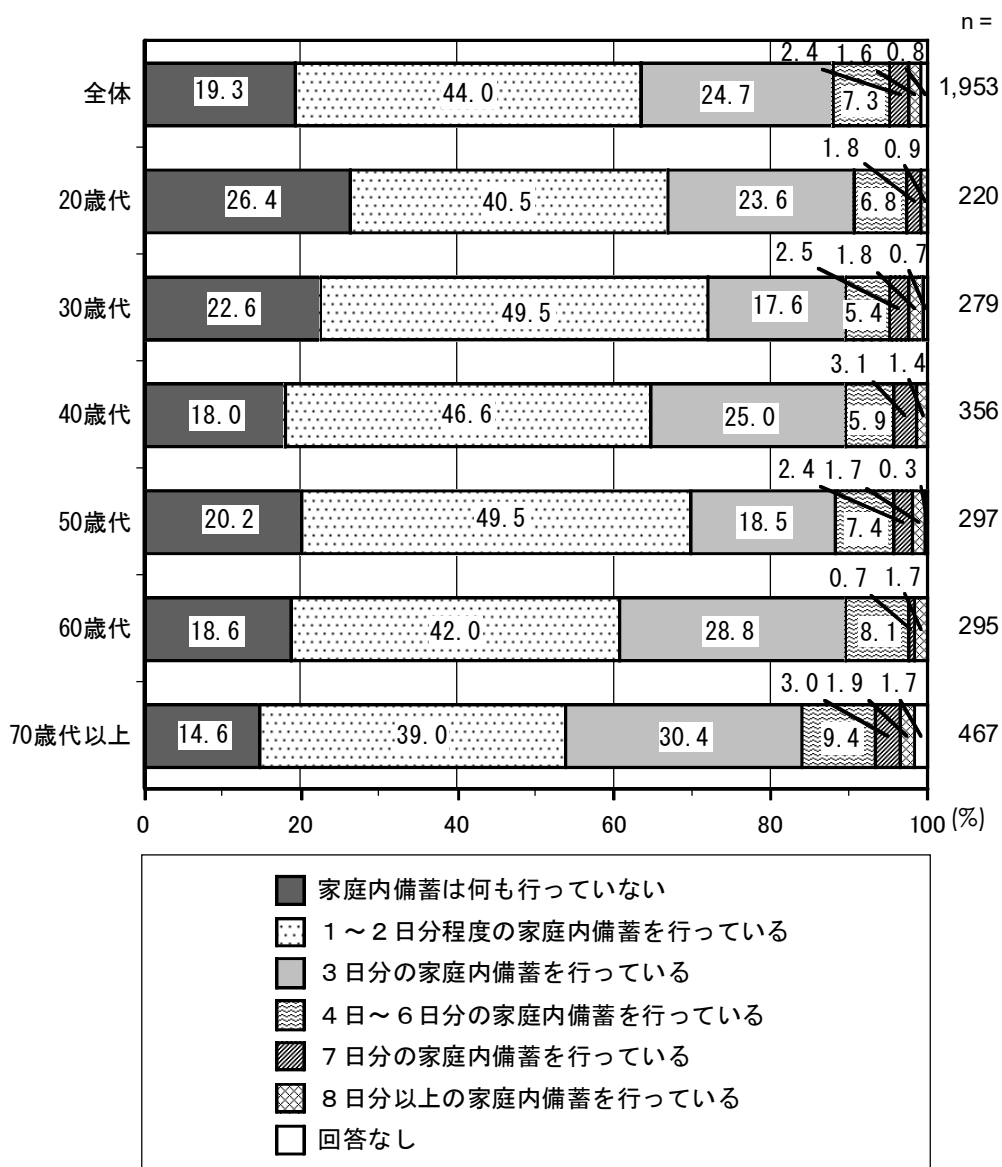


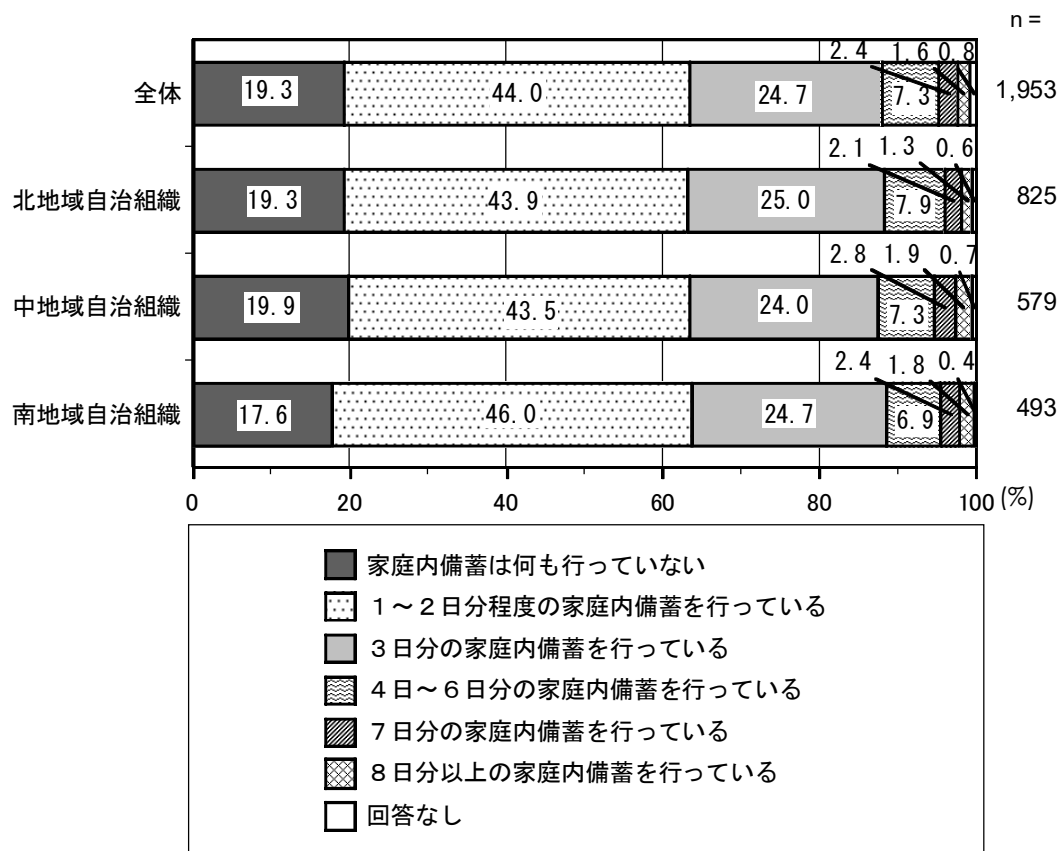
図6-5-2 年齢別「災害に備えた家庭内備蓄」



【居住地域別】 (図 6-5-3)

○居住地域別による有意な差は認められません。

図 6-5-3 居住地域別「災害に備えた家庭内備蓄」



6-6 災害時の避難方法等についての確認 (問 17)

問 17 あなたは、ここ1～2年ぐらいの間に、家族や身近な人と災害発生時の避難場所や避難方法等について話し合いや確認を行ったことがありますか。【回答数：○印を1つだけ】

家族や身近な人と災害発生時の避難場所や避難方法等について話し合いや確認を行ったことが「ある」という市民は42.9%を占めています。40歳代では、「ある」が53.7%と過半数を占めていますが、20歳代と60歳代以降では、「ある」の割合が少なくなっています。

【全体】 (図 6-6-1)

○家族や身近な人と災害発生時の避難場所や避難方法等について話し合いや確認を行ったことが「ある」という市民は42.9%で、「ない」(55.1%)よりも12.2ポイント下回っています。

【前回比較】 (図 6-6-1)

○平成27年調査との比較では、ほとんど差は認められません。

【年齢別】 (図 6-6-2)

○40歳代では、「ある」が53.7%と過半数を占めています。

○一方、20歳代(36.8%)、60歳代(39.3%)、70歳代以上(37.0%)で、「ある」の割合が少なくなっています。

図 6-6-1 前回比較「災害時の避難方法等についての確認」

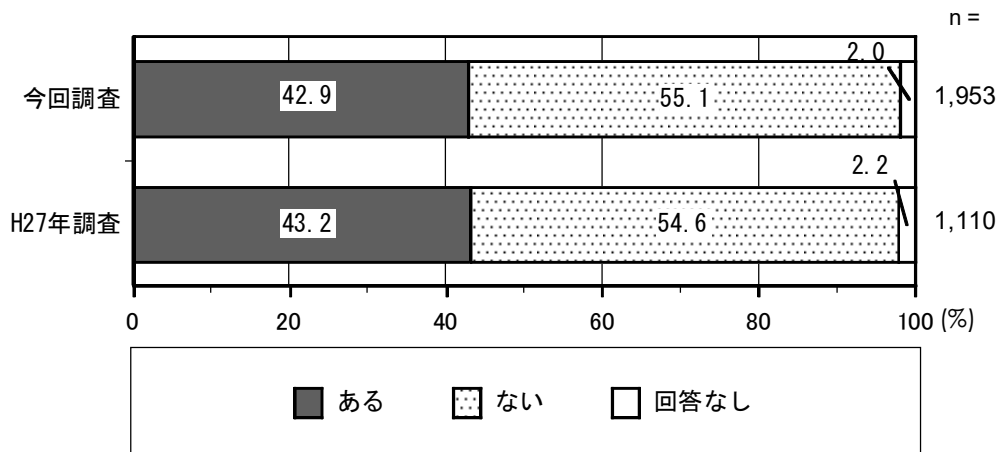
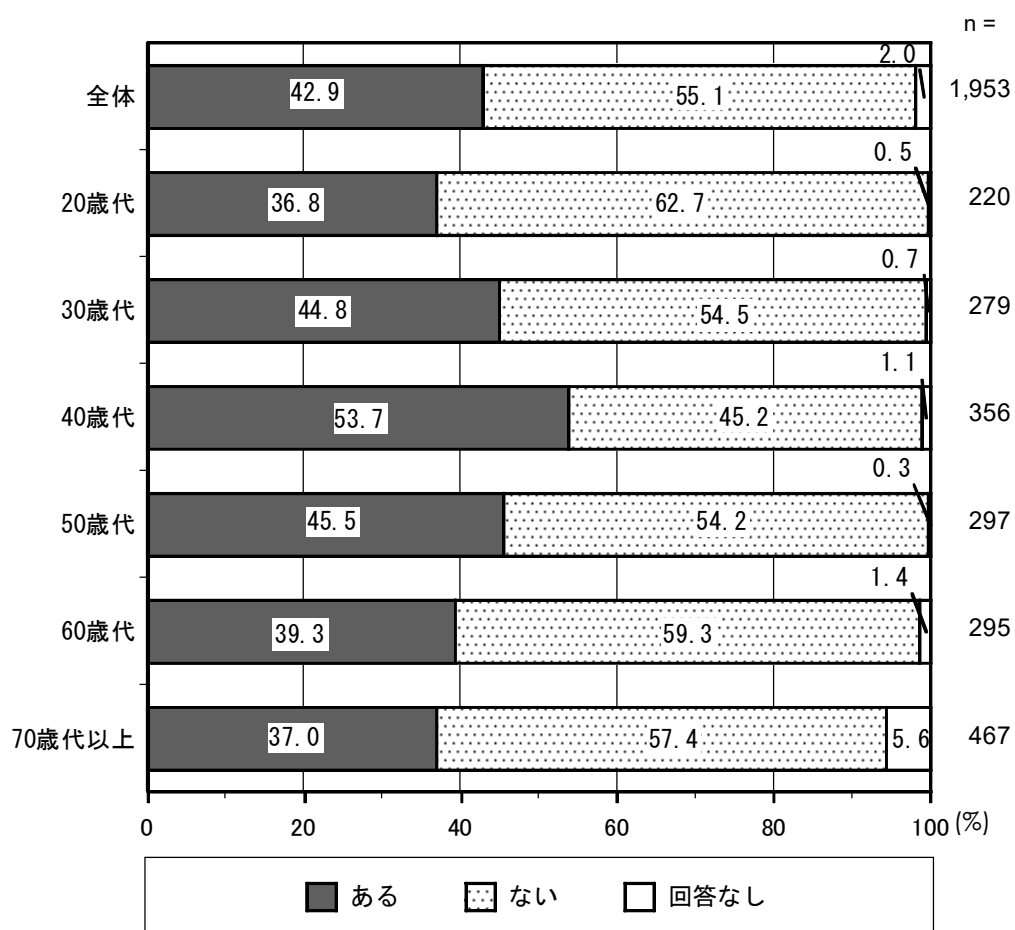


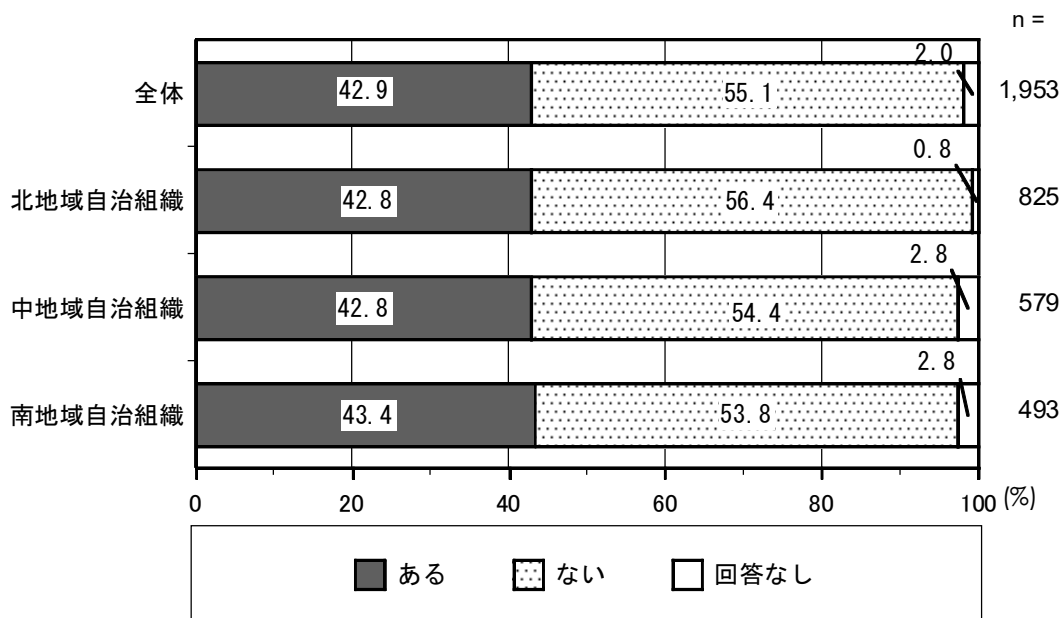
図 6-6-2 年齢別「災害時の避難方法等についての確認」



【居住地域別】 (図 6-6-3)

○居住地域別による有意な差は認められません。

図 6-6-3 居住地域別「災害時の避難方法等についての確認」



6-7 地震による家具等の転倒防止策（問 18）

問 18 あなたのお住まいでは、家具・家電などを固定し、地震による家具・家電などの転倒・落下・移動による被害の防止対策を行っていますか。【回答数：○印を1つだけ】

地震に備えて「家具・家電などの固定は行っていない」という町民が41.1%であるのに対して、“何らか固定している”という町民は合わせて57.3%と、「家具・家電などの固定は行っていない」という町民を16.2ポイント上回っています。“何らか固定している”といっても、その大半は、一部の固定にとどまっています。

【全体】（図 6-7-1）

- 地震に備えて「家具・家電などの固定は行っていない」という町民が41.1%も占めています。
- これに対して、「ほぼ全ての家具・家電などの固定ができている」という町民は3.9%、「重量のある家具・家電などの固定はできている」は13.2%、「重量のある家具・家電などの半分程度の固定はできている」は13.4%、「重量のある家具・家電などの一部の固定はできている」は26.8%で、家具・家電などを“何らか固定している”という町民は合わせて57.3%を占めています。
- しかしながら、その大半は一部の固定にとどまっています。

【前回比較】（図 6-7-1）

- 平成27年調査との比較では、ほとんど差はないものの、家具等の転倒防止は若干進んでいます。

【年齢別】（図 6-7-2）

- 30歳代の60.2%（5.7%+16.5%+11.8%+26.2%）を筆頭に概ねすべての年齢層で“何らか固定している”という町民が過半数を占めています。

図 6-7-1 前回比較「地震による家具等の転倒防止策」

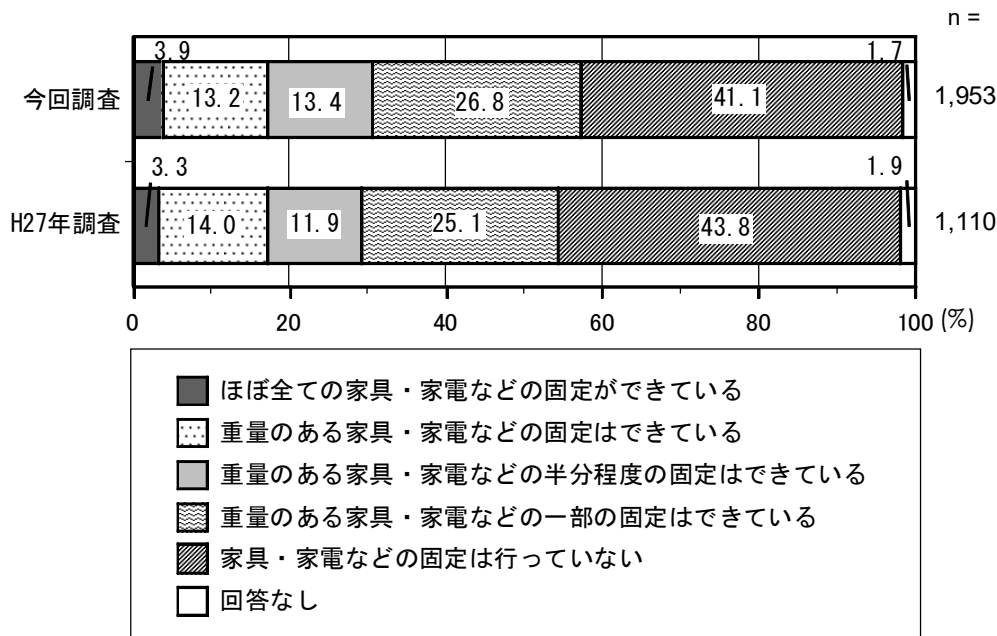
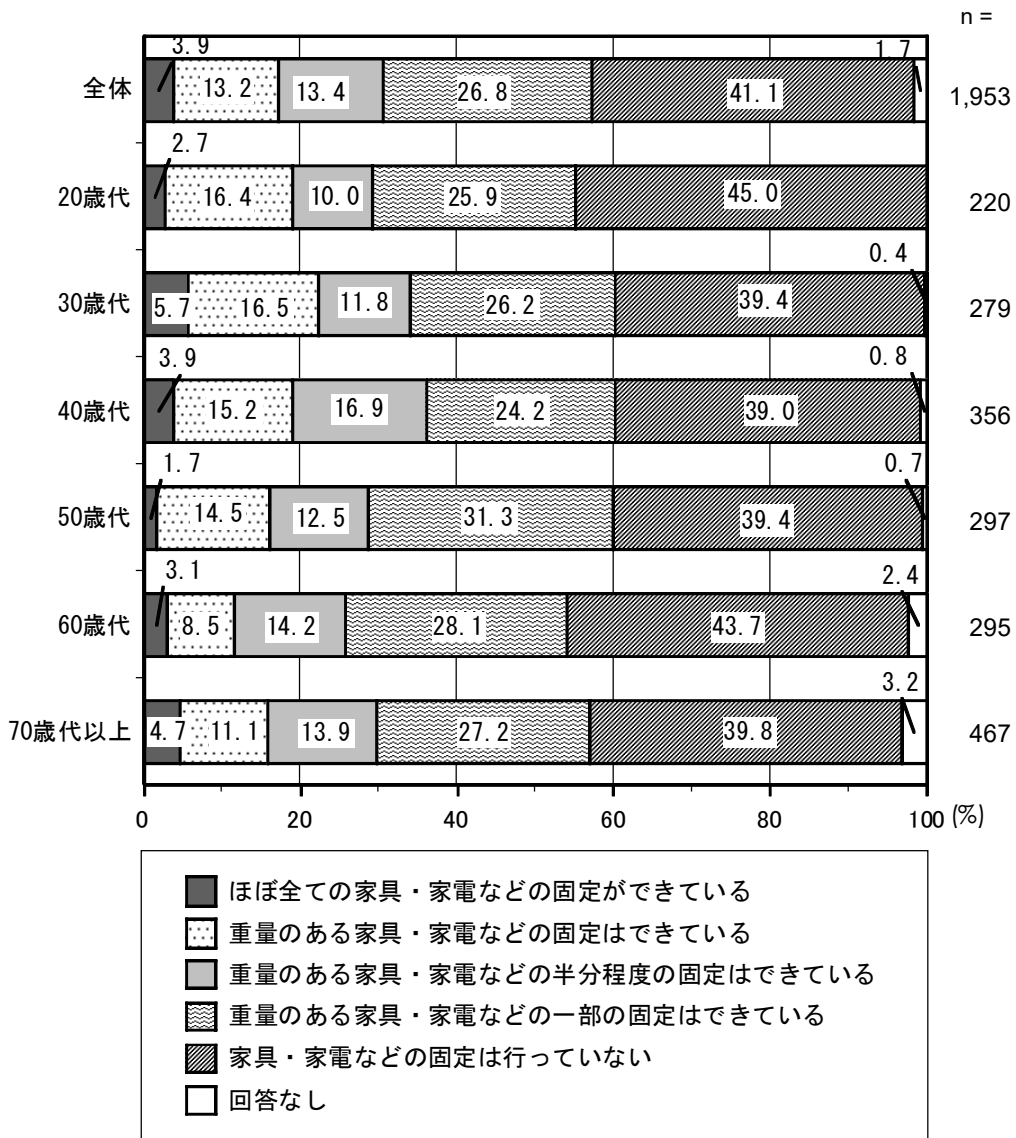


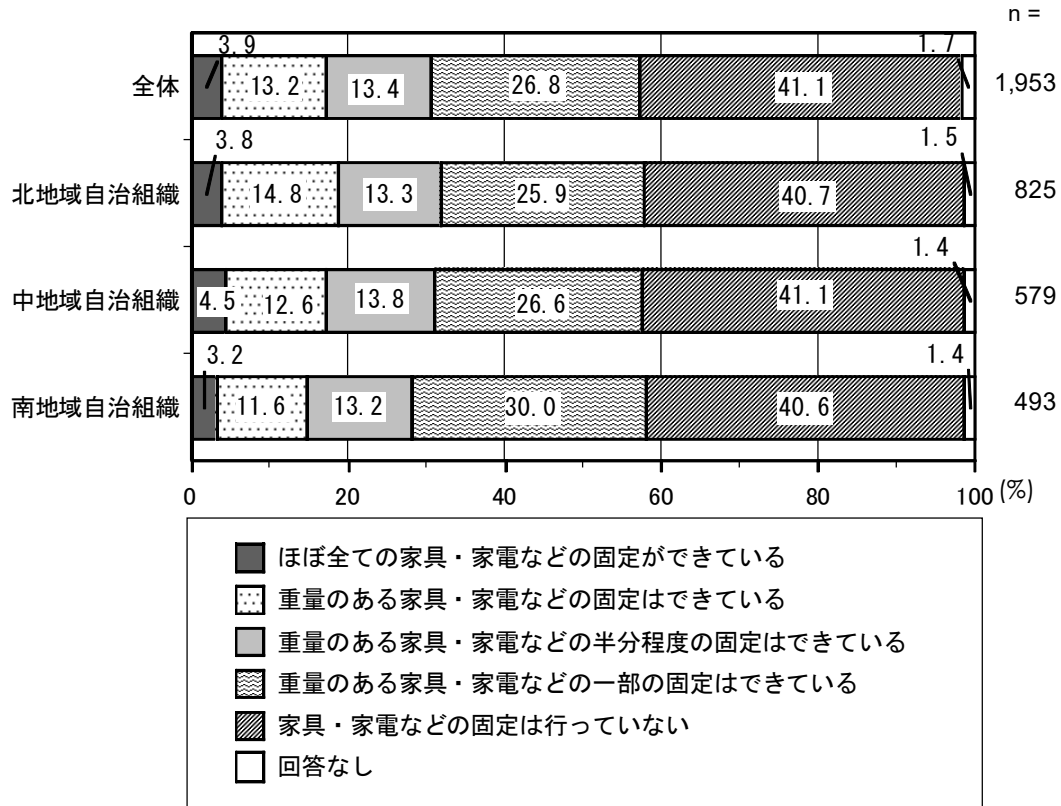
図6-7-2 年齢別「地震による家具等の転倒防止策」



【居住地域別】 (図 6-7-3)

○居住地域別による有意な差は認められません。

図 6-7-3 居住地域別「地震による家具等の転倒防止策」



6-8 住宅用火災報知器の設置 (問 19)

問 19 あなたのお住まいでは、住宅用火災報知機の設置を行っていますか。【回答数：○印を1つだけ】

住宅用火災報知機を「法律で定められた必要な場所すべてに設置している」は、49.0%を占めているものの、その割合は60歳代(38.0%)、70歳代以上(37.9%)で少なくなっています。

【全体】 (図 6-8-1)

- 法律で設置が義務付けられている住宅用火災報知機を「法律で定められた必要な場所すべてに設置している」という町民は49.0%を占めています。
- 「設置していない」という町民は19.3%と決して少なくありません。

【前回比較】 (図 6-8-1)

- 平成27年調査との比較では、ほとんど差は認められません。

【年齢別】 (図 6-8-2)

- 「法律で定められた必要な場所すべてに設置している」は、40歳代(65.4%)や30歳代(65.2%)で多く、60歳代(38.0%)70歳代以上(37.9%)で少なくなっています。
- 一方、「設置していない」は、60歳代では、27.1%、50歳代では、25.3%と全体値に比べて若干多くなっています。また、70歳代では、「一部の部屋で設置している」が42.4%と多くなっています。

図 6-8-1 前回比較「住宅用火災報知器の設置」

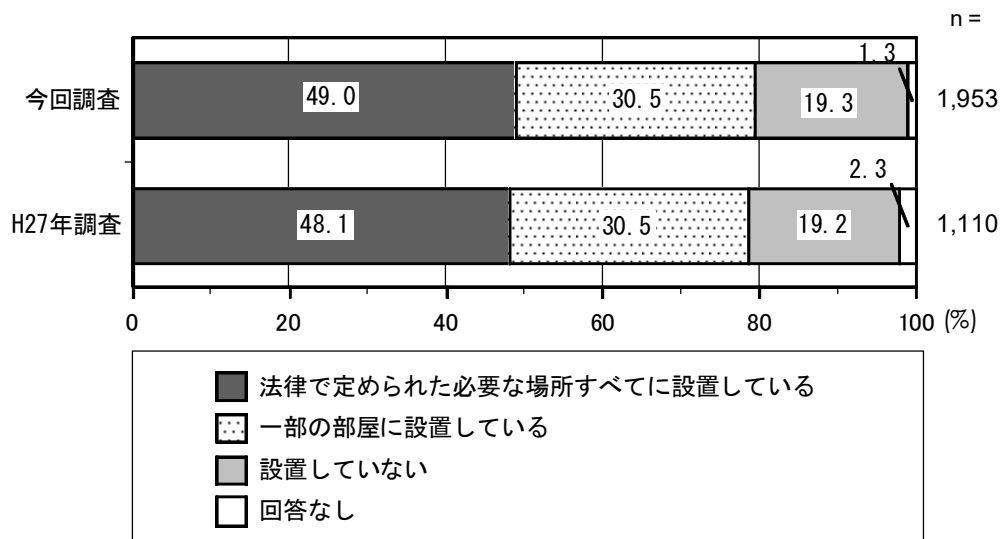
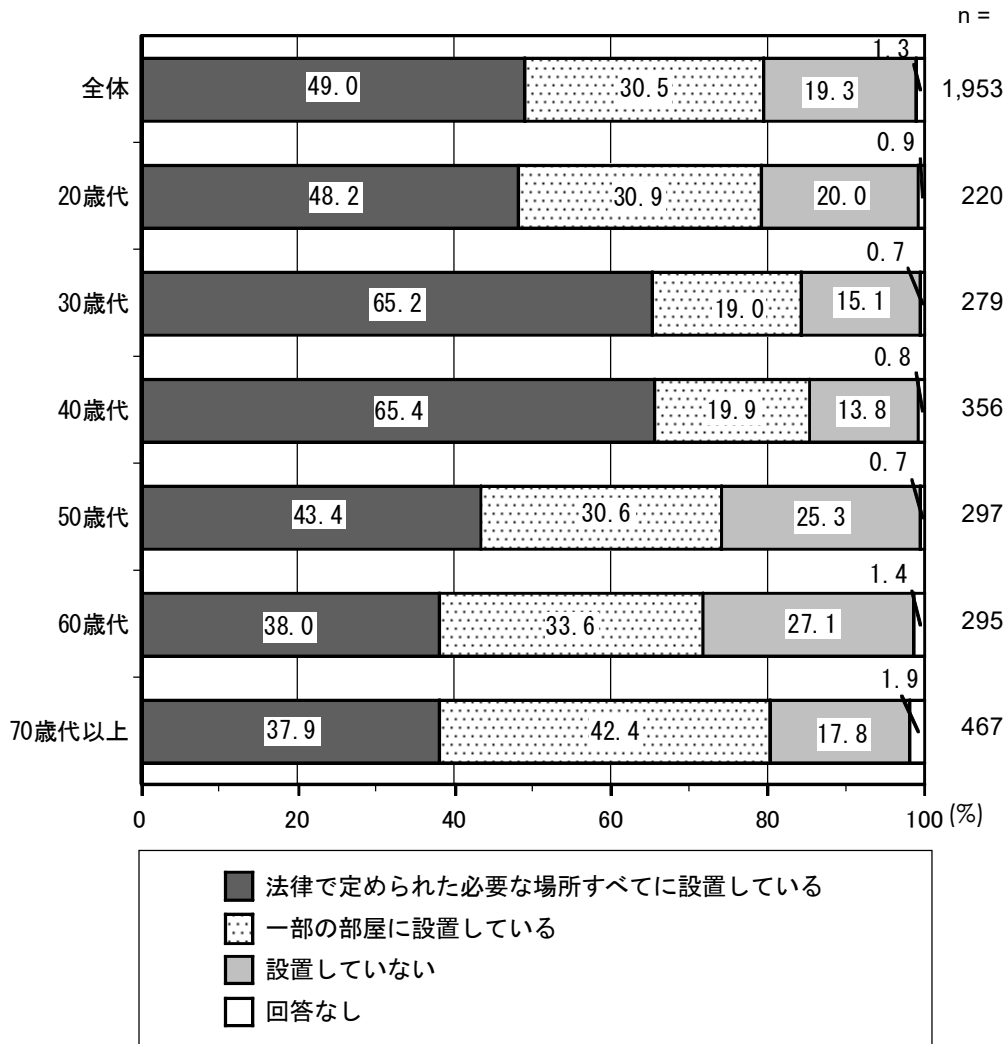


図 6-8-2 年齢別「住宅用火災報知器の設置」

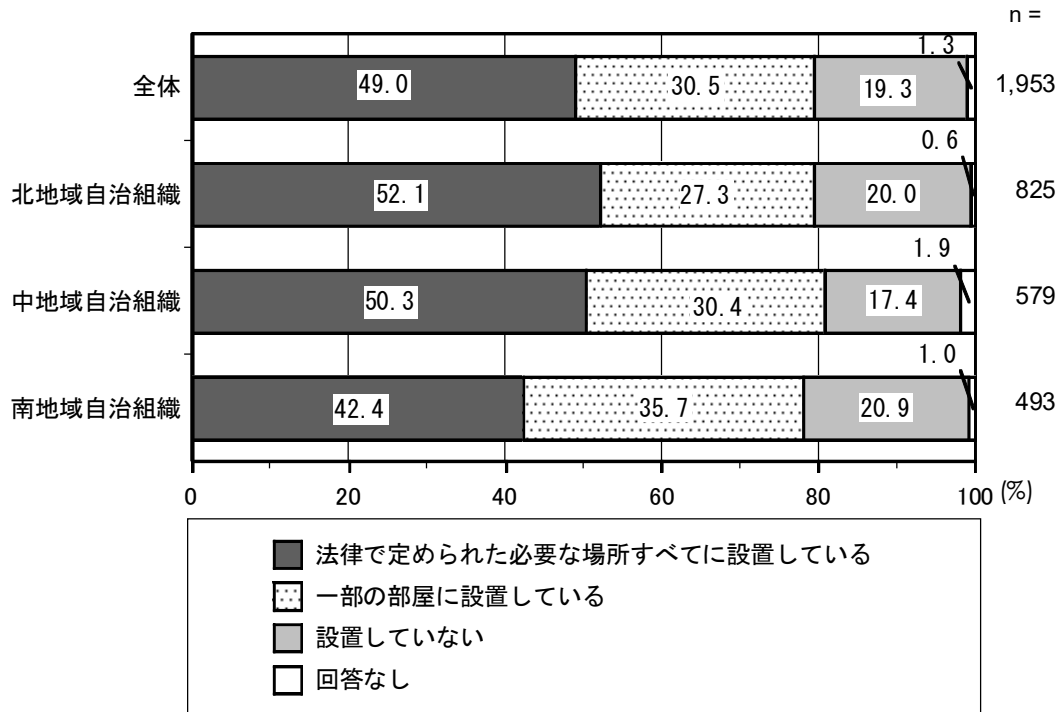


【居住地域別】 (図6-8-3)

○北地域自治組織では、「法律で定められた必要な場所すべてに設置している」が52.1%を占め、全体値に比べて若干多くなっており、その分、「一部の部屋で設置している」が27.3%と若干少なくなっています。

○南地域自治組織では、「一部の部屋で設置している」が35.7%を占め、若干多くなっています。その分、「法律で定められた必要な場所すべてに設置している」が42.4%と少なくなっています。

図6-8-3 居住地域別「住宅用火災報知器の設置」



6-9 救命救急講習受講の有無（問20）

問20 あなたは、これまで救命救急講習を受けたことがありますか。【回答数：○印を1つだけ】

これまで救命救急講習を受けたことが「ある」という町民は61.1%を占めています。70歳代以上（43.7%）では少なく、「ない」という割合を下回っています。

【全体】（図6-9-1）

○これまで救命救急講習を受けたことが「ある」という町民は61.1%を占めています。

【前回比較】（図6-9-1）

○平成27年調査との比較では、救命救急講習を受けたことが「ある」は、8.0ポイント増加しています。

【年齢別】（図6-9-2）

○これまで救命救急講習を受けたことが「ある」という割合は、特に20歳代（78.2%）や30歳代（73.5%）で多く、逆に、70歳代以上（43.7%）や60歳代（58.3%）では少なく、特に70歳代以上では「ない」という割合を下回っています。

図6-9-1 前回比較「救命救急講習受講の有無」

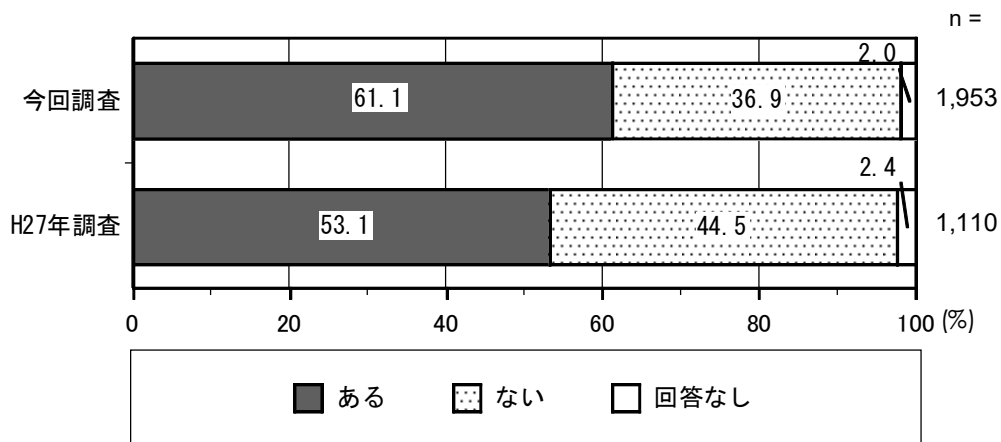
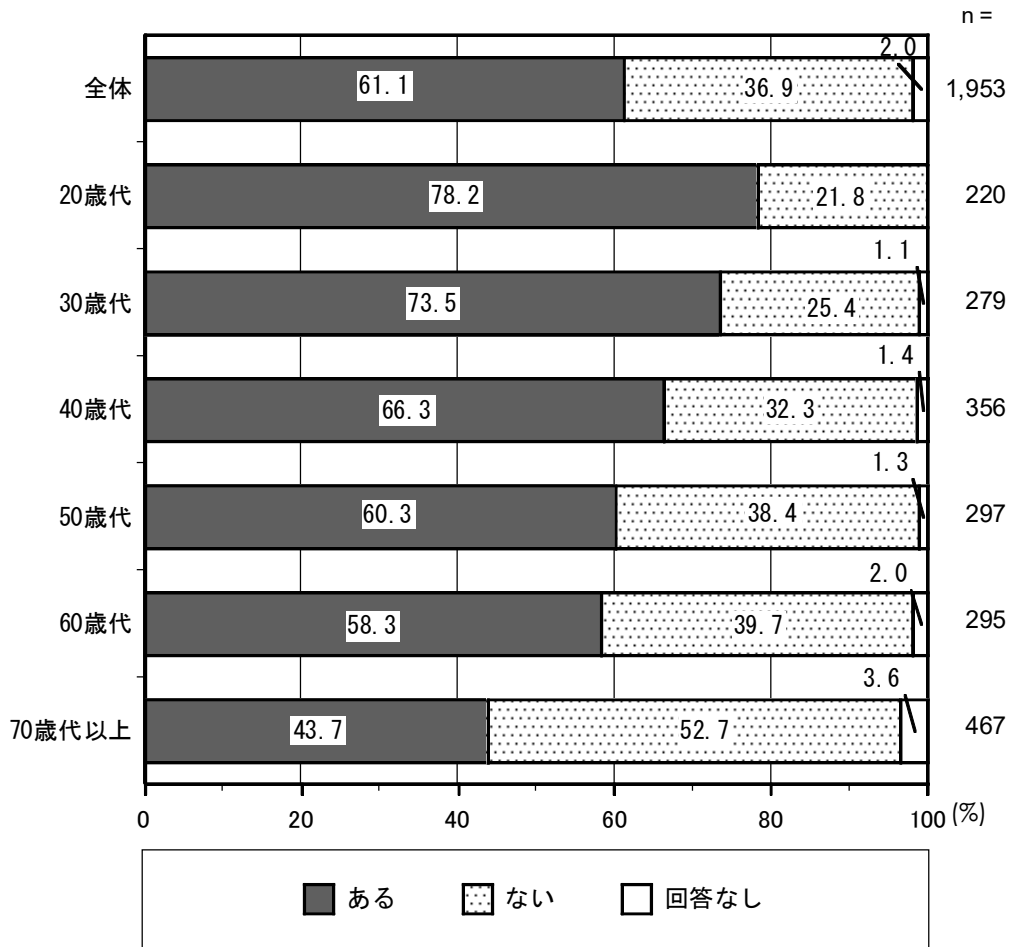


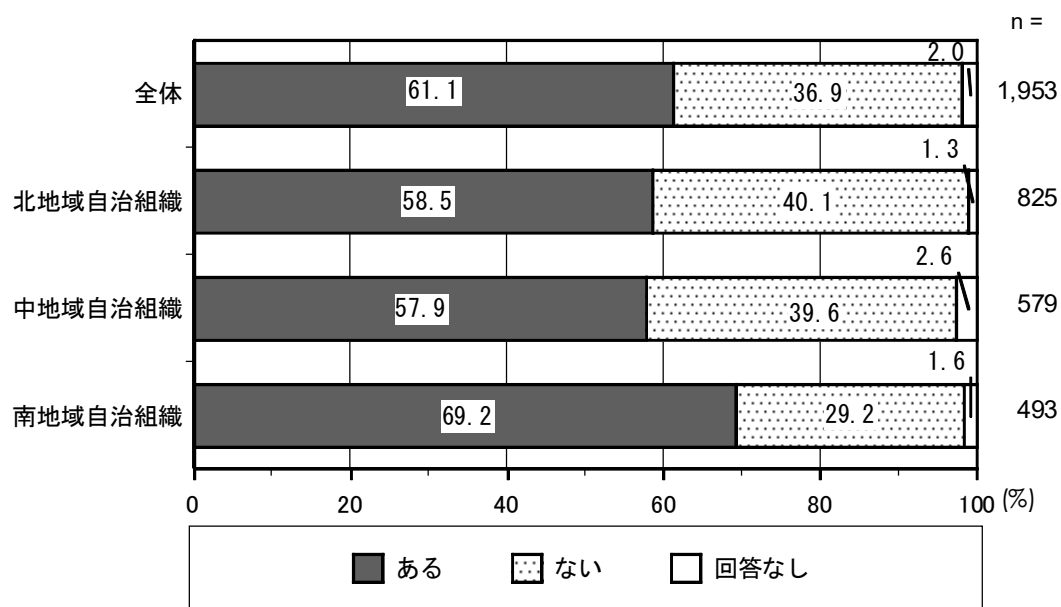
図 6-9-2 年齢別「救命救急講習受講の有無」



【居住地域別】 (図 6-9-3)

○南地域自治組織では、救命救急講習を受けたことが「ある」という割合が69.2%と他地域自治組織よりも多くなっています。

図 6-9-3 居住地域別「救命救急講習受講の有無」



7. 健康や食生活について

7-1 健康への不安（問21）

問21 あなたは、健康に不安を感じていますか。【回答数：○印を1つだけ】

「ある」が12.3%、「まあある」が39.1%と、合わせて51.4%の人が健康への不安を感じています。また、年齢が上がるにつれて、その割合は増え、70歳代では63.9%となっています。

【全体】（図7-1-1）

○健康への不安は「まあある」が39.1%と最も多くなっています。「ある」は12.3%であり、51.4%の人が健康に何らかの不安を感じています。

○また、「どちらともいえない」は20.8%であり、「あまりない」は20.6%、「ない」は6.1%となっています。

【前回比較】（図7-1-1）

○平成27年調査と比較して、「ある」、「まあある」と回答した健康に何らかの不安を感じている人は、4.6ポイント減少しており、「ない」、「あまりない」と回答した健康に不安を感じていない人は、5.1ポイント増加しています。

【性別】（図7-1-2）

○健康に不安を抱えている人は僅かながら男性が女性を上回っています。

図7-1-1 前回比較「健康への不安」

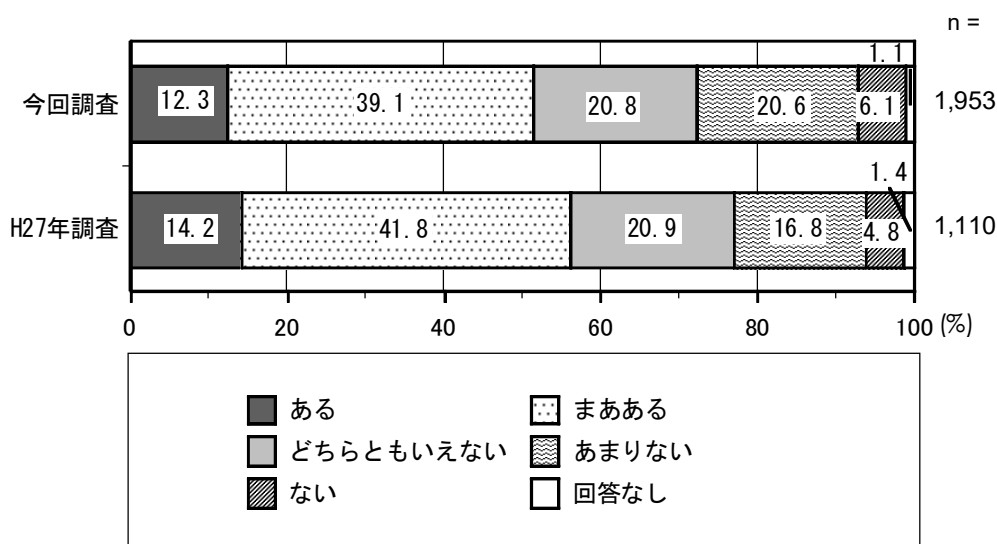
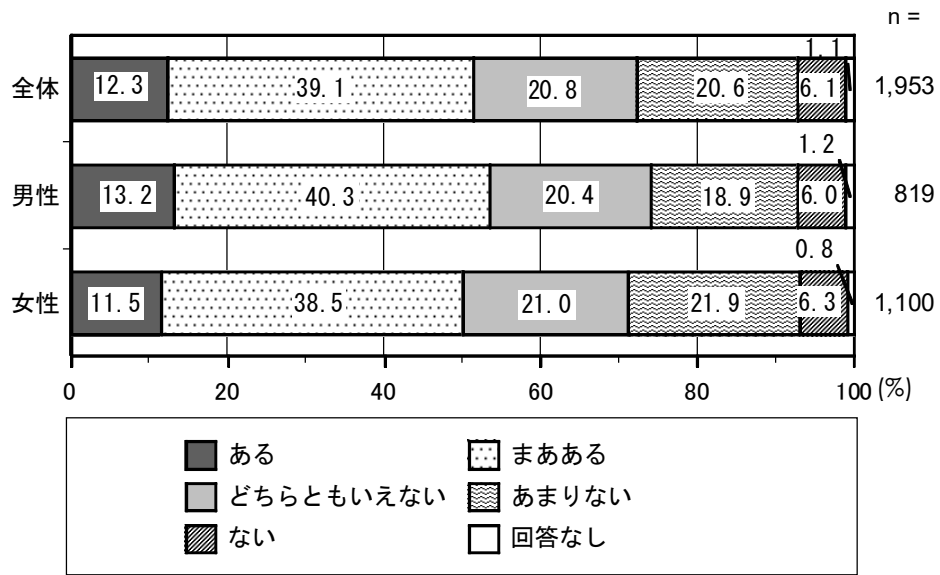


図 7-1-2 性別「健康への不安」

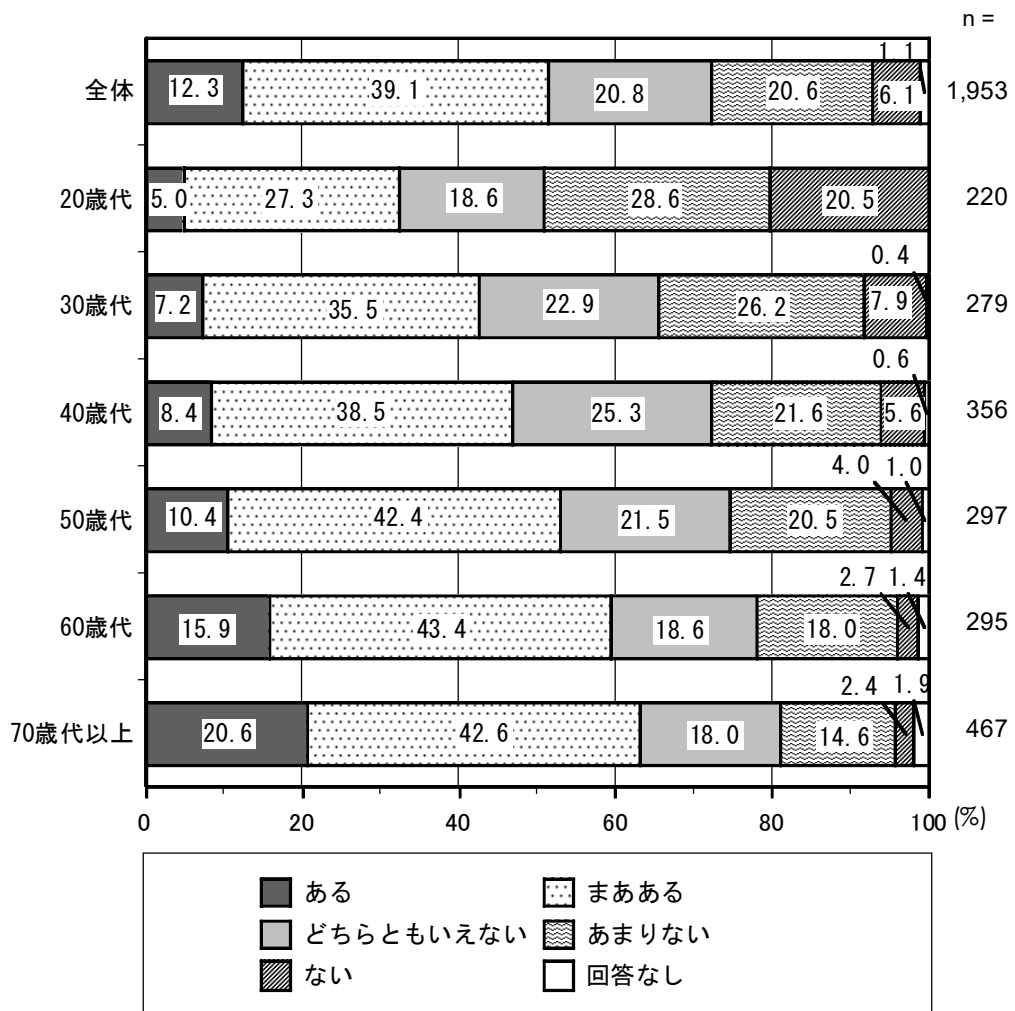


【年齢別】 (図 7-1-3)

○20 歳代では「あまりない」が 28.6%、「ない」が 20.6%、合わせると 49.1%と半数近くが程度に差はあれ、不安を感じていません。この割合は 30 歳代では 34.1%、40 歳代では 27.2%、50 歳代では 24.5%、60 歳代では 20.7%、70 歳代以上では 17.0%と年齢が上がるにつれて少なくなっています。

○健康への不安感を持つ人は加齢とともに順次増加し、70 歳以上では「ある」の 20.6%と「まあある」の 42.6%を合わせると、63.2%が健康への不安を感じています。

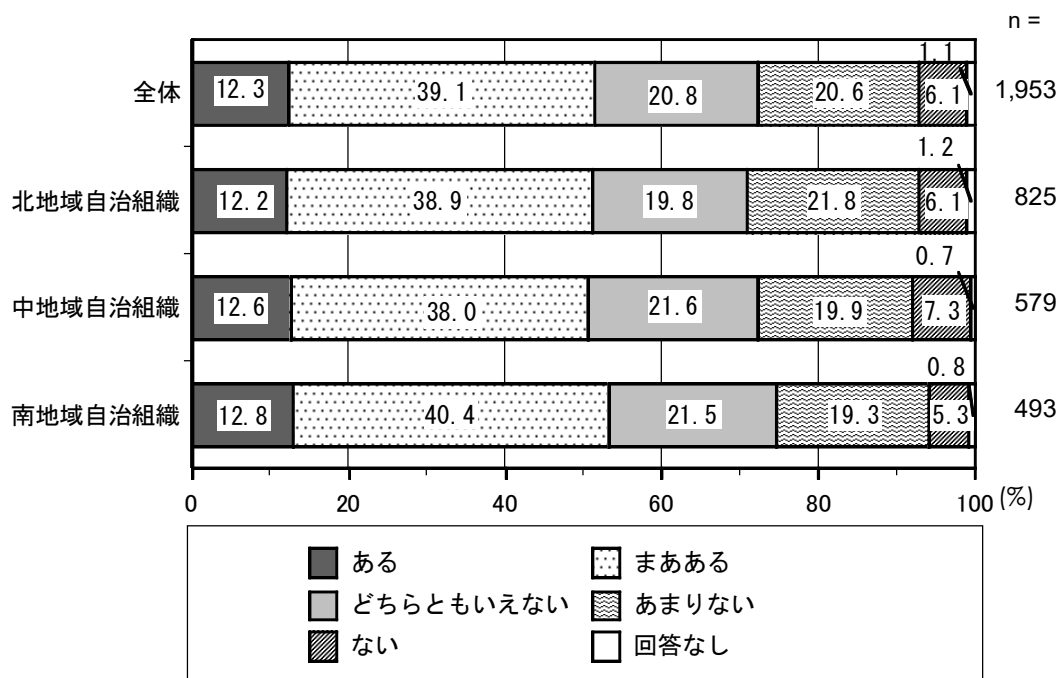
図 7-1-3 年齢別「健康への不安」



【居住地域別】 (図 7-1-4)

○健康への不安に関して、居住地域別では、ほとんど差は認められません。

図 7-1-4 居住地域別「健康への不安」



7-2 健康に気がつかった暮らし (問 22)

問 22 あなたは、日頃、検査を受けたり運動をしたりと健康に気がつかった暮らしができていると思いますか。【回答数：○印を1つだけ】

回答者の6割が”健康に気がつかった暮らしができている”と考えています。年代が高いほど、健康への関心は高く、70歳代以上では73.0%と、30歳代の45.8%に比べて多くの方が健康に気がついています。

【全体】 (図 7-2-1)

- 「まあそう思う」が45.5%と最も多くなっています。ここに「そう思う」の14.8%を合わせると、60.3%の人が“健康に気がつかった暮らしができている”と考えています。
- 一方、「あまりそう思わない」は11.6%、「そう思わない」は2.7%と、“健康に気がつかった暮らしができている”と考える人は14.3%でした。

【前回比較】 (図 7-2-1)

- 平成27年調査との比較では、ほとんど差は認められません。

【性別】 (図 7-2-2)

- 「そう思う」の割合は男性の方が僅かながら多いですが、有意な差があるとまでは言えません。

図 7-2-1 前回比較「健康に気がつかった暮らし」

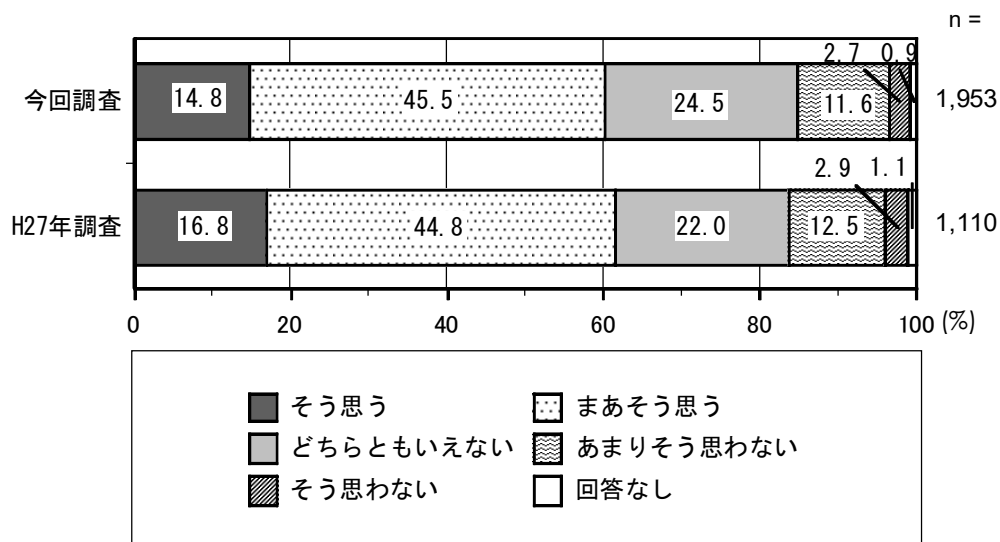
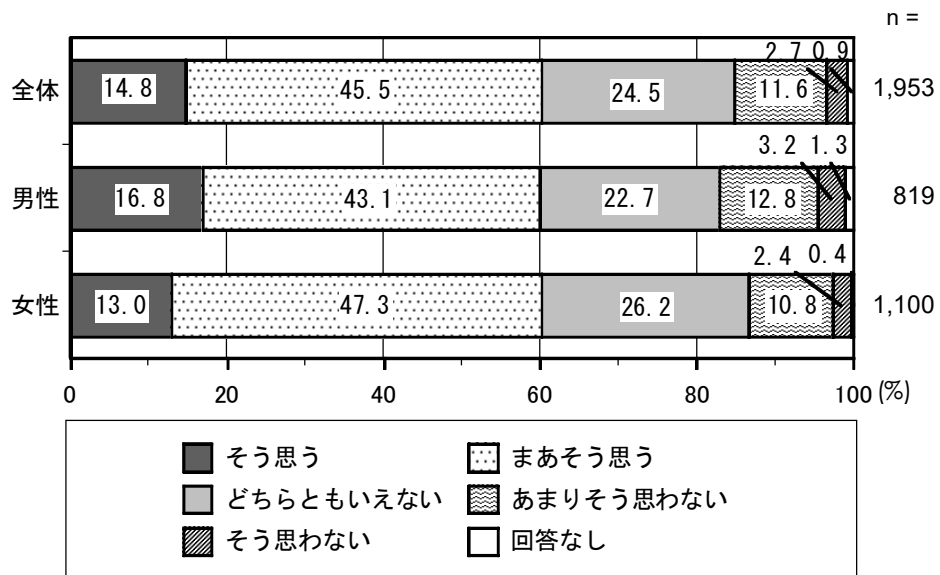


図7-2-2 性別「健康に気がつかった暮らし」

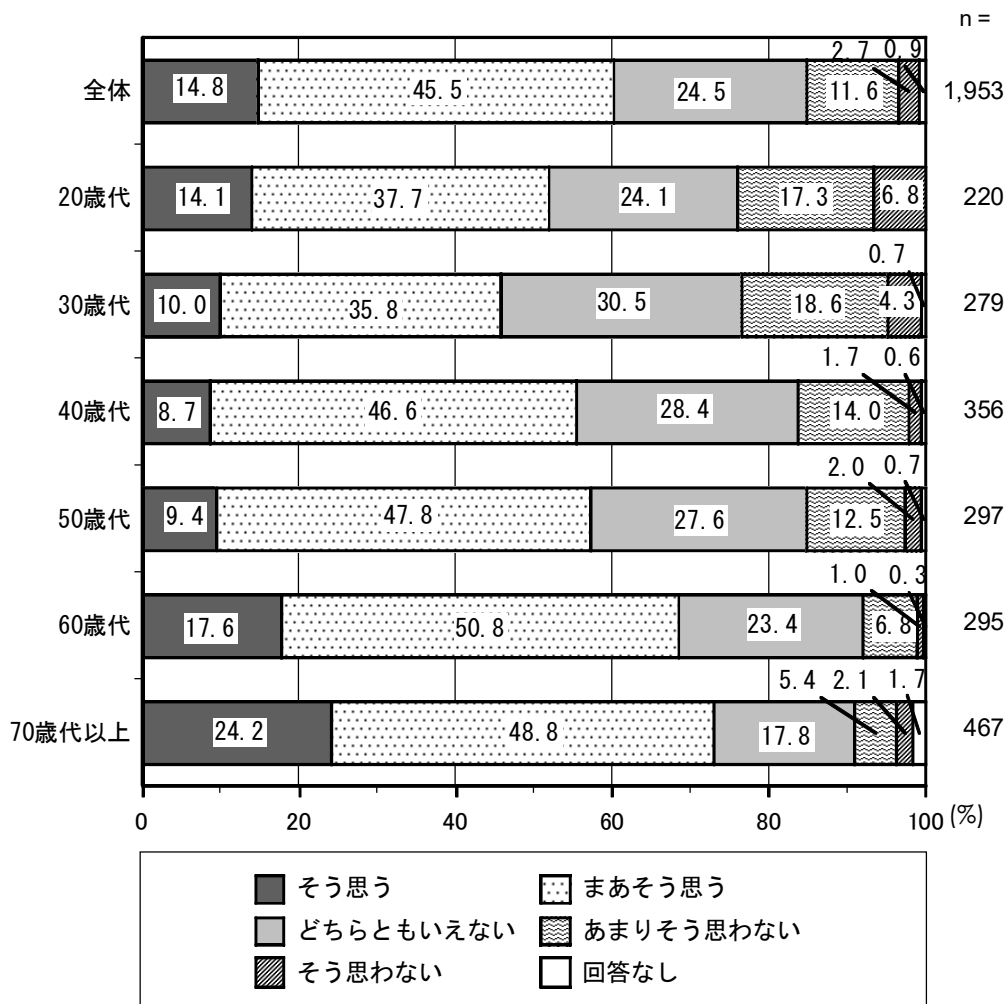


【年齢別】 (図 7-2-3)

○年代別では大きな差がみられ、70歳代以上は「そう思う」が24.2%、「まあそう思う」が48.8%と、合わせると約7割の人が“健康に気がつかった暮らしができています”としています。

○この傾向は年代が若くなるにつれて低下し、60歳代で68.4%、50歳代で57.2%、40歳代で55.3%、30歳代においては、45.8%となり、「あまりそう思わない」が18.6%、「そう思わない」が4.3%と、合わせると22.9%と“健康に気がつかった暮らしができていない”と考える人が20歳代(24.1%)とともに他の世代に比べて多くなっています。

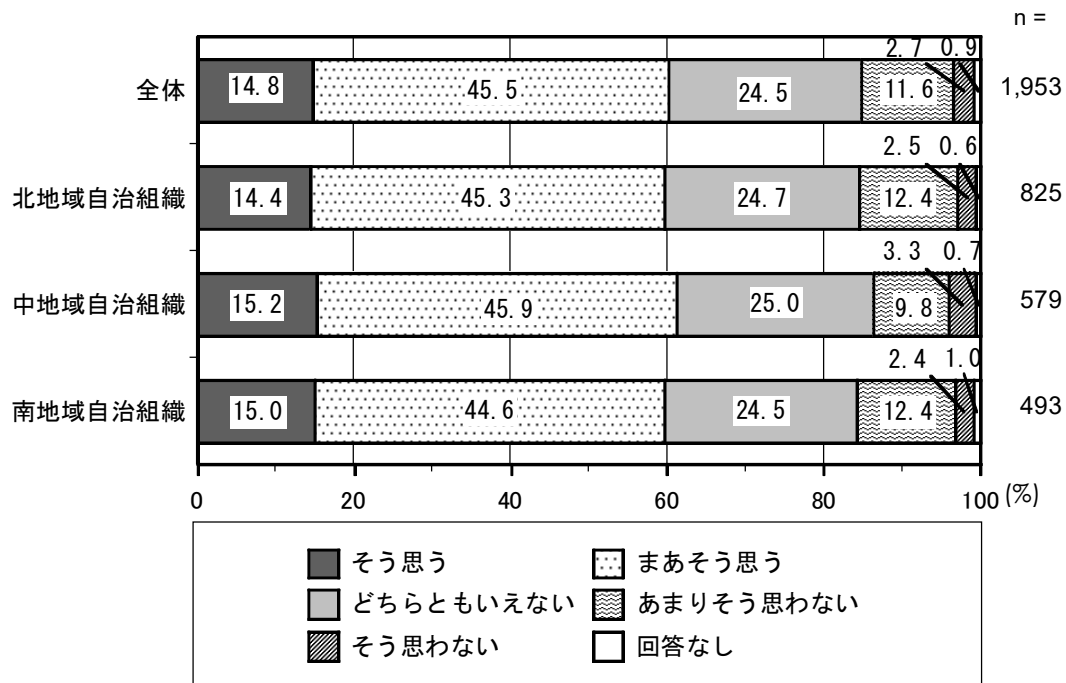
図 7-2-3 年齢別「健康に気がつかった暮らし」



【居住地域別】 (図 7-2-4)

○健康に気をつかった暮らしに関して、居住地域別では、ほとんど差は認められません。

図 7-2-4 居住地域別「健康に気をつかった暮らし」



7-3 かかりつけ医の有無（問 23）

問 23 あなたには「かかりつけ医」がいますか。【回答数：○印を1つだけ】

回答者の 63.7%が“かかりつけ医がいる”と答えています。若い世代では半数以下と少ないのですが、高齢になるにつれて、かかりつけ医を持つ人は増え、健康への不安感も最も高い 70 歳代以上では約 9 割となっています。

【全体】（図 7-3-1）

○かかりつけ医が「いる」は 63.7%と、「いない」の 35.4%を 28.3 ポイント上回っています。

【前回比較】（図 7-3-1）

○平成 27 年調査との比較では、ほとんど差は認められません。

【性別】（図 7-3-2）

○かかりつけ医が「いる」は、女性で、67.0%、男性で 58.6%と女性が男性を 8.4 ポイント上回っています。

図 7-3-1 前回比較「かかりつけ医の有無」

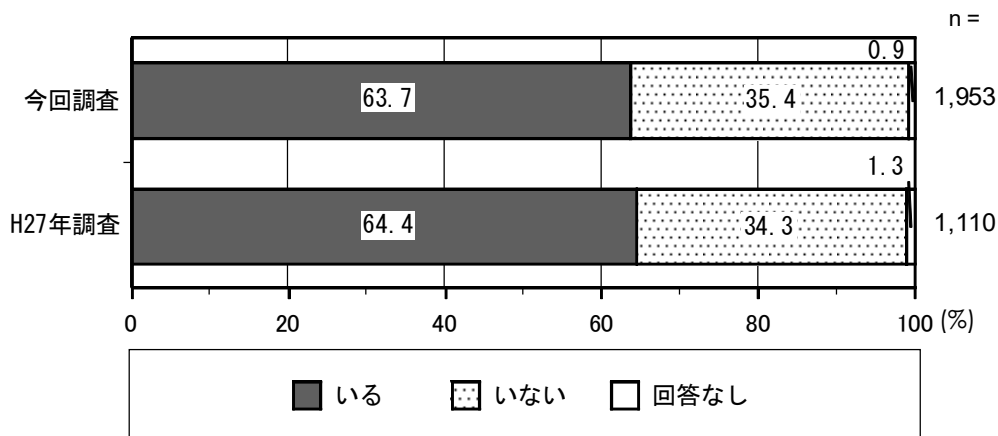
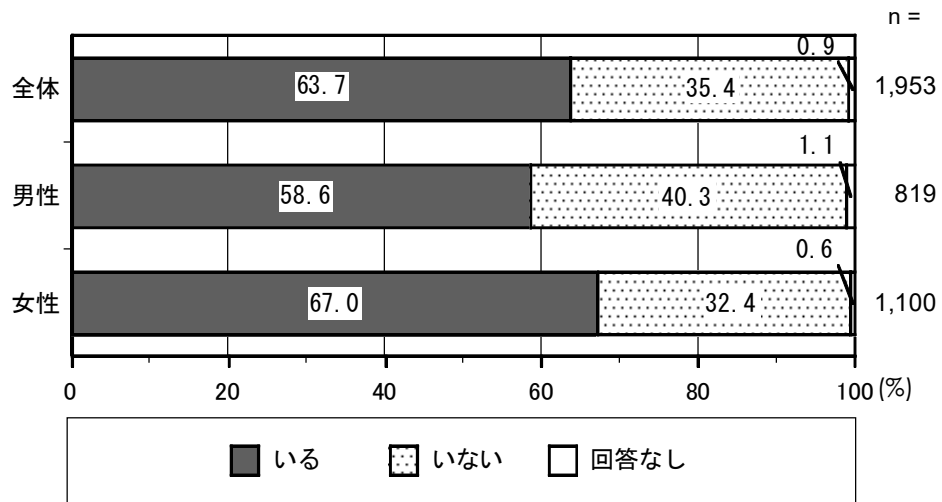


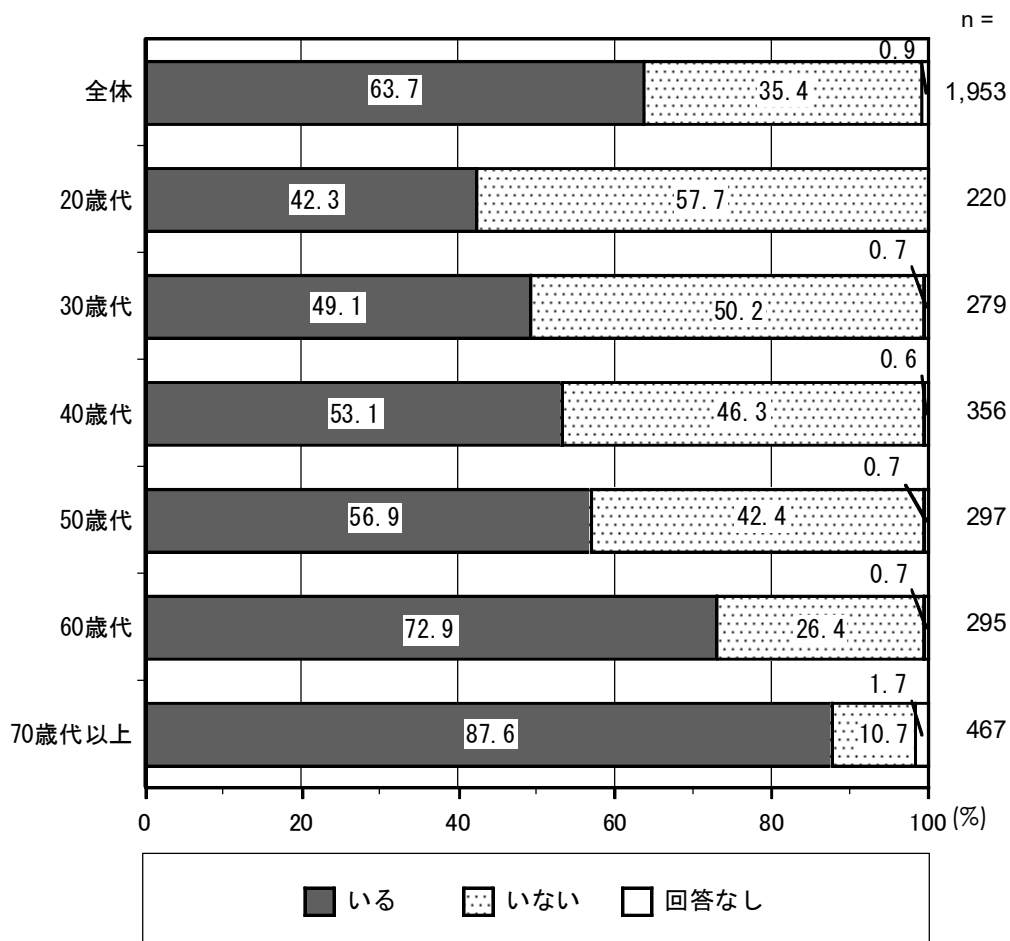
図7-3-2 性別「かかりつけ医の有無」



【年齢別】 (図 7-3-3)

○かかりつけ医が「いる」は、20歳代は42.3%、30歳代では49.1%と、若い世代では半数に満たないのに対し、年代があがるにつれて、増加し、70歳代以上では87.6%と9割近くになっています。

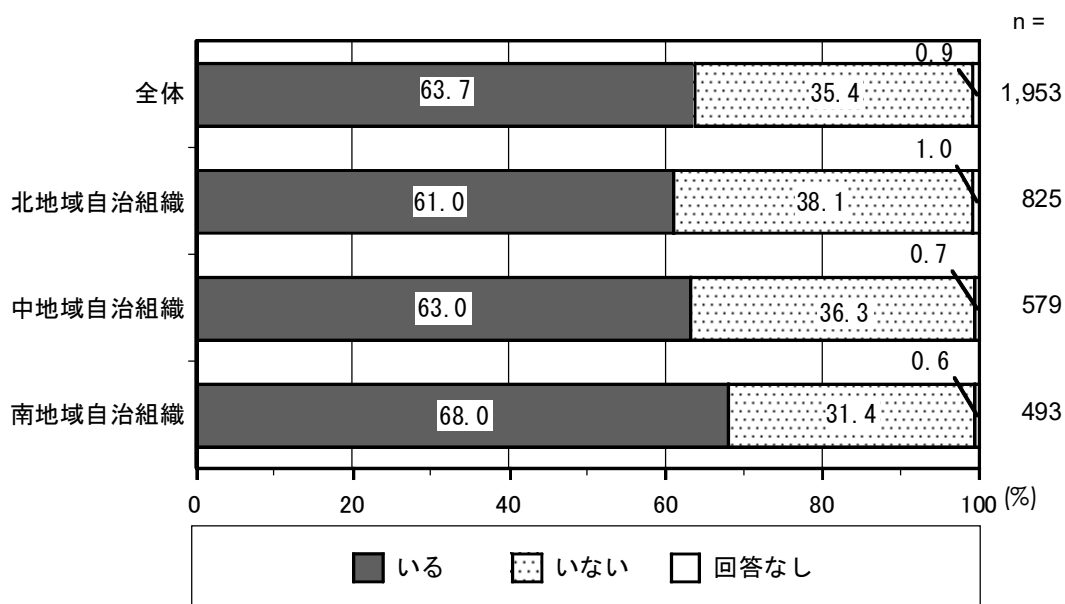
図 7-3-3 年齢別「かかりつけ医の有無」



【居住地域別】 (図 7-3-4)

○南地域自治組織では「いる」が68.0%と、他の地域自治組織に比べ、若干多くなっていますが、これは高齢者の割合が高いためであると考えられます。

図 7-3-4 居住地域別「かかりつけ医の有無」



7-4 歯科検診の受診（問24）

問24 あなたは、ここ1～2年ぐらいの間に、治療目的以外に定期的に歯科の健康診査を受けましたか。

【回答数：○印を1つだけ】

ここ1～2年の間に治療目的以外で歯科を受診した人は54.3%、受診していない人は44.8%となっています。年代別で見ると、20歳代を除くすべての年齢層で過半数が受診しています。また男性よりも女性の受診率が高くなっています。

【全体】（図7-4-1）

○ここ1～2年ぐらいの間に、治療目的以外に歯科の健康診査を「受けた」は54.3%、「受けていない」は44.8%となっています。

【前回比較】（図7-4-1）

○平成27年調査との比較では、「受けた」とする人は、7.5ポイント増加しており、「受けていない」とする人は、7.4ポイント減少しています。

【性別】（図7-4-2）

○「受けた」は、女性の方が男性よりも14.5ポイントも高くなっています。

図7-4-1 前回比較「歯科検診の受診」

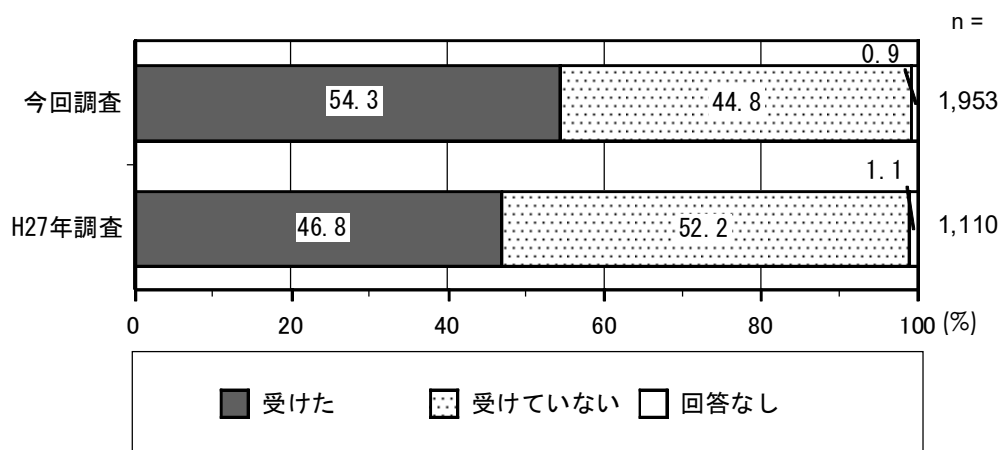
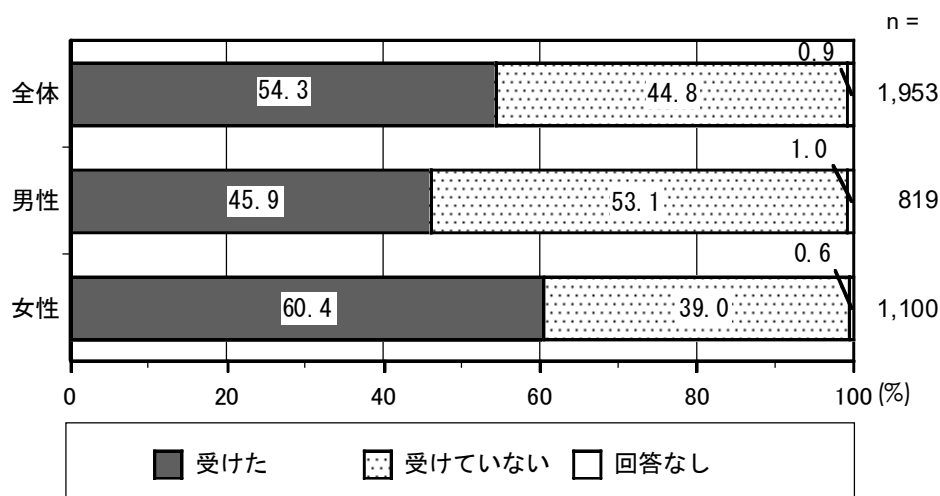


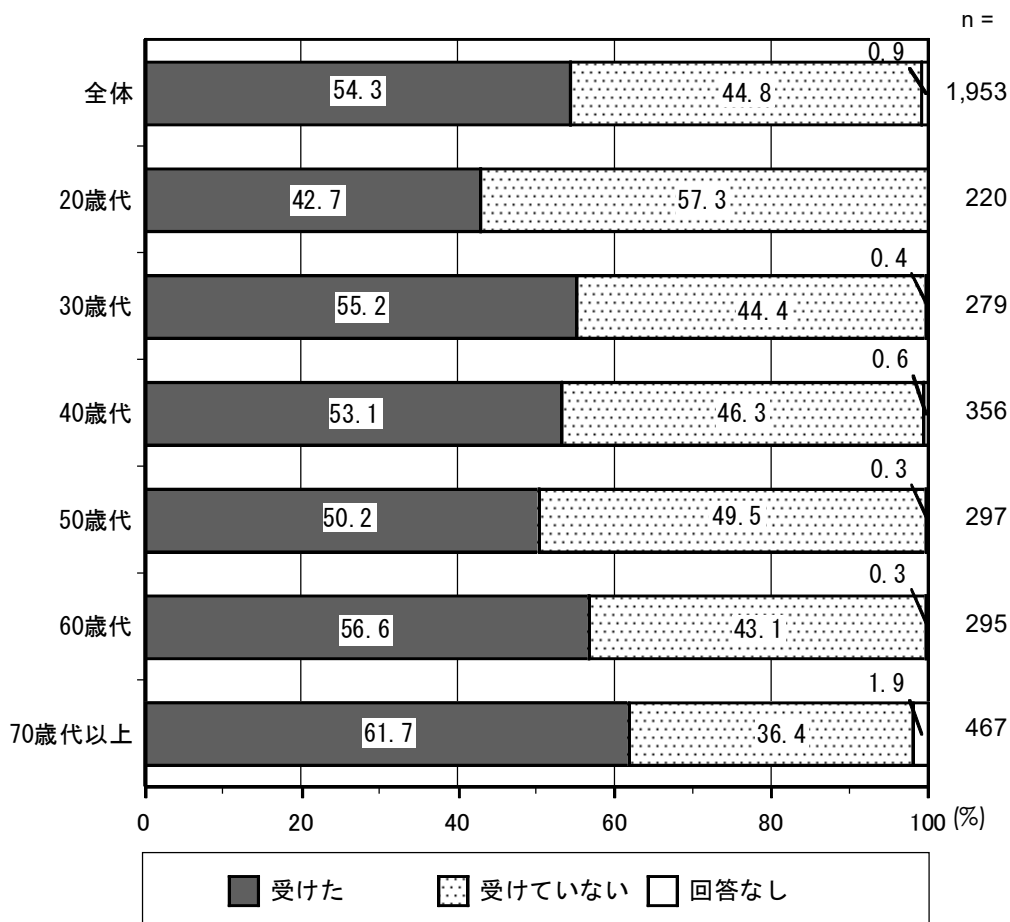
図 7-4-2 性別「歯科検診の受診」



【年齢別】 (図 7-4-3)

○「受けた」という回答は、20歳代を除くすべての年齢で過半数以上を占めており、中でも70歳代以上(61.7%)で多くなっています。

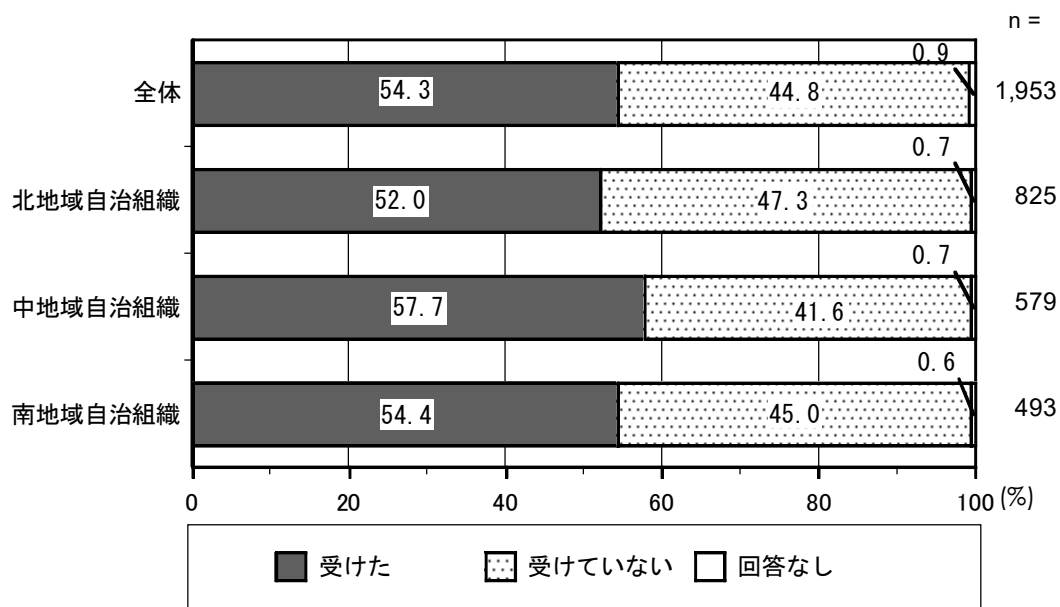
図 7-4-3 年齢別「歯科検診の受診」



【居住地域別】 (図 7-4-4)

○中地域自治組織では、「受けた」が 57.7%と、他の地区に比べ僅か多くはなっていますが、有意な差があるとはできません。

図 7-4-4 居住地域別「歯科検診の受診」



7-5 運動ができる環境（問25）

問 25 お住まいの地域では、気軽に運動をする場所や機会、散歩ができるような環境がありますか。
【回答数：○印を1つだけ】

全体では約8割の人が“気軽に運動できる場所や機会など、環境がある”としています。

【全体】（図 7-5-1）

- 「ある」が39.8%と最も多く、「まあある」の38.5%を合わせると、78.3%の人が“運動ができる環境はある”と評価しています。
- 「あまりない」は6.9%、「ない」は2.9%となっています。

【前回比較】（図 7-5-1）

- 平成27年調査との比較では、“運動ができる環境はある”が、6.3ポイント増加しています。

【性別】（図 7-5-2）

- 性別による大きな差は認められません。

図 7-5-1 前回比較「運動ができる環境」

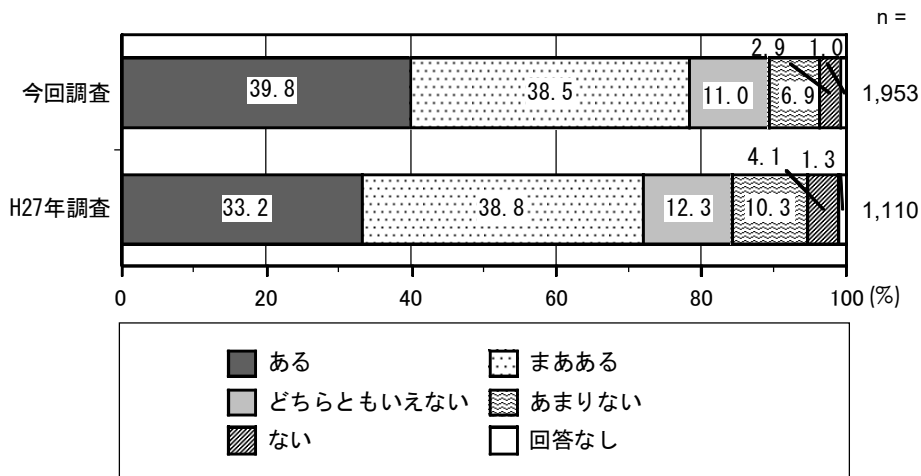
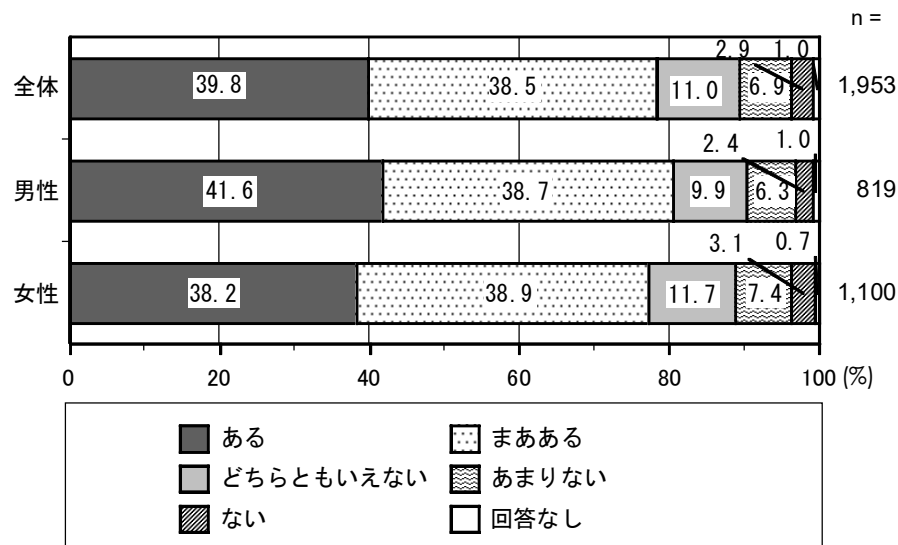


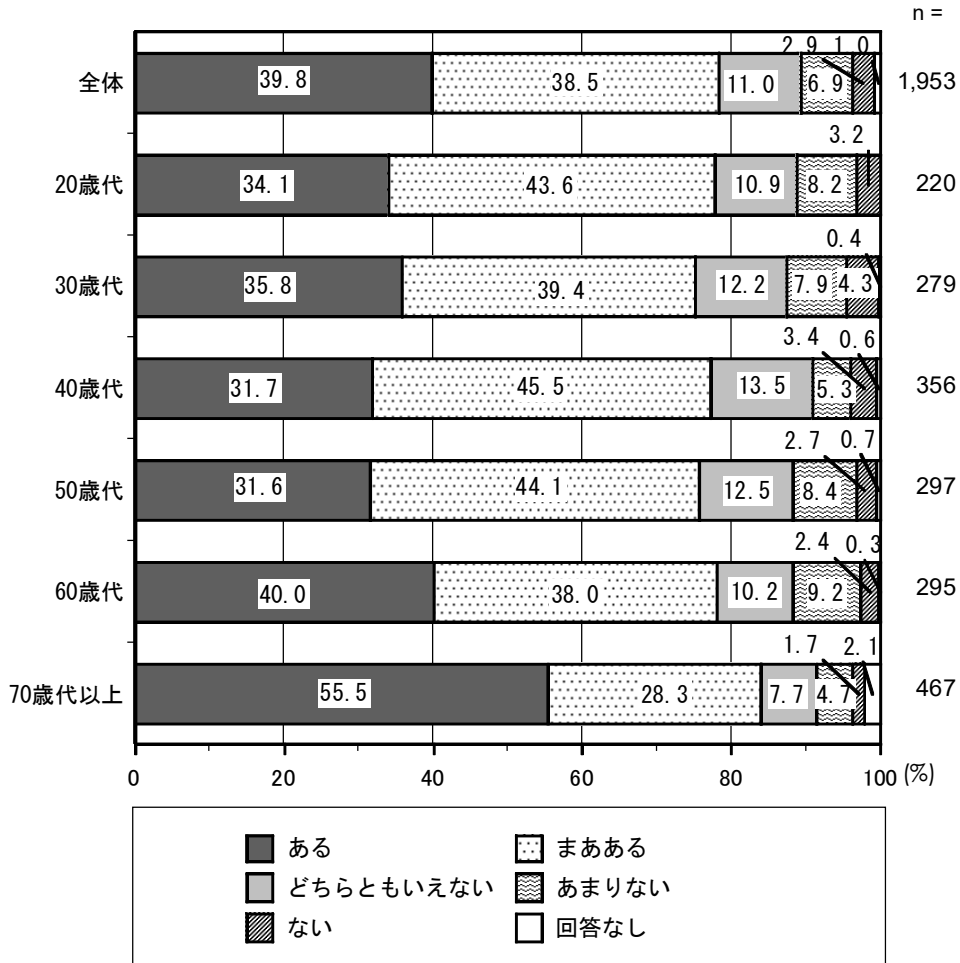
図 7-5-2 性別「運動ができる環境」



【年齢別】 (図 7-5-3)

○ “運動ができる環境がある” とする人の割合は、70 歳代以上は 83.8% と非常に多いものの、60 歳代以下の各年齢層でも 7 割を超えています。

図 7-5-3 年齢別「運動ができる環境」

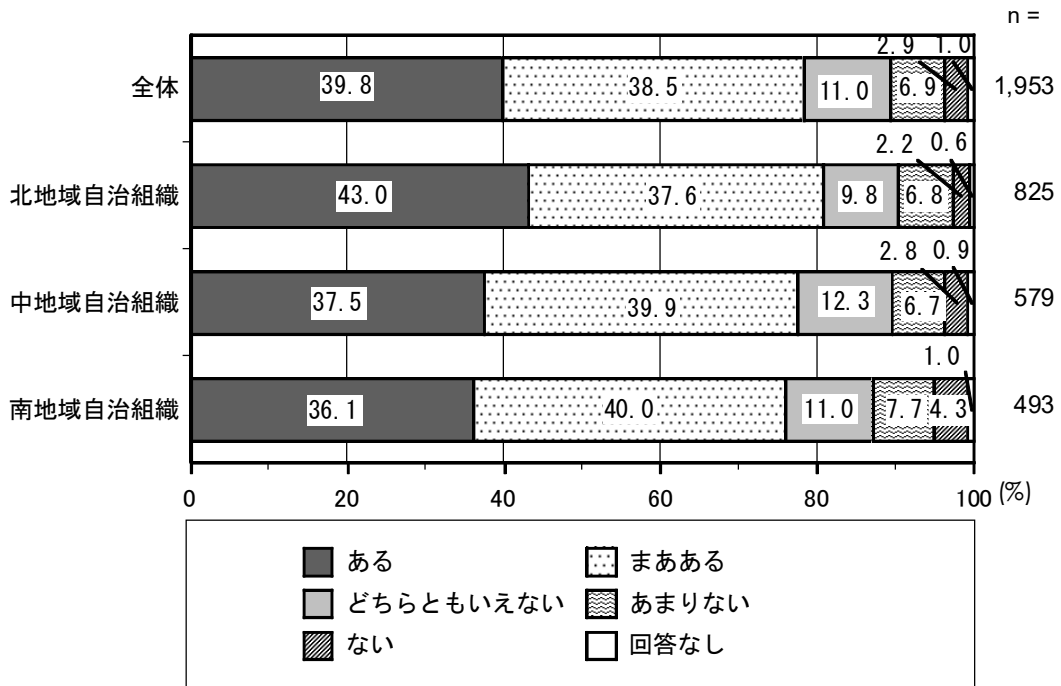


【居住地域別】 (図 7-5-4)

○北地域自治組織では「ある」が43.0%と他の地区に比べ、若干多くなっています。

○南地域自治組織では「あまりない」+「ない」が他の地区に比べて若干多くなっています。当地域は農地が多く、また町の体育施設も中や北地域に多くあることから、運動ができる環境が不足していると考えられています。

図 7-5-4 居住地域別「運動ができる環境」



7-6 健康的な食生活 (問 26)

問 26 あなたは、健康的な食生活ができていると思いますか。【回答数：○印を1つだけ】

全体では6割の人が“健康的な食生活ができている”としています。男性よりも女性の方が、また若い世代よりも高齢者の方が、より健康的な食生活を心がけているようです。

【全体】 (図 7-6-1)

- 「まあそう思う」が45.4%と最も多く、「そう思う」の15.1%と合わせると、60.5%の人が“健康的な食生活ができている”と考えています。
- 「どちらともいえない」が25.5%と2番目に多く、「あまりそう思わない」は10.6%、「そう思わない」は2.5%と、“健康的な食生活ができている”と考える人は13.1%となっています。

【前回比較】 (図 7-6-1)

- 平成 27 年調査との比較では、ほとんど差は認められません。

【性別】 (図 7-6-2)

- “健康的な食生活ができている”は、男性が女性を 5.0 ポイント上回っています。

図 7-6-1 前回比較「健康的な食生活」

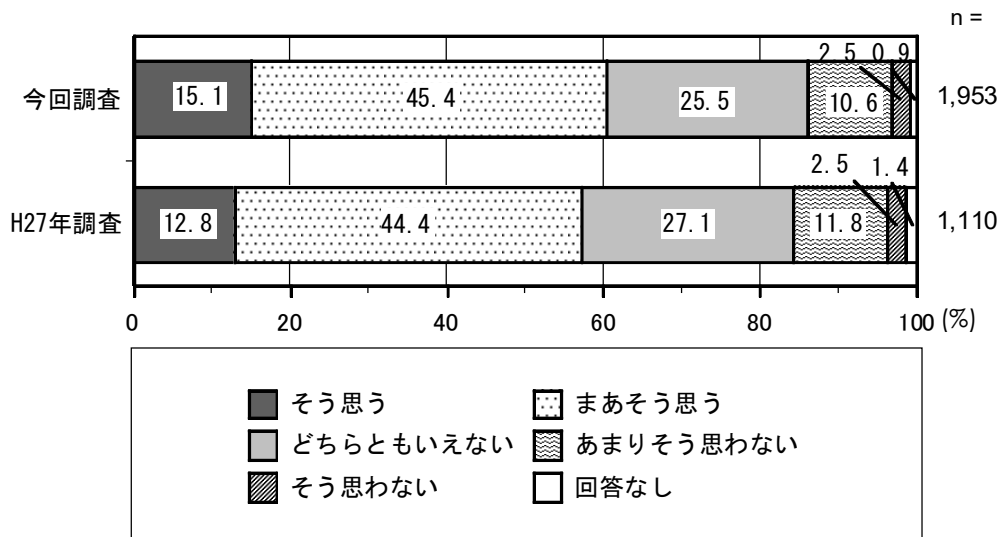
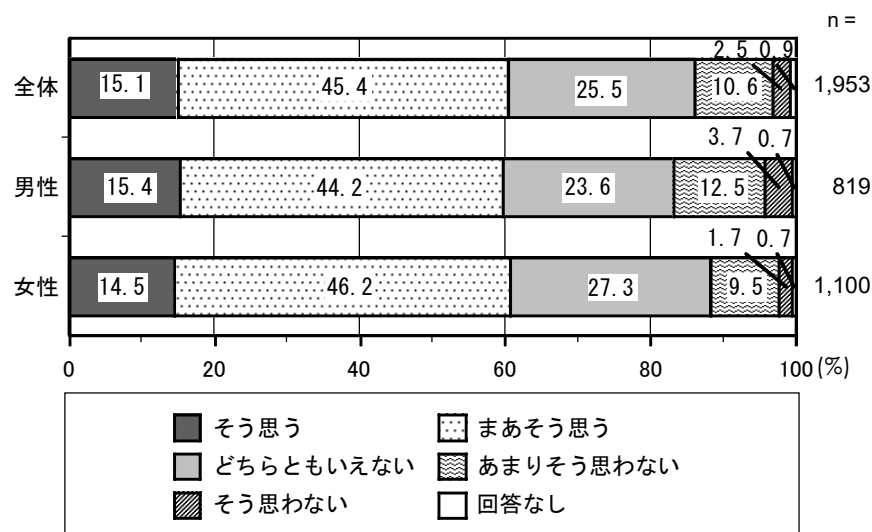


図 7-6-2 性別「健康的な食生活」

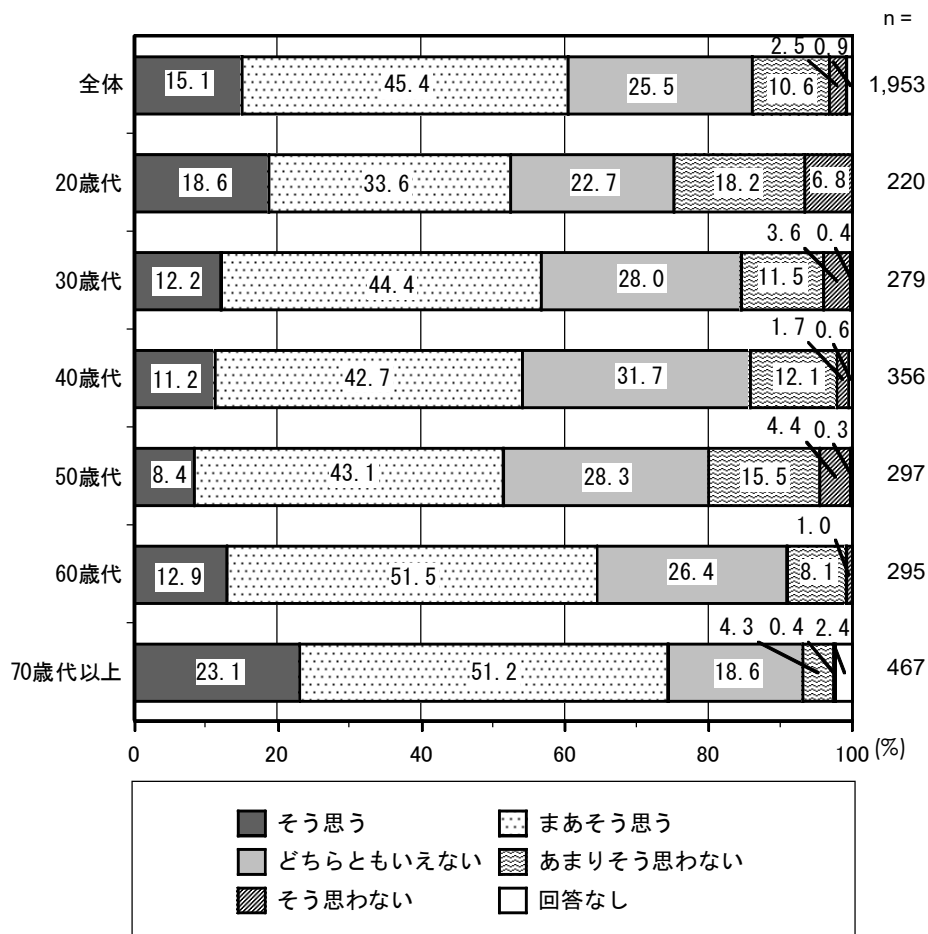


【年齢別】 (図 7-6-3)

○健康的な食生活に関して、“できている”とする人は60歳代以上で多くなり、70歳代以上では74.3%と非常に多くなっています。

○20歳代において、「あまりそう思わない」が18.2%、「そう思わない」が6.8%と、他の世代に比べて多く、合わせると24.4%が“健康的な食生活ができていない”と自覚しています。

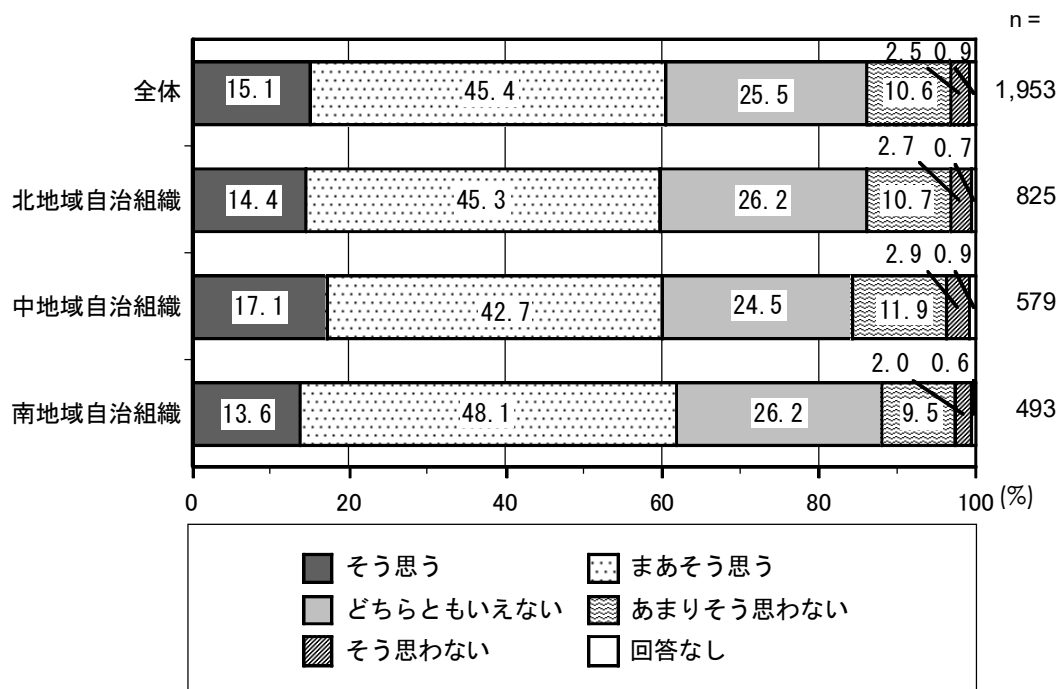
図 7-6-3 年齢別「健康的な食生活」



【居住地域別】 (図 7-6-4)

○居住地域別による有意な差は認められません。

図 7-6-4 居住地域別「健康的な食生活」



7-7 朝食の摂取（問27）

問27 あなたは、毎日朝食を食べていますか。【回答数：○印を1つだけ】

回答者の90.1%が“毎日あるいはほぼ毎日朝食を食べている”と答えました。高齢者は朝食摂取率が非常に高いですが、20歳代においては55.9%にとどまっており、5.9%が「まったく食べていない」としています。

【全体】（図7-7-1）

○「毎日食べている」が76.1%と最も多く、「ほぼ毎日食べている」が14.0%、「たまには食べている」が6.6%と続き、「まったく食べていない」は2.6%にとどまりました。

【前回比較】（図7-7-1）

○平成27年調査との比較では、ほとんど差は認められません。

【性別】（図7-7-2）

○「毎日食べている」は、男性よりも女性の方が、6.5ポイント高くなっています。

図7-7-1 前回比較「朝食の摂取」

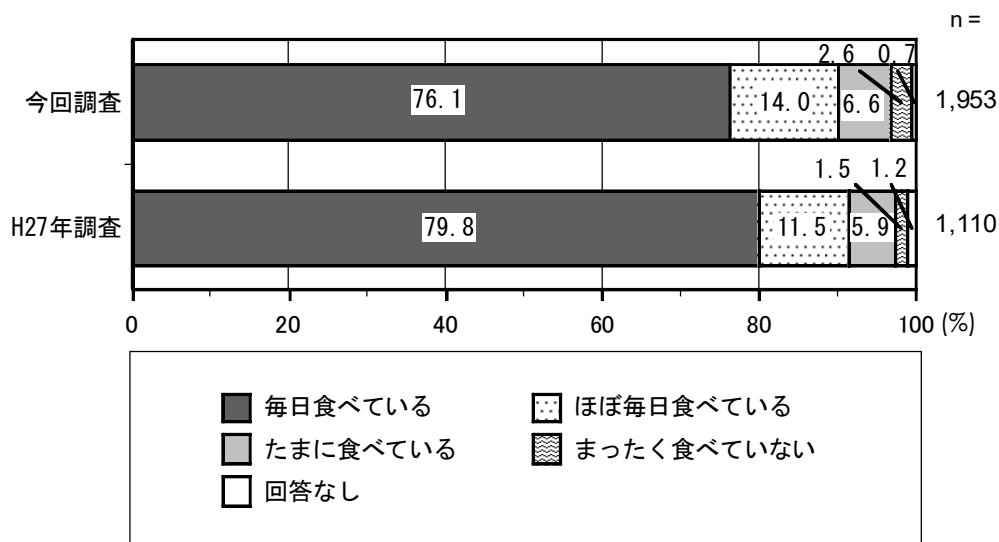
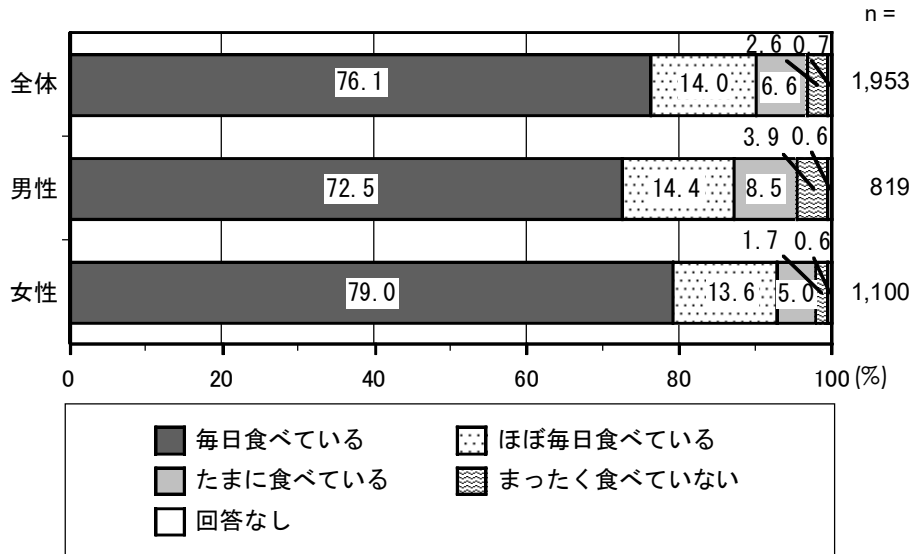


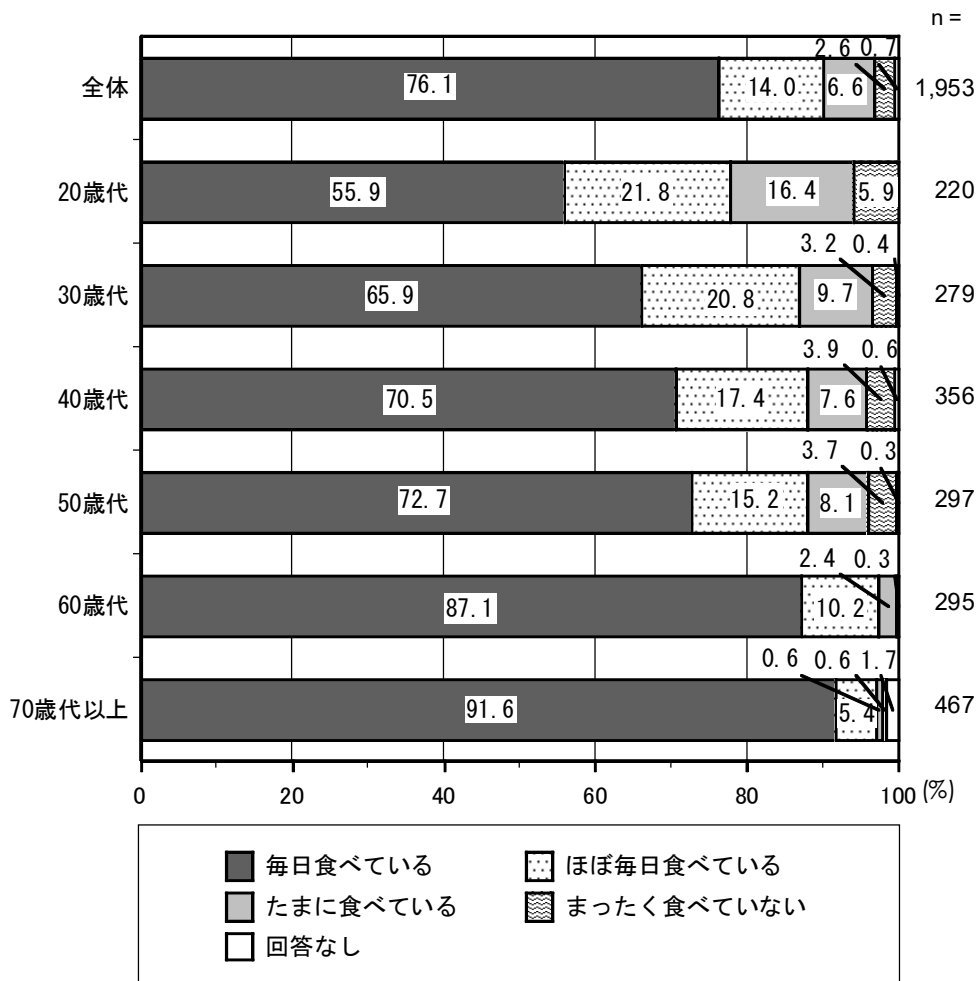
図 7-7-2 性別「朝食の摂取」



【年齢別】 (図 7-7-3)

○朝食の摂取率は、若い世代において低くなる傾向にあり、20 歳代では「毎日食べている」が 55.9%にとどまっています。

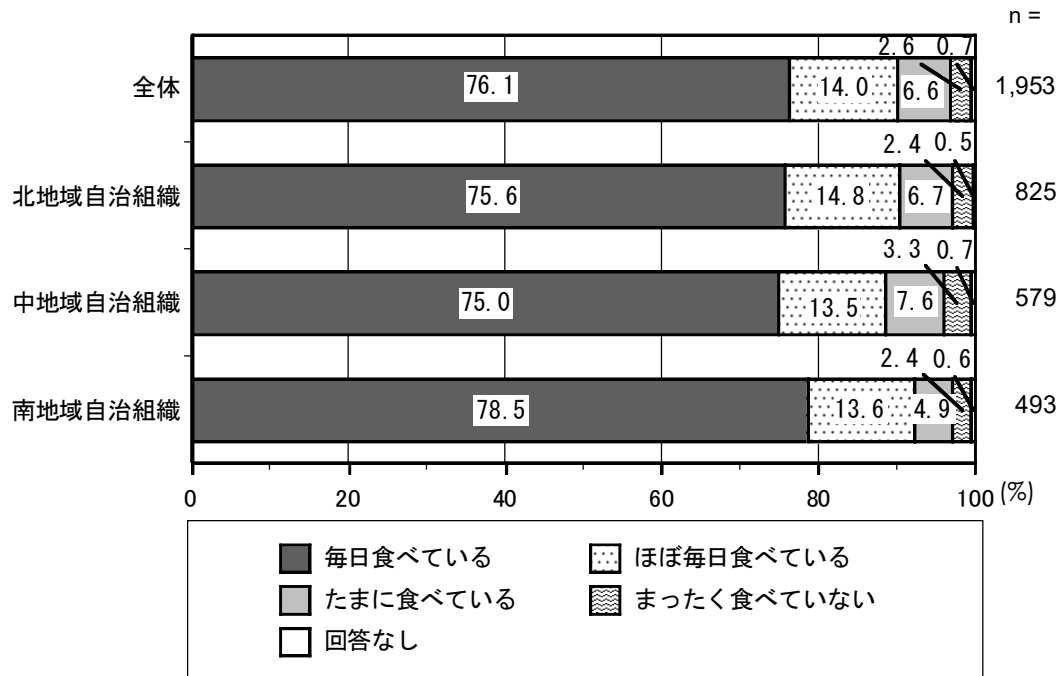
図 7-7-3 年齢別「朝食の摂取」



【居住地域別】 (図 7-7-4)

○居住地域別による有意な差は認められません。

図 7-7-4 居住地域別「朝食の摂取」



7-8 地産地消を意識した購買行動（問28）

問28 あなたは、地産地消を意識して食材の買い物を行っていますか。【回答数：○印を1つだけ】

「あまり意識していない」が49.6%と最も多く、“地産地消を意識した購買行動”はまだ浸透しているとは言えません。特に若い世代において、「まったく意識していない」人が20歳代で27.7%、30歳代で17.2%と目立って多くなっています。

【全体】（図7-8-1）

○「まあまあ意識して行っている」が31.5%で、これに「かなり意識的に行っている」の6.2%を合すると“地産地消を意識した購買行動”の浸透率は37.7%となっています。「あまり意識していない」（49.6%）と「まったく意識していない」（11.4%）とを合わせた割合61.0%に対して23.3ポイントも下回る結果になっており、“地産地消を意識した販売行動”は必ずしも十分に浸透しているとまでは言えない状況です。

【前回比較】（図7-8-1）

○平成27年調査と比較すると、「かなり意識的に行っている」と「まあまあ意識して行っている」を合わせた割合は、今回調査が前回調査を5.1ポイント減っています。

【性別】（図7-8-2）

○女性の方が男性よりも、“地産地消を意識した購買行動”をしている割合が非常に高く、「かなり意識的に行っている」（6.7%）と「まあまあ意識して行っている」（36.8%）を合わせると、43.5%であり、男性の29.6%よりも13.9ポイント高くなっています。

図7-8-1 前回比較「地産地消を意識した購買行動」

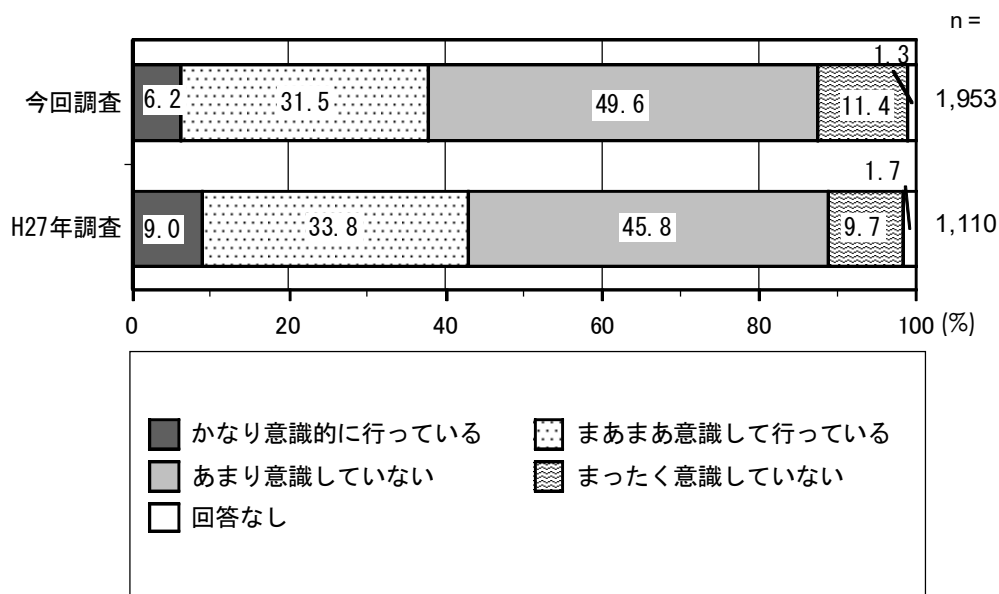
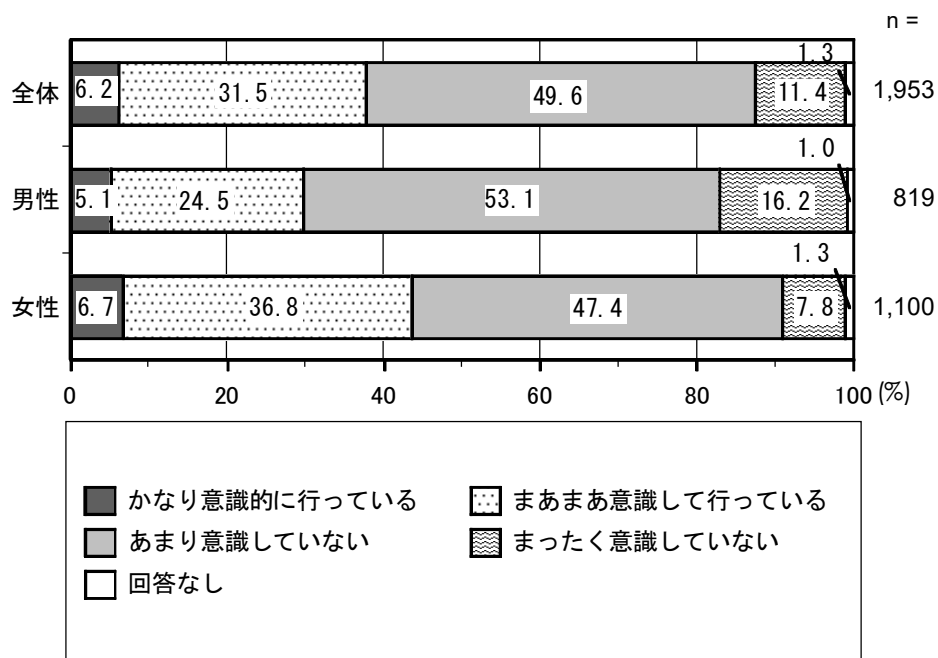


図 7-8-2 性別「地産地消を意識した購買行動」

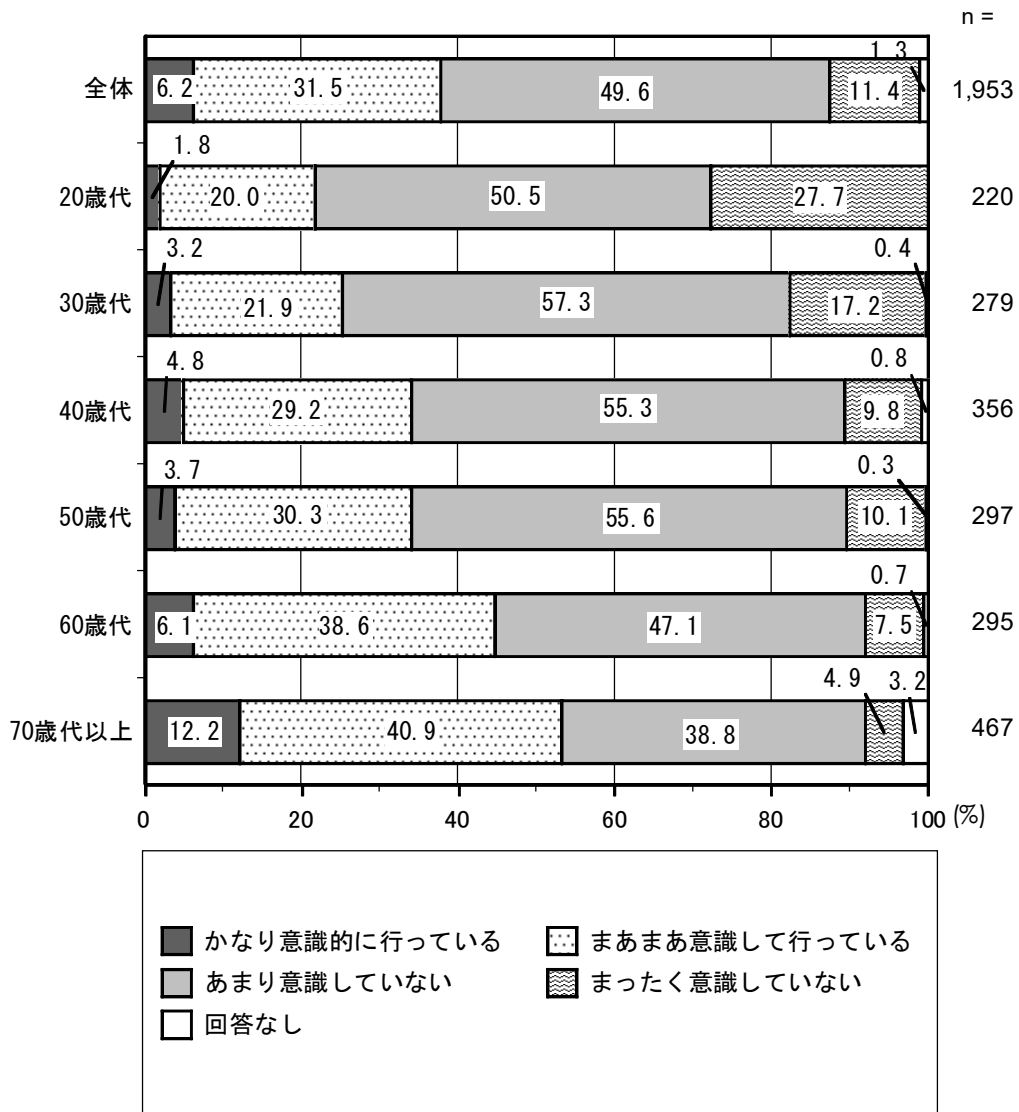


【年齢別】 (図 7-8-3)

○年齢別では20歳代において、「かなり意識的に行っている」が1.8%、「まあまあ意識的に行っている」が20.0%と目立って少なくなっています。

○70歳代以上は「かなり意識的に行っている」は12.2%と多いとは言えませんが、「まあまあ意識的に行っている」(40.9%) と合わせると過半数 (53.1%) の人が“地産地消を意識した購買行動”をしています。

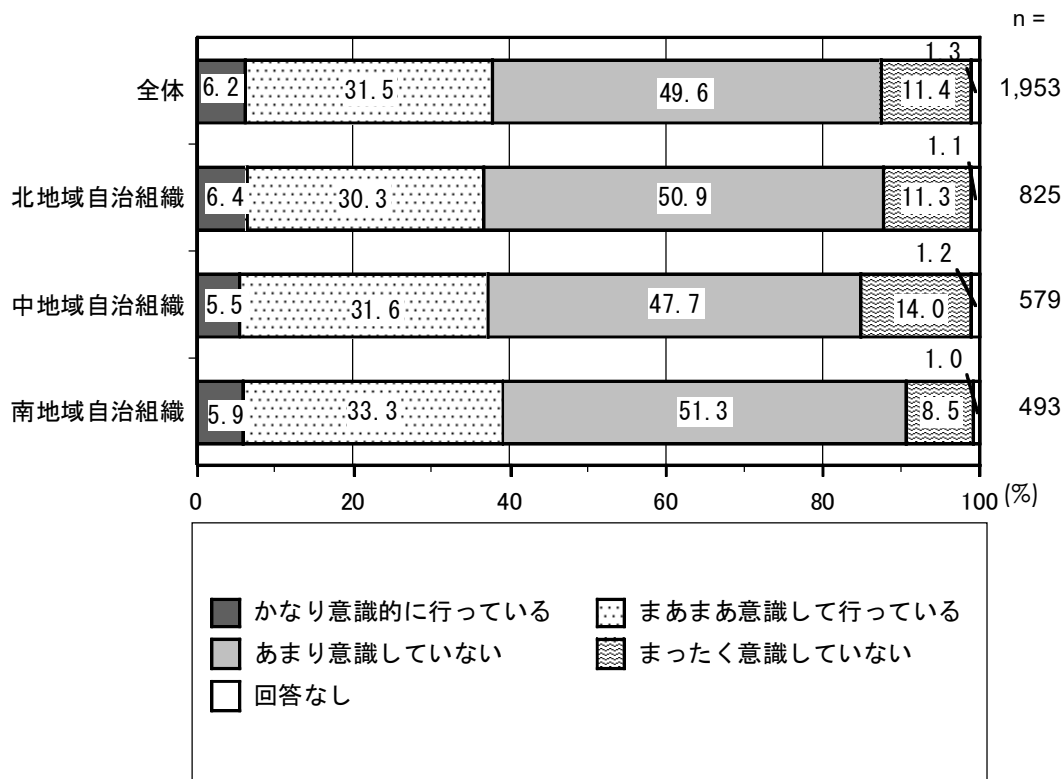
図 7-8-3 年齢別「地産地消を意識した購買行動」



【居住地域別】 (図 7-8-4)

○居住地域別による有意な差は認められません。

図 7-8-4 居住地域別「地産地消を意識した購買行動」



7-9 心豊かな生活 (問 29)

問 29 あなたは、日頃から笑顔で心豊かな生活ができていますか。【回答数：○印を1つだけ】

回答者の約6割が“日頃から笑顔で心豊かな生活ができています”と答えています。女性の方がその傾向は強く、また、20歳代や70歳代で若干多くなっています。

【全体】 (図 7-9-1)

- 「まあそう思う」が44.9%と最も多く、ここに「そう思う」の14.4%を合わせると、59.3%が“日頃から笑顔で心豊かな生活ができています”と考えています。
- 「どちらともいえない」が28.5%と、2番目に多くなっています。
- 「あまりそう思わない」の8.6%と、「そう思わない」の2.5%と合わせると“日頃から笑顔で心豊かな生活ができていない”と考える人は11.1%です。

【前回比較】 (図 7-9-1)

- 平成27年調査との比較では、「まあそう思う」と「そう思う」を合わせた割合で、今回調査が前回調査を4.7ポイント増加しています。

【性別】 (図 7-9-2)

- 男性よりも女性の方が“日頃から笑顔で心豊かな生活ができています”人は多く、「まあそう思う」と「そう思う」を合わせた割合で、5.3ポイント高くなっています。

図 7-9-1 前回比較「心豊かな生活」

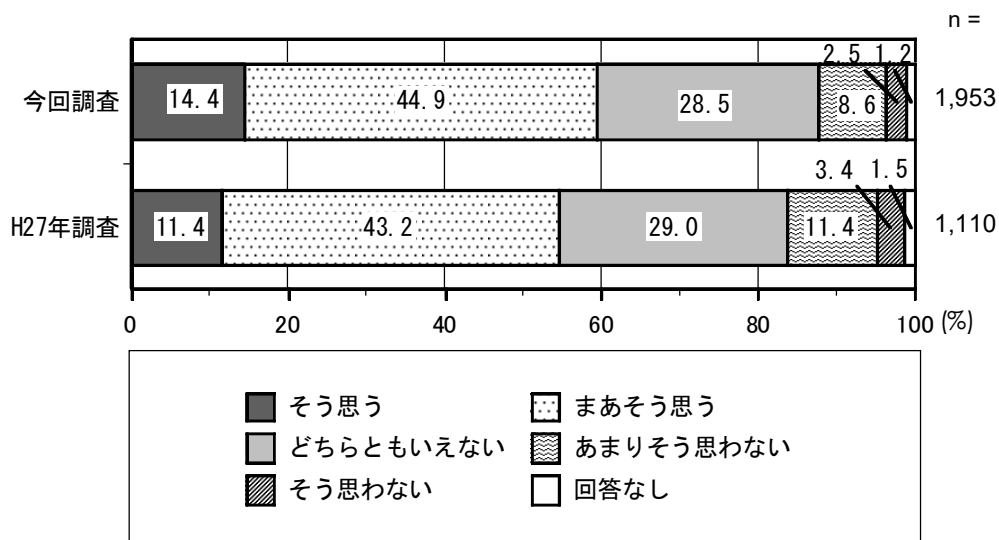
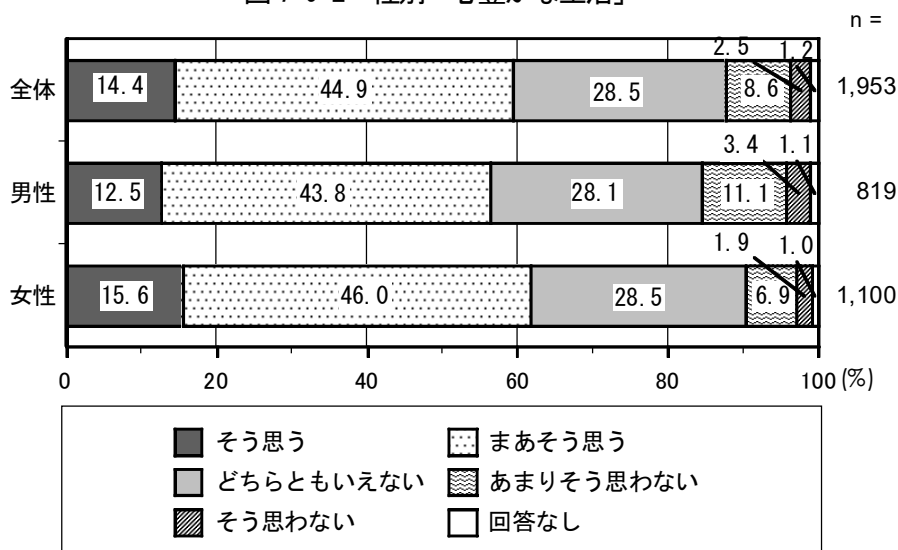


図 7-9-2 性別「心豊かな生活」



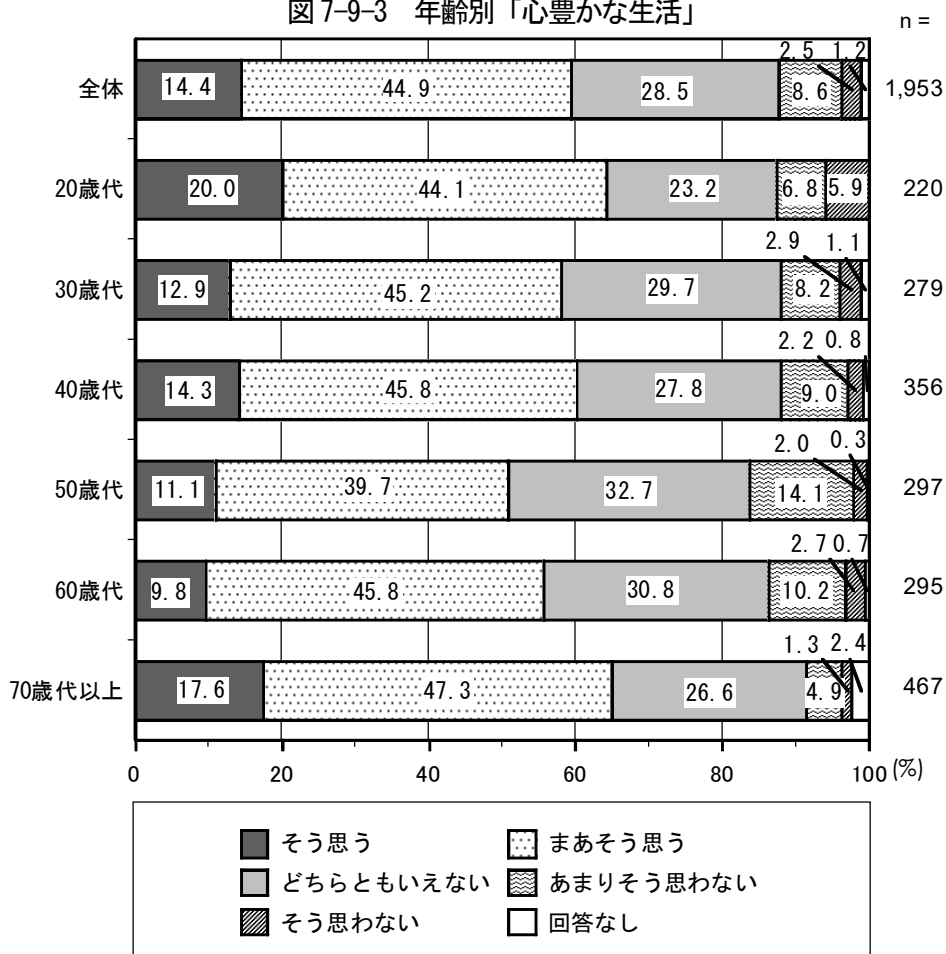
【年齢別】 (図 7-9-3)

○「そう思う」は、20歳代で20.0%と若干多くなっています。

○また、「まあそう思う」と「そう思う」合わせた割合は、70歳代以上で4.9%となっており、他の世代に比べて若干多くなっています。

○50歳代では、「あまりそう思わない」が14.1%で、他の世代に比べて若干多くなっています。その分、50歳代では、「日頃から笑顔で心豊かな生活ができています」人は（「まあそう思う」と「そう思う」を合わせた割合）が50.8%と少なくなっています。

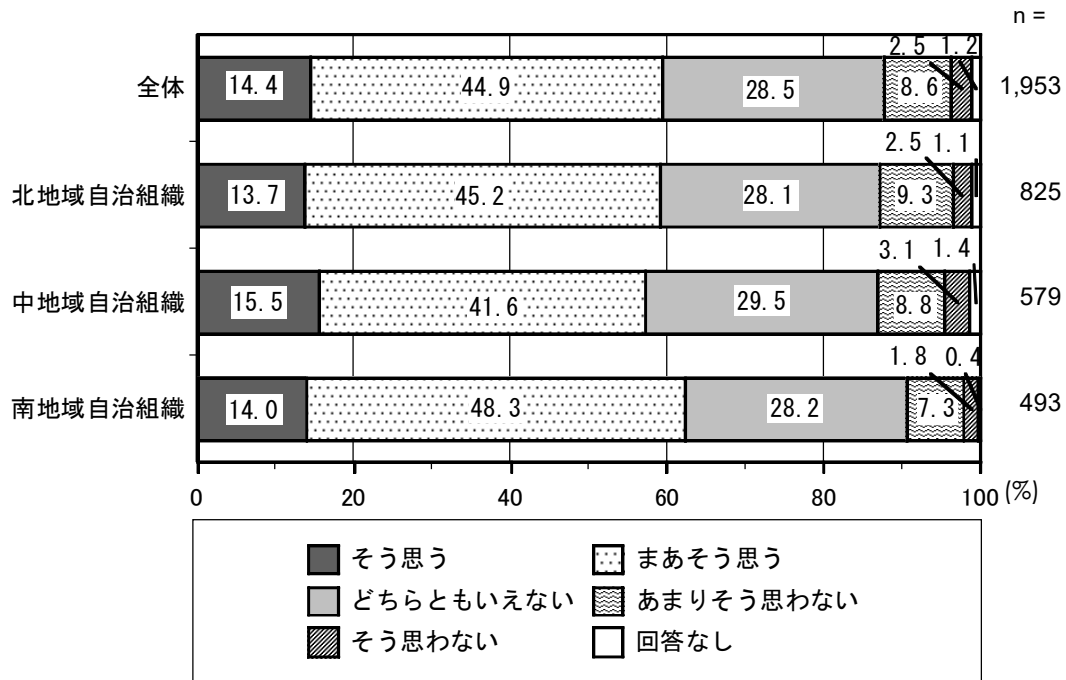
図 7-9-3 年齢別「心豊かな生活」



【居住地域別】 (図 7-9-4)

○居住地域別による有意な差は認められません。

図 7-9-4 居住地域別「心豊かな生活」

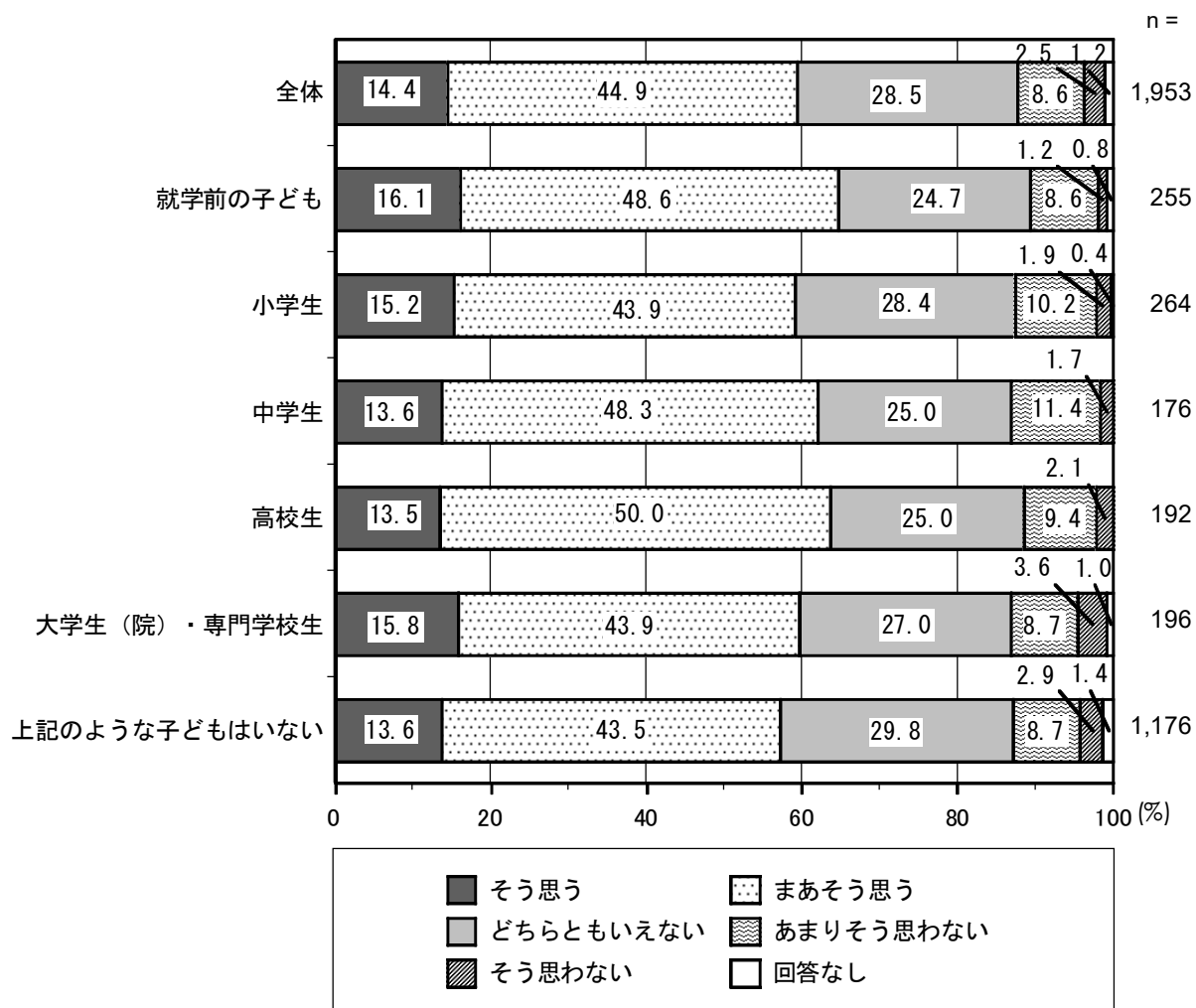


【大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別】 (図 7-9-5)

○子どもの有無、および子どもの学齢別にみると、就学前の子どもを持つ回答者において、“日頃から笑顔で心豊かな生活ができている”は64.7%と若干多くなっています。

○なお、「まあそう思う」については、高校生を持つ回答者において、50.0%と最も多くなっています。

図 7-9-5 大学(院)生・専門学校生以下の子どもの有無別「心豊かな生活」



7-10 力を入れるべき健康づくり施策（問30）

問 30 大口町では、次のような健康づくりの施策を実施していますが、今後、どの施策により一層力を入れるべきと思われますか。【回答数：3つまで○印】

「健康診断やがん検診の充実」が65.5%、「健康教室・講座・広報などを通じて健康に関する知識を得るための機会の充実」が36.8%と、より一層力を入れるべきだと回答しています。また、若い世代は疾病の早期発見のための施策をより強く望んでいます。

【全体】（図7-10-2）

- 「健康診断やがん検診の充実」が65.5%、「健康教室・講座・広報などを通じて健康に関する知識を得るための機会の充実」が36.8%と多くなっています。
- 次いで「歯科保健事業の充実」が28.0%、「健康問題にかんする相談の充実」が22.3%、「気軽にできる健康体操教室の充実」が21.1%、「食生活の改善に向けて栄養指導の充実」が18.6%の順になっています。

【前回比較】（図7-10-1）

- 平成27年調査との比較では、「歯科保健事業の充実」で今回調査が前回調査を4.0ポイント増加した一方で、「健康教室・講座・広報などを通じて健康に関する知識を得るための機会の充実」では、4.9ポイント減少しました。

【性別】（図7-10-2）

- 「気軽に参加できる健康体操教室の充実」は女性で28.2%と男性を13.1ポイント上回っており、より強く望んでいます。これに対し、「食生活の改善に向けて栄養指導の充実」については、男性が女性を5.5ポイント上回っています。

図 7-10-1 前回比較「力を入れるべき健康づくり施策」

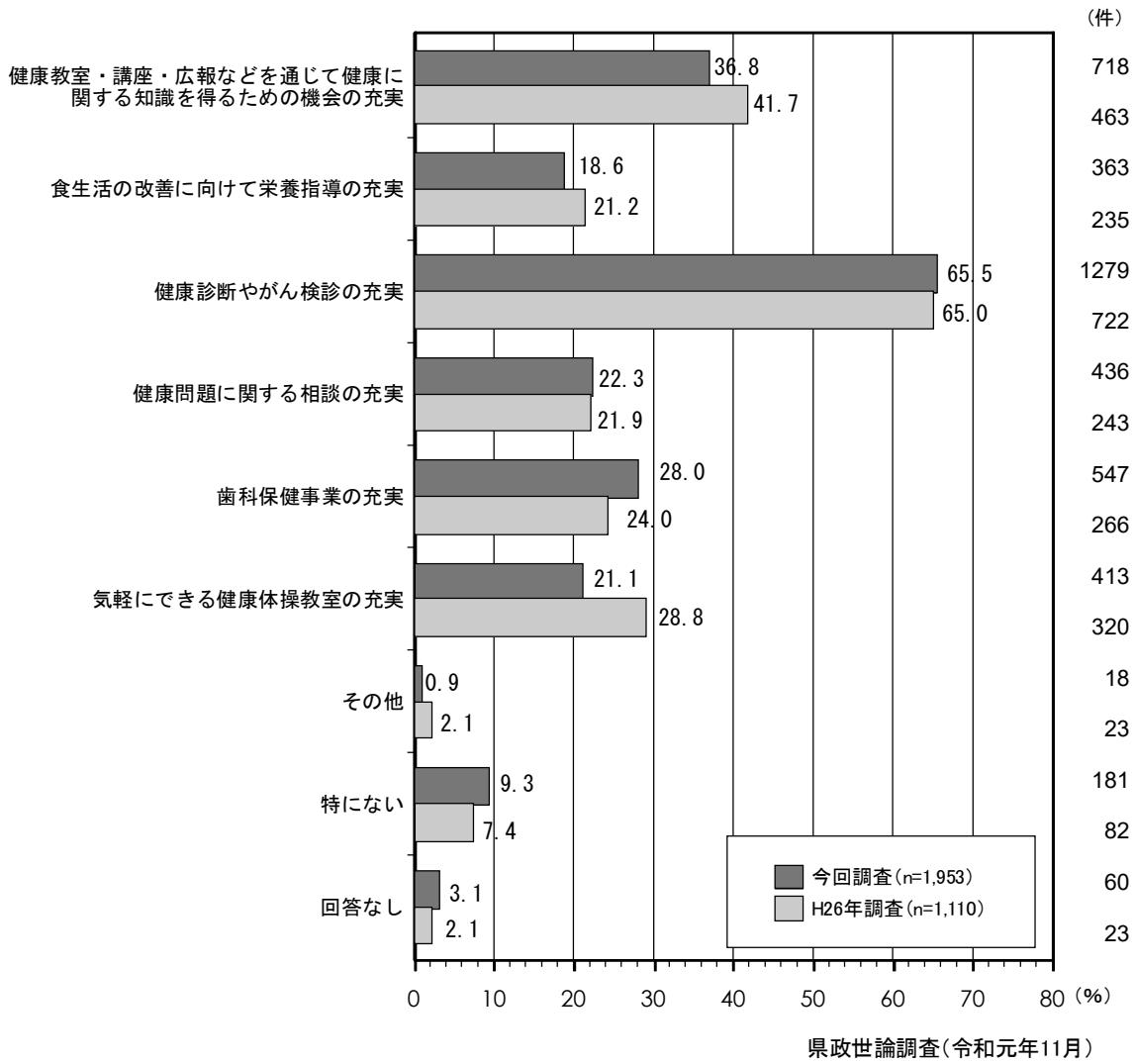
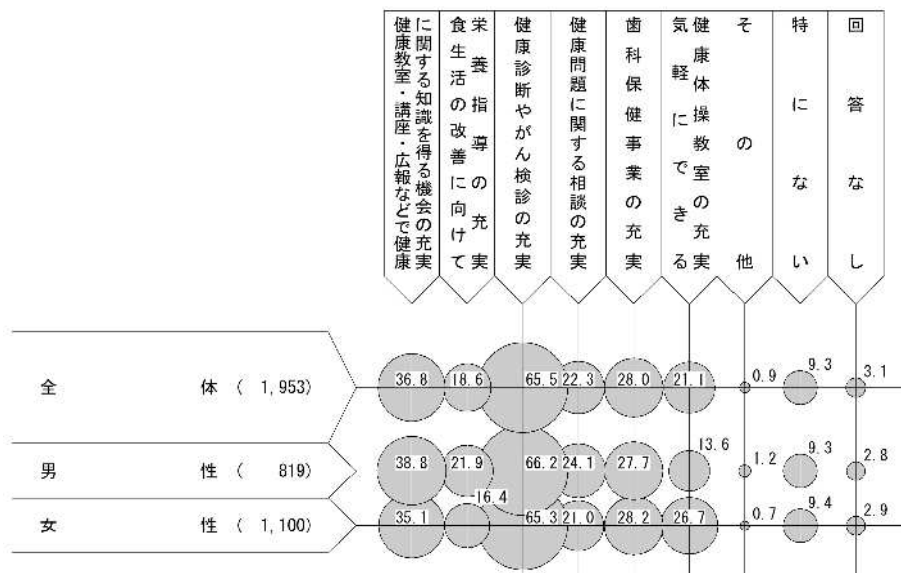


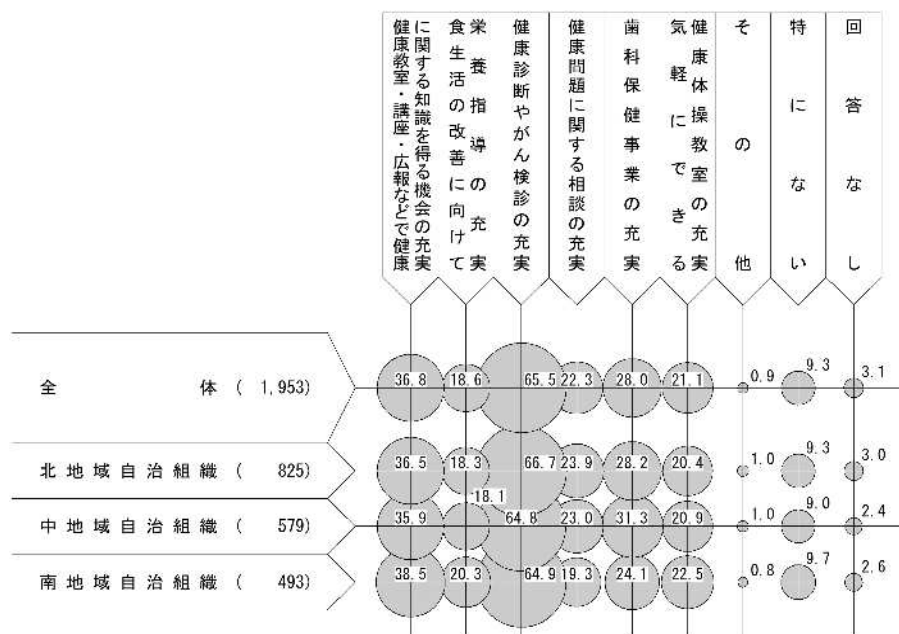
図 7-10-2 性別「力を入れるべき健康づくり施策」



【居住地域別】 (図 7-10-4)

○居住地域別にみると、南地域自治組織では「歯科保健事業の充実」が他地域自治組織よりも若干少なくなっていますが、全般的に大きな差異はみられません。

図 7-10-4 居住地域別「力を入れるべき健康づくり施策」



8. これからのライフスタイルと社会貢献について

8-1 豊かさの考え方 (問 31)

問 31 今後の生活において、物の豊かさや心の豊かさに関して、次の考え方の中で、あなたの考え方に近いのはどれですか。【回答数：○印を1つだけ】

「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさ、ゆとりのある生活をすることに重きをおきたい」の方が、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」よりも多い結果となりました。これは、平成27年調査と同じ結果となっているものの、平成17年調査と比べると9.9ポイント減少しています。

【全体】 (図 8-1-1)

- 「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさ、ゆとりのある生活をすることに重きをおきたい」は43.4%と、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」の23.7%を19.7ポイント上回りました。

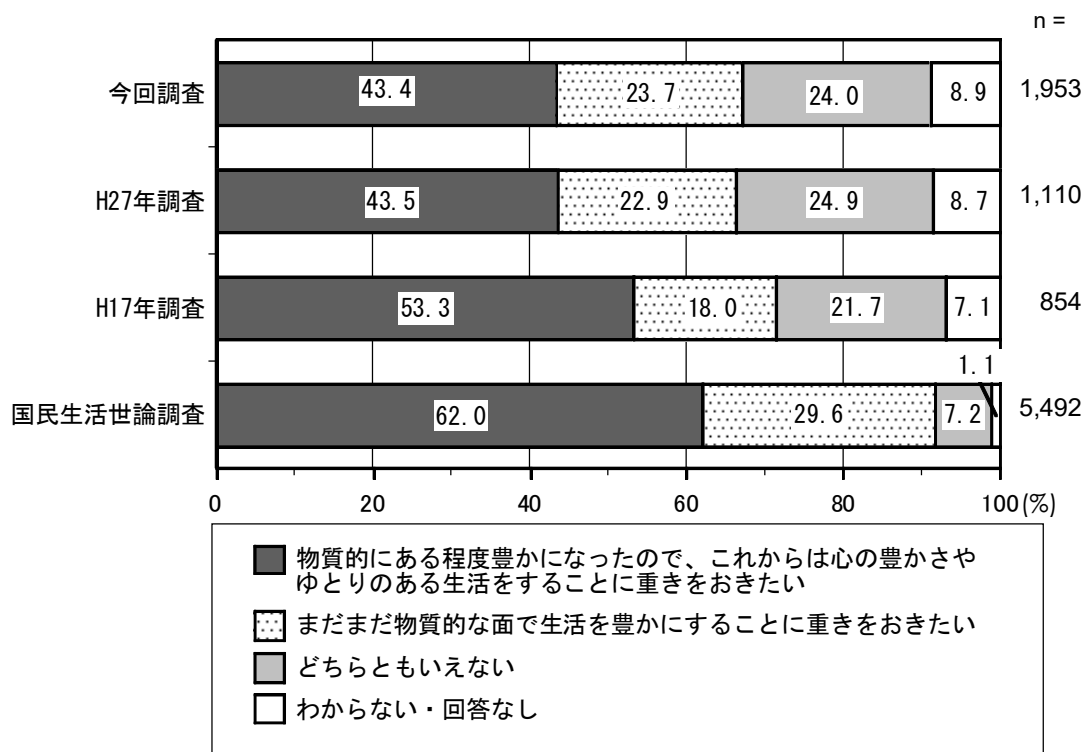
【前回・前々回比較】 (図 8-1-1)

- 平成27年調査と比較すると、全体でほぼ同じ結果となっているものの、平成17年調査に比べて「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさ、ゆとりのある生活をすることに重きをおきたい」は9.9ポイント減少し、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」が5.7ポイント増加しています。

【世論調査比較】 (図 8-1-1)

- 国民生活世論調査の結果と比べると、両選択肢とも大口町民のパーセンテージが下回る結果になっています。これは本町のアンケート結果では「どちらともいえない」が24.0%と多いことによるものです。

図 8-1-1 前回・前々回比較・世論調査比較「豊かさの考え方」

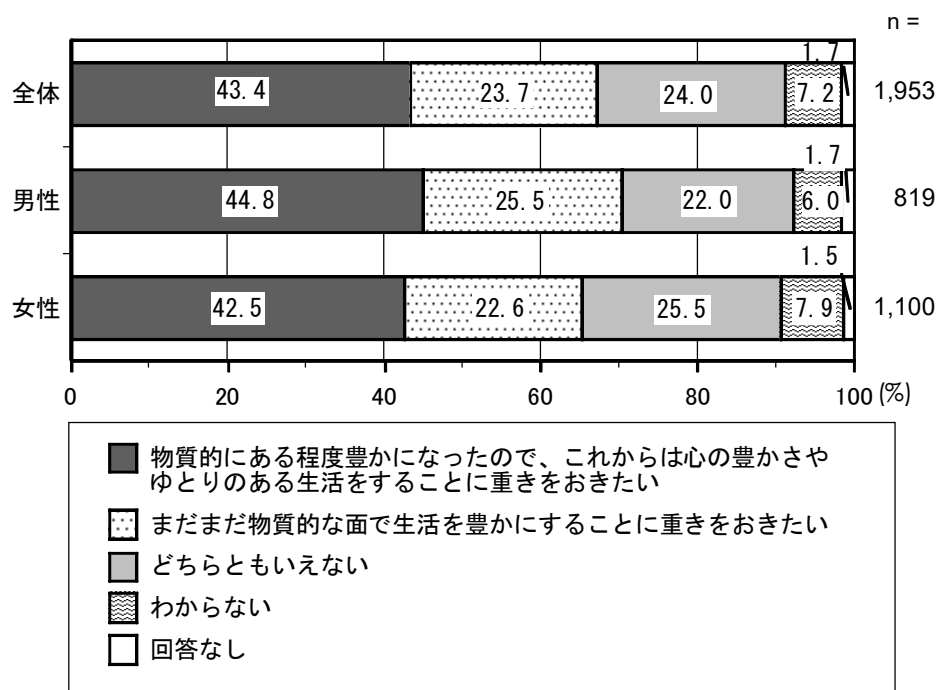


国民生活に関する世論調査(令和元年6月)

【性別】 (図 8-1-2)

○性別における大きな差異はみられません。

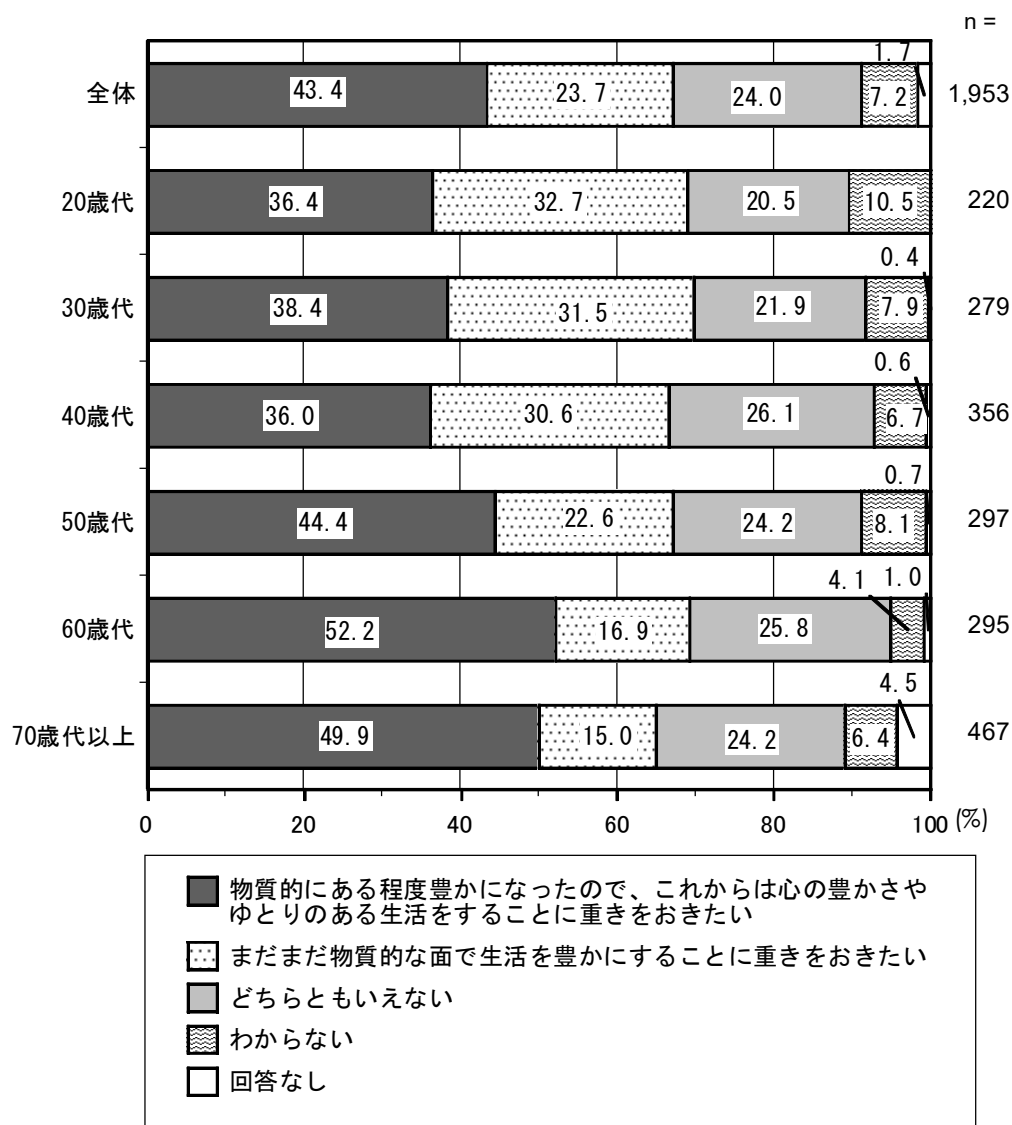
図 8-1-2 性別 「豊かさの考え方」



【年齢別】 (図 8-1-3)

○20歳代から40歳代では「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさ、ゆとりのある生活をするに重きをおきたい」がいずれの年齢層も4割を下回っています。

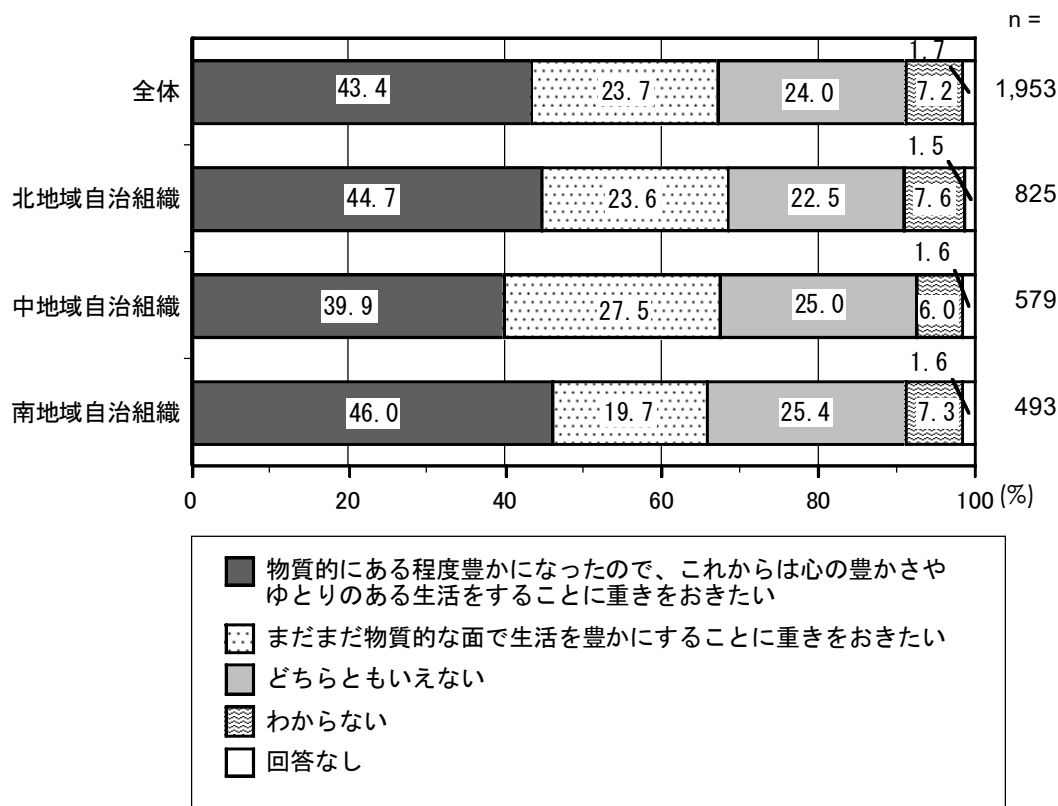
図 8-1-3 年齢別「豊かさの考え方」



【居住地域別】 (図8-1-4)

○中地域自治組織では「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさ、ゆとりのある生活をするに重きをおきたい」が他の地域に比べて若干少なくなっていますが、大きな差異はみられません。

図 8-1-4 居住地域別「豊かさの考え方」



8-2 時間をとりたい活動（問 32）

問 32 あなたのこれからの暮らし方について、今後、どのような活動に時間をとりたいと考えていますか。【回答数：あてはまるものすべてに○印】

半数以上の人「趣味」と「健康づくり」を選択しています。年齢別では、50 歳代以下が「趣味」、「家族だんらん」、60 歳代以上では「健康づくり」が時間をとりたい活動の 1 位になっています。

【全体】（図 8-2-2）

- 「趣味」が 57.4%、「健康づくり」が 55.0%と多くなっています。
- これらに次いで「家族とのだんらん」が 43.5%、「友人とのつきあい」が 43.0%、「報酬を得て行う仕事」が 37.6%の順になっています。

【前回比較】（図 8-2-1）

- 平成 27 年調査との比較では、今回調査のほうが「報酬を得て行う仕事」で若干増加、「自治会などの地域活動」で若干減少していますが、全般的に大きな差異はみられません。

【性別】（図 8-2-2）

- 「家事」（15.1 ポイント）と「友人とのつきあい」（10.9 ポイント）、「子育て」（10.8 ポイント）「家族だんらん」（9.5 ポイント）については、女性の方が、男性よりも上回っているいます。
- 一方、「趣味」については、男性の方が女性 14.3 ポイント上回っています。

図8-2-1 前回比較「時間を取りたい活動」

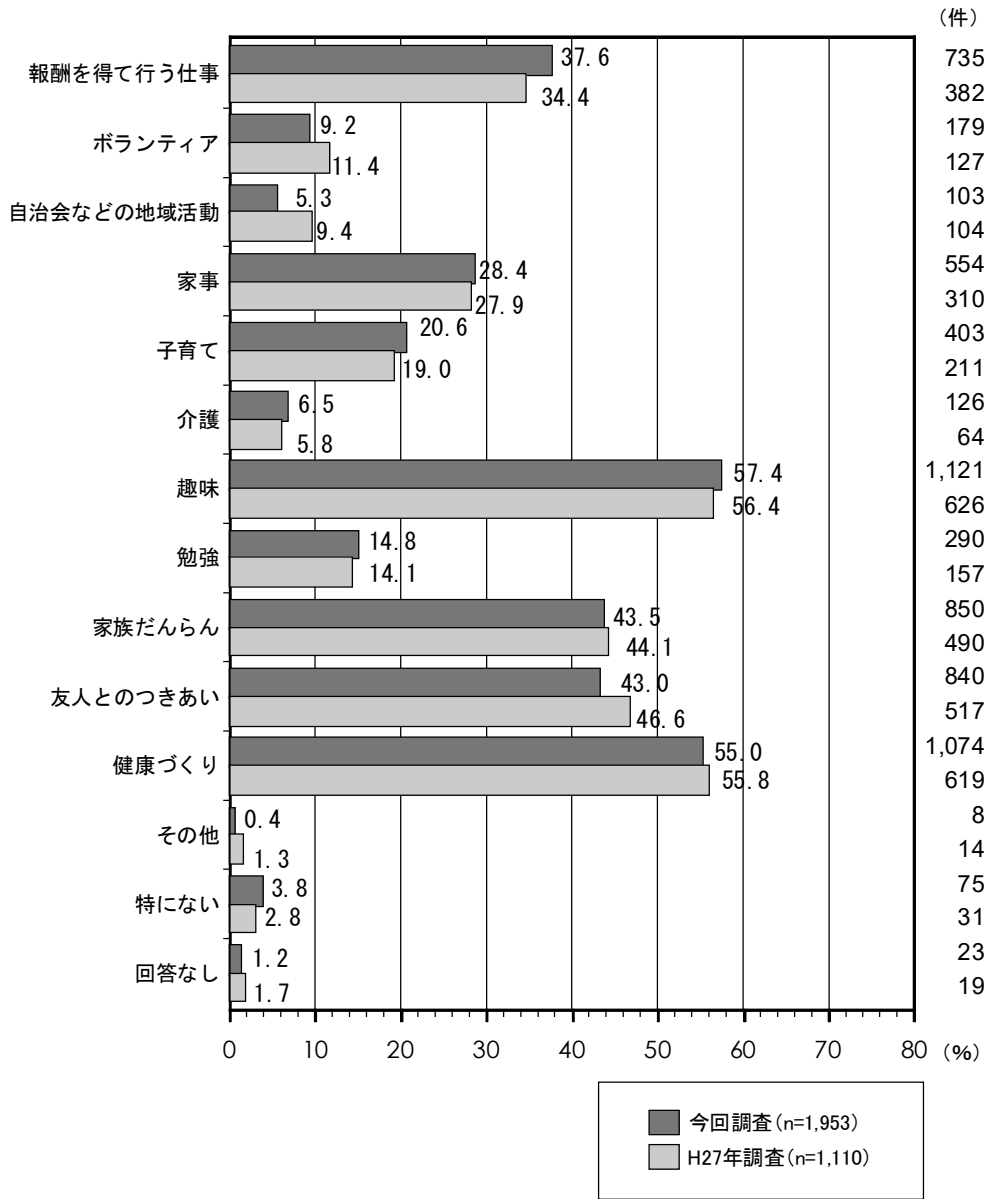
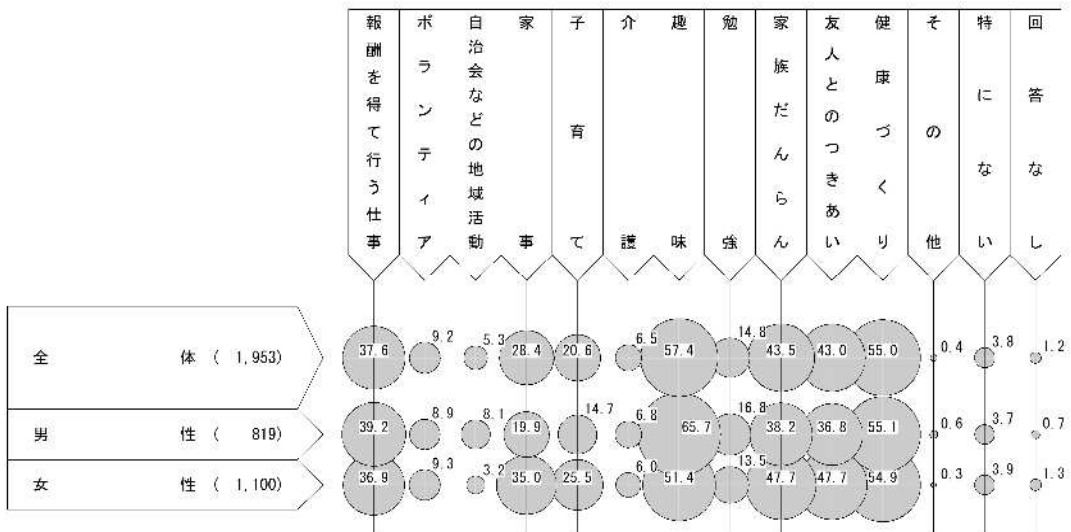


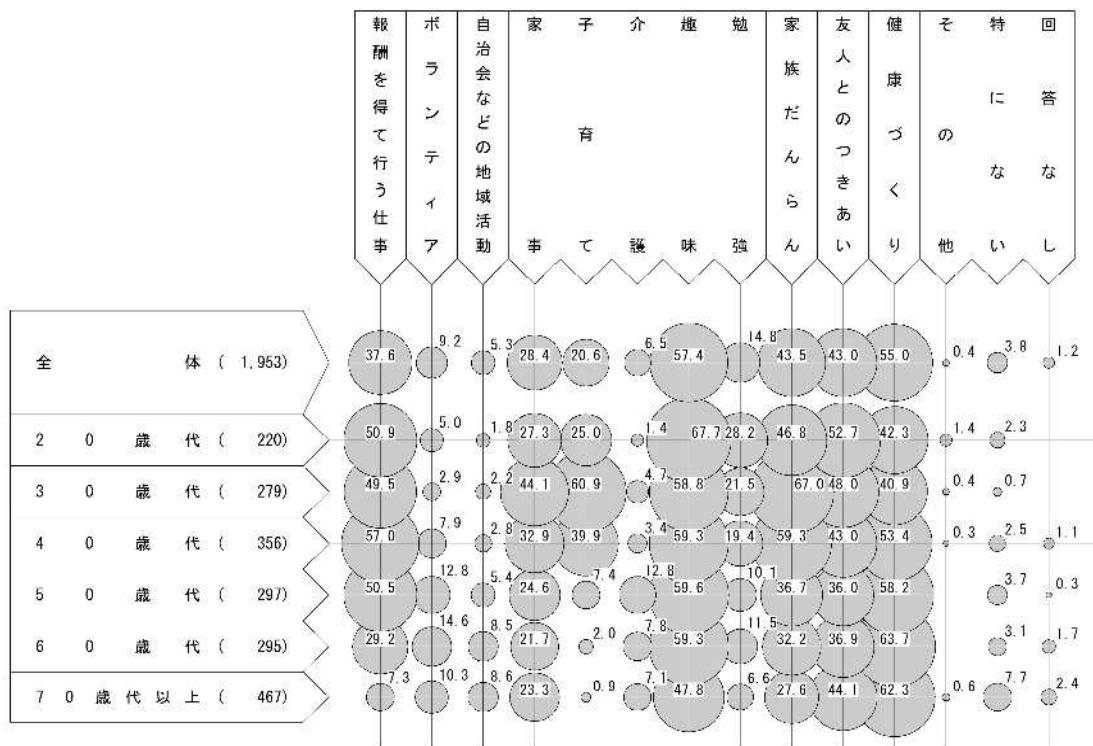
図8-2-2 性別「時間を取りたい活動」



【年齢別】 (図 8-2-3)

- 20 歳代は、「趣味」が 67.7%と最も多く、「友人とのつきあい」が 52.7%、「報酬を得て行う仕事」が 50.9%と続きます。
- 30 歳代は「家族のだんらん」が 67.0%と最も多く、「子育て」が 60.9%、「趣味」が 58.8%、「報酬を得て行う仕事」が 49.5%と続きます。
- 40 歳代は「家族のだんらん」と「趣味」が共に 59.3%と多く、「報酬を得て行う仕事」が 57.0%、「健康づくり」が 53.4%と続きます。
- 50 歳代は「趣味」が 59.6%と最も多く、「健康づくり」が 58.2%、「報酬を得て行う仕事」が 50.5%と続きます。
- 60 歳代以上になると、「健康づくり」が最も多くなっています。

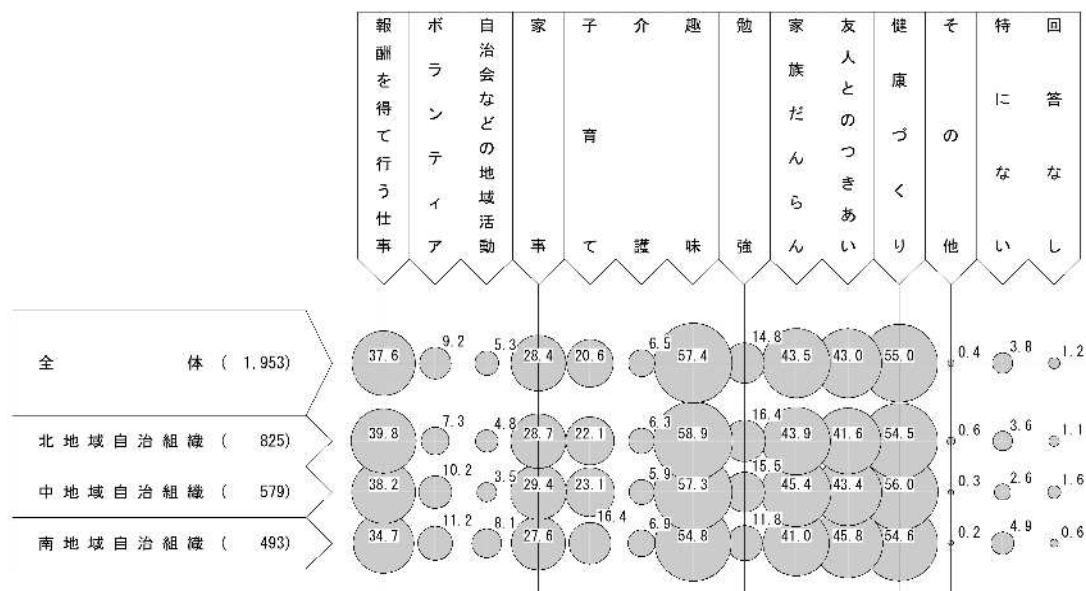
図 8-2-3 年齢別「時間をとりたい活動」



【居住地域別】 (図8-2-4)

○居住地域別による有意な差は認められません。

図8-2-4 居住地域別「時間をとりたい活動」



8-3 社会貢献に関する意識 (問 33)

問33 あなたは、日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っていますか。それとも、あまりそのようなことは考えていませんか。【回答数：○印を1つだけ】

世論調査では何か社会のために役立ちたいと「思っている」人の方が 63.4%と多いのですが、大口町では「思っている」が 37.6%と、「あまり考えていない」の 47.9%を下回っています。また、高齢になるにつれて“社会貢献に関する意識”は低下する傾向にあります。

【全体】 (図 8-3-1)

- 日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと「思っている」と回答した町民は 37.6%となっており、「あまり考えていない」(47.9%)を 10.3 ポイント下回っています。
- 「わからない・回答なし」は 14.5%となっています。

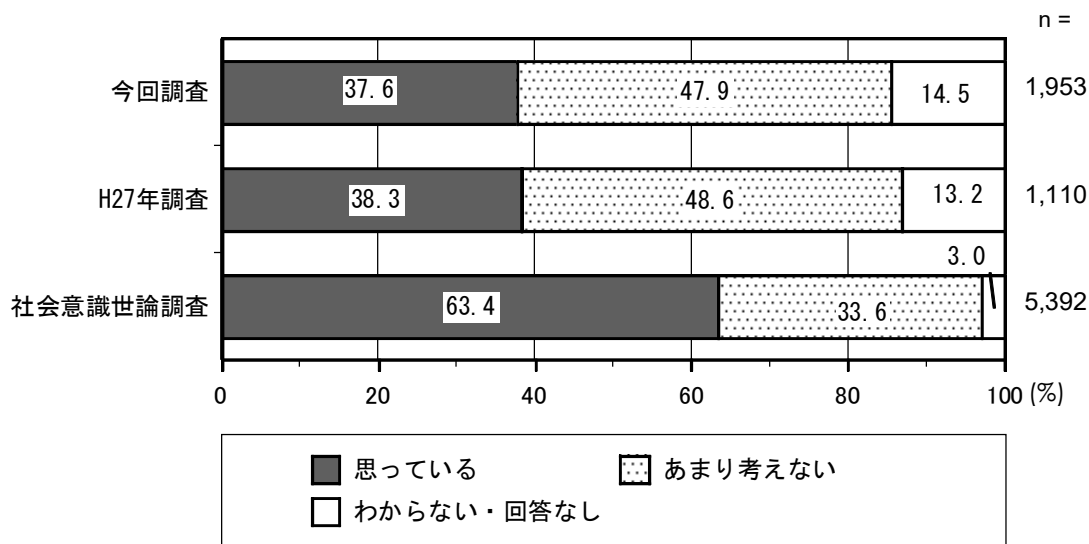
【世論調査比較】 (図 8-3-1)

- 令和2年の社会意識に関する世論調査では「思っている」が 63.4%と、「思っていない」の 33.6%を大きく上回っており、国の調査結果に比べて、本町の“社会貢献に関する意識”が低くなっています。

【性別】 (図 8-3-2)

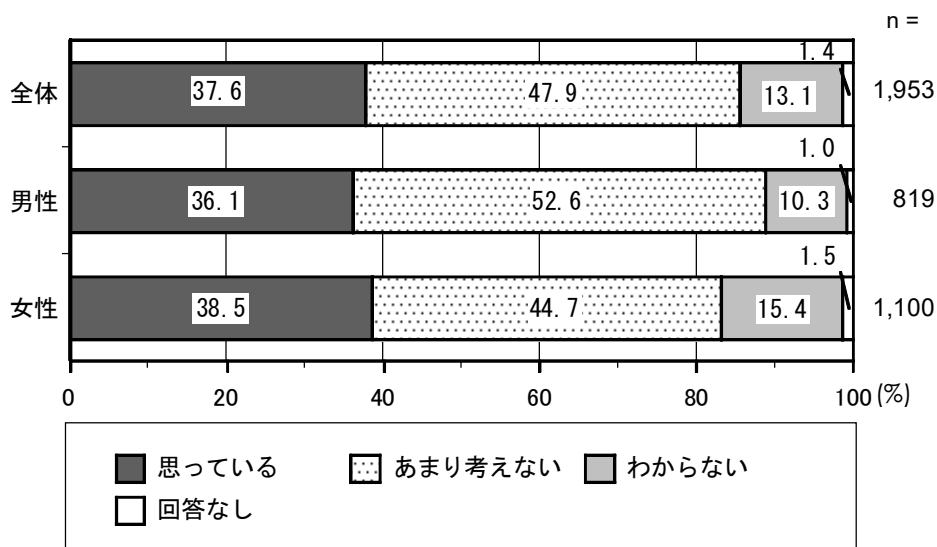
- 男性は「あまり考えない」が 52.6%と、女性より 7.9 ポイント多くなっています。

図 8-3-1 世論調査比較「社会貢献に関する意識」



社会意識に関する世論調査(令和2年1月)

図 8-3-2 性別「社会貢献に関する意識」

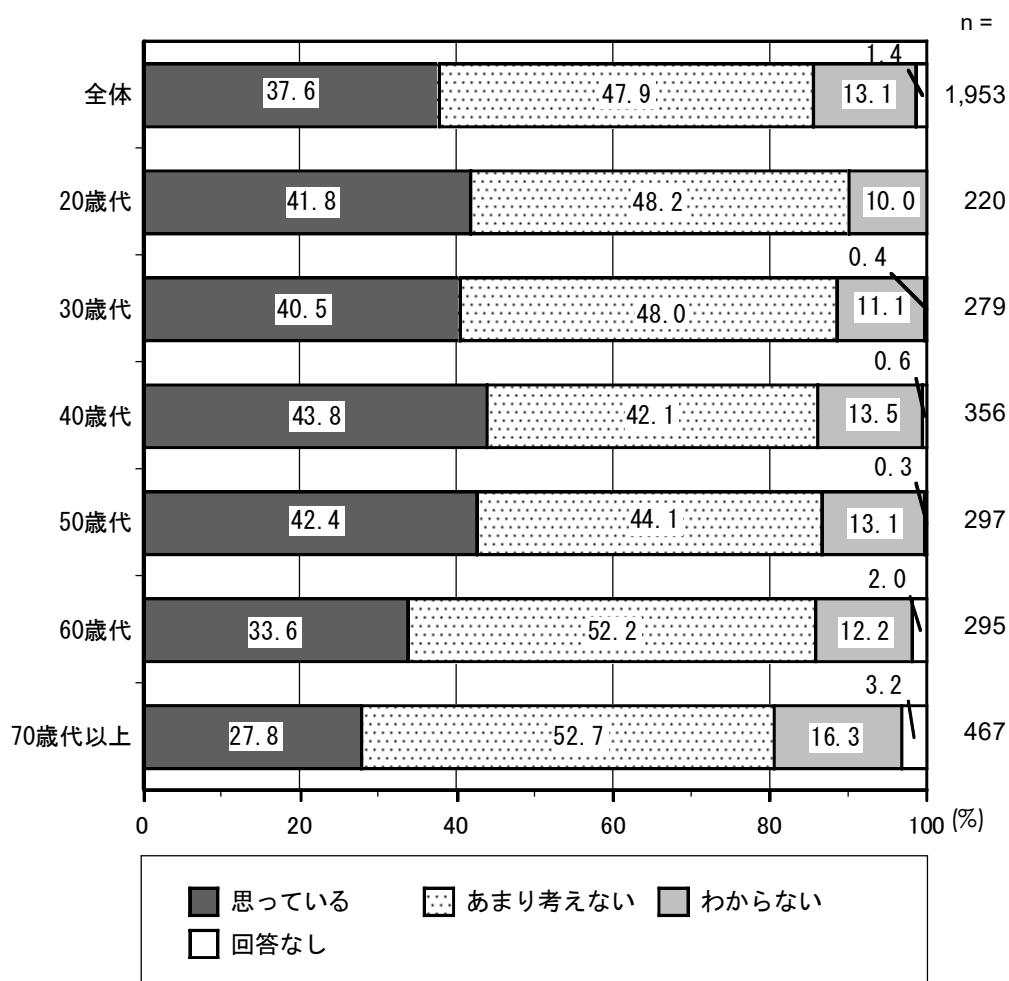


【年齢別】 (図 8-3-3)

○40 歳代において、「思っている」は 43.8% と最も多くなっています。

○60 歳代は「思っている」が 33.6%、70 歳以上は 27.8% と、高齢になるにつれて“社会貢献に関する意識”は低下しています。

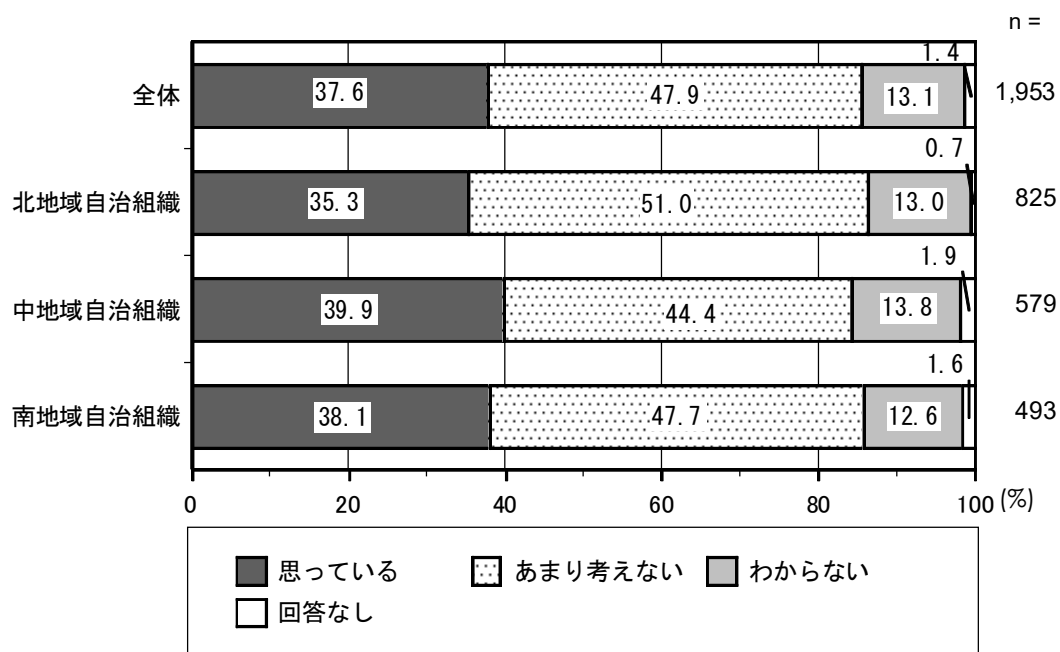
図 8-3-3 年齢別「社会貢献に関する意識」



【居住地域別】 (図 8-3-4)

○居住地域別による有意な差は認められません。

図 8-3-4 居住地域別「社会貢献に関する意識」



8-4 具体的貢献内容（問34）

問34 問33で「1. 思っている」と回答した方にお聞きします。何か社会のために役立ちたいと思っ
ているのはどのようなことですか。【回答数：あてはまるものすべてに○印】

問33で「思っている」と答えた735人のうち、38.8%が「自分の職業を通して」何か社会のために役立ちたいとしています。働く世代は「自分の職業を通して」を、子育て世代は「家事や子どもの養育を通して」をより多く選んでいます。高齢者層では、地域社会における活動を選ぶ人が多くなっています。

【全体】（図8-4-1）

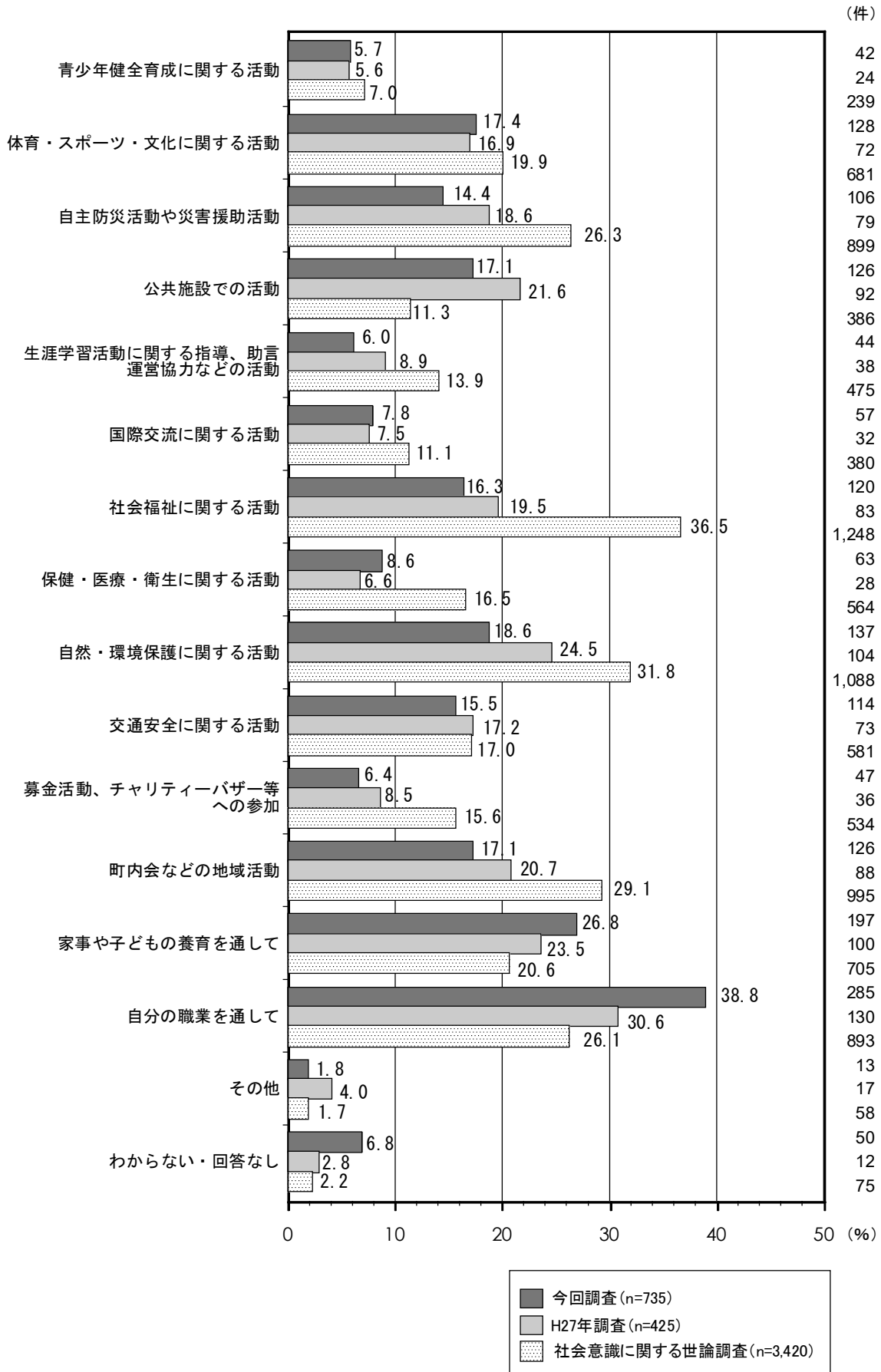
○社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと「思っている」と回答した町民735人に対して、社会貢献の具体的な内容を尋ねたところ、「自分の職業を通して」が38.8%と最も多く、「家事や子どもの養育を通して」が26.8%、「自然・環境保護に関する活動」が18.6%と続いています。

【世論調査比較】（図8-4-1）

○世論調査では、順位が大きく異なっており、大口町では7位であった「社会福祉に関する活動」が36.5%と最も多く、次いで、「自然・環境保護に関する活動」が31.8%、「町内会などの地域活動」が29.1%と多くなっています。

○大口町では1位の「自分の職業を通して」は世論調査では26.1%で、5位となっています。

図8-4-1 世論調査比較「具体的貢献内容」



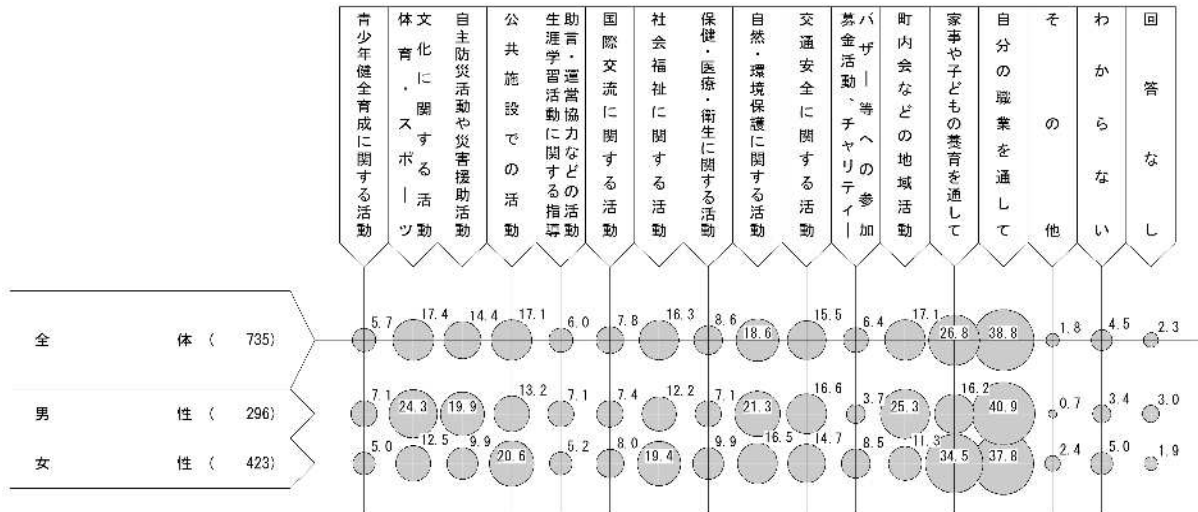
社会意識に関する世論調査(令和2年1月)

【性別】 (図 8-4-2)

○男性は「自分の職業を通して」が 40.9%と最も多く、「町内会などの地域活動」が 25.3%、「体育・スポーツ・文化に関する活動」が 24.3%と続きます。

○女性は「自分の職業を通して」が 37.8%、「家事や子どもの養育を通して」が 34.5%、「公共施設での活動」が 20.6%と続きます。

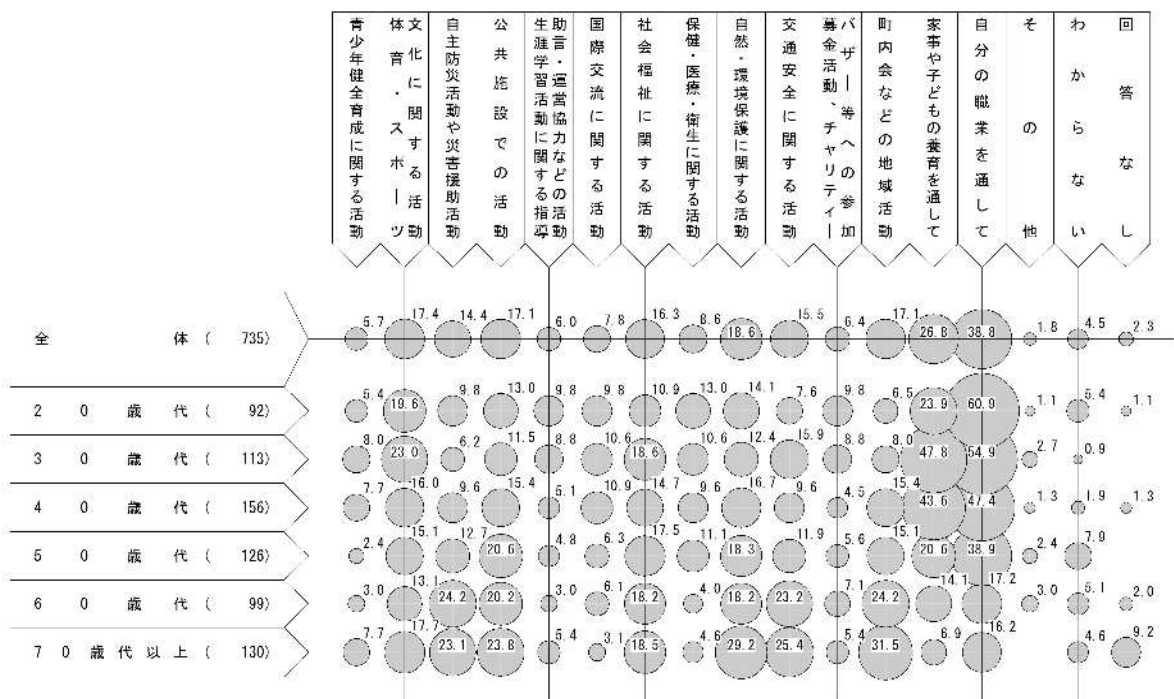
図 8-4-2 性別「具体的貢献内容」



【年齢別】 (図 8-4-3)

- 20～50 歳代の現役世代は「自分の職業を通して」が最も多く、20・30 歳代においては、半数以上の人
が選択しています。
- 「家事や子どもの養育を通して」については、子育て世代である 30 歳代で 47.8%、40 歳代で 43.6%と
多くなっています。
- 60・70 歳代は、“職業や育児を通して”ではなく、60 歳代は「自主防災活動や災害援助活動」、「町内会
などの地域活動」を、70 歳代以上は「町内会などの地域活動」を最も多く選んでおり、地域社会におけ
る活動による社会貢献をあげているのが特徴としてみられます。

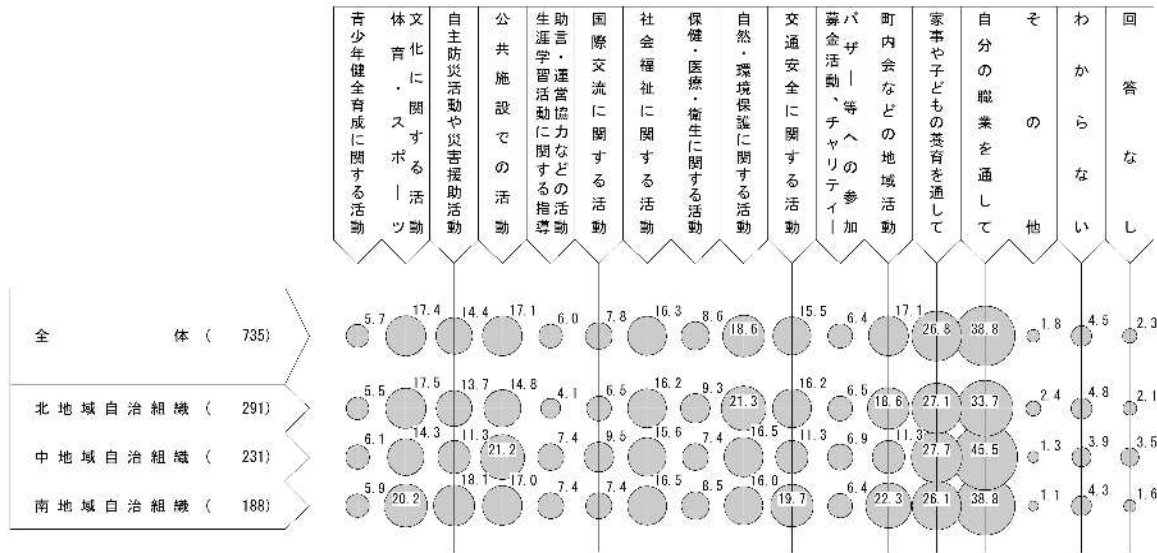
図 8-4-3 年齢別「具体的貢献内容」



【居住地域別】 (図8-4-4)

- 中地域自治組織では「自分の職業を通して」が45.5%で、全体よりも6.7ポイント上回っていますが、「町内会などの地域活動」については、全体値を5.8ポイント下回っています。
- 南地域自治組織では「町内会などの地域活動」が22.3%と全体値を5.2ポイント上回っています。

図8-4-4 居住地域別「具体的貢献内容」



9. 人や地域のつながりや地域自治活動、行政と住民の協働について

9-1 地域でのあいさつ（問35）

問35 あなたは、日常的に身近な地域の方々とあいさつをしていますか。【回答数：○印を1つだけ】

地域であいさつを「している」は38.6%、「まあしている」は41.2%と、合わせると約8割が日常的に地域の方々とあいさつをしています。高齢になるほど、日常的にあいさつをしている割合が高くなる傾向がみられます。

【全体】（図9-1-1）

○地域であいさつを「している」が38.6%、「まあしている」が41.2%と、合わせると79.8%の人が“日常的に身近な地域の方々とあいさつをしている”と回答しています。

○「あまりしていない」が6.4%、「していない」は2.3%で合わせて8.7%みられます。

【前回比較】（図9-1-1）

○平成27年調査との比較では、ほとんど差は認められません。

【性別】（図9-1-2）

○女性では「している」が41.2%を占めており、男性を6.6ポイント上回っています。

図9-1-1 前回比較「地域でのあいさつ」

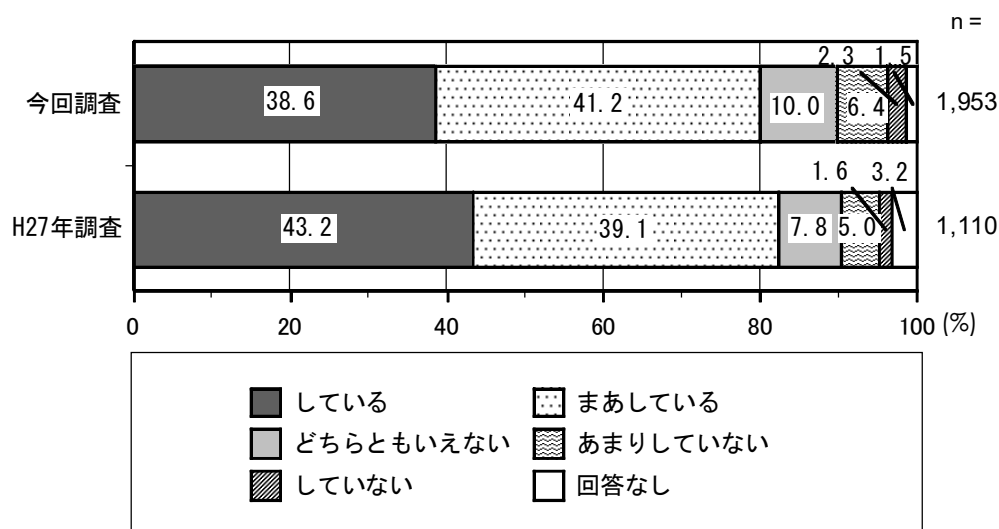
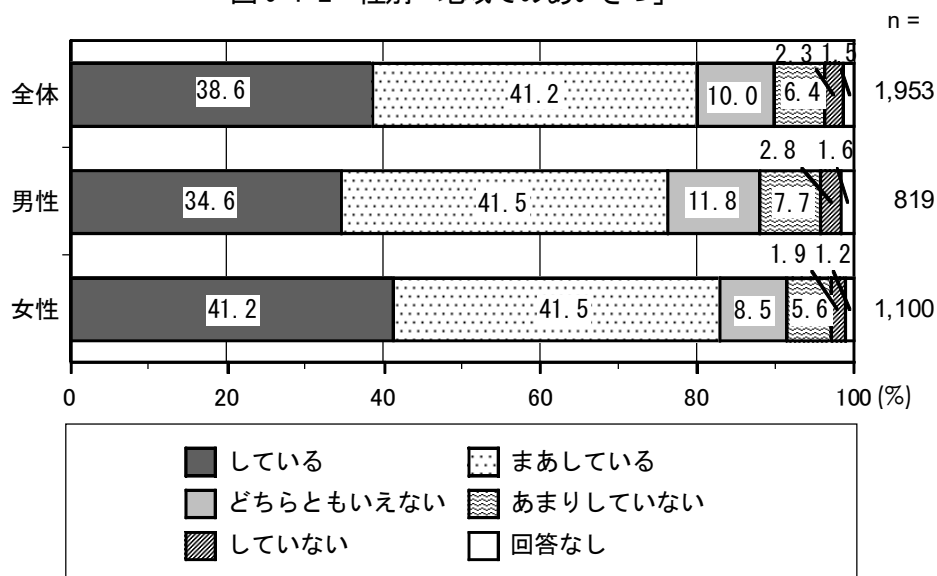


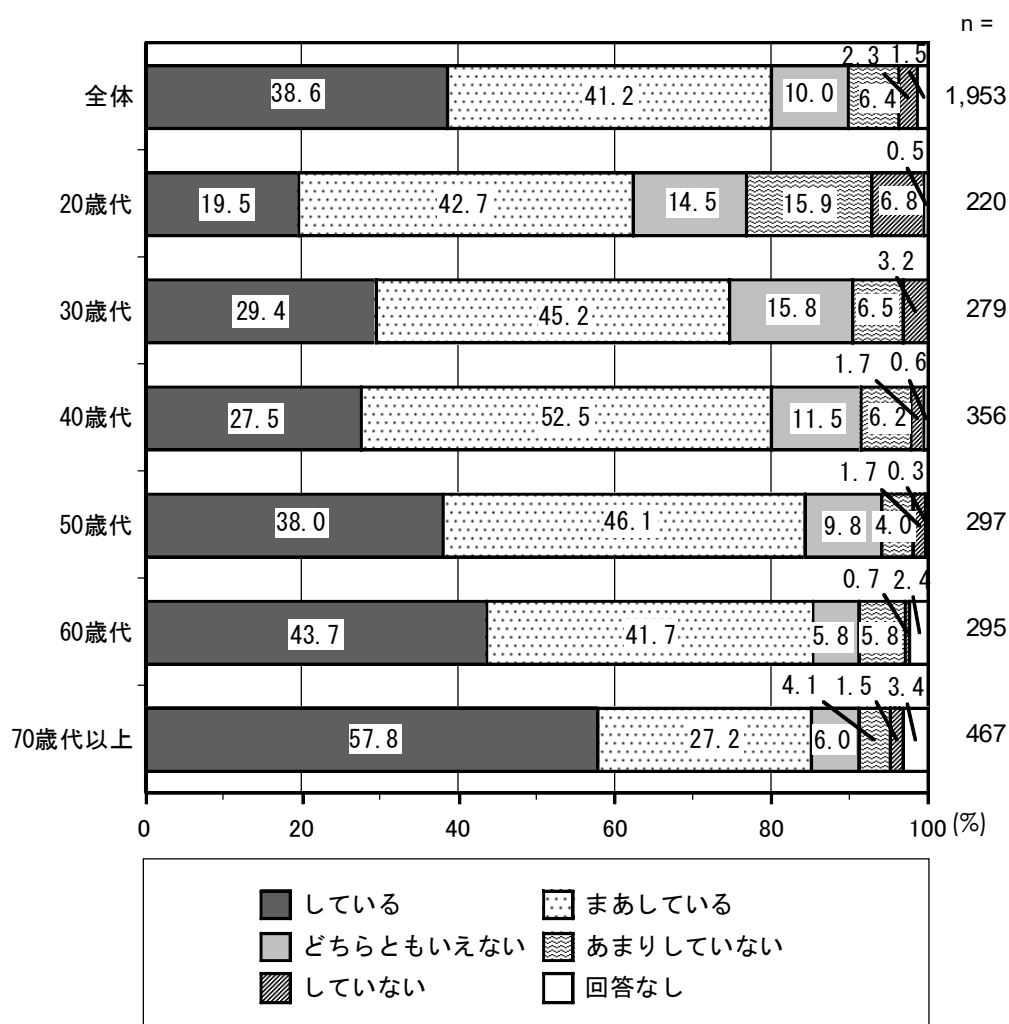
図9-1-2 性別「地域でのあいさつ」



【年齢別】 (図9-1-3)

○20歳代では「している」が19.5%、「まあしている」が42.7%、合わせて62.2%ですが、30歳代では74.6%、40歳代で80.0%、50歳代で84.1%、60歳代で85.4%、70歳代以上では85.0%となり、地域でのあいさつを行っている人は、年齢が高くなるほど多くなる傾向がみられます。

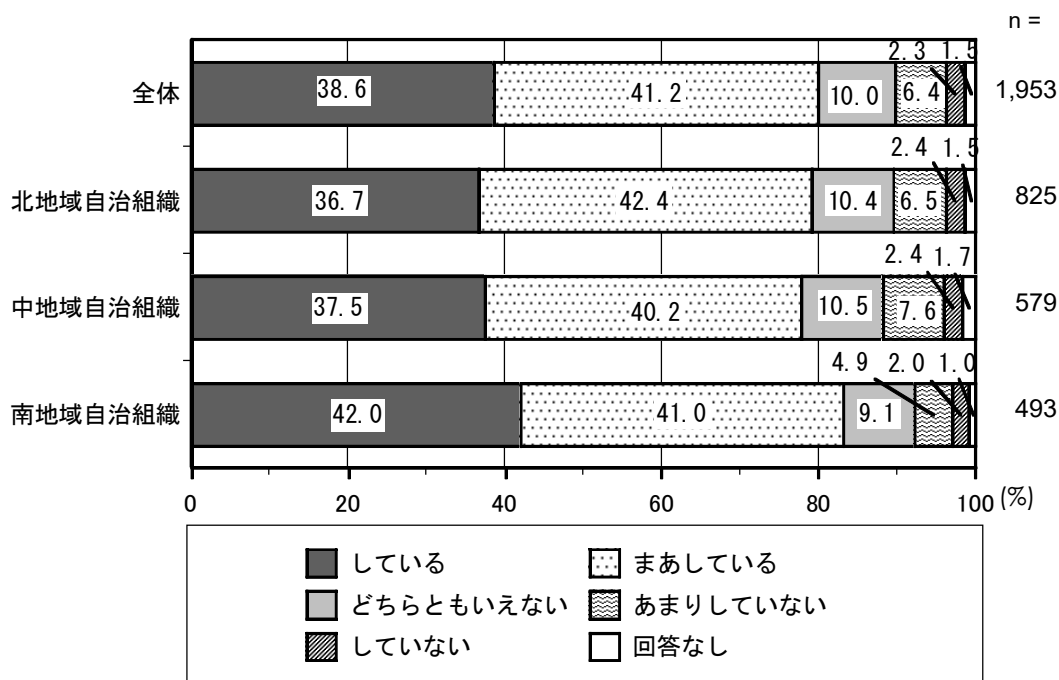
図9-1-3 年齢別「地域でのあいさつ」



【居住地域別】 (図9-1-4)

○日常的に身近な地域の方々とあいさつをしている割合は、南地域自治組織において僅かながら多くなっていますが、一般的にみて居住地域による差異はみられません。

図9-1-4 居住地域別「地域でのあいさつ」



9-2 子ども達とのあいさつ運動（問36）

問36 あなたは、登下校ですれ違う子ども達とのあいさつ運動を行っていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

登下校ですれ違う子ども達とのあいさつ運動は、42.2%が行っています。若い世代よりも高齢者で活発で、70歳代以上では約6割の人が行っています。また、南地域自治組織において特に活発に行われています。

【全体】（図9-2-1）

○登下校ですれ違う子ども達とのあいさつ運動を「まあ行っている」という人が26.8%を占め最も多く、「行っている」の15.4%を合わせると42.2%が“登下校ですれ違う子ども達とのあいさつ運動を行っている”としています。

○「あまり行っていない」（14.9%）と「行っていない」（19.5%）を合わせると34.4%とかなりの割合を占めています。なお、「どちらともいえない」は22.0%となっています。

【前回比較】（図9-2-1）

○平成27年度調査との比較では、ほとんど差は認められません。

【性別】（図9-2-2）

○あいさつ運動に参加している割合は、女性の方が男性よりも若干上回っています。

図9-2-1 前回比較「子ども達とのあいさつ運動」

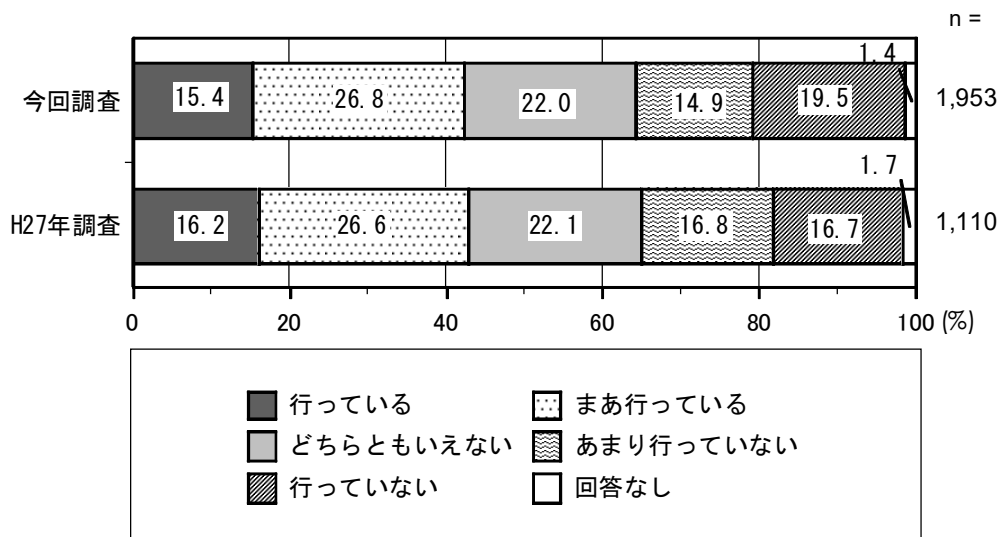
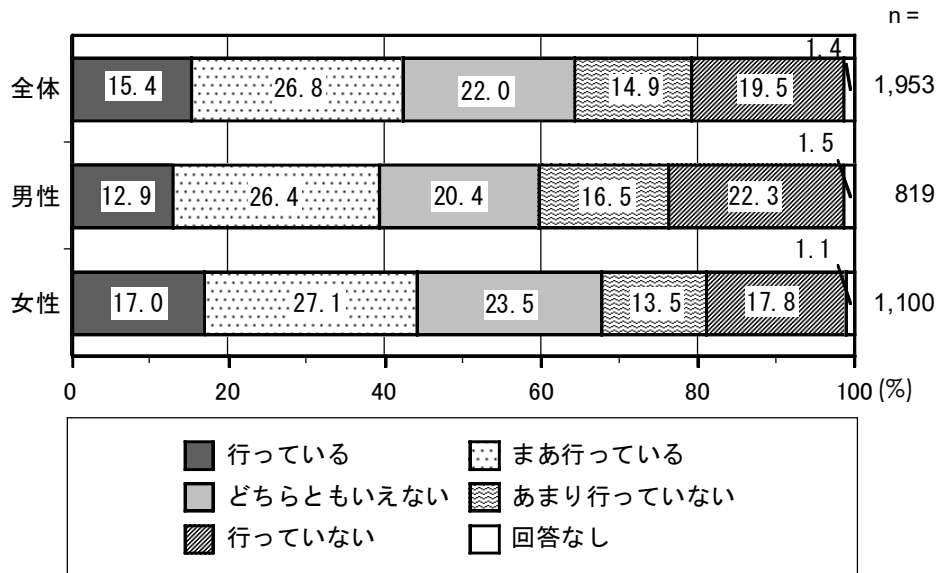


図9-2-2 性別「子ども達とのあいさつ運動」

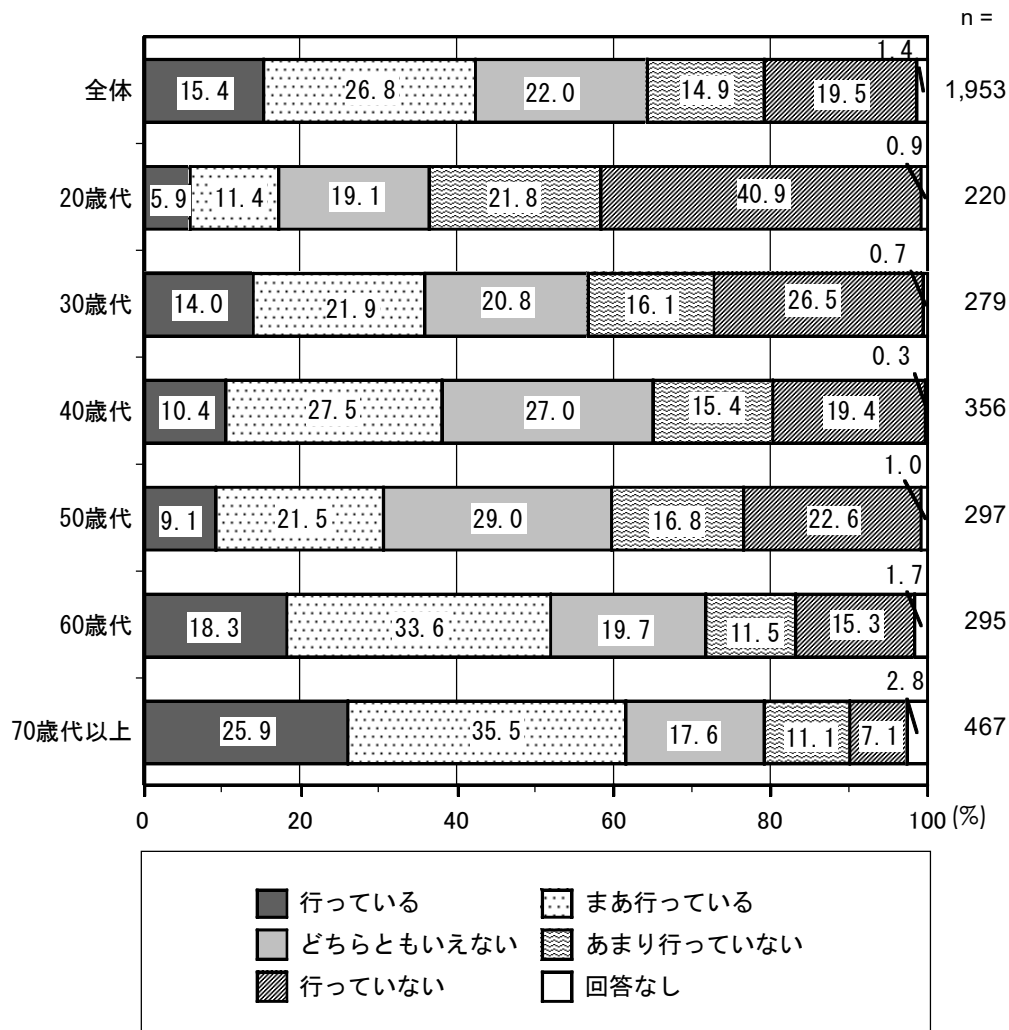


【年齢別】 (図9-2-3)

○70歳代以上において、最もあいさつ運動は活発で、「行っている」(25.9%)と「まあ行っている」(35.5%)とを合わせて61.4%の人が子どもたちとのあいさつ運動を行っています。

○20歳代では「行っている」が5.9%、「まあ行っている」が11.4%にとどまっています。

図9-2-3 年齢別「子ども達とのあいさつ運動」

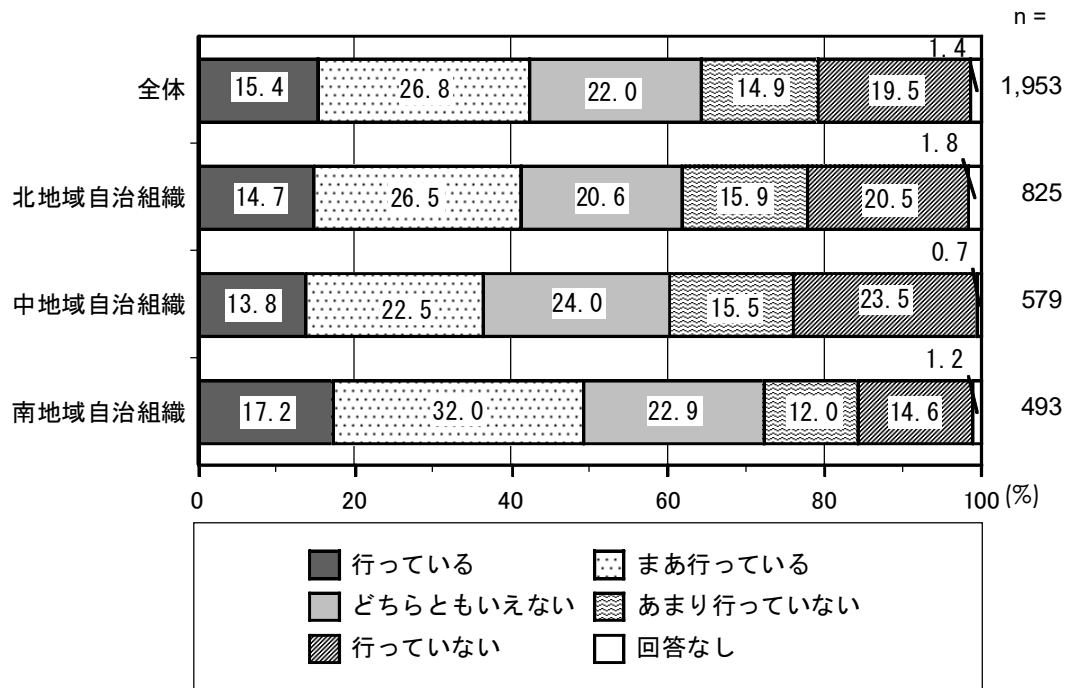


【居住地域別】 (図9-2-4)

○子ども達とのあいさつ運動は南地域自治組織において活発で、「行っている」と「まあ行っている」の合計が49.2%を占めており、全体よりも7.0ポイント上回っています。

○逆に、中地域自治組織では、「行っている」と「まあ行っている」の合計が36.3%で、全体より5.9ポイント下回っています。

図9-2-4 居住地域別「子ども達とのあいさつ運動」



9-3 高齢者・障がい者等への手助け（問37）

問 37 あなたは、高齢者や障がいのある人、ベビーカーを使っている人などまちで困っている人に出会った時、手助けをしたことがありますか。【回答数：○印を1つだけ】

「手助けをしたことがある」が 39.1%と最も多く、「そのような場面に出会ったことはないが、手助けできると思う」の 33.0%と、合わせると 72.1%の人が“まちで困っている人に出会ったら手助けする意思がある”としています。これは、前回調査から大きく変化していません。また、男性よりも女性のほうが、また 40・50 歳代において「手助けをしたことがある」人が多くなっています。

【全体】（図 9-3-1）

○高齢者や障がいのある人、ベビーカーを使っている人などまちで困っている人に出会った時に徹す消した経験について尋ねたところ、「手助けをしたことがある」が 39.1%と最も多く、「そのような場面に出会ったことはないが、手助けできると思う」は 33.0%と、合わせると 72.1%が“まちで困っている人に出会ったら手助けする意思がある”としています。

○「そのような場面に出会ったが手助けできなかった」は 2.7%、「そのような場面に出会ったとしても手助けできないと思う」は 8.7%と、“手助けする意思がない”人は 11.4%となっています。

【前回比較】（図 9-3-1）

○平成 27 年調査との比較では、ほとんど差は認められません。

【性別】（図 9-3-2）

○「手助けをしたことがある」という回答は、女性では 42.0%と男性よりも 6.3 ポイント多くなっています。

○その分、男性では「そのような場面に出会ったとしても手助けできないと思う」という回答が 11.5%と女性に比べて 4.9 ポイント多くなっています。

図 9-3-1 前回比較「高齢者・障がい者等への手助け」

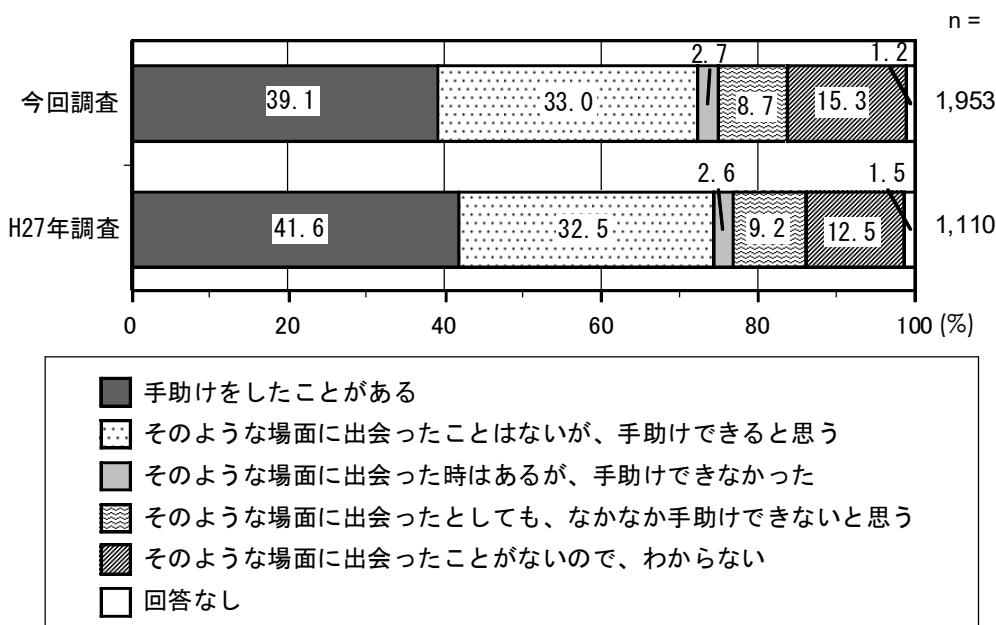
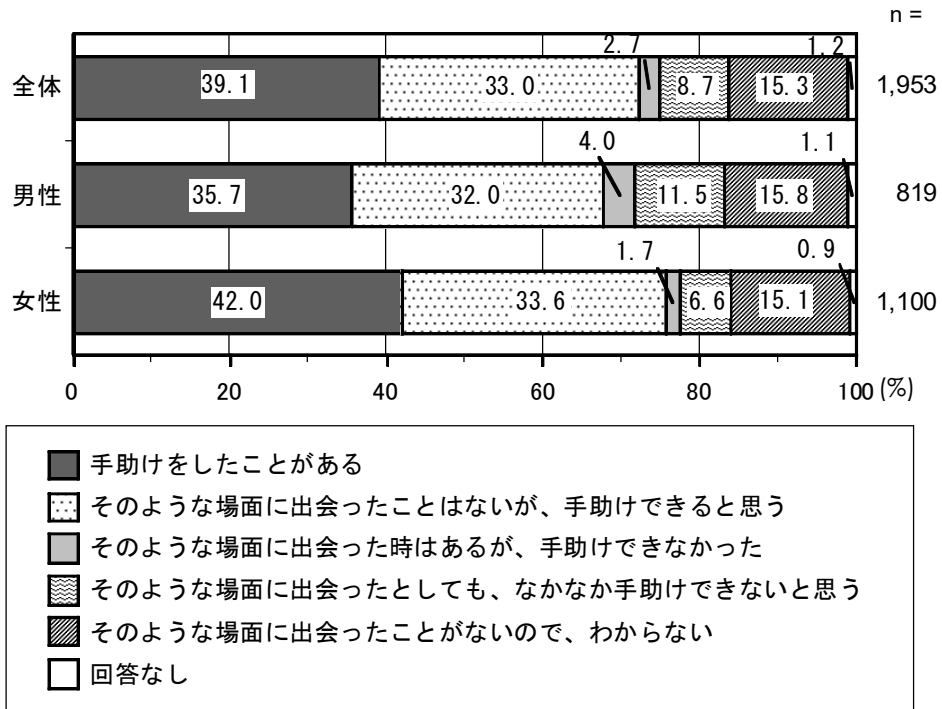


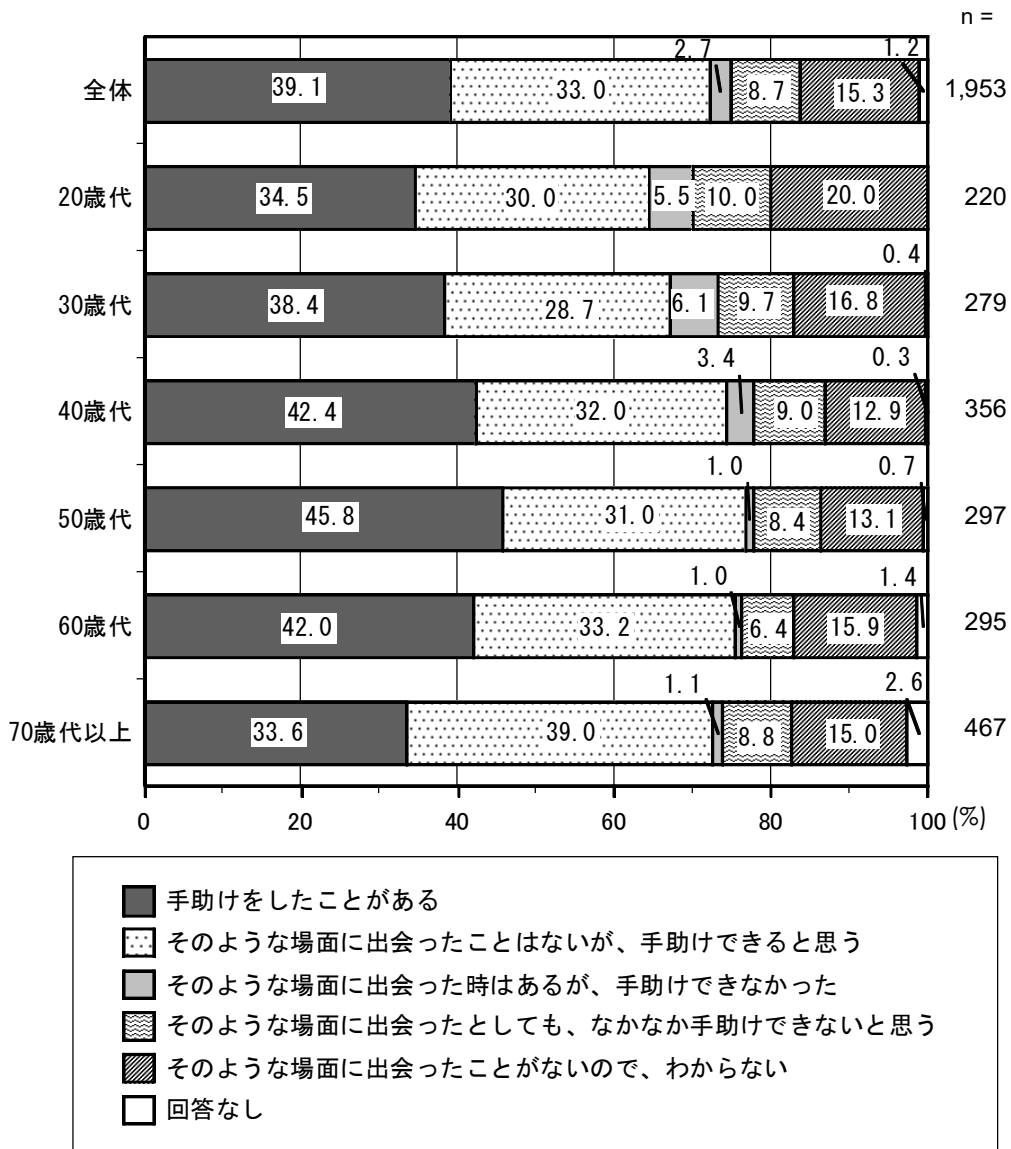
図9-3-2 性別「高齢者・障がい者等への手助け」



【年齢別】 (図 9-3-3)

- “まちで困っている人に出会ったら手助けする意思がある” という人は一番少ない 20 歳代でも 67.5% を占めています。
- 「手助けしたことがある」は、40 歳代で 42.4% と他の年齢層に比べて若干多くなっています。
- 70 歳代以上では、「手助けしたことがある」は全体より少ないのですが、「そのような場面に出会ったら手助けできると思う」は 39.0% と若干多くなっています。

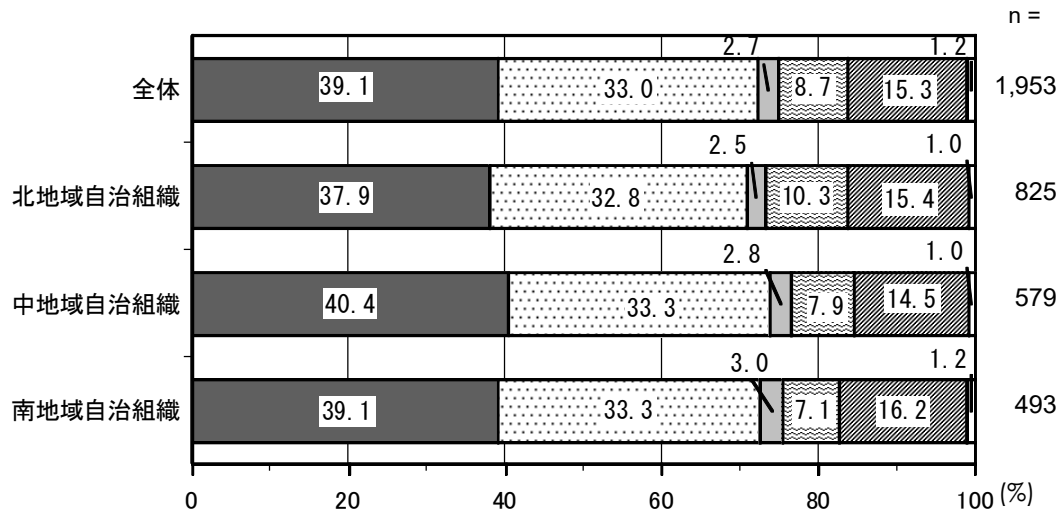
図 9-3-3 年齢別「高齢者・障がい者等への手助け」



【居住地域別】 (図9-3-4)

○居住地域別による有意な差は認められません。

図9-3-4 居住地域別「高齢者・障がい者等への手助け」



- 手助けをしたことがある
- ▨ そのような場面に出会ったことはないが、手助けできると思う
- ▩ そのような場面に出会った時はあるが、手助けできなかった
- ▧ そのような場面に出会ったとしても、なかなか手助けできないと思う
- ▦ そのような場面に出会ったことがないので、わからない
- 回答なし

9-4 地域自治組織の認知（問 38）

問 38 大口町では、平成 22 年にまちづくり基本条例を制定し、これに基づき 3 つの小学校区毎に地域自治組織を設置して、行政区の範囲を超えた地域の課題を把握してその改善等を進めていくための活動を始めています。あなたは、こうしたことをご存じですか。【回答数：○印を 1 つだけ】

地域自治組織活動への参加は 3.5%、「活動に関わっていないが概ね知っている」は 12.9%、「設立したこと程度は知っている」は 24.7%をそれぞれ占めており、合わせて地域自治組織について何らか知っているという人は 41.1%を占めています。しかしながら、「設立されていることも知らない」という人が 56.5%と過半数を占めており、何らか知っている人の割合を 15.4ポイントも上回っています。20・30 歳代若い世代の認知度は低いですが、年齢が上がるにつれて認知度も上がり、70 歳代以上では 6 割以上の人がある存在を知っています。また、南地域自治組織では他の地域に比べ、認知度が高くなっています。

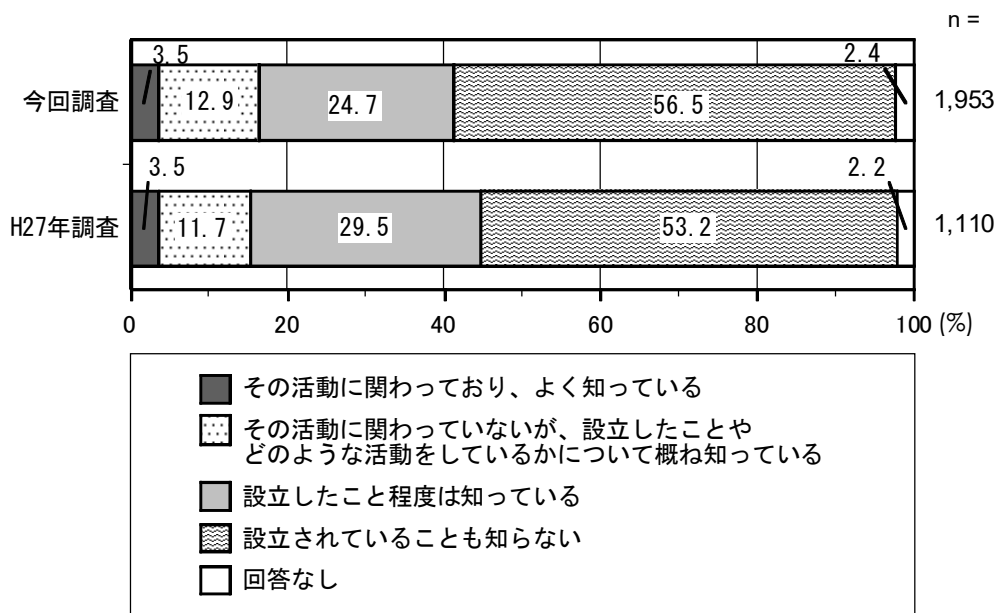
【全体】（図 9-4-1）

- 地域自治組織を「設立されていることも知らない」という人が 56.5%と過半数を占めています。
- 以下、「設立したこと程度は知っている」が 24.7%、「その活動に関わっていないが、設立したことやどのような活動をしているかについて概ね知っている」が 12.9%、「その活動に関わっており、よく知っている」が 3.5%と続き、地域自治組織活動は程度に差はあれ、41.1%の町民が地域自治組織について何らか知っています。

【前回比較】（図 9-4-1）

- 平成 27 年調査と比べると地域自治組織について何らか知っている人の割合は、僅かながら少なくなっています。

図 9-4-1 前回比較「地域自治組織の認知」

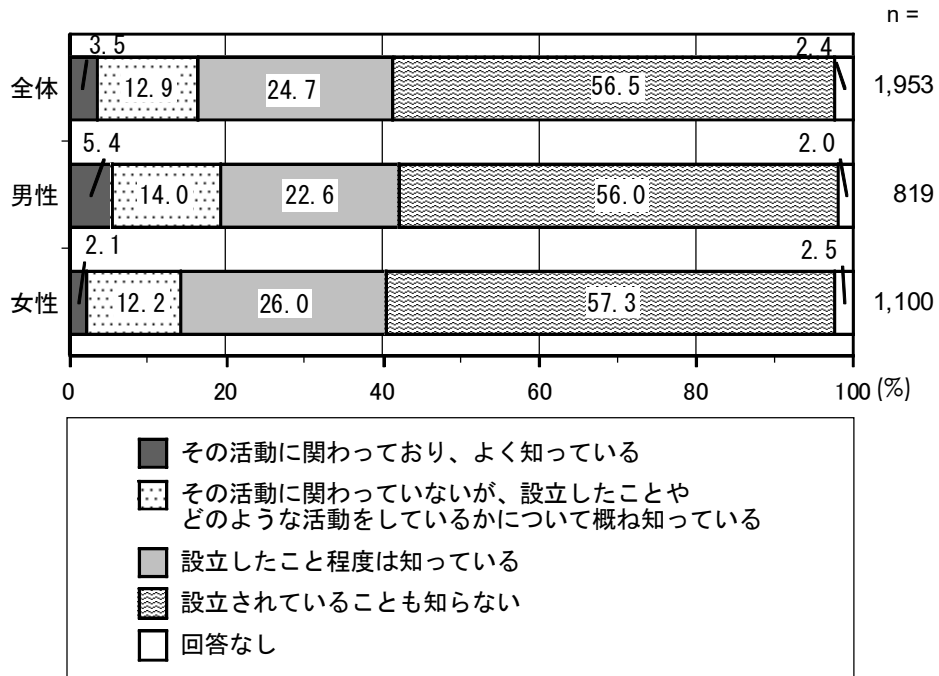


【性別】 (図 9-4-2)

○男性は「その活動に関わっており、よく知っている」が女性より 3.3 ポイント多くなっており、活動しているのは男性が多い状況がうかがえます。

○女性は「設立したこと程度は知っている」が男性より 3.4 ポイント多くなっています。

図 9-4-2 性別「地域自治組織の認知」

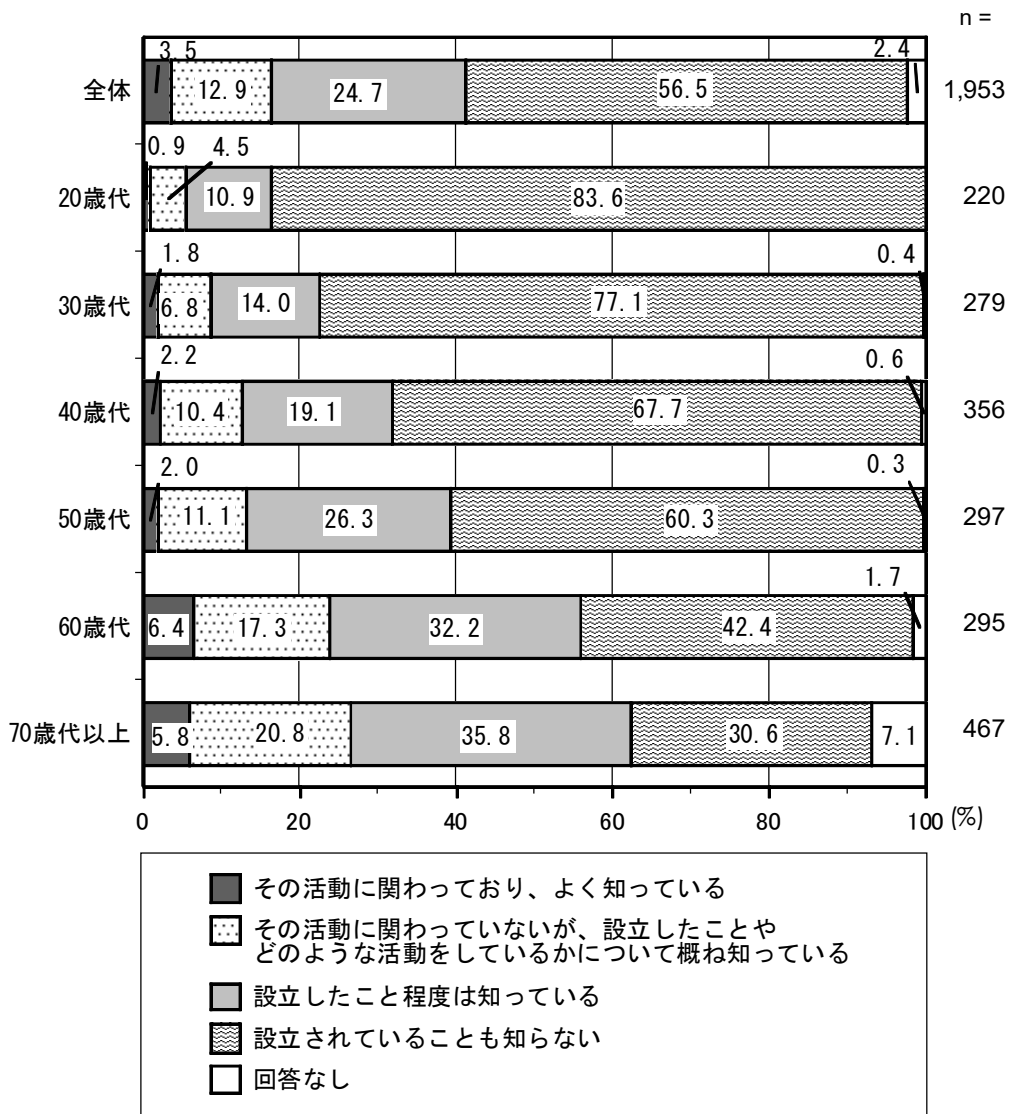


【年齢別】 (図 9-4-3)

○地域自治組織の認知度は年齢別で大きな差があり、「設立されていることも知らない」が 20 歳代では 83.6%、30 歳代では 77.1%を占めています。

○認知度は、20 歳代では 16.3%、30 歳代は 22.6%、40 歳代は 31.7%、50 歳代は 39.4%、60 歳代は 55.9%、70 歳代以上では 62.4%とついでに年齢が上がるにつれて多くなる傾向がみられます。

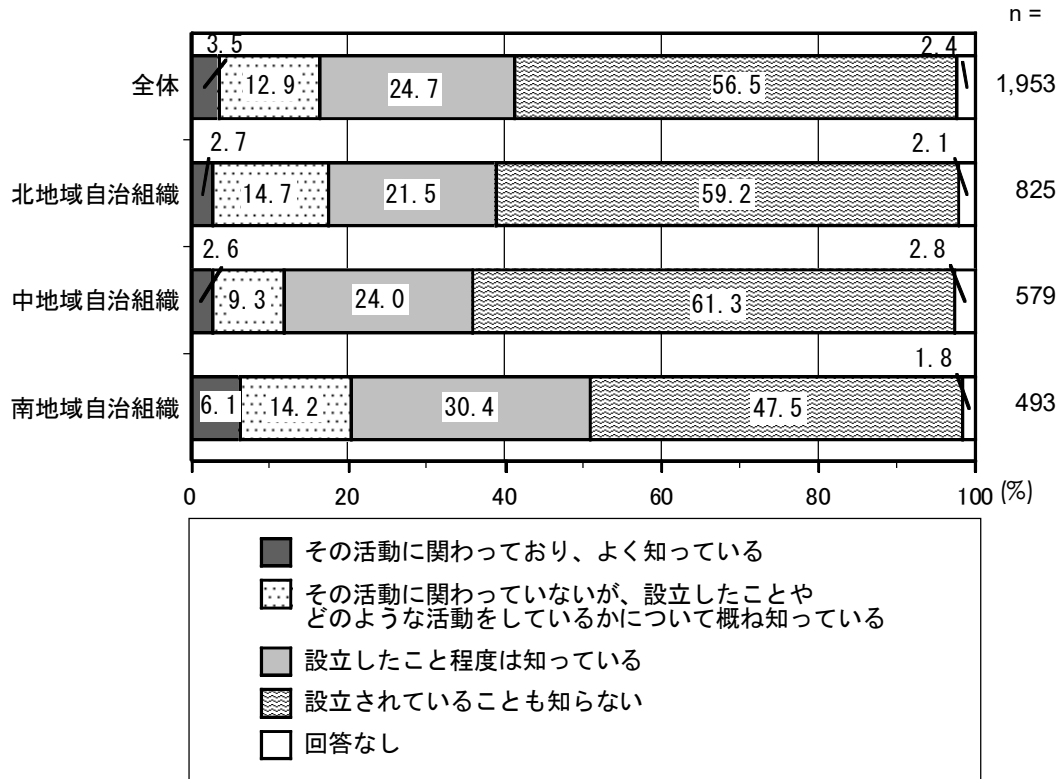
図 9-4-3 年齢別「地域自治組織の認知」



【居住地域別】 (図9-4-4)

○南地域自治組織における地域自治組織の認知度 (50.7%) が高く、中地域自治組織における認知度が若干低くなっています。

図9-4-4 居住地域別「地域自治活動の認知」



9-5 地域自治組織への参加意向（問 39）

問 39 あなたは、地域自治組織の活動に参加したいと思いますか。 【回答数：○印を1つだけ】

「既に参加している」は 5.9%、「参加したいと思う」は 19.0%と合わせると“地域自治組織への今後の参加意向”は、24.9%となっています。男性の参加意向は、女性よりも高くなっています。また、20 歳代では「興味もない」とする人が多く、活動への理解を呼びかける必要があります。また、組織の認知度が高いほど参加意向も高くなっており、積極的な情報発信が求められます。

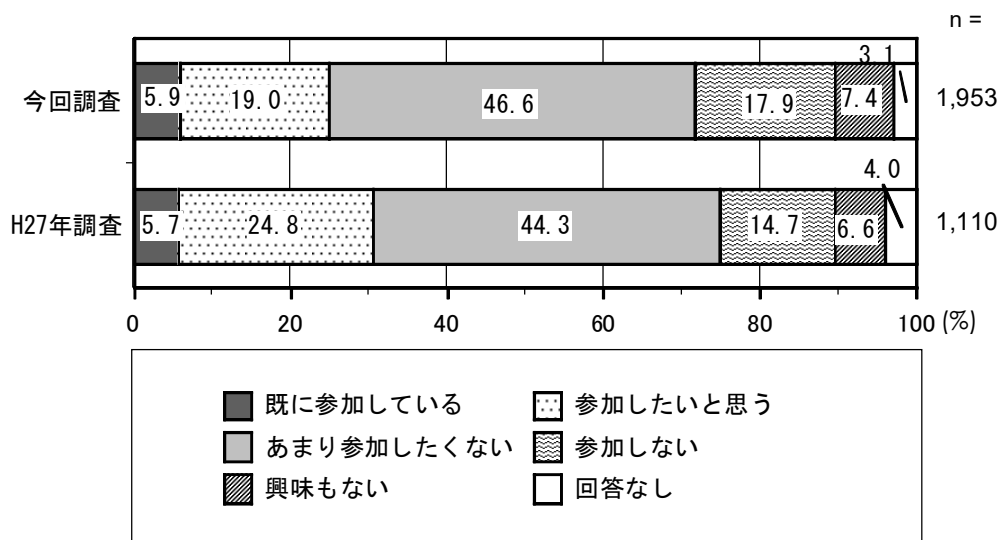
【全体】（図 9-5-1）

- 「あまり参加したくない」が 46.6%と最も多くなっています。
- 「参加したいと思う」は 19.0%であり、「既に参加している」の 5.9%を合わせると“参加意向がある”という人は 24.9%を占めています。
- 「参加しない」は 17.9%、「興味もない」は 7.4%となっています。

【前回比較】（図 9-5-1）

- 平成 27 年調査との比較では、今回調査が「参加したいと思う」で 5.8 ポイント減少しており、その一方で、「参加しない」が僅かですが増加しています。

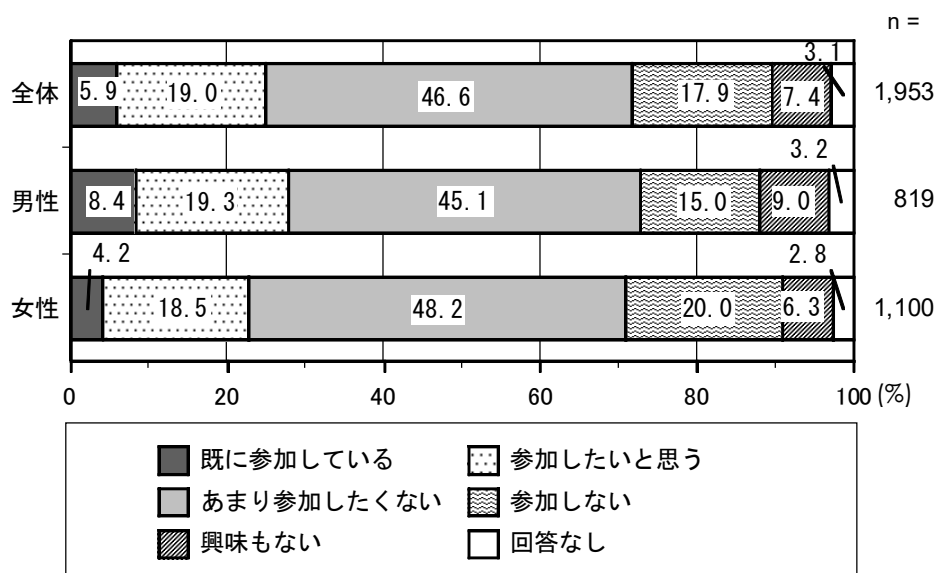
図 9-5-1 前回比較「地域自治組織への参加意向」



【性別】 (図 9-5-2)

○ “参加意向がある” という人は女性では22.7%であり、男性 (27.7%) よりも若干少なくなっています。

図 9-5-2 性別「地域自治組織への参加意向」

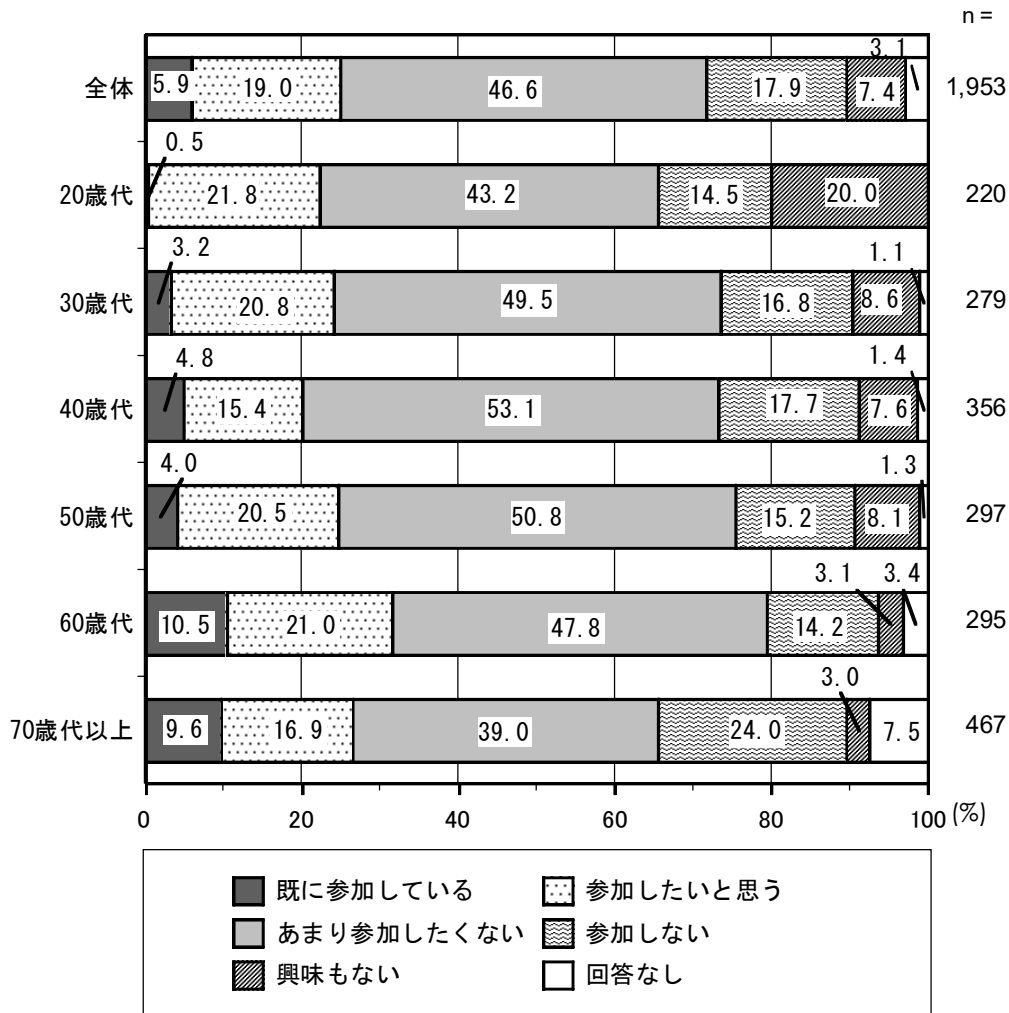


【年齢別】 (図 9-5-3)

○ “参加意向がある” という人は40歳代で20.2%と最も少なくなっています。また、20歳代では「既に参加している」が0.5%と他の世代に比べて極めて少なく、また「興味もない」が20.0%と最も多くなっています。

○ 一方、“参加意向がある” という人は60歳代において31.5%を占めており、他の年齢層にくらべて多くなっています。

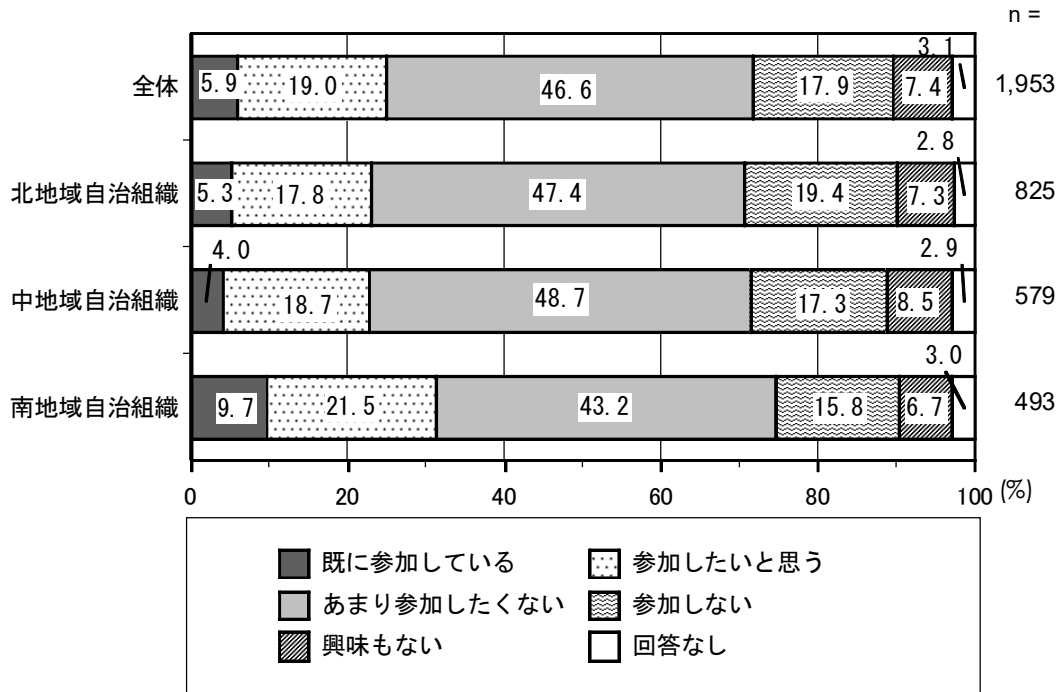
図 9-5-3 年齢別「地域自治組織への参加意向」



【居住地域別】 (図9-5-4)

○ “南地域自治組織における参加意向がある” という人に割合は31.2%を占め、他の地域よりも多くなっていることが特徴としてみられます。

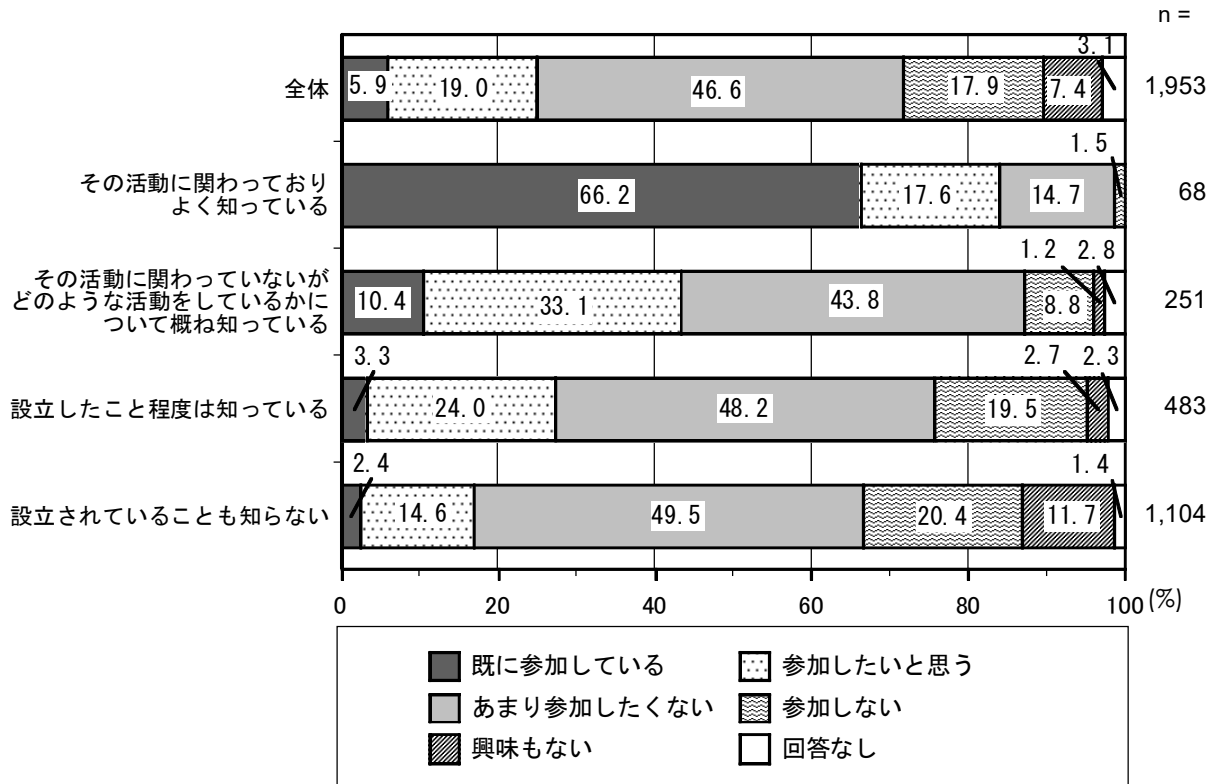
図9-5-4 居住地域別「地域自治組織への参加意向」



【地域自治組織の認知別】 (図 9-5-5)

○問 38 の地域自治組織の認知度との関係を見ると、認知度が高いほど「既に参加している」「参加したいと思う」の割合が多くなっています。今後、地域自治組織への参加を促していくために、積極的な情報発信が不可欠であることがわかります。

図 9-5-5 地域自治組織の認知別「地域自治組織への参加の意向」



9-6 ボランティア活動への参加 (問40)

問40 あなたは、ここ1年間の中で、ボランティア活動にどの程度参加していますか。

【回答数：○印を1つだけ】

程度に差はあれ、現在“ボランティア活動に参加している”人は全体の20.1%であるのに対し、“参加していない”人は78.6%と大きく上回りますが、そのうち12.8%が「参加する考えはあるが、参加できていない」と答えており、また若い世代において、参加率が非常に低いことから、参加できない理由を明らかにして、多様な参加方法を考える必要があります。

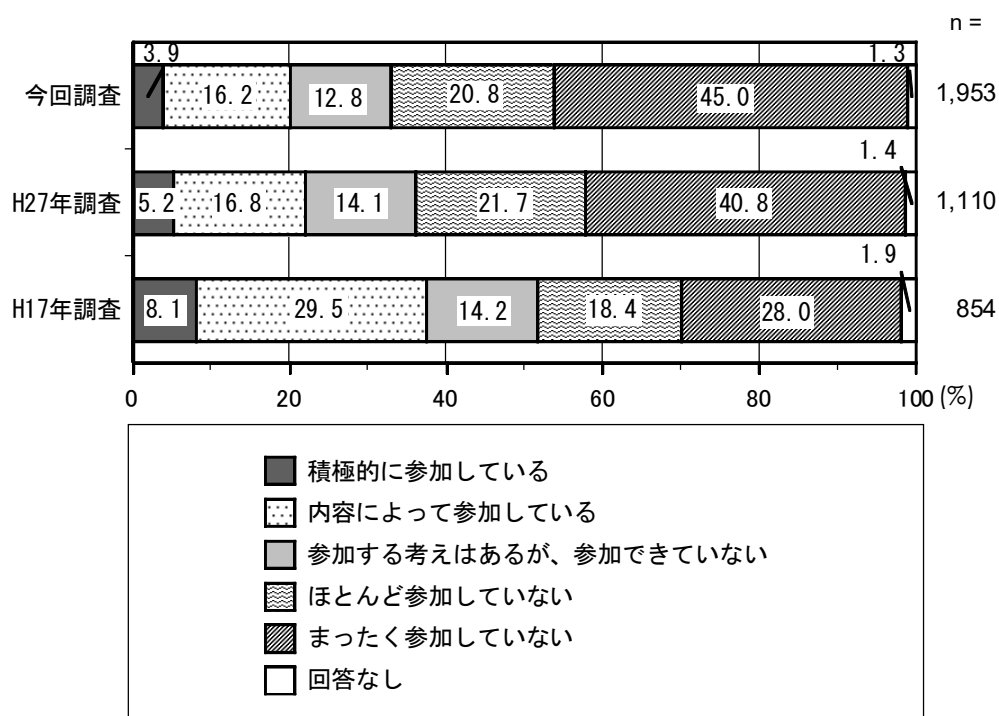
【全体】 (図9-6-1)

- 「まったく参加していない」が45.0%と最も多く、「ほとんど参加していない」が20.8%と続きます。
- 「積極的に参加している」は3.9%、「内容によって参加している」は16.2%で、現在の参加割合は、合わせて20.1%、「参加する考えはあるが、参加できていない」は12.8%となっています。

【前回・前々回比較】 (図9-6-1)

- 平成27年調査に比べて「まったく参加していない」が僅か4.2ポイントですが増加しています。
- 平成17年調査からは、「積極的に参加している」が4.2ポイント、「内容によって参加している」が13.3ポイントそれぞれ減少しています。

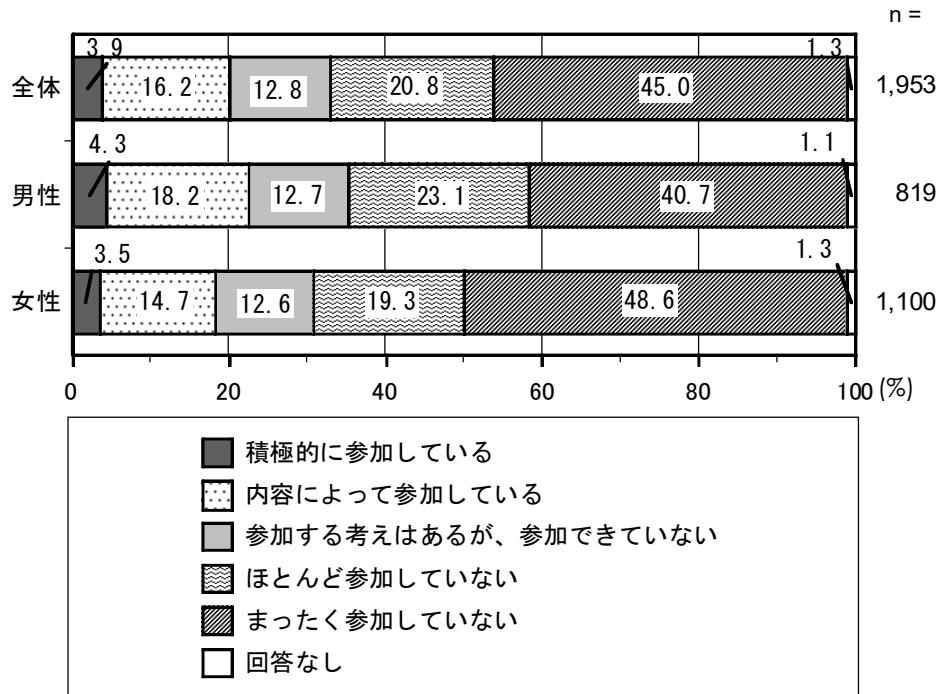
図9-6-1 前回・前々回比較「ボランティア活動への参加」



【性別】 (図 9-6-2)

○ “ボランティア活動への参加状況・参加意欲” は男性の方が女性よりも高くなっています。

図 9-6-2 性別「ボランティア活動への参加」

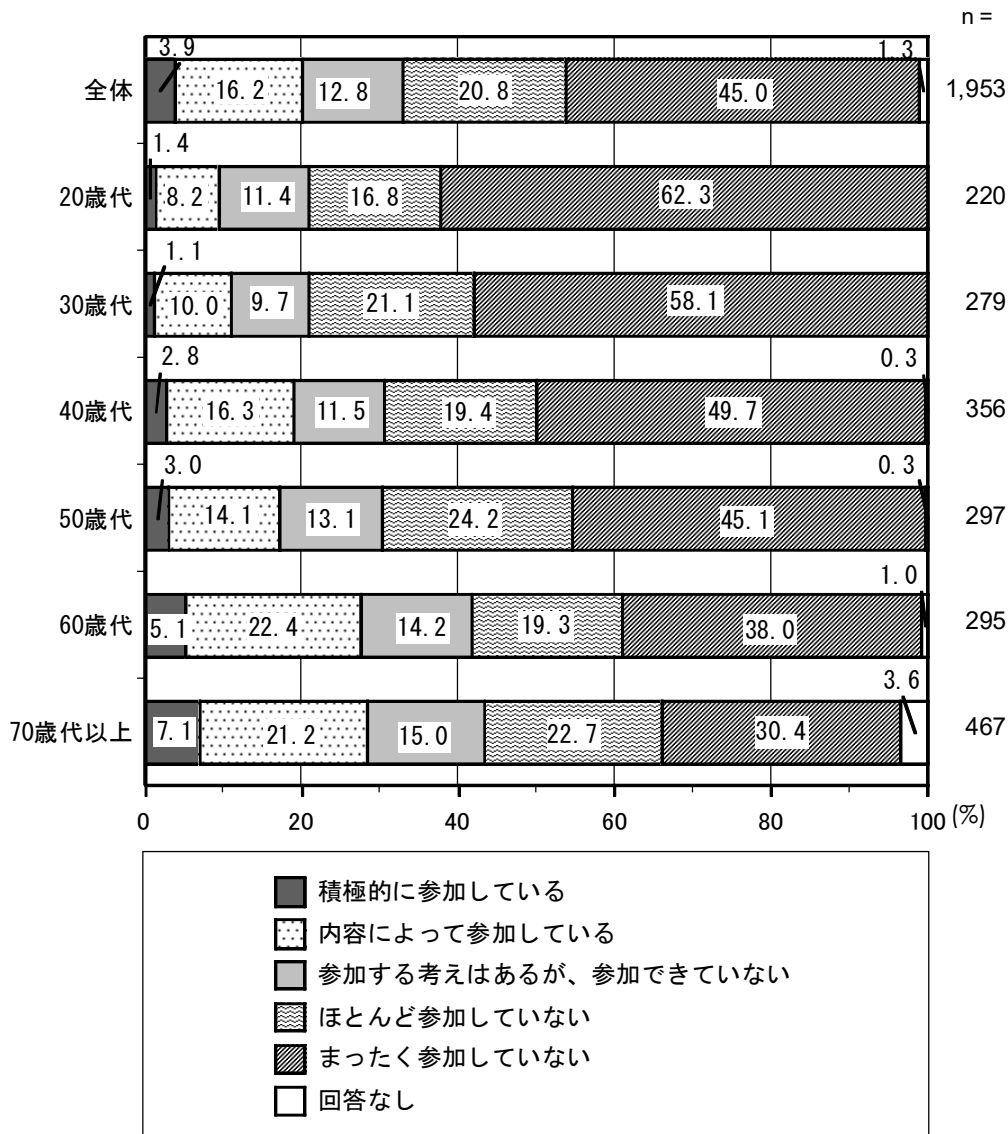


【年齢別】 (図 9-6-3)

○「積極的に参加している」は60歳代で5.1%、70歳代以上で7.1%、「内容によって参加している」は60歳代で22.4%、70歳代以上で21.2%となっており、“ボランティアに参加している”という人は合わせて27.5%、28.3%と他の年齢層に比べて多くなっています。

○一方、“ボランティアに参加している”という人は、20歳代では、9.6% (1.4%+8.2%)、30歳代では、11.1% (1.1%+10.0%)にとどまっており、他の世代に比べて少なくなっています。

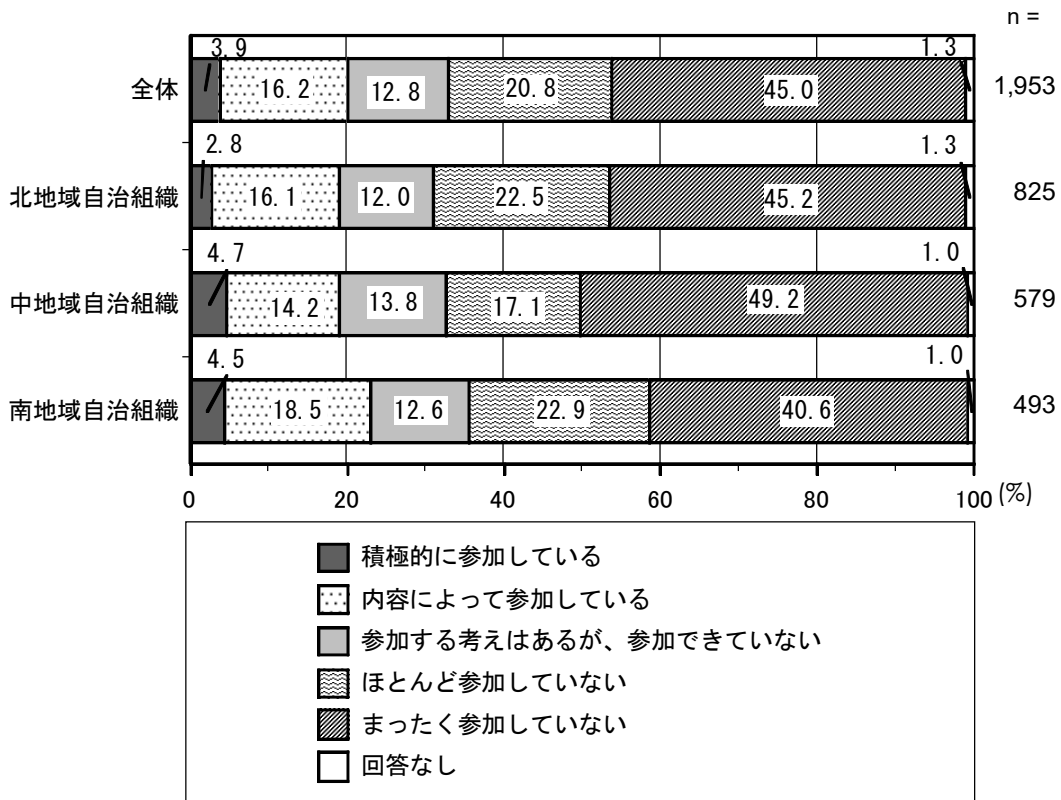
図 9-6-3 年齢別「ボランティア活動への参加」



【居住地域別】 (図9-6-4)

○南地域自治組織は、「まったく参加していない」が40.6%と全体よりも若干少なくなっていますが、一般的にみて居住地域による差異はみられません。

図9-6-4 居住地域別「ボランティア活動への参加」



9-7 住民の町行政への関わり (問 41)

問41 住民の町行政への関わりについて、あなたのお考えに最も近いのはどれですか。

【回答数：○印を1つだけ】

“住民の町行政への関わり方”は、「事前に住民の意見を聞いて行政が施策・計画をつくり、それを実施すればよい」と「住民参加により施策・計画をつくり住民と行政が協力し実施するべき」にほぼ二分され、行政か住民のどちらかのみが主体となるのではなく、協働が望まれています。

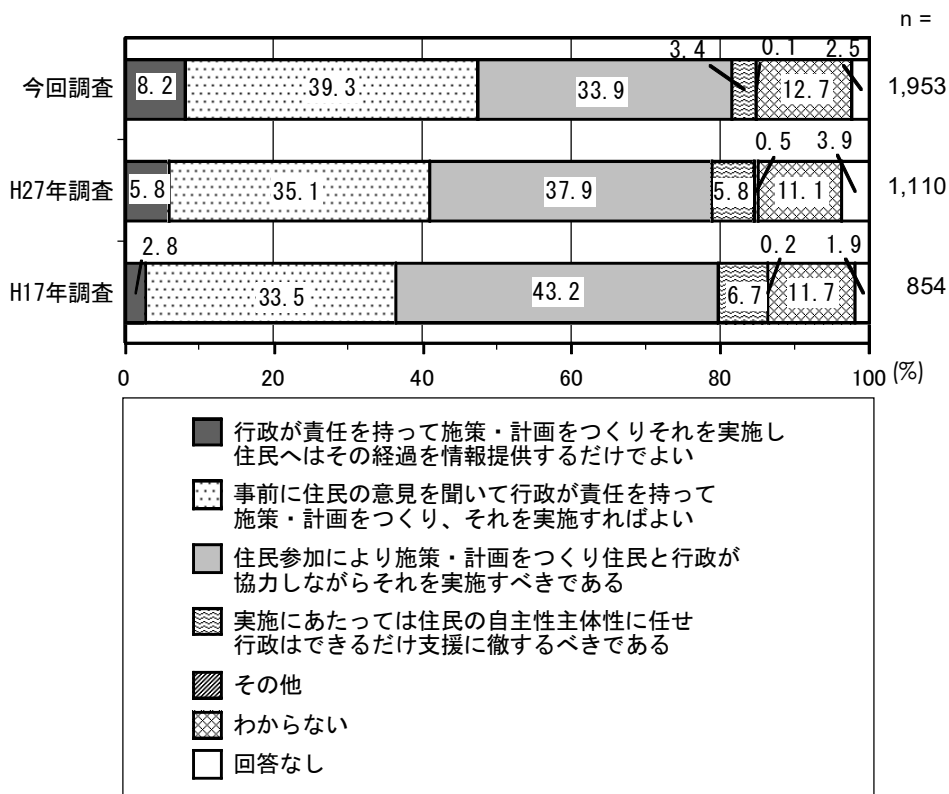
【全体】 (図 9-7-1)

- 「事前に住民の意見を聞いて行政が施策・計画をつくり、それを実施すればよい」が39.3%と最も多く、「住民参加により施策・計画をつくり住民と行政が協力し実施するべき」が33.9%と続きます。
- 「行政が責任を持って施策・計画をつくりそれを実施し、住民へはその経過を情報提供するだけでよい」は8.2%、「実施にあたっては住民の自主性主体性に任せ行政は支援に徹するべき」は3.4%です。

【前回・前々回比較】 (図 9-7-1)

- 平成27年調査からは、「事前に住民の意見を聞いて行政が施策・計画をつくり、それを実施すればよい」が4.2ポイント増加しています。また、「行政が責任を持って施策・計画をつくりそれを実施し、住民へはその経過を情報提供するだけでよい」についても僅かながらポイントアップしており、その分、「住民参加により施策・計画をつくり住民と行政が協力し実施するべき」が4.0ポイントと僅かではあるものの少なくなっています。
- さらに、平成17年調査からは、「事前に住民の意見を聞いて行政が施策・計画をつくり、それを実施すればよい」が5.8ポイント、「行政が責任を持って施策・計画をつくりそれを実施し、住民へはその経過を情報提供するだけでよい」が5.4ポイントそれぞれ増加しており、「住民参加により施策・計画をつくり、住民と行政が協力しながらそれを実施すべきである」が9.3ポイント減少しています。
- 徐々に行政への依存意識が高まっている状況がうかがえる結果となっています。

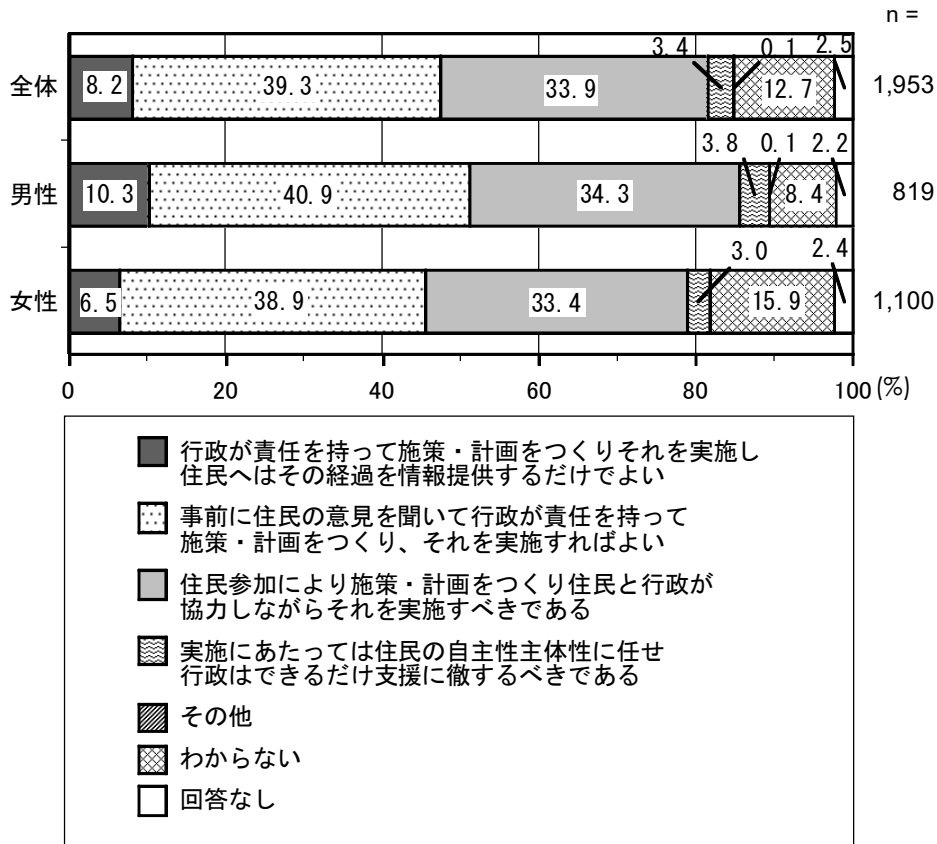
図 9-7-1 前回・前々回比較「住民の町行政への関わり」



【性別】 (図 9-7-2)

○「行政が責任を持って施策・計画をつくりそれを実施し、住民へはその経過を情報提供するだけでよい」の割合は、男性で10.3%と、女性(6.5%)より3.8ポイント多くなっており、女性よりも男性の方が行政依存が強い結果になっています。

図 9-7-2 性別「住民の町行政への関わり」

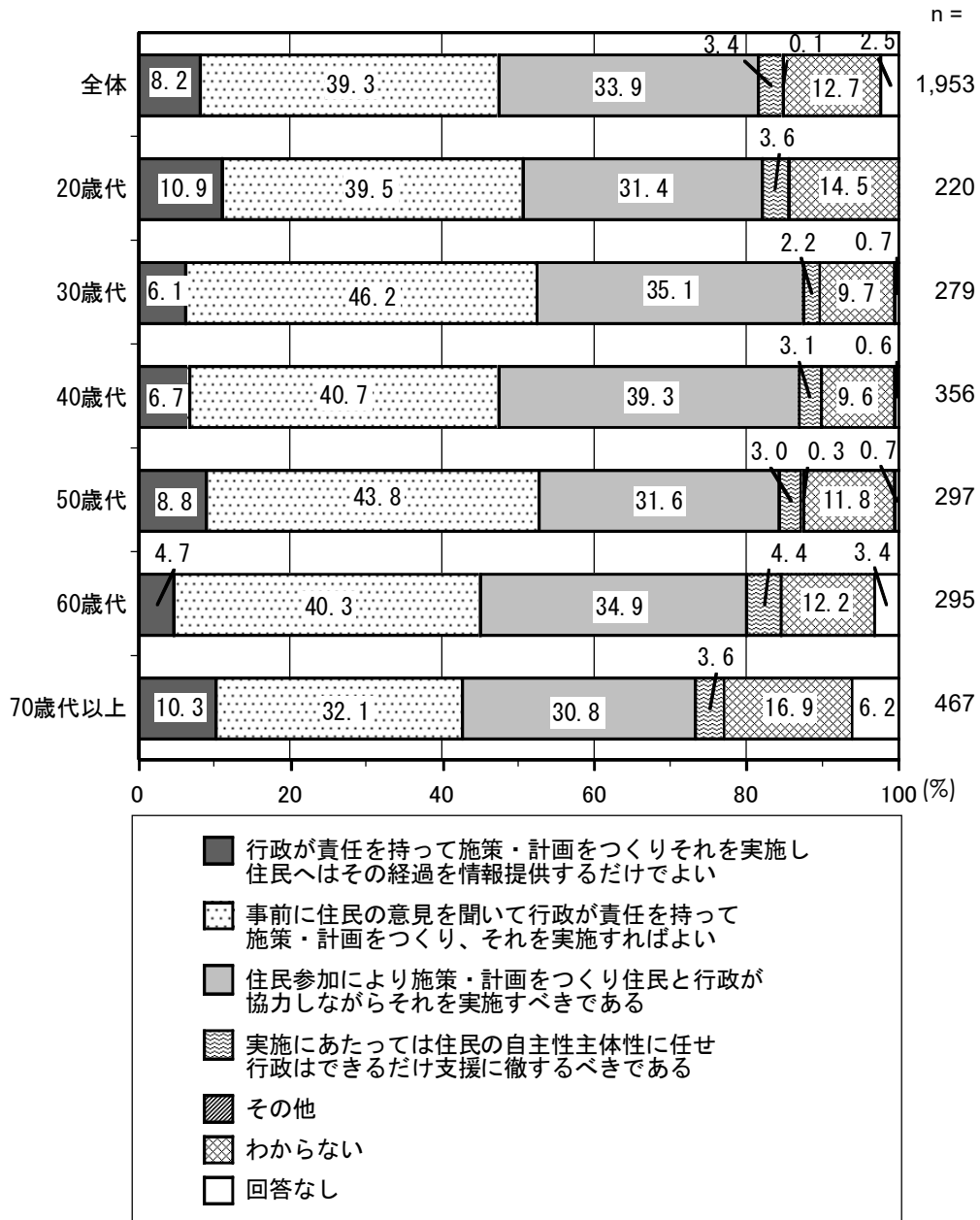


【年齢別】 (図 9-7-3)

○「住民参加により施策・計画をつくり住民と行政が協力し実施するべき」という回答は、40歳代で39.3%と全体より5.4ポイント多くなっています。

○一方、「事前に住民の意見を聞いて行政が施策・計画をつくり、それを実施すればよい」については、70歳代で32.1%と是隊と比べて7.2ポイント少なくなっています。

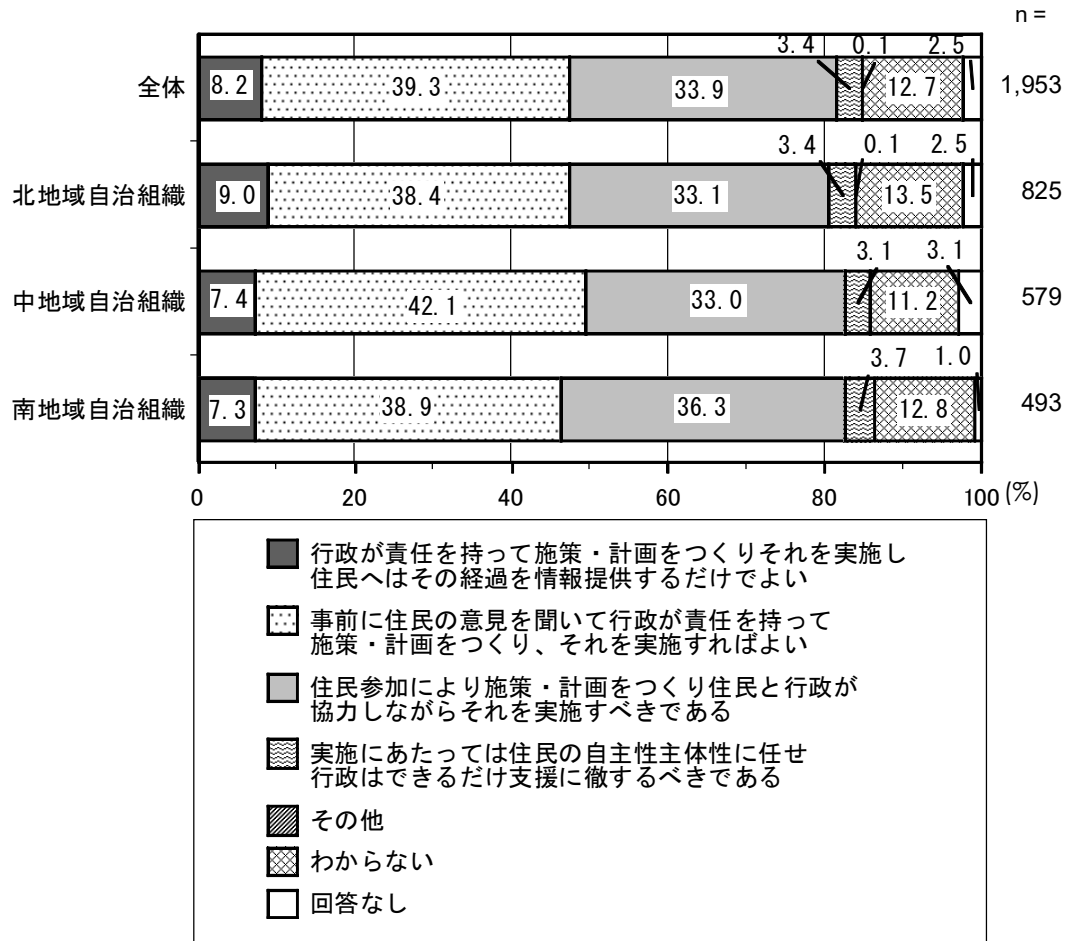
図 9-7-3 年齢別「住民の町行政への関わり」



【居住地域別】 (図 9-7-4)

○居住地域別による有意な差は認められません。

図 9-7-4 居住地域別「住民の町行政への関わり」



9-8 住民参画のまちづくり (問 42)

問 42 住民の参画と参加のまちづくりのために、町ではどのようなことを進める必要があると思いますか。【回答数：3つまで○印】

住民の参画と参加のまちづくりのために必要がある事項として、「広報紙や町のホームページの充実など広報活動の充実」(40.6%)、「情報提供・情報公開の拡充」(38.1%)、「区や自治会を通じて地域住民の要望を町政に反映させる仕組みづくり」(30.5%)、の3項目が多く望まれています。

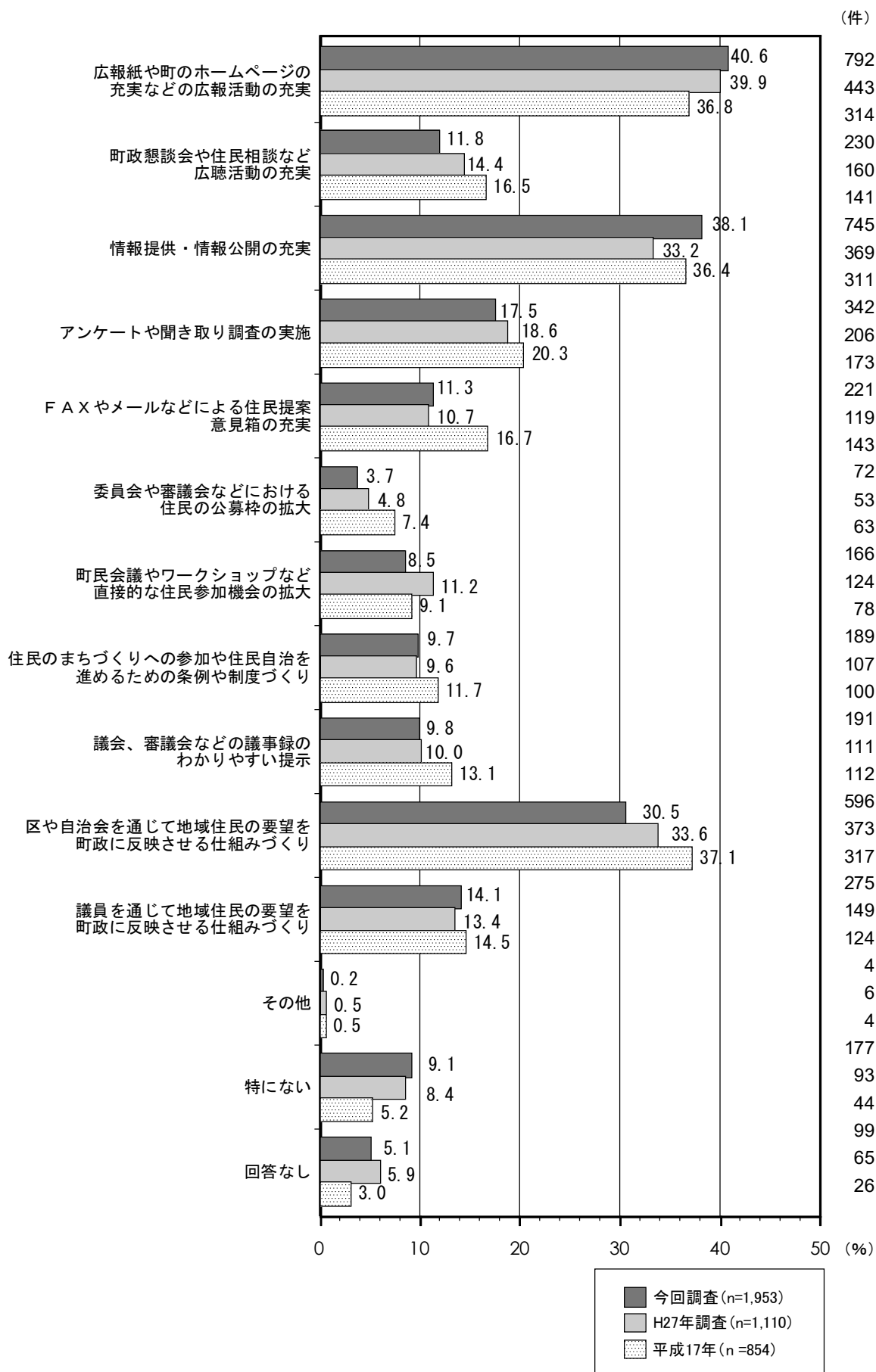
【全体】 (図 9-8-1)

- 「広報紙や町のホームページの充実など広報活動の充実」が40.6%と最も多く、次いで「情報提供・情報公開の拡充」が38.1%、「区や自治会を通じて地域住民の要望を町政に反映させる仕組みづくり」が30.5%と多くの町民に望まれています。
- これら3項目に次いで、望まれているのは「アンケートや聞き取り調査の実施」(17.5%)や「議員を通じて地域住民の要望を反映させる仕組みづくり」(14.1%)などです。

【前回・前々回比較】 (図 9-8-1)

- 「区や自治会を通じて地域住民の要望を町政に反映させる仕組みづくり」とする人は、平成27年調査との比較で3.1ポイント減少しており、平成17年調査からは6.6ポイント減少していますが、全般的にみて大きな変化はみられません。

図9-8-1 前回・前々回比較「住民参画のまちづくり」



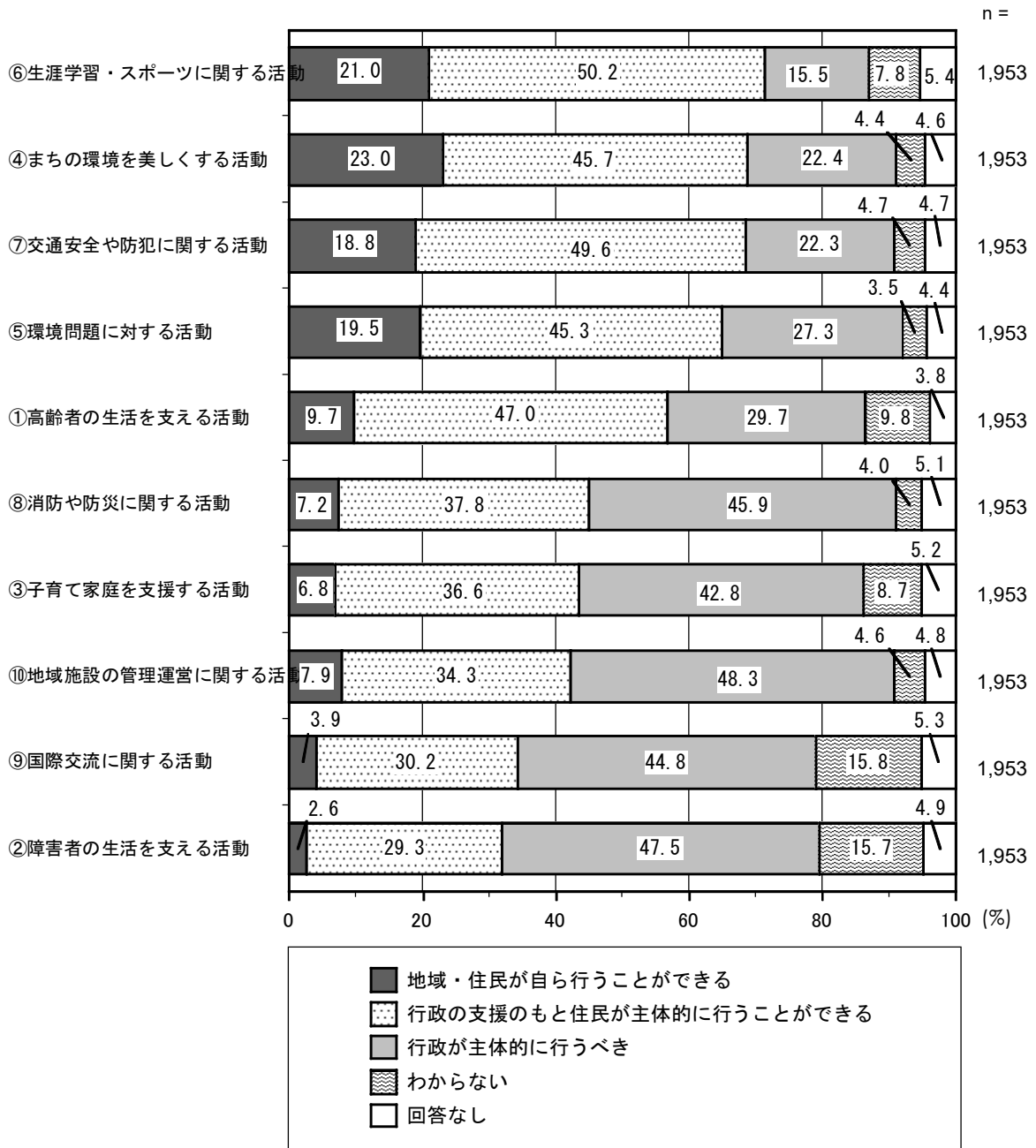
9-9 まちづくり活動における主体性の考え方（問 43）

問 43 町では、地域の自治を大切にして、これから町民の皆さんと一緒にまちづくりを一段と強く進めていこうと考えています。そこで、次に掲げる①～⑩の活動について、あなたのお考えに最も近いのはどれですか。【回答数：それぞれ①～⑩について1つずつあてはまる番号に○印】

【全体】（図 9-9-1）

- 様々な活動について、それらを進めていく上での主体性のあり方について尋ねたところ、「地域・住民が自ら行うことができる」という回答が比較的多い活動は、「④まちの環境を美しくする活動」（23.0%）、「⑥生涯学習・スポーツに関する活動」（21.0%）となっています。
- また、「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」という回答が比較的多い活動は、「⑥生涯学習・スポーツに関する活動」（50.2%）、「⑦交通安全や防犯に関する活動」（49.6%）となっています。
- 一方、「行政が主体的に行うべき」という回答が比較的多い活動は、「⑩公民館や公園など地域施設の管理・運営する活動」（48.3%）、「②障害者の生活を支える活動」（47.5%）、「⑧消防や防災に関する活動」（45.9%）となっています。
- “住民主体”（「地域・住民が自ら行うことができる」＋「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」）で進めるべきという回答が“行政主体”（「行政が主体的に行うべき」）を上回っている活動は、「⑥生涯学習・スポーツに関する活動」、「④まちの環境を美しくする活動」、「⑦交通安全や防犯に関する活動」、「⑤環境問題に対する活動」、「①高齢者の生活を支える活動」の5項目になっています。
- これに対して、“住民主体”と“行政主体”の割合が拮抗している活動は、「⑧消防や防災に関する活動」、「子育て家庭を支援する活動」の2項目になっています。
- 一方、“行政主体”の割合が住民主体の割合を上回っている活動は、⑩公民館や公園など地域施設の管理・運営する活動」と「⑨国際交流に関する活動」、「②障害者の生活を支える活動」の3項目になっています。

図 9-9-1 まちづくり活動における考え方



【項目①：前回・前々回比較】 (図9-9-2)

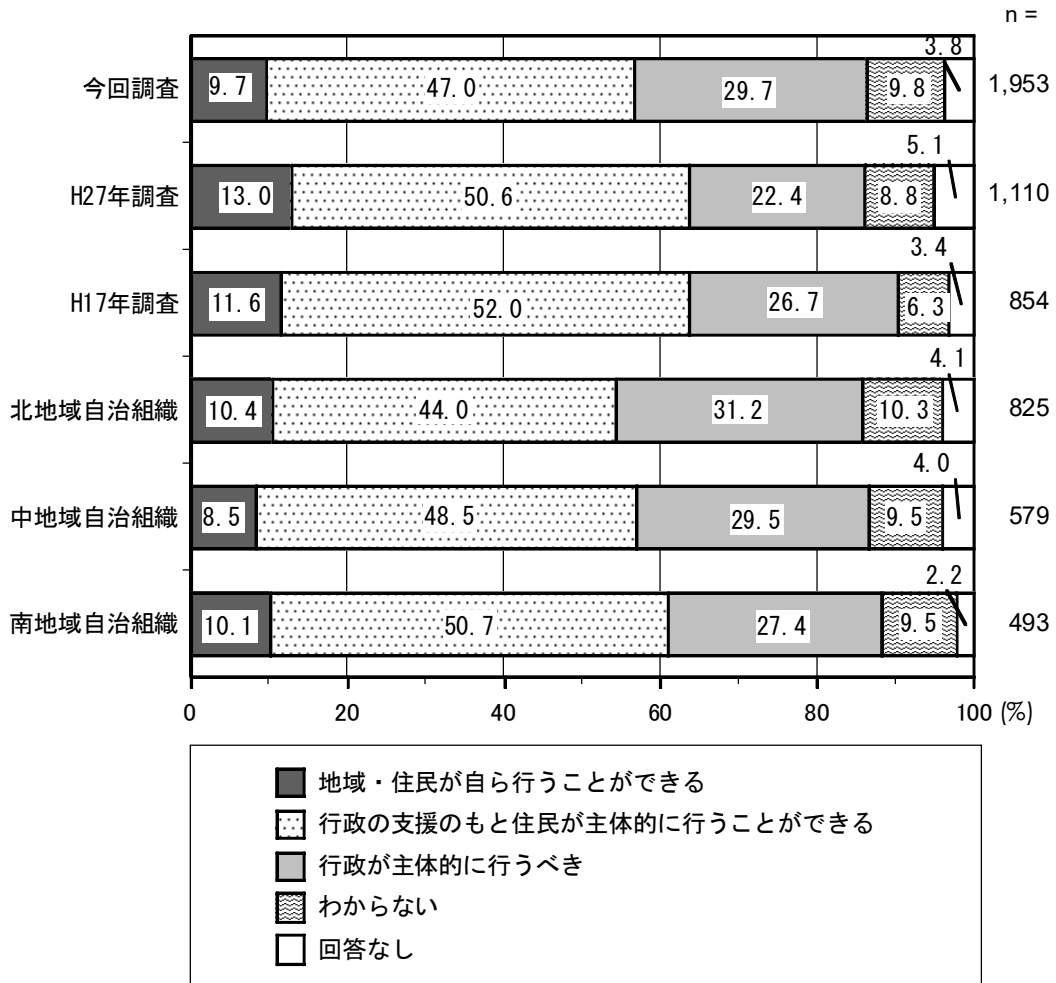
○平成27年調査よりも、「行政が主体的に行うべき」が7.3ポイント増加し、「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」が3.6ポイント、「地域・住民が自ら行うことができる」が3.3ポイントそれぞれ減少しています。

○平成17年調査よりも、「行政が主体的に行うべき」が3.0ポイント増加し、「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」が5.0ポイント減少しています。

【項目①：居住地域別】 (図9-9-2)

○「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」について、南地域自治組織では全体よりも3.7ポイント多く、北地域自治組織では全体よりも3.0ポイント少なくなっていますが、有意な差があるとはまでは言えません。

図9-9-2 前回・前々回比較・居住地域別「①日常の安否確認や外出支援など高齢者の生活を支える活動」(まちづくり活動における考え方)



【項目②：前回・前々回比較】 (図9-9-3)

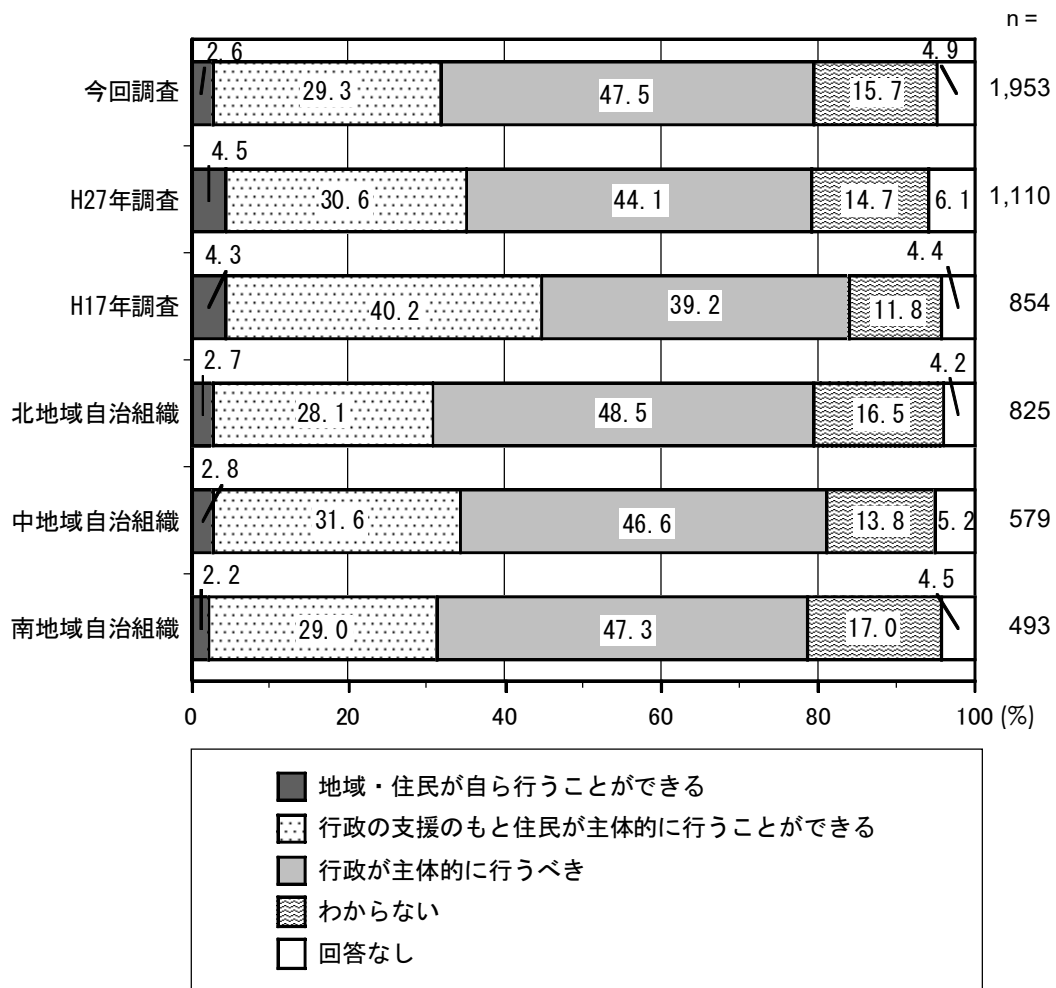
○平成27年調査よりも、「行政が主体的に行うべき」が3.4ポイント増加しています。

○平成17年調査よりも、「行政が主体的に行うべき」が8.3ポイント増加し、「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」が10.9ポイント減少しています。

【項目②：居住地域別】 (図9-9-3)

○居住地域別による有意な差は認められません。

図9-9-3 前回・前々回比較・居住地域別「②点訳や要約筆記、手話通訳など障がい者の生活を支える活動」(まちづくり活動における考え方)



【項目③：前回・前々回比較】 (図9-9-4)

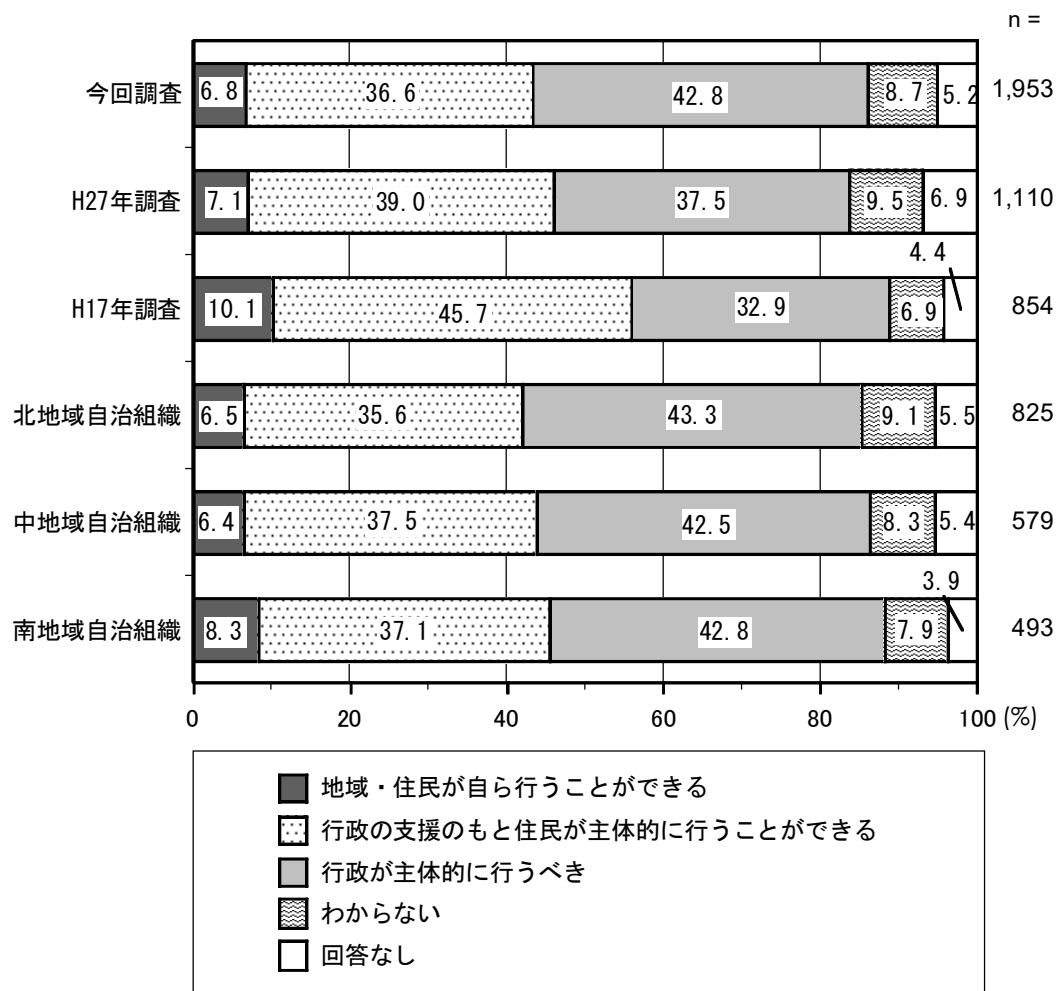
○平成27年調査よりも、「行政が主体的に行うべき」が5.3ポイント増加しています。

○平成17年調査よりも、「行政が主体的に行うべき」が9.9ポイント増加し、「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」が9.1ポイント、「地域・住民が自ら行うことができる」が3.3ポイントそれぞれ減少しています。

【項目③：居住地域別】 (図9-9-4)

○居住地域別による有意な差は認められません。

図9-9-4 前回・前々回比較・居住地域別「③子育て相談や緊急時の預かりなど子育て家庭を支援する活動」(まちづくり活動における考え方)



【項目④：前回・前々回比較】 (図9-9-5)

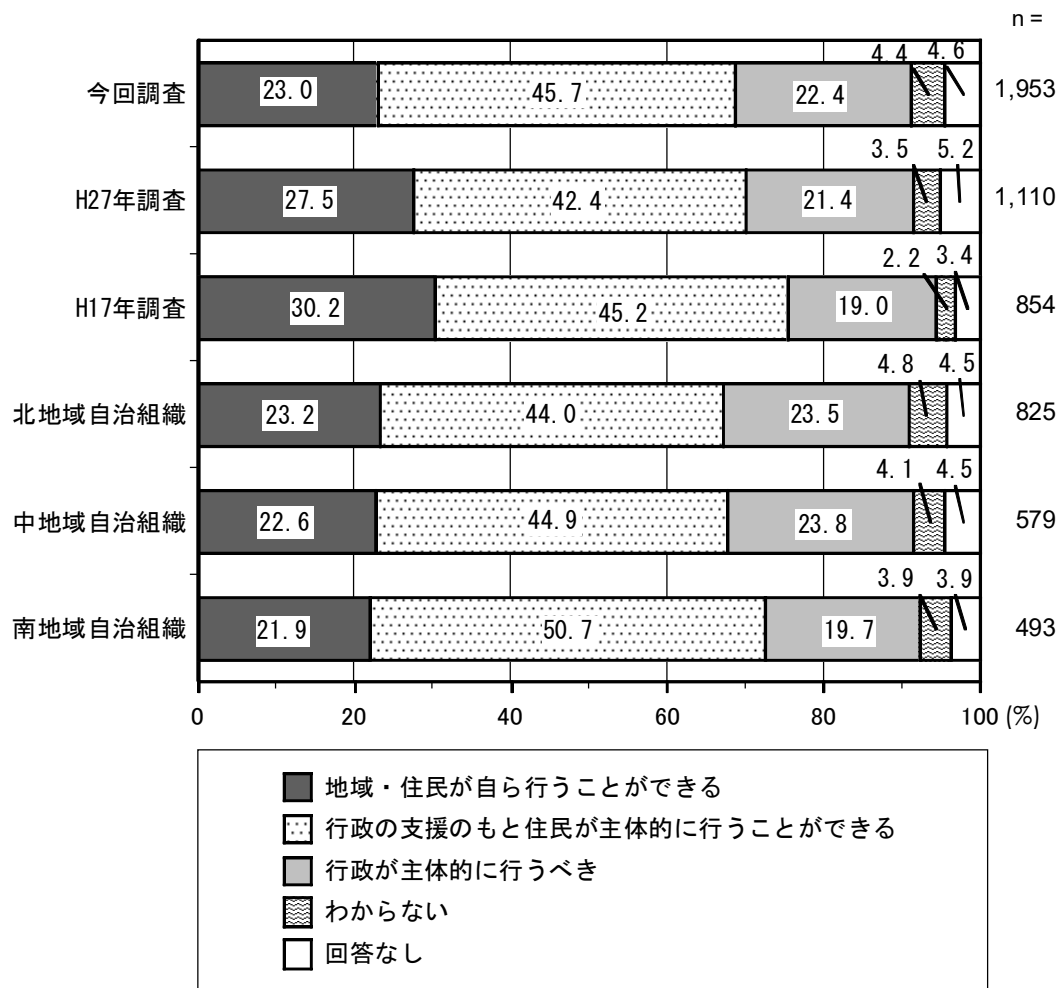
○平成27年調査よりも、「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」が3.3ポイント増加し、「地域・住民が自ら行うことができる」が4.5ポイント減少しています。

○平成17年調査よりも、「行政が主体的に行うべき」が3.4ポイント増加し、「地域・住民が自ら行うことができる」が7.2ポイント減少しています。

【項目：④居住地域別】 (図9-9-5)

○南地域自治組織では、「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」が全体よりも5.0ポイント多くなっています。

図9-9-5 前回・前々回比較・居住地域別「④道路の清掃や花植えなどまちの環境を美しくする活動」(まちづくり活動における考え方)



【項目⑤：前回・前々回比較】 (図9-9-6)

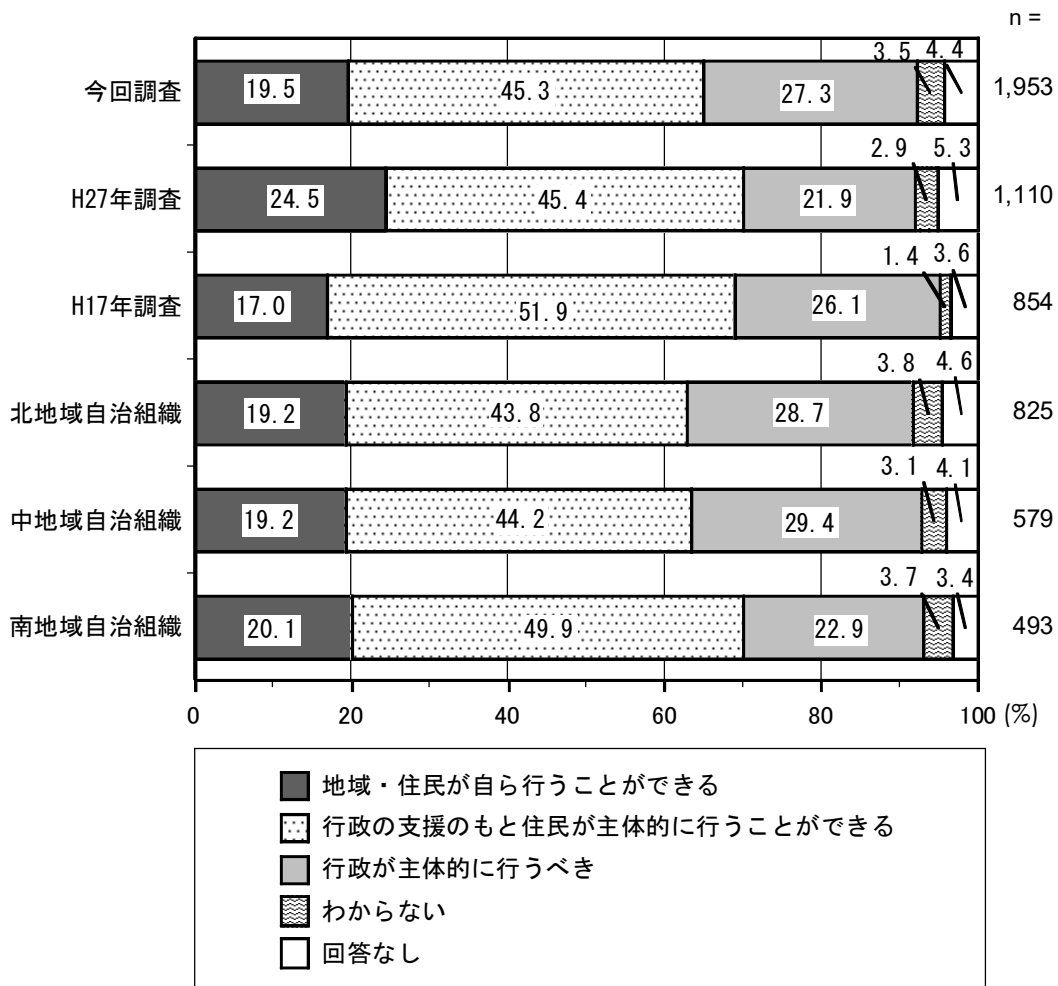
○平成27年調査よりも、「行政が主体的に行うべき」が5.4ポイント増加し、「地域・住民が自ら行うことができる」が5.0ポイント減少しています。

○平成17年調査よりも、「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」が6.6ポイント減少しています。

【項目⑤：居住地域別】 (図9-9-6)

○南地域自治組織では、「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」が全体よりも4.6ポイント多く、「行政が主体的に行うべき」が全体よりも4.4ポイント少なくなっています。

図9-9-6 前回・前々回比較・居住地域別「⑤ごみの減量や省エネルギーなど環境問題に対応する活動」(まちづくり活動における考え方)



【項目⑥：前回・前々回比較】 (図9-9-7)

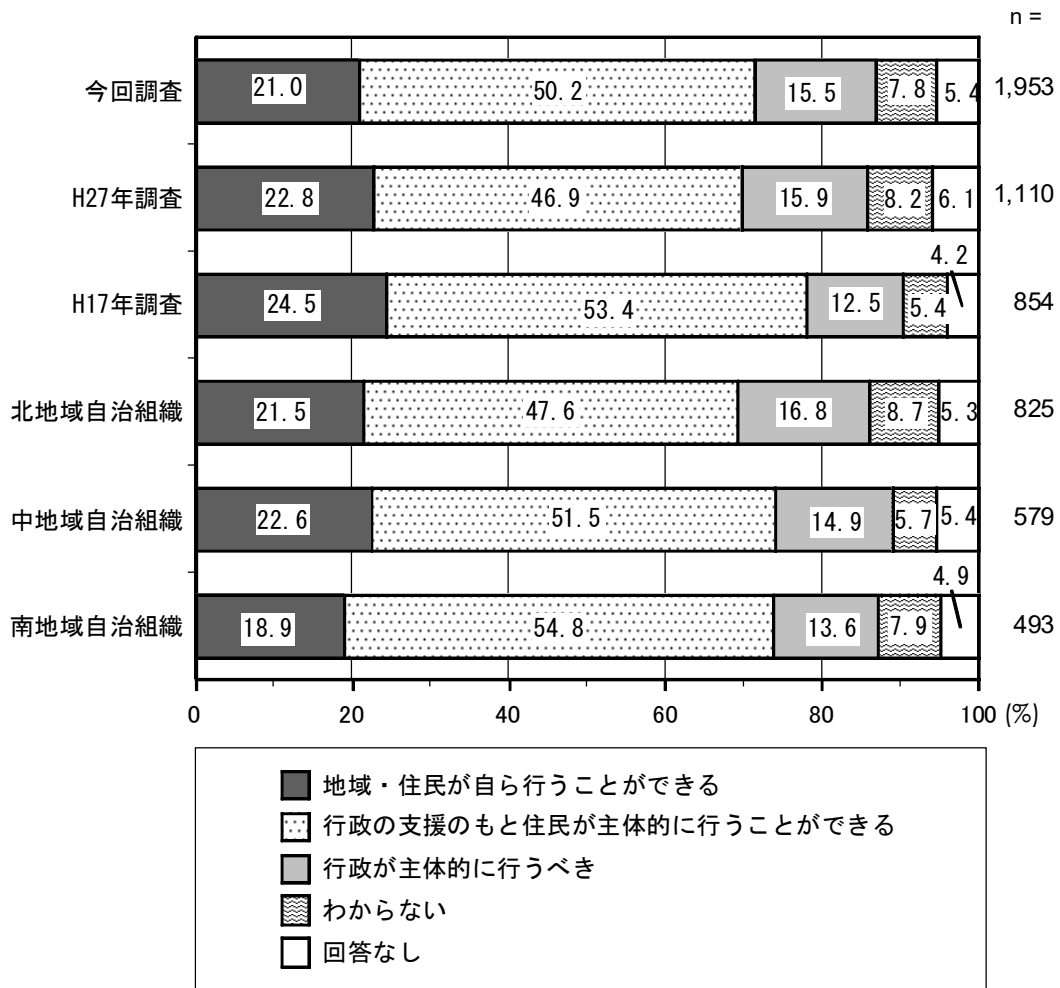
○平成27年調査よりも、「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」が3.3ポイント増加しています。

○平成17年調査よりも、「行政が主体的に行うべき」が3.0ポイント増加し、「地域・住民が自ら行うことができる」が3.5ポイント減少しています。

【項目⑥：居住地域別】 (図9-9-7)

○南地域自治組織では、「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」が全体よりも4.6ポイント多くなっています。

図9-9-7 前回・前々回比較・居住地域別「⑥スポーツや趣味・芸術活動など生涯学習・スポーツに関する活動」
(まちづくり活動における考え方)



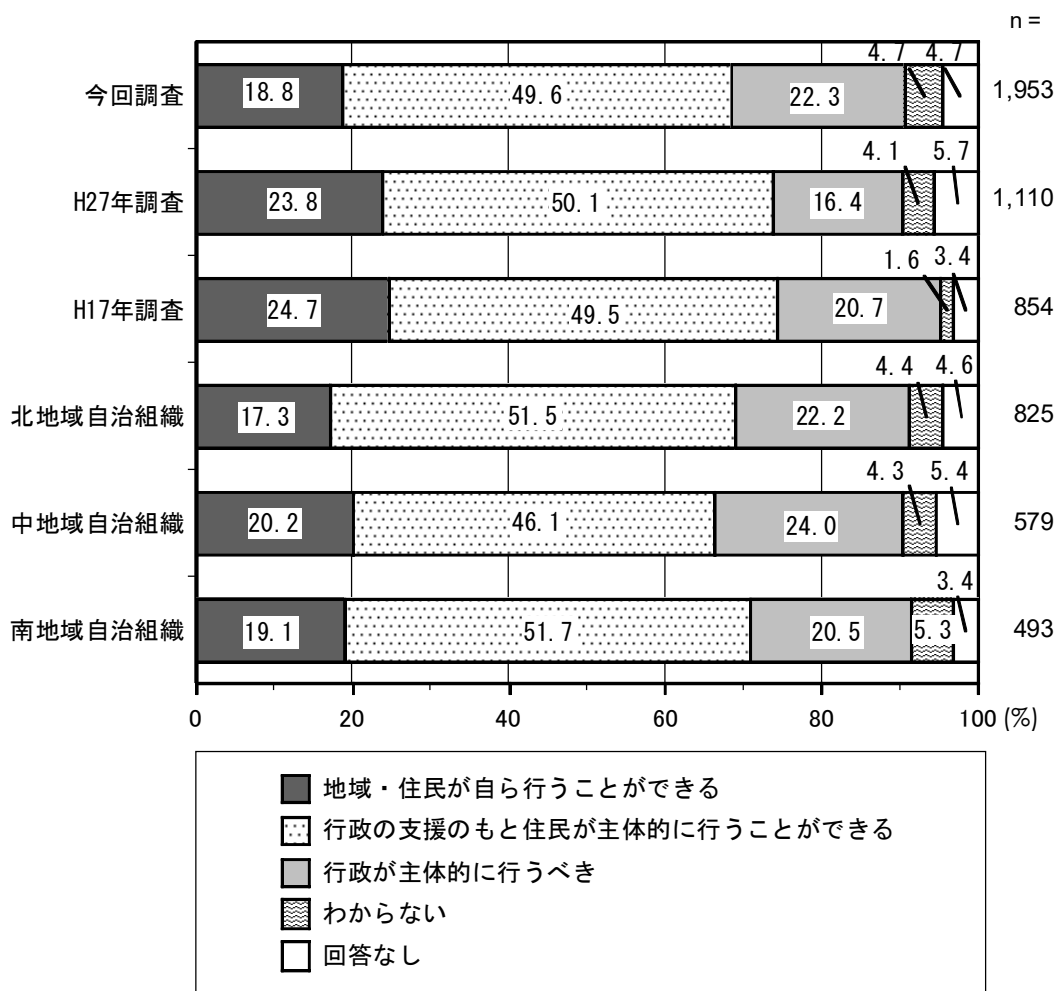
【項目⑦：前回・前々回比較】 (図9-9-8)

- 平成27年調査よりも、「行政が主体的に行うべき」が5.9ポイント増加し、「地域・住民が自ら行うことができる」が5.0ポイント減少しています。
- 平成17年調査よりも、「地域・住民が自ら行うことができる」が5.9ポイント減少しています。

【項目⑦：居住地域別】 (図9-9-8)

- 中地域自治組織では、「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」が全体よりも3.5ポイント少なくなっていますが、有意な差があるとまでは言えません。

図9-9-8 前回・前々回比較・居住地域別「⑦パトロール活動など交通安全や防犯に関する活動」
(まちづくり活動における考え方)



【項目⑧：前回・前々回比較】 (図9-9-9)

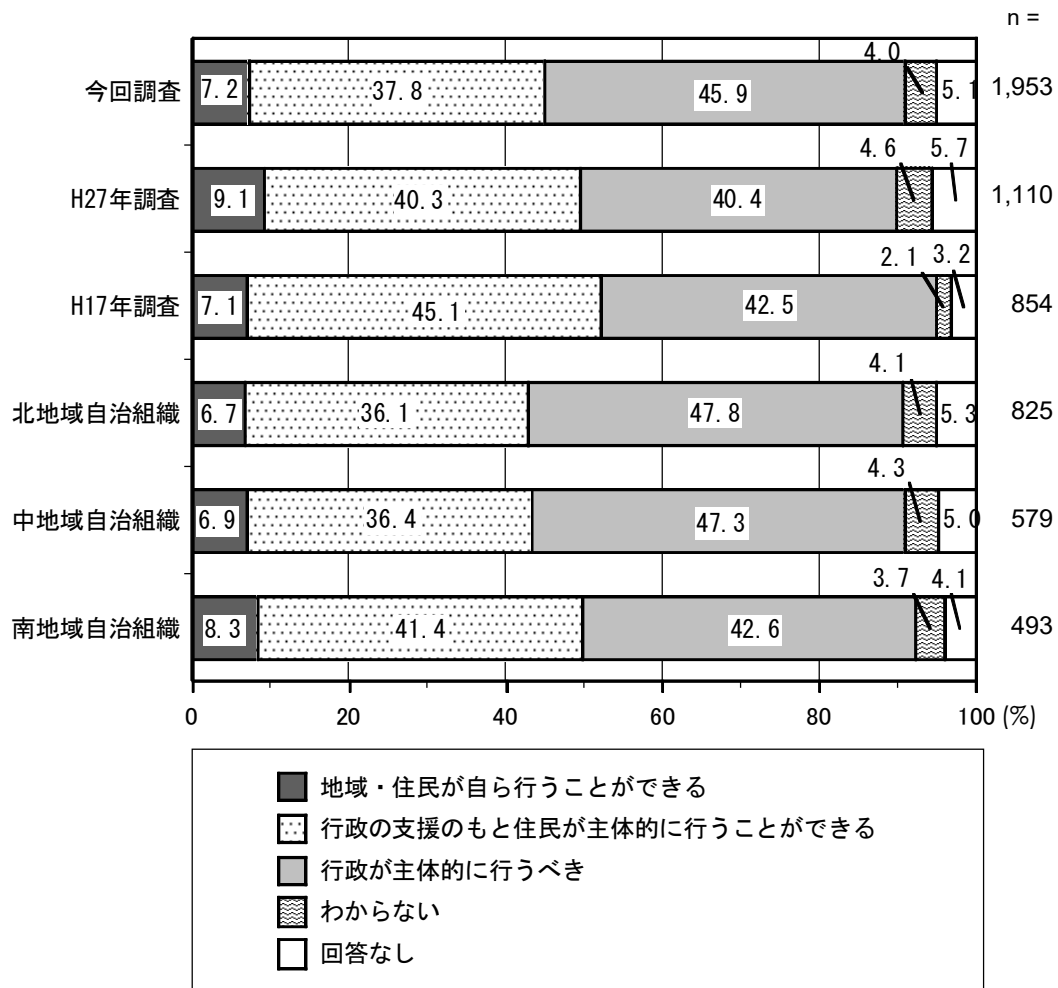
○平成27年調査よりも、「行政が主体的に行うべき」が5.5ポイント増加しています。

○平成17年調査よりも、「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」が7.3ポイント減少しています。

【項目⑧：居住地域別】 (図9-9-9)

○南地域自治組織では、「行政の支援のもと住民が主体的に行うことができる」が全体よりも3.6ポイント多く、「行政が主体的に行うべき」が全体よりも3.3ポイント少なくなっていますが、有意な差があるとまでは言えません。

図9-9-9 前回・前々回比較・居住地域別「⑧火災や災害に備えた消防や防災に関する活動」
(まちづくり活動における考え方)



【項目⑨：前回・前々回比較】 (図9-9-10)

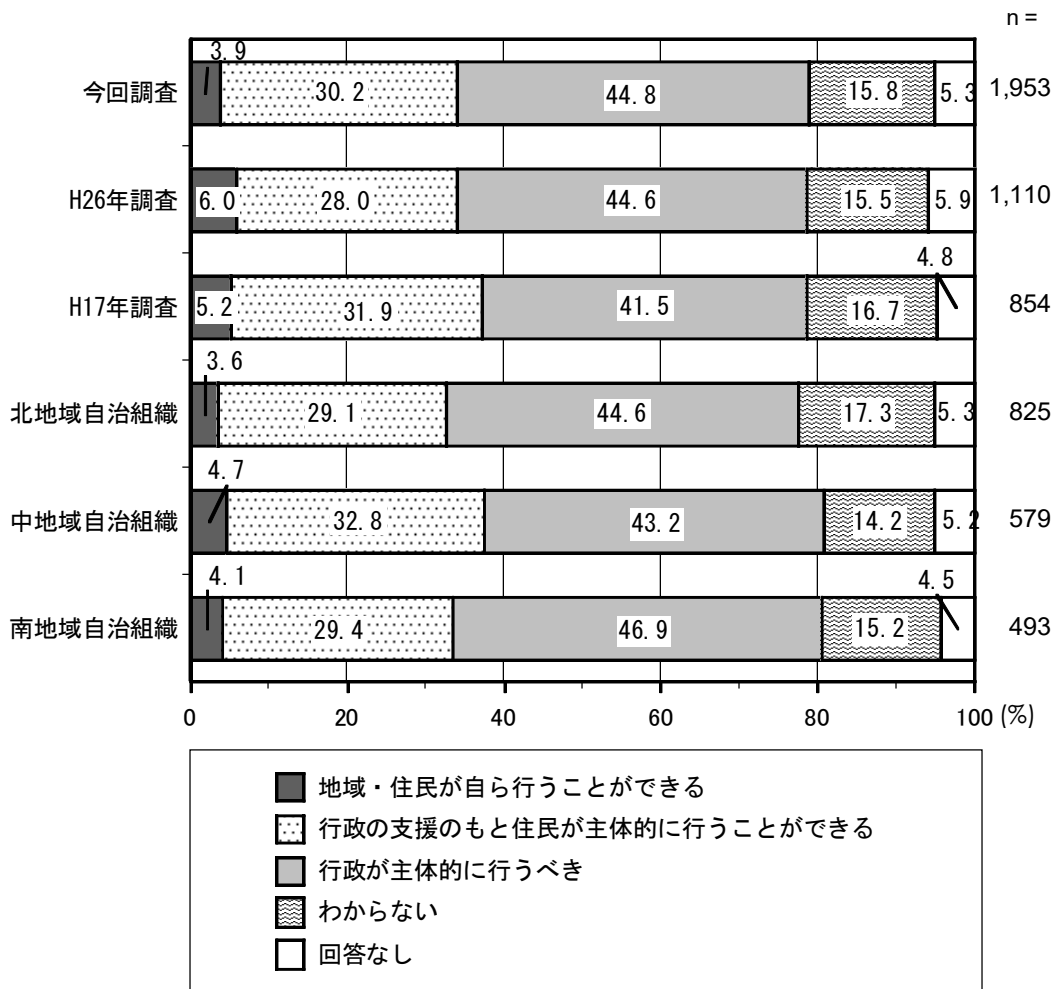
○平成27年調査との有意な差は認められません。

○平成17年調査との比較においても、大した差異はみられません。

【項目⑨：居住地域別】 (図9-9-10)

○居住地域別による有意な差は認められません。

図9-9-10 前回・前々回比較・居住地域別「⑨通訳や交流イベントなど国際交流に関する活動」
(まちづくり活動における考え方)



【項目⑩：前回・前々回比較】 (図9-9-11)

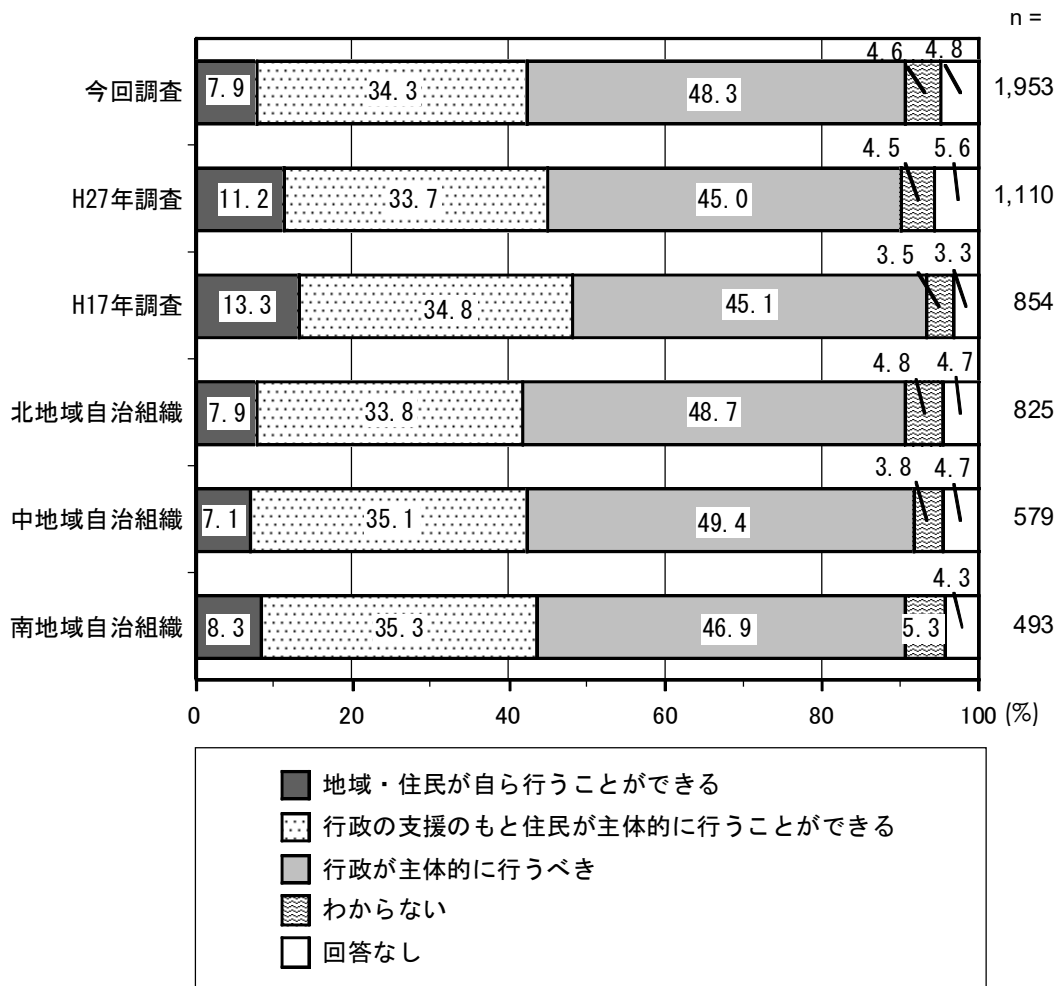
○平成27年調査との大した差異は認められません。

○平成17年調査よりも、「地域・住民が自ら行うことができる」が5.4ポイント減少しています。

【項目⑩：居住地域別】 (図9-9-11)

○居住地域別による有意な差は認められません。

図9-9-11 前回・前々回比較・居住地域別「⑩公民館や公園など地域施設の管理・運営する活動」
(まちづくり活動における考え方)



10. 地域の情報化について

10-1 「広報おおぐち」の利用状況（問44）

問 44 町では、毎月1回「広報おおぐち」を全戸配布していますが、あなたは、広報おおぐちを読んでいますか。【回答数：○印を1つだけ】

程度に差はありますが、9割弱の人が“広報おおぐちを利用している”と答えています。しかし、若い世代では、まだまだ利用率が低く、利用促進が必要です。

【全体】（図 10-1-1）

- 「広報おおぐち」について「目を通す程度であるが毎回読んでいる」が38.7%と最も多く、「毎回よく読んでいる」が36.5%と続きます。
- 上記の2項目に「時々必要事項を選んで読んでいる」の13.7%を合わせると、程度に差はありますが、「広報おおぐち」89.3%の町民が購読しています。

【前回比較】（図 10-1-1）

- 平成27年調査との比較では、概ね同様の結果となっています。

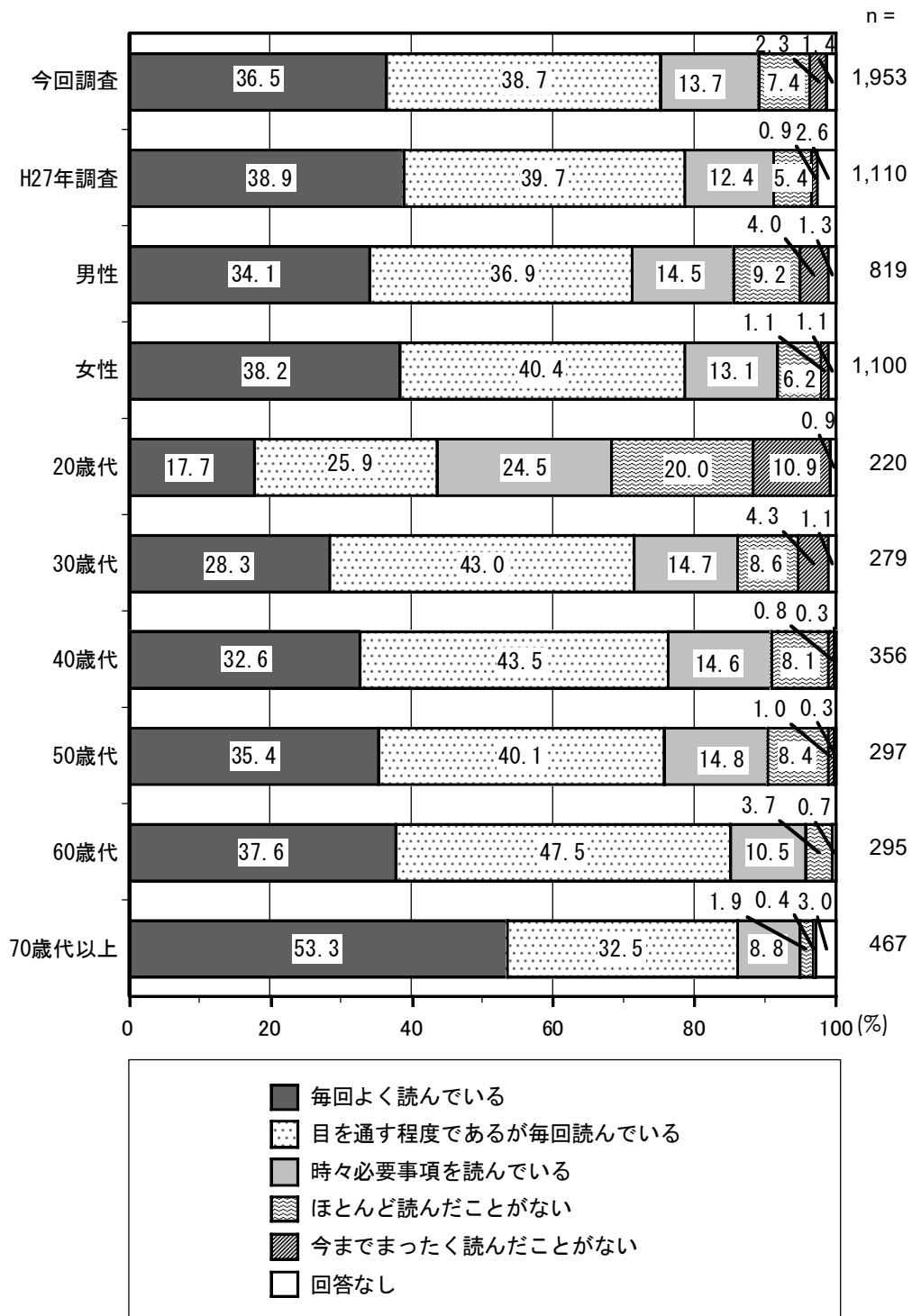
【性別】（図 10-1-1）

- 女性の方が男性よりも「毎回よく読んでいる」は4.1ポイント、「目を通す程度であるが毎回読んでいる」は3.5ポイント多く、「広報おおぐち」をよく読んでいる様子がうかがえます。

【年齢別】（図 10-1-1）

- 「毎回よく読んでいる」は50歳代で35.4%、60歳代で37.6%、70歳代以上で53.3%と、高齢世代ほどよく利用しています。
- 一方、20歳代は「毎回よく読んでいる」が17.7%と少なく、「ほとんど読んだことがない」（20.0%）、「今までまったく読んだことがない」（10.9%）と合せて30.9%がほとんど購読していません。

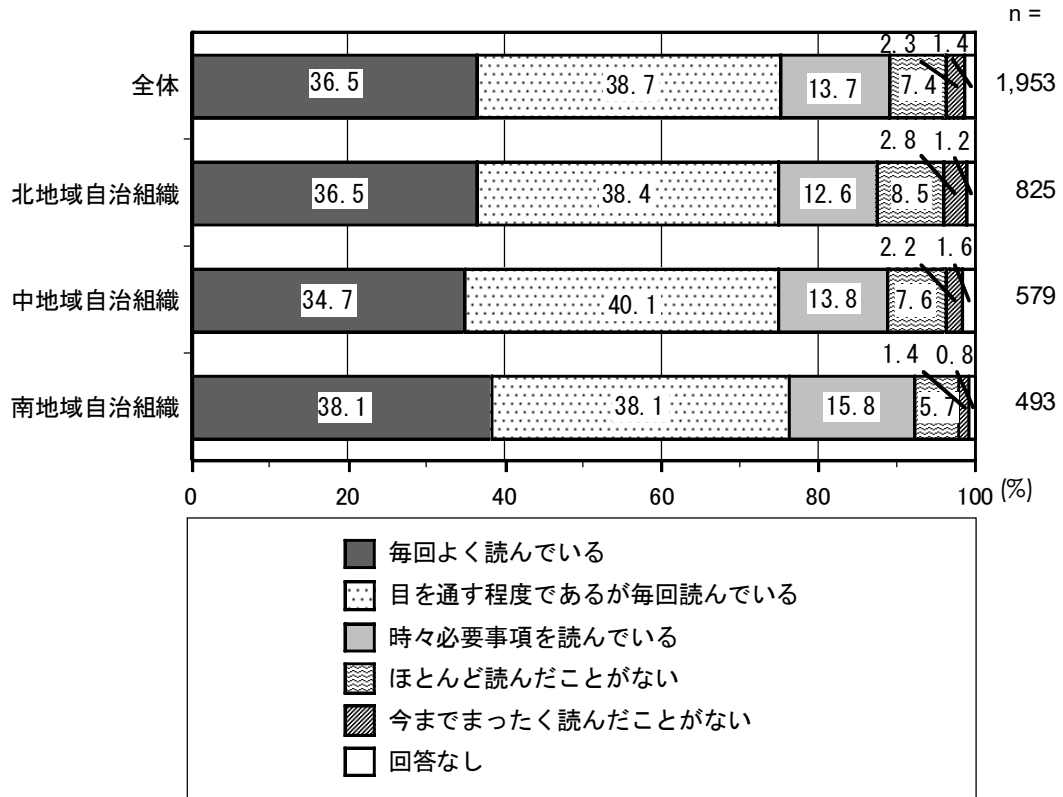
図 10-1-1 前回比較・性別・年齢別『広報おおぐち』の利用状況



【居住地域別】 (図 10-1-2)

○居住地域別による有意な差は認められません。

図 10-1-2 居住地域別『広報おおぐち』の利用状況



10-2 個別受信機による放送状況（問 45）

問 45 町では、毎朝（午前7時20分）と毎夕（午後7時15分）に防災無線の個別受信機を通じて「各課のお知らせ」を放送しています。あなたは、この放送を聴いていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

全体の 35.2%が「ほぼ毎日聴いている」、14.3%が「たまに聴いている（週に1～2回程度）」とし、特に高齢世代において、“防災無線の個別受信機による放送”はよく活用されています。若い世代では「個別受信機がない」とする人も多く、普及していません。

【全体】（図 10-2-1）

- 防災無線の個別受信機を通じた「各課のお知らせ」について、「ほぼ毎日聴いている」という回答が 35.2%と最も多く、「たまに聴いている（週に1～2回程度）」の 14.3%と合わせると、49.5%が“防災無線の個別受信機による放送”を活用しています。
- 「個別受信機がない」は 25.9%となっています。

【前回比較】（図 10-2-1）

- 平成 27 年調査との比較では、「個別受信機がない」が 3.4 ポイント増加している程度で、大きな差異はみられません。

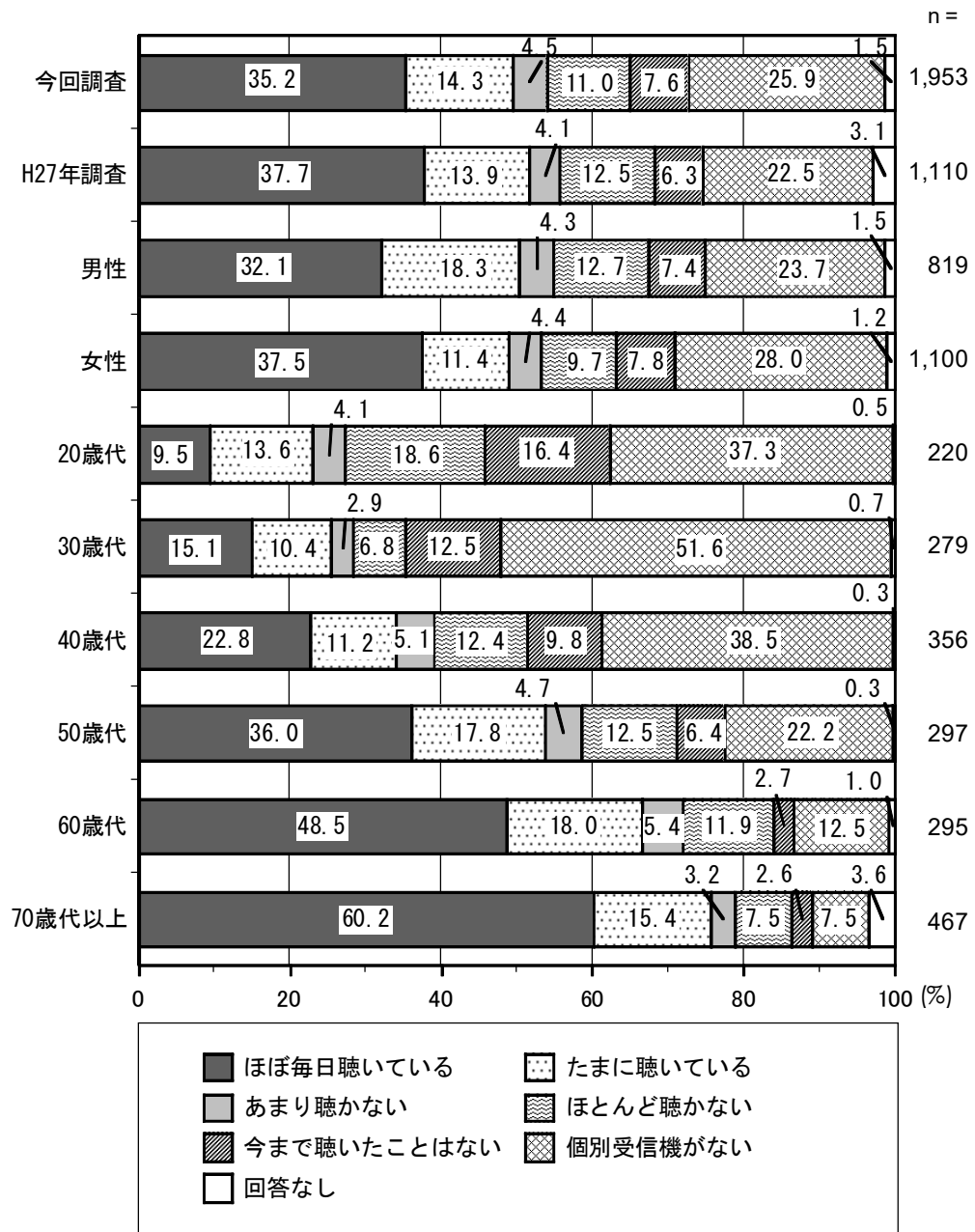
【性別】（図 10-2-1）

- 女性の方が男性よりも「ほぼ毎日聴いている」が 5.4 ポイント多く、よく活用しています。

【年齢別】（図 10-2-1）

- 若い世代よりも高齢者の方が、“防災無線の個別受信機による放送”をよく活用しています。「ほぼ毎日聴いている」と「たまに聴いている（週に1～2回程度）」を合わせると、50歳代は 53.8%、60歳代は 66.5%、70歳代以上にいたっては7割以上となっています。
- 「ほぼ毎日聴いている」は、20歳代が 9.5%、30歳代が 15.1%と少なくなっています。
- また、「個別受信機がない」は、20歳代が 37.3%、30歳代が 51.6%、40歳代が 38.5%と非常に多くなっています。

図 10-2-1 前回比較・性別・年齢別「個別受信機による放送状況」

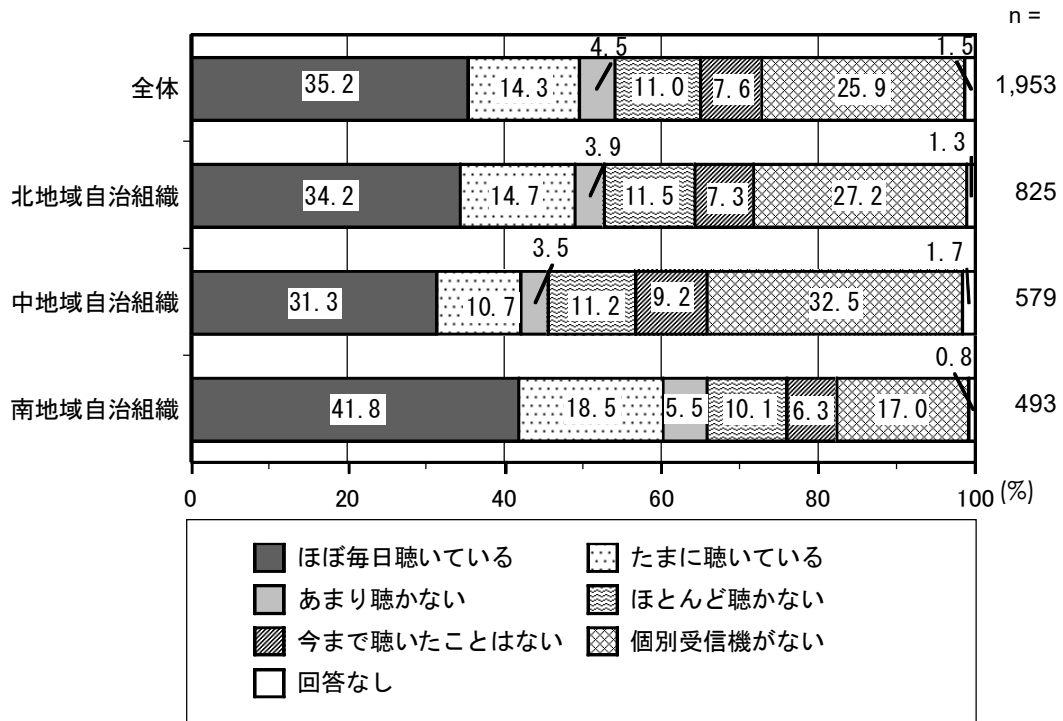


【居住地域別】 (図 10-2-2)

○南地域自治組織では「ほぼ毎日聴いている」が41.8%を占め、6.6ポイント全体よりも多く、よく活用されています。

○中地域自治組織では「個別受信機がない」が32.5%と最も多く、あまり普及していません。

図 10-2-2 居住地域別「個別受信機による放送状況」



10-3 インターネットの利用（問46）

問46 あなたは、ご家庭でインターネットを利用していますか。【回答数：○印を1つだけ】

インターネットを「利用している」という市民は、前回調査から8.2ポイント増加、前々回調査からは25.9ポイント増加しており、7割以上がインターネットを利用するようになりました。若い世代では9割以上普及しています。

【全体】（図10-3-1）

- 「利用している」が70.7%と、「利用していない」の22.5%を大きく上回りました。
- 「利用したいが、パソコンがないなどの理由で利用できない」は4.7%となっています。

【前回・前々回比較】（図10-3-1）

- 平成27年調査から「利用している」は8.2ポイント増加し、また「利用していない」が4.6ポイント減少しています。
- また、平成17年調査からでは「利用している」が25.9ポイントと大幅に増加し、「利用していない」も15.8ポイント減少していることから、インターネットの普及が進んでいることがわかります。

【年齢別】（図10-3-2）

- 20～40歳代では、普及が大きく進み、いずれも9割以上、50歳代でも9割弱の人がインターネットを利用しています。
- 若い世代に比べ少ないものの、60歳代では56.9%、70歳代以上でも31.5%の人がインターネットを利用しています。

図10-3-1 前回・前々回比較「インターネットの利用」

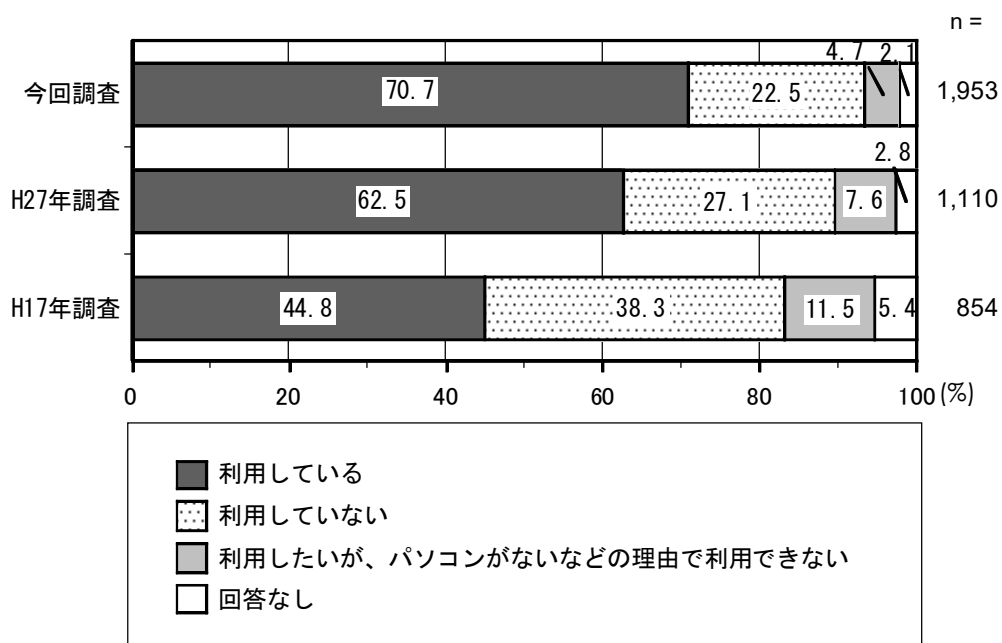
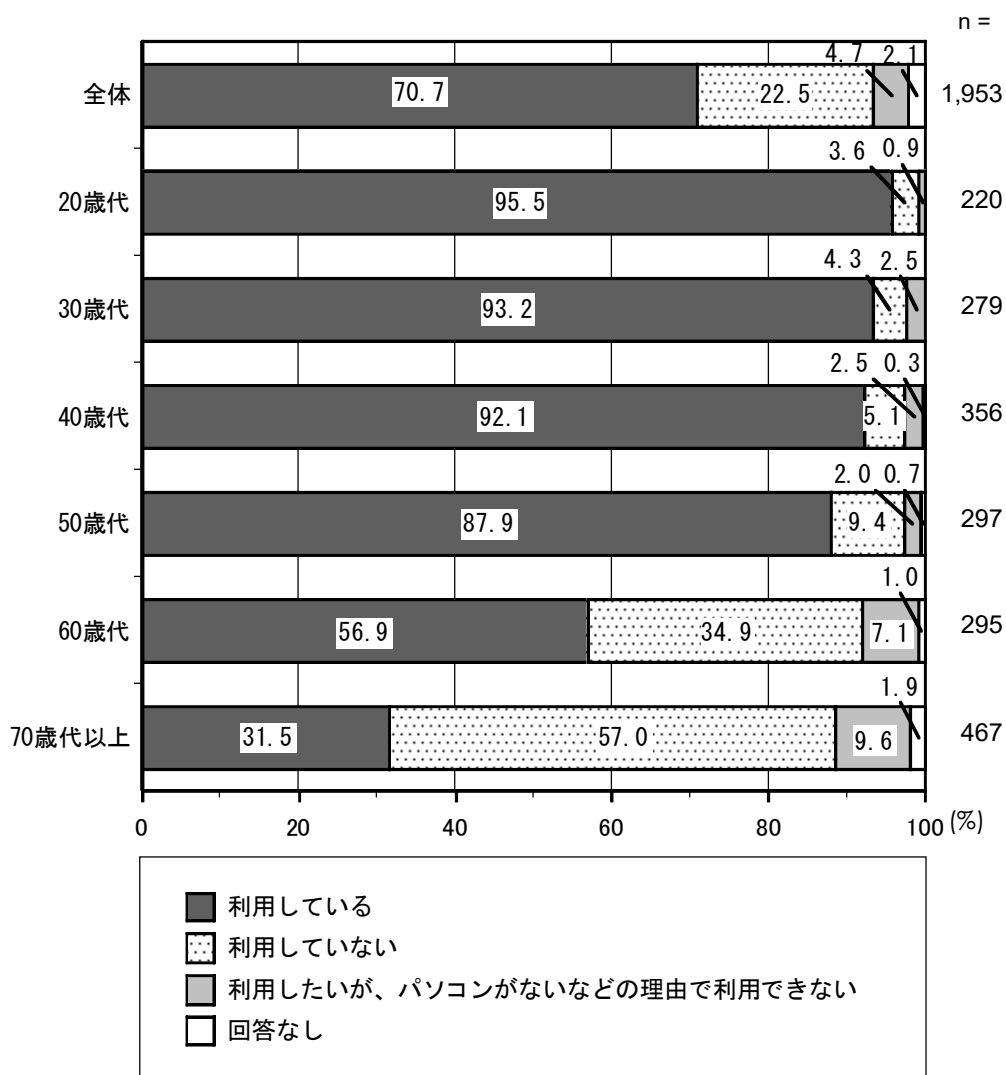


図10-3-2 年齢別「インターネットの利用」



10-4 インターネット活用による地域情報化施策への期待（問 47）

問 47 あなたは、インターネットを活用した地域情報化施策を進めることに、どのような効果を期待しますか。【回答数：2つまで○印】

“インターネット活用による地域情報化施策”には「役場への届け出や申請などの手続きが窓口以外でも可能になり、便利になる」ことが最も多く期待されています。

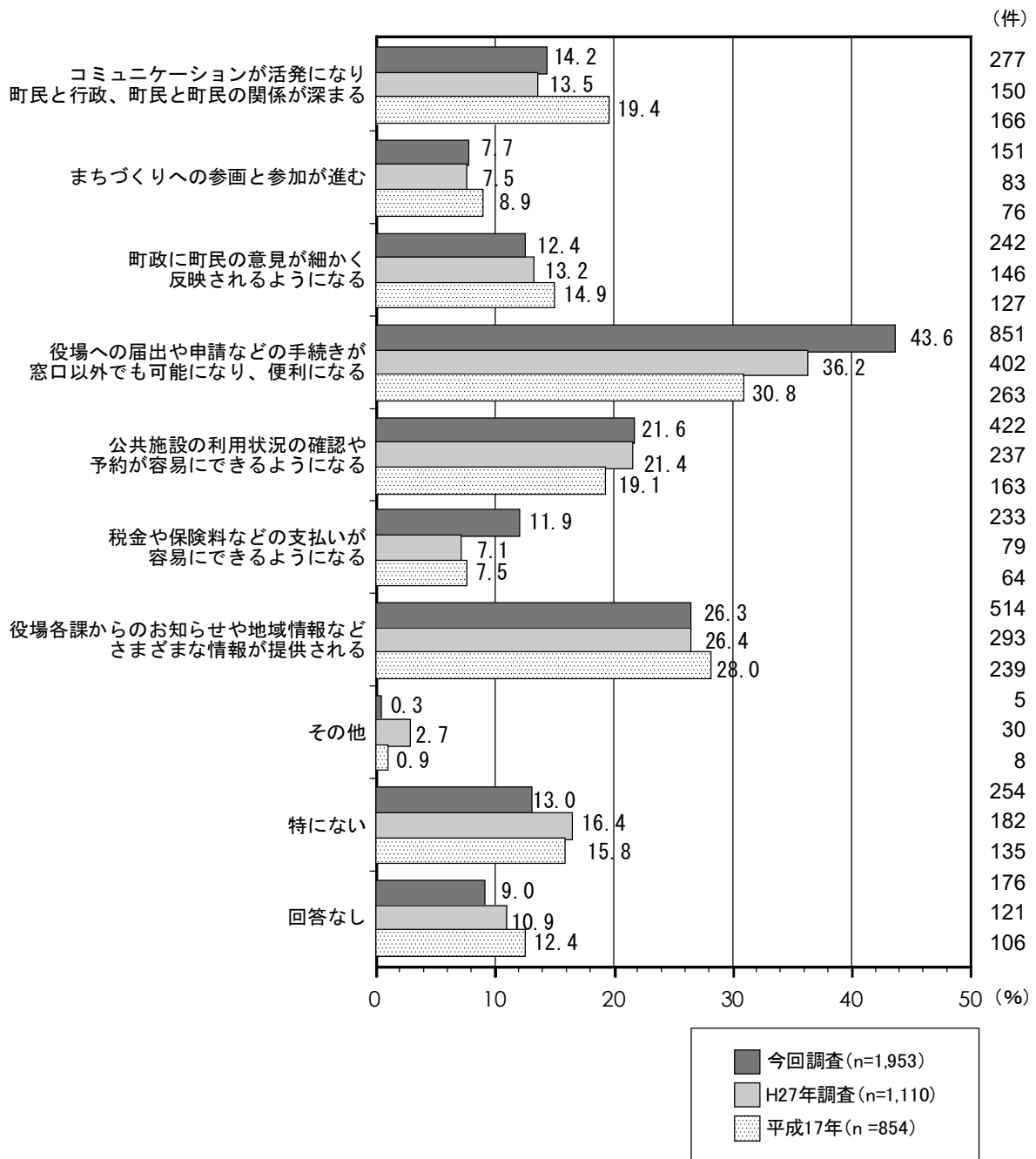
【全体】（図 10-4-1）

- 「役場への届け出や申請などの手続きが窓口以外でも可能になり、便利になる」が43.6%と、最も多く期待されています。
- 「役場各課からのお知らせや地域情報などさまざまな情報が提供される」が26.3%、「公共施設の利用状況の確認や予約が容易にできるようになる」が21.6%と続きます。

【前回・前々回比較】（図 10-4-1）

- 最も多く期待されている「役場への届け出や申請などの手続きが窓口以外でも可能になり、便利になる」は、平成27年調査から7.4ポイント、平成17年調査からは12.8ポイントも増加しています。

図 10-4-1 前回・前々回比較「インターネット活用による地域情報化施策への期待」

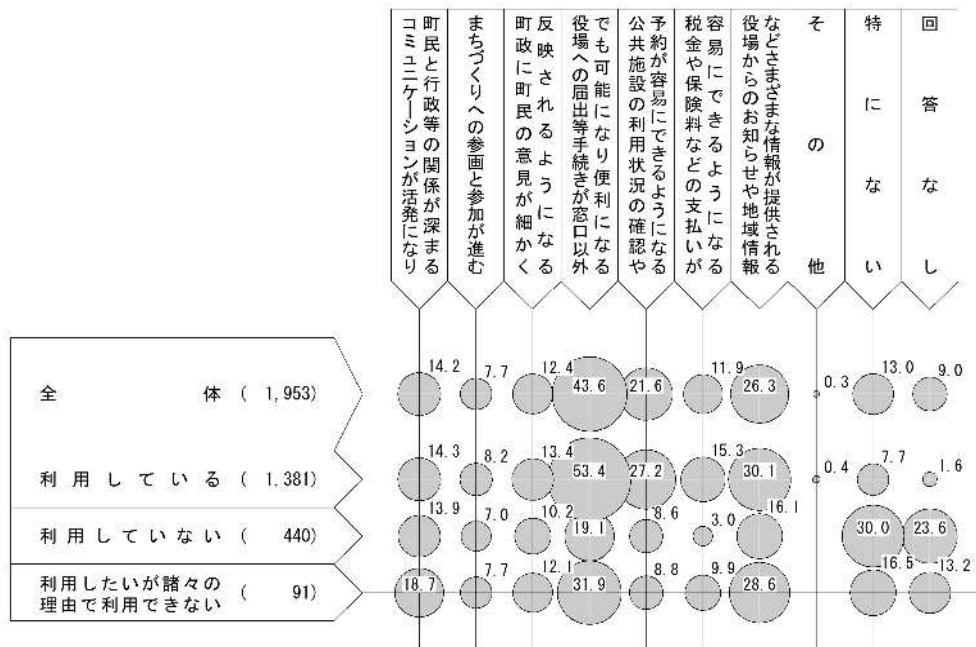


【問46「インターネットの利用」別】 (図10-4-2)

○問46で“インターネットを利用している”と答えた1,381人のうち、53.4%が「役場への届け出や申請などの手続きが窓口以外でも可能になり、便利になる」を、また30.1%が「役場各課からのお知らせや地域情報などさまざまな情報が提供される」を期待しています。いずれも全体よりも高い数値であり、インターネットを既に利用している人は、その効果を実感し、より期待していることがわかります。

○一方、「利用していない」と答えた人は、その3割が「特になし」を選んでいきます。

図10-4-2 問46「インターネットの利用」別「インターネット活用による地域情報化施策への期待」



11. 町の事業やサービスなどの認知状況について

問48 あなたは、以下の①～⑱の大口町が実施している事業やサービスなどについて知っていますか。

【回答数：①～⑱の項目それぞれについて1と2のどちらか一方に○印】

本庁が実施している18の事業・サービスのうち、9割以上の人に認知されているのは、「⑨コミュニティバスの運行」と「⑦資源リサイクルセンター」となっています。町民の生活に直接関わる14もの事業やサービスが半数以下にしか認知されておらず、まだまだ周知が必要です。

【全体】 (図 11-1)

- 本庁が実施している18の事業・サービスについて、図 11-1 では認知度の高い順で並べました。
- 最も認知度の高いのは、「⑨コミュニティバスの運行」で、「知っている」が92.4%で最も多く、「⑦資源リサイクルセンター」(90.3%)、「④自宅近くの避難所」(78.4%)が続いています。
- 上記3項目に次いで、「⑩消防団活動」(57.9%)は、半数以上に認知されていますが、それ以外の14事業やサービスについては、まだまだ認知度が高いとは言えません。
- 特に認知されていないのは、「⑩まちづくり基本条例」で、「知らない」が73.2%となっているのに対して、「知っている」が21.3%にとどまっています。

【前回比較】 (図 11-2)

- 平成27年調査との比較で、認知度の順位について上位1位から4位までは変わりなく、「あんしん・安全ねっと」は9位から5位に「AEDの使い方」は13位から6位にランクアップしています。
- 一方、前回、認知度が半数を下回ったのは12事業でしたが、今回調査では14事業になっています。

図 11-1 町の事業やサービスなどの認知状況について（今回調査）

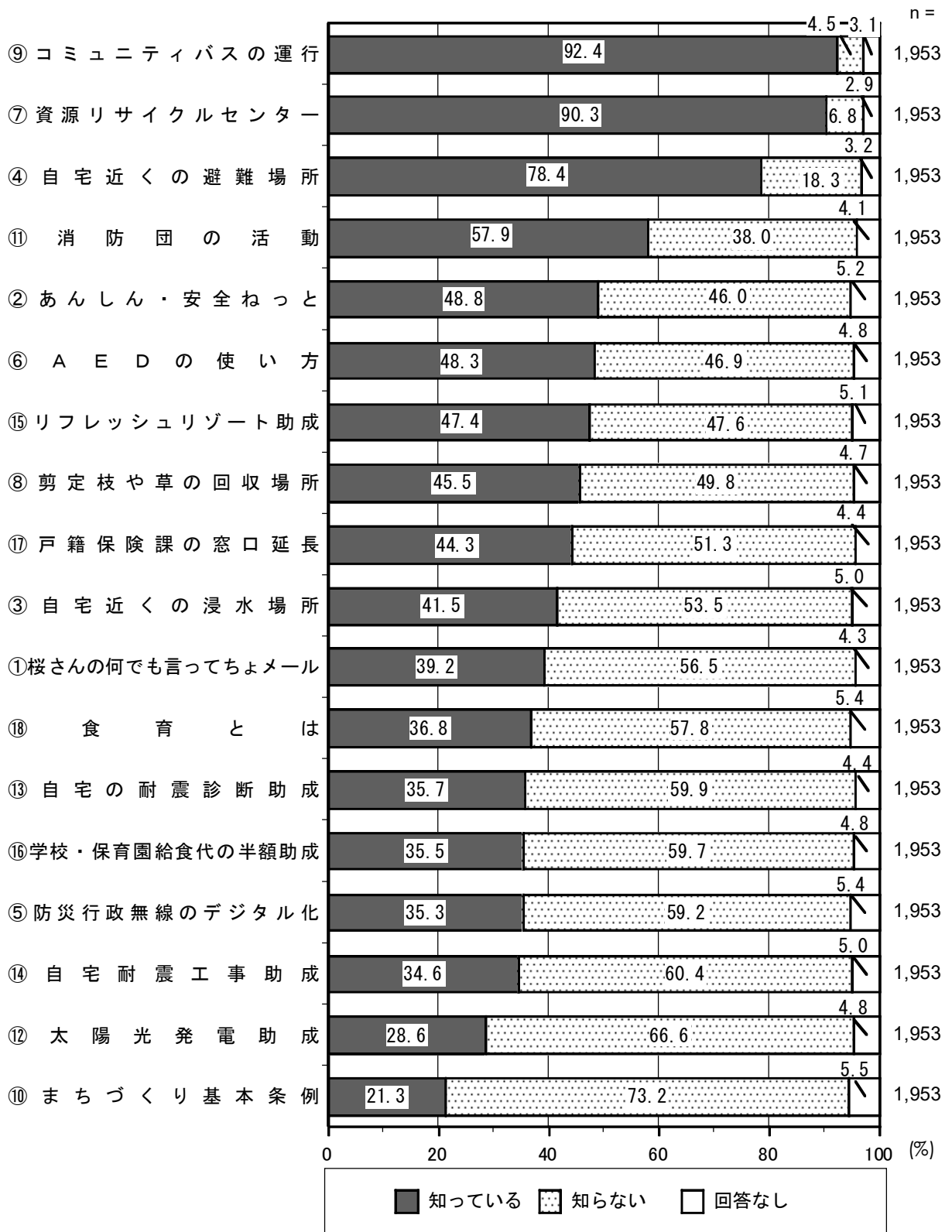
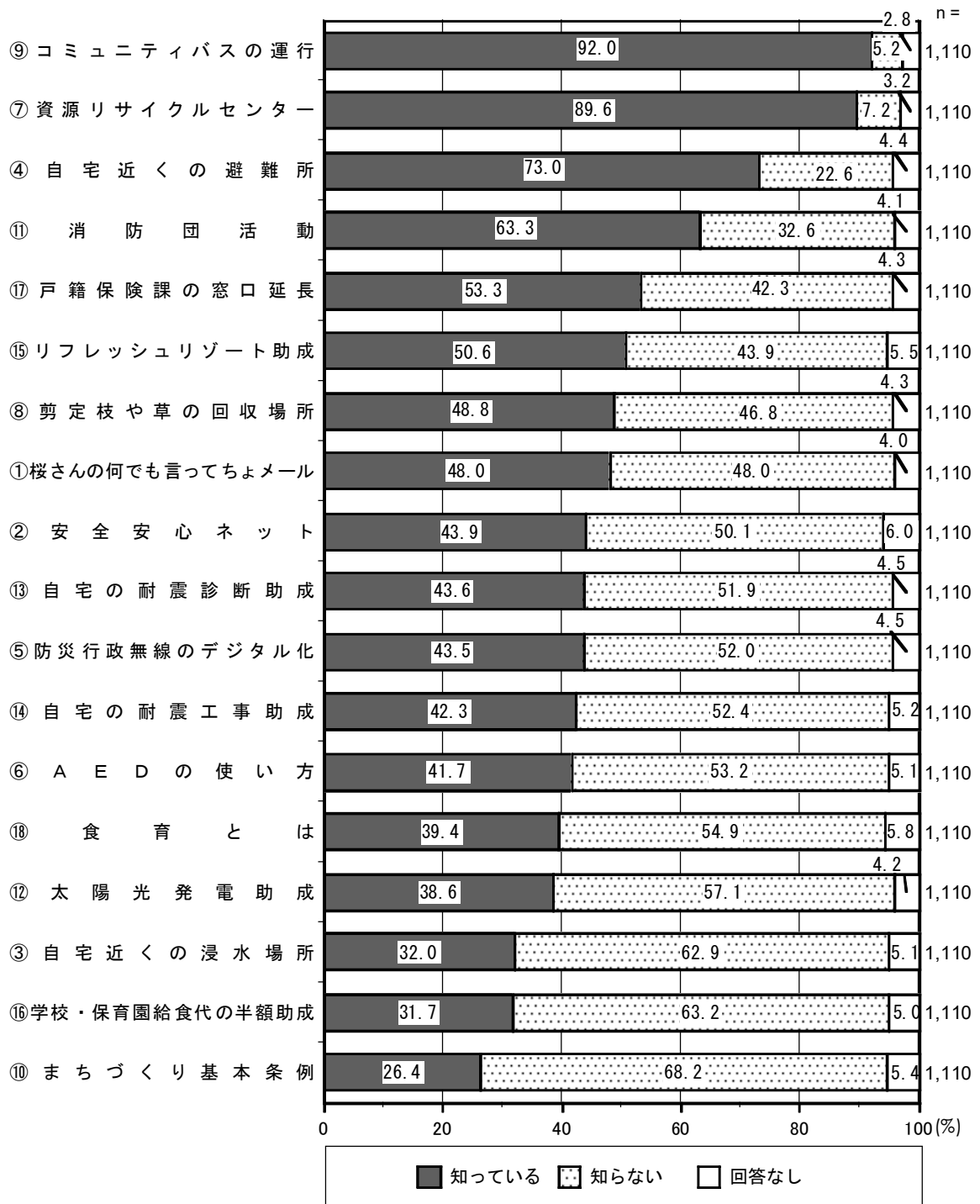


図 11-2 町の事業やサービスなどの認知状況について (H27 年調査)



12. 公共施設と住民負担の関係について

12-1 公共施設の利用（問 49）

問 49 あなたは、ここ 1 年以内に町内の公共施設（総合運動場、テニスコート、温水プールなど）を利用したことはありますか。【回答数：○印を 1 つだけ】

町内の公共施設を、ここ 1 年以内に利用したことがある人は約 3 割となっています。また、30・40 歳代は利用率が高く 4 割前後が利用しています。

【全体】（図 12-1-1）

○「利用したことがない」は 66.9%と「利用したことがある」の 31.1%を大きく上回っています。

【前回・前々回比較】（図 12-1-1）

○平成 27 年調査との比較では、概ね同様の結果となっています。

○平成 17 年調査との比較では、「利用したことがある」は 6.4 ポイント減少し、「利用したことがない」は 9.6 ポイント増加しています。

【年齢別】（図 12-1-2）

○「利用したことがある」は、30 歳代が 42.7%、40 歳代が 38.2%と他の年齢層よりも利用率が高くなっています。

図 12-1-1 前回・前々回比較「公共施設の利用」

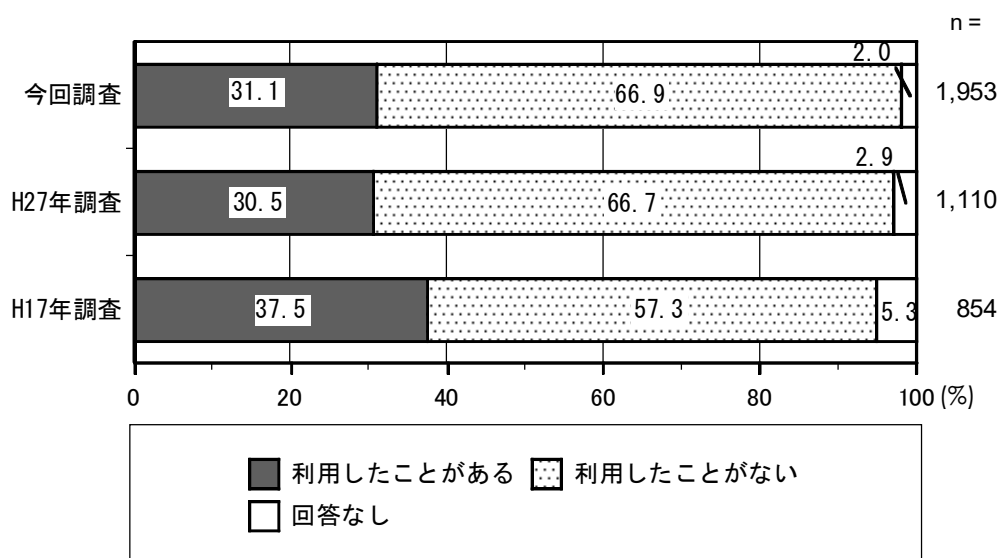
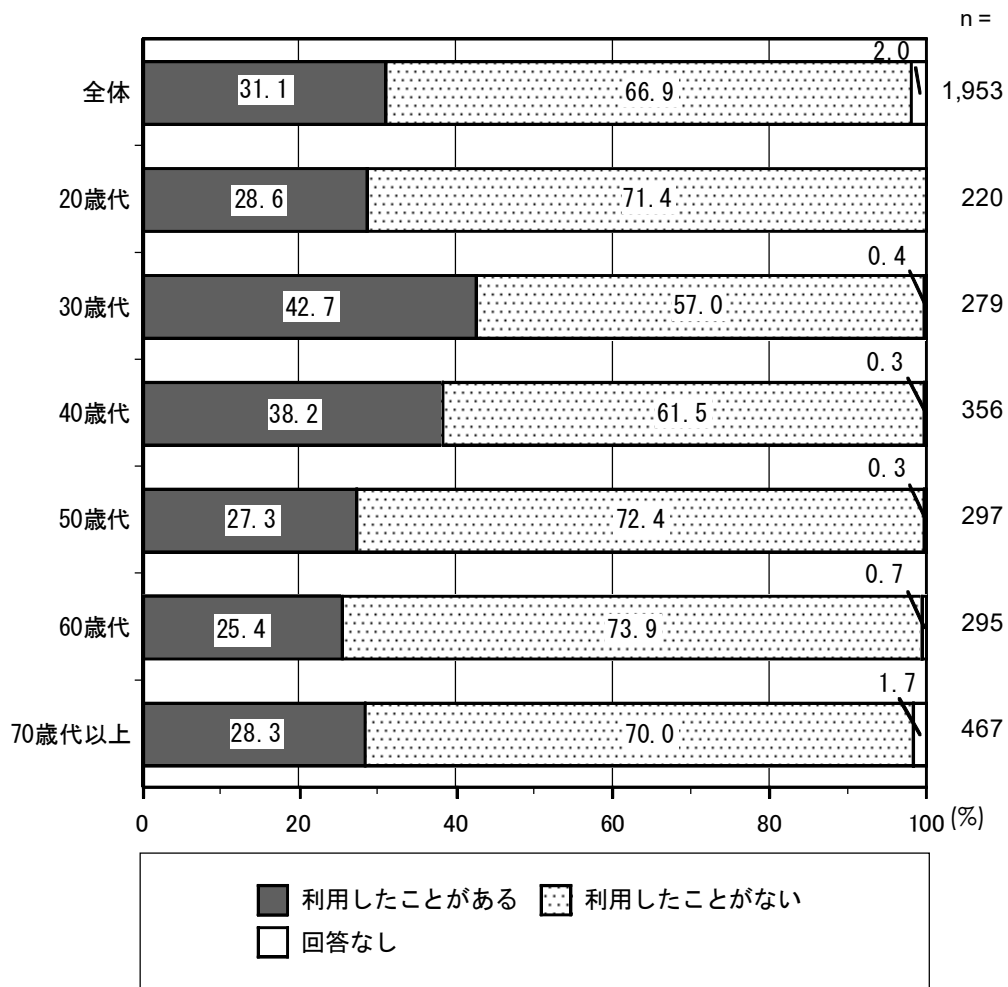


図 12-1-2 年齢別「公共施設の利用」



12-2 公共施設の利用と負担の関係（問50）

問 50 現在、町の公共施設（総合運動場、テニスコート、温水プール、中央公民館等）は使用（利用）するときに決められた使用料が必要ですが、これらの施設の維持管理には多くの税金が使われています。これからの公共施設の利用と負担の関係について、あなたの考えに最も近いのは何ですか。
【回答数：○印を1つだけ】

【全体】（図 12-2-1）

- これからの公共施設の利用と負担の関係についてその考え方を尋ねたところ、「公共施設の維持管理は、ある程度は税金で負担し、利用する人の使用料で維持管理することが望ましい」が72.5%と最も多くなっています。
- 「公共施設の維持管理は、できる限り町民の税金で行うことが望ましい」は12.1%、「税金で維持管理することはやめて、公共施設を利用する人の使用料で維持管理することが望ましい」は10.3%となっています。

【前回・前々回比較】（図 12-2-1）

- 平成27年調査との比較では、「公共施設の維持管理は、ある程度は税金で負担し、公共施設を利用する人の使用料で維持管理することが望ましい」が3.2ポイント増加しました。
- 平成17年調査との比較では、「公共施設の維持管理は、ある程度は税金で負担し、公共施設を利用する人の使用料で維持管理することが望ましい」が4.7ポイント増加し、「税金で維持管理することはやめて、公共施設を利用する人の使用料で維持管理することが望ましい」が5.7ポイント減少しました。

【年齢別】（図 12-2-2）

- 「公共施設の維持管理は、ある程度は税金で負担し、公共施設を利用する人の使用料で維持管理することが望ましい」の割合については、40歳代が全体よりも6.4ポイント、50歳代が全体よりも4.3ポイントそれぞれ多い一方で、70歳代以上では、全体よりも6.8ポイント少なくなっています。

図 12-2-1 前回・前々回比較「公共施設の利用と負担の関係」

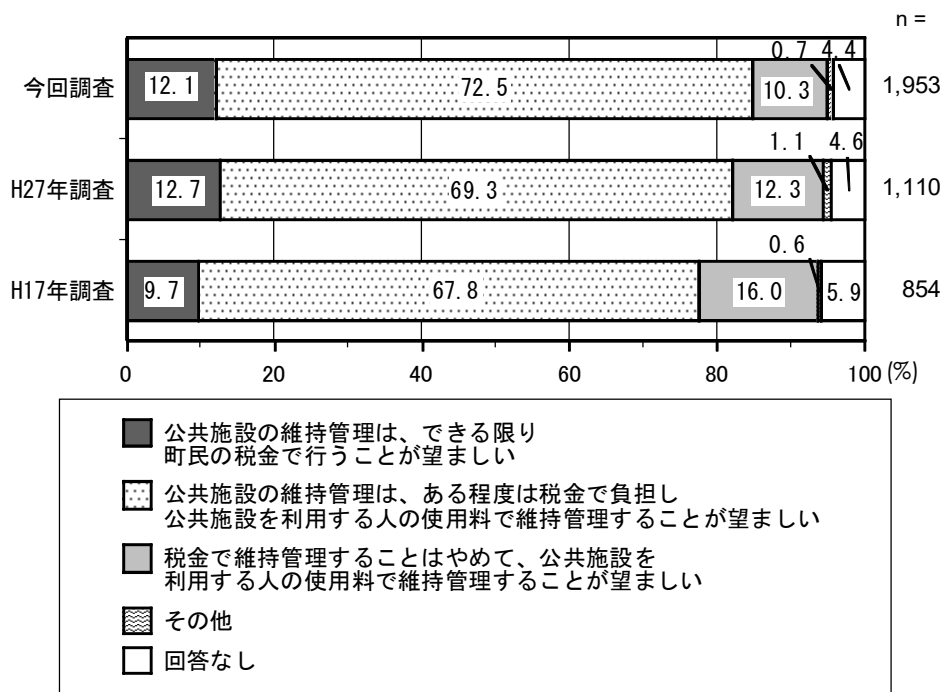
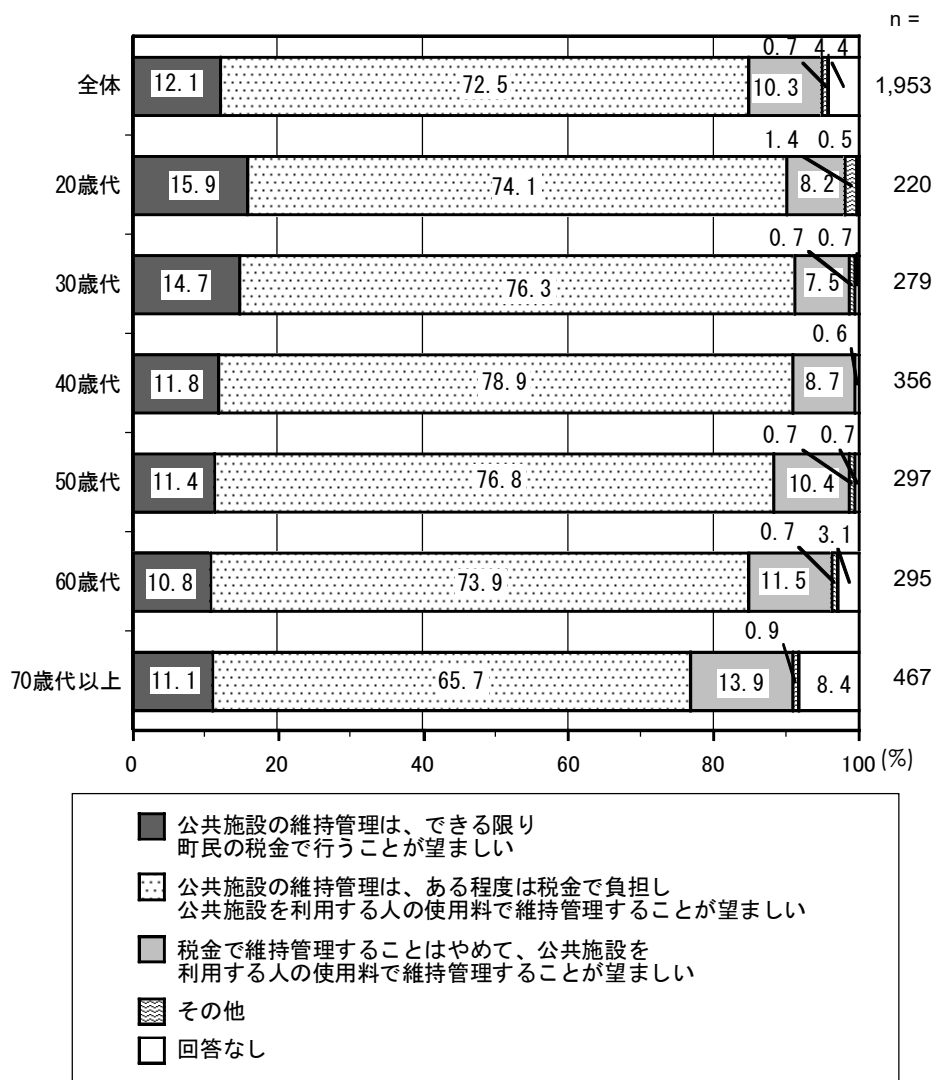


図 12-2-2 年齢別「公共施設の利用と負担の関係」

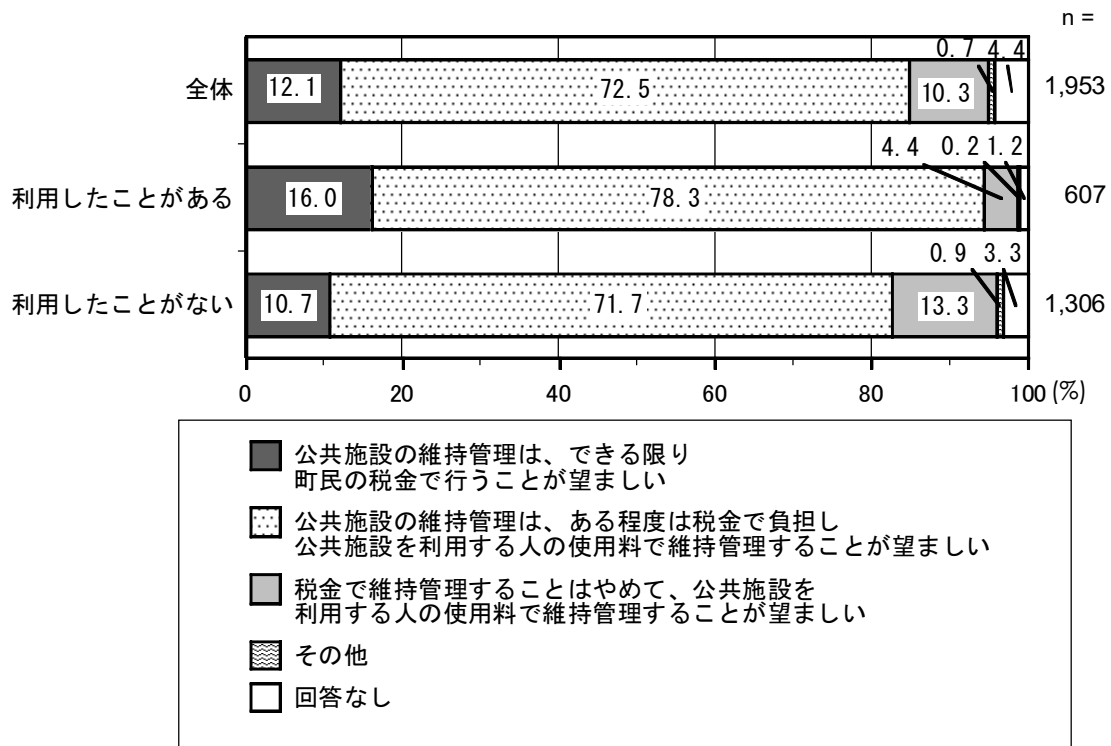


【問 49 「公共施設の利用」別】 (図 12-2-3)

○問 49 で “ここ 1 年以内に町内の施設を利用した” ことがあるかどうかの有無別にみると、「公共施設の維持管理は、ある程度は税金で負担し、公共施設を利用する人の使用料で維持管理することが望ましい」と回答した割合は、公共施設を「利用したことがある」という人では 78.3%で、「利用したことがない」(71.7%) を 6.6 ポイント上回っています。また、「公共施設の維持管理は、できる限り町民の税金で行うことが望ましい」についても、「利用したことがない」の 10.7%を 5.7 ポイント上回っています。

○これに対して、「税金で維持管理することはやめて利用する人の使用料で維持管理することが望ましい」の割合が「利用したことがない」人では 13.3%と、公共施設を「利用したことがある」という人 (4.4%) を 8.9 ポイント上回る結果になっています。

図 12-2-3 問 49 「公共施設の利用」別「公共施設の利用と負担の関係」



アンケート調査票（原票）

第7次大口町総合計画見直しのためのアンケート

◆ ご協力をお願い ◆

町民の皆さまには、日ごろから町政各般にわたりご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、大口町では、平成27年度末に、第6次総合計画の理念を継承しつつ、次の時代に対応したまちづくりと行政経営を進めていくため第7次総合計画を策定し、基本理念「みんなで進める自立と共助のまちづくり」の実現を目指してまちづくりを進めてきました。

そして、この計画を策定して5年度目を迎えた中間年度にあたる本年度に、これまで進めてきた施策・事業を評価し、第7次総合計画（基本計画部分）の見直しを行う作業に着手しました。その一環として、町民の皆さまに生活環境等の現状や将来のまちづくりの方向性などについてご意見をお聞きし、計画の見直しを行っていく上での基礎資料としていくためのアンケートを実施することになりました。

本アンケートは、大口町にお住まいの20歳以上の方の中から3,000人の方を無作為に選ばせていただき実施します。ご回答いただく内容はすべて統計的に処理し、調査目的以外に使用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和2年5月

大口町長 鈴木 雅博

■ご回答にあたっての留意事項

- この調査票は、あて名のご本人にお答えいただくようお送りしましたが、もし都合でご回答できない場合は、家族のどなたがご本人に代わってご記入いただいても結構です。その際は、記入された方の立場でお答えください。
- ご回答は、あてはまる回答の番号を○で囲んでください。なお、設問によっては複数回答ができる場合もございますので、設問の【 】内の注意書きをよくお読みになってください。
- ご記入いただきました調査票は、令和2年5月18日（月）までに同封の返信用の封筒（切手不要）に入れて投函してください。
- 記入方法などについてわからないことがありましたら、下記までお問い合わせください。

■このアンケートに関する問い合わせ先■

大口町総務部政策推進課 担当（村田）

電話：0587-95-1617（直通） Fax：0587-95-1030

E-mail：seisaku@town.oguchi.lg.jp

〒480-0144 大口町下小口七丁目155

1. 住み心地と定住意向について

問1 大口市は住みやすいまちだと思いますか。 【回答数：○印を1つだけ】

1. 住みやすい
2. どちらかといえば住みやすい
3. どちらかといえば住みにくい
4. 住みにくい

問2 あなたはこれからも大口市に住む予定ですか。 【回答数：○印を1つだけ】

1. ずっと住み続ける
2. できれば住み続けたい
3. できれば町外に移り住みたい、または移り住む予定がある
4. できるだけ早めに、町外に移り住みたい
5. わからない

問3 問2で「3. できれば町外に移り住みたい、または移り住む予定がある」または「4. できるだけ早めに、町外に移り住みたい」と回答した方にお聞きします。
あなたが町外へ移りたい、または、移る予定の主な理由は何ですか。 【回答数：2つまで○印】

1. 自分や家族の通勤・通学に不便だから
2. 自分の家を持ちたいから
3. 騒音や排気ガス等で生活環境が良くないから
4. よりよい医療や福祉サービスを受けたいから
5. 買い物や遊びに不便だから
6. 子どもの保育、子育て、教育をより良くしたいから
7. 自然災害への備え（防災）が不十分だから
8. 窃盗や空き巣など犯罪が心配だから
9. 地域の関係づくりや近所づきあいが負担であるから
10. 自然や気候が生活面において負担になっているから
11. 生まれ育った故郷に帰りたいから
12. 仕事、学校、家族の都合で移り住む予定があるから
13. その他（具体的に：_____）

2. 町政等の満足度と重要度について

問4 町で行う様々な地域づくりや施策・事業の現状について、あなたはどの程度満足していますか。また、どの程度重要であるとお考えですか。次の(1)～(34)の各項目について「満足度」「重要度」ごとにあてはまる番号に○印をつけてください。

【回答数：○印を「満足度」「重要度」ごとにそれぞれ1つずつ】

※回答欄は次ページ以降にあります。

記入例

この設問については、以下のように回答してください。

項目	満足度				重要度			
	満足	やや満足	やや不満	不満	非常に重要	重要	あまり重要でない	重要でない
(1) 家庭教育指導などの青少年の健全育成	1	2	3	4	1	2	3	4
(2) 学校と地域や家庭との連携	1	2	3	4	1	2	3	4
(3) 生涯学習講座のメニューや教	1	2	3	4	1	2	3	4

現在の状態にどれだけ満足していますか？

これからの地域づくりの中でどのくらい大切ですか？

このように○をつけてください



	満足度				重要度			
	満足	やや満足	やや不満	不満	非常に重要	重要	あまり重要でない	重要でない
(1) 家庭教育指導などの青少年の健全育成	1	2	3	4	1	2	3	4
(2) 学校と地域や家庭との連携	1	2	3	4	1	2	3	4
(3) 生涯学習講座のメニューや数	1	2	3	4	1	2	3	4
(4) スポーツ活動、教室のメニューや数	1	2	3	4	1	2	3	4
(5) 町立図書館の規模、運営	1	2	3	4	1	2	3	4
(6) 地域に住む外国人との交流・共生	1	2	3	4	1	2	3	4
(7) 安心して子どもを産み育てられるまちとしての魅力	1	2	3	4	1	2	3	4
(8) 保育サービスや相談窓口などの子育て支援	1	2	3	4	1	2	3	4
(9) 町による家庭ごみの収集回数	1	2	3	4	1	2	3	4
(10) ごみの分別やごみ出しのルールが守られている状況	1	2	3	4	1	2	3	4
(11) 五条川や桜並木などの整備・維持管理の状況	1	2	3	4	1	2	3	4
(12) 緑地・公園など憩いの空間	1	2	3	4	1	2	3	4
(13) 街灯や道路脇の花壇など住みやすい住宅地の環境	1	2	3	4	1	2	3	4
(14) 巡回バス（大口町コミュニティバス）の利便性	1	2	3	4	1	2	3	4
(15) 道路や交通安全施設の維持補修の状況	1	2	3	4	1	2	3	4
(16) 段差解消や道幅の確保など歩道の歩きやすさ・安全性	1	2	3	4	1	2	3	4
(17) 住民同士の助け合いによる地域福祉活動	1	2	3	4	1	2	3	4
(18) 生活支援・介護サービスなどの高齢者福祉	1	2	3	4	1	2	3	4
(19) 健康診断・保健指導などの健康づくり	1	2	3	4	1	2	3	4
(20) 地震や水害など防災に対する安心感	1	2	3	4	1	2	3	4
(21) 消防・救急体制	1	2	3	4	1	2	3	4
(22) 防犯パトロールなど地域の取り組みとその支援	1	2	3	4	1	2	3	4
(23) 犯罪にあうことのない安心感	1	2	3	4	1	2	3	4
(24) 交通事故からの安全性	1	2	3	4	1	2	3	4
(25) 町民の、交通ルールやマナーを守る意識	1	2	3	4	1	2	3	4
(26) 区の活動やコミュニティ、地域活動の活発さ	1	2	3	4	1	2	3	4
(27) 町民や企業のまちづくりへの参加状況	1	2	3	4	1	2	3	4
(28) NPO・ボランティア活動などへの支援	1	2	3	4	1	2	3	4
(29) 町ホームページによる町の情報提供	1	2	3	4	1	2	3	4
(30) 広報おおぐちによる町の情報提供	1	2	3	4	1	2	3	4
(31) 町政への住民参画の機会や場	1	2	3	4	1	2	3	4
(32) 大口町議会の活動	1	2	3	4	1	2	3	4
(33) 大口町の行財政運営	1	2	3	4	1	2	3	4
(34) 受付・窓口などにおける町職員の対応	1	2	3	4	1	2	3	4

3. 子育て・教育について

問5 あなたは、大口の子どもたち（小・中学生）はのびのびと育っていると思いますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|---------|-----------|------------------|---------------|----------|
| 1. そう思う | 2. まあそう思う | 3. あまりそう
思わない | 4. そう思わな
い | 5. わからない |
|---------|-----------|------------------|---------------|----------|

問6 あなたは、子どもを教育していく中で、家庭の役割としてどのようなことが重要であると思いますか。 【回答数：2つまで○印】

- | |
|------------------------------|
| 1. 親が責任を持ってしつけを行うこと |
| 2. 子どもに規則的な生活習慣を身に付けさせること |
| 3. 家庭で団らんの時間を作ること |
| 4. 手伝いをさせて家庭での子どもの役割を自覚させること |
| 5. 家族と一緒に趣味やスポーツをすること |
| 6. その他（具体的に：_____） |
| 7. わからない |

問7 子どもの教育には地域社会の役割が欠かせません。あなたは、地域ではどのような取組が重要であると思いますか。 【回答数：2つまで○印】

- | |
|--|
| 1. 地域の住民どうしが、気軽にあいさつや会話をすること |
| 2. 地域の子どもの、地域の大人が働く姿を見せることや、職場の見学や体験ができる機会を与えること |
| 3. 大人や子どもが交流できる機会を増やすこと |
| 4. 地域の住民が、お祭りなど地域の行事に参加すること |
| 5. 地域の住民が、地域のボランティア活動に参加すること |
| 6. その他（具体的に：_____） |
| 7. わからない |

問8 子どもの将来のために、大口町は、どのような教育分野に力を入れていくべきだと思いますか。 【回答数：2つまで○印】

- | | |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. 道徳教育 | 7. 産業教育 ^{※3} |
| 2. キャリア教育 ^{※1} | 8. 文化芸術教育 |
| 3. 学力の育成 | 9. 情報教育 |
| 4. 環境教育 | 10. その他（具体的に：_____） |
| 5. 国際教育 | _____) |
| 6. 特別支援教育 ^{※2} | 11. わからない |

※1 キャリア教育とは、子どもに将来の生き方や社会人、職業人としての在り方を考えさせ、望ましい勤労観・職業観や、社会に貢献していく態度と時代の変化に対応できる基礎的・基本的な資質と能力を育成する教育のことをいいます。

※2 特別支援教育とは、障がいのある子どもの能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し、社会参加するために必要な能力をつちかうため、一人一人の障がいの状態などに応じ適切に行う教育のことをいいます。

※3 産業教育とは、農業、工業、商業、水産業その他の産業に従事するために必要な知識、技能及び態度を習得させる目的をもって行う教育のことをいいます。

問9 「教員の多忙化」により教員が子どもと向き合う時間を十分に確保できないことが課題となっています。あなたは、授業以外で教員が行っている次の業務のうち優先すべき業務は何だと思いますか。 【回答数：3つまで○印】

1. 基本的な生活習慣を確立するための指導
2. 礼儀やマナー等のしつけに関する指導
3. 児童生徒の安全確保に関する指導（登下校の指導や学校内での安全）
4. 休み時間や放課後に子どもと遊んだり、一緒に過ごしたりすること
5. 進路に応じた課外授業や補習、個別指導など
6. 部活動やクラブ活動に関する指導
7. 学校行事（運動会、遠足、文化祭など）に関する指導
8. 児童会・生徒会や、委員会・係等の活動に関する指導
9. 地域行事への参加等の地域との連携に関する業務
10. 保護者との連絡や、保護者会、保護者面接、家庭訪問など
11. 教員自らの資質・能力向上のための研修・研究
12. その他（具体的に：_____）
13. わからない

4. 環境に配慮した暮らしについて

問10 あなたのご家庭では、節電などの省エネの実践やマイカーの利用を控えるなど日常的な暮らしの中で二酸化炭素の排出の削減に取り組んでいますか。【回答数：○印を1つだけ】

1. 取り組んでいる
2. まあ取り組んでいる
3. どちらともいえない
4. あまり取り組んでいない
5. 取り組んでいない

問11 あなたのご家庭では、ごみの減量化や分別によるごみの資源化に取り組んでいますか。【回答数：○印を1つだけ】

1. 取り組んでいる
2. まあ取り組んでいる
3. どちらともいえない
4. あまり取り組んでいない
5. 取り組んでいない

5. 身の回りの安全(防犯・防災)について

問12 あなたは、身の回りで起きる犯罪を未然に防止するため、地域の役割としてどのようなことが主に重要だと思いますか。 【回答数：3つまで○印】

1. 地域安全パトロール隊の活動を進める
2. 地域の犯罪が起ころうな場所の点検を行う
3. 日頃から近所づきあいやコミュニティ活動を活発にし、犯罪に強いコミュニティをつくる
4. 各世帯で防犯カメラや防犯ベルなどの防犯機器を設置する
5. 夜間の門灯点灯を地域の活動として進める
6. 地区老人クラブ等で防犯活動を進める
7. 防犯講座などを開催し、地域住民の防犯意識を高める
8. その他（具体的に：_____）
9. 特にない

問13 あなたは、ここ1～2年ぐらいの間に、家族や身近な人と振り込め詐欺や悪徳商法について話し合うなど被害にあわないよう注意していますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. 注意している | 3. あまり注意していない |
| 2. まあ注意している | 4. 注意していない |

問14 あなたのご家庭では、大地震が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。

【回答数：あてはまるものすべてに○印】

- | |
|--|
| 1. 消火器や水をはったバケツを準備している |
| 2. いつも風呂の水をためおきしている |
| 3. 家具や家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している |
| 4. 耐震性のある家に住んでいる |
| 5. 自宅建物もしくは家財を対象とした地震保険（地震被害を補償する共済を含む）に加入している |
| 6. 感震ブレーカー（揺れを感知して電気を止める器具）を設置している |
| 7. 自家用車の燃料が半分以下になれば満タンにするようにしている |
| 8. 食料や飲料水を準備している |
| 9. 携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などを準備している |
| 10. 非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している |
| 11. 貴重品などをすぐ持ち出せるように準備している |
| 12. 家族の安否確認の方法などを決めている |
| 13. 近くの学校や公園など避難する場所を決めている |
| 14. 防災訓練に積極的に参加している |
| 15. 外出時には、携帯電話やスマートフォンなどの予備電池を携帯している |
| 16. その他（具体的に：_____） |
| 17. 特に何もしてない |
| 18. わからない |

問15 あなたは、お住まいの地域で災害に備えた話し合いや防災訓練に参加していますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | | |
|---------------|-----------------|----------------------|-----------------------|----------------|-------------------------|
| 1. 参加して
いる | 2. まあ参加
している | 3. どちらと
もいえな
い | 4. あまり参
加してい
ない | 5. 参加して
いない | 6. やってい
ることを
知らない |
|---------------|-----------------|----------------------|-----------------------|----------------|-------------------------|

問16 あなたのご家庭では、災害に備えて食料や水など家庭内備蓄を行っていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | |
|------------------------|
| 1. 家庭内備蓄は何も行っていない |
| 2. 1～2日分程度の家庭内備蓄を行っている |
| 3. 3日分の家庭内備蓄を行っている |
| 4. 4日～6日分の家庭内備蓄を行っている |
| 5. 7日分の家庭内備蓄を行っている |
| 6. 8日以上分の家庭内備蓄を行っている |

問17 あなたは、ここ1～2年ぐらいの間に、家族や身近な人と災害発生時の避難場所や避難方法等について話し合いや確認を行ったことがありますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

問18 あなたのお住まいでは、家具・家電などを固定し、地震による家具・家電などの転倒・落下・移動による被害の防止対策を行っていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | |
|--------------------------------|
| 1. ほぼ全ての家具・家電などの固定ができています |
| 2. 重量のある家具・家電などの固定はできています |
| 3. 重量のある家具・家電などの半分程度の固定はできています |
| 4. 重量のある家具・家電などの一部の固定はできています |
| 5. 家具・家電などの固定は行っていません |

問19 あなたのお住まいでは、住宅用火災報知機の設置を行っていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 法律で定められた必要な場所（寝室、階段）すべてに設置している |
| 2. 一部の部屋に設置している |
| 3. 設置していない |

問20 あなたは、これまで救命救急講習を受けたことがありますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

6. 健康や食生活について

問21 あなたは、健康に不安を感じていますか。 【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|-------|---------|-----------------|----------|-------|
| 1. ある | 2. まあある | 3. どちらも
いけない | 4. あまりない | 5. ない |
|-------|---------|-----------------|----------|-------|

問22 あなたは、日頃、検査を受けたり運動をしたりと健康に気がついた暮らしができていると思いますか。 【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|---------|---------------|-----------------|------------------|---------------|
| 1. そう思う | 2. まあそう思
う | 3. どちらも
いけない | 4. あまりそう
思わない | 5. そう思わな
い |
|---------|---------------|-----------------|------------------|---------------|

問23 あなたには「かかりつけ医※」がいますか。 【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|-------|--------|
| 1. いる | 2. いない |
|-------|--------|

※かかりつけ医：病気の時などにいつも治療を受けたり、体調に不安があるときに健康相談ができる医師・医療機関。

問24 あなたは、ここ1～2年ぐらいの間に、治療目的以外に定期的に歯科の健康診査を受けましたか。 【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|--------|-----------|
| 1. 受けた | 2. 受けていない |
|--------|-----------|

問25 お住まいの地域では、気軽に運動をする場所や機会、散歩ができるような環境がありますか。 【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|-------|---------|------------------|----------|-------|
| 1. ある | 2. まあある | 3. どちらとも
いえない | 4. あまりない | 5. ない |
|-------|---------|------------------|----------|-------|

問26 あなたは、健康的な食生活ができていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|---------|---------------|------------------|------------------|---------------|
| 1. そう思う | 2. まあそう思
う | 3. どちらとも
いえない | 4. あまりそう
思わない | 5. そう思わな
い |
|---------|---------------|------------------|------------------|---------------|

問27 あなたは、毎日朝食を食べていますか。 【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | |
|------------|------------------|------------------|-------------------|
| 1. 毎日食べている | 2. ほぼ毎日食
べている | 3. たまには食
べている | 4. まったく食
べていない |
|------------|------------------|------------------|-------------------|

問28 あなたは、地産地消を意識して食材の買い物を行っていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | |
|---------------------|----------------------|-------------------|--------------------|
| 1. かなり意識的に
行っている | 2. まあまあ意識し
て行っている | 3. あまり意識して
いない | 4. まったく意識し
ていない |
|---------------------|----------------------|-------------------|--------------------|

問29 あなたは、日頃から笑顔で心豊かな生活ができていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|---------|---------------|------------------|------------------|---------------|
| 1. そう思う | 2. まあそう思
う | 3. どちらとも
いえない | 4. あまりそう
思わない | 5. そう思わな
い |
|---------|---------------|------------------|------------------|---------------|

問30 大口町では、次のような健康づくりの施策を実施していますが、今後、どの施策により一層力を入れるべきと思われますか。 【回答数：3つまで○印】

- | |
|--|
| 1. 健康教室・講座・広報などを通じて健康に関する知識を得るための機会の充実 |
| 2. 食生活の改善に向けて栄養指導の充実 |
| 3. 健康診断やがん検診（胃がん、子宮がん、乳がん、肺がん、大腸がんなど）の充実 |
| 4. 健康問題に関する相談の充実 |
| 5. 歯科保健事業（歯科健診・相談、フッ素塗布など）の充実 |
| 6. 気軽にできる健康体操教室の充実 |
| 7. その他（ <input type="text"/> ） |
| 8. 特にない |

7. これからのライフスタイルと社会貢献について

【これからのライフスタイルについて】

問31 今後の生活において、物の豊かさと心の豊かさに関して、次の考え方の中で、あなたの考え方に近いのはどれですか。 【回答数：○印を1つだけ】

- | |
|--|
| 1. 物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさ、ゆとりのある生活をする
ことに重きをおきたい |
| 2. まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい |
| 3. どちらともいえません |
| 4. わからない |

問32 あなたのこれからの暮らし方について、今後、どのような活動に時間をとりたいと考えていますか。 【回答数：あてはまるものすべてに○印】

- | | | |
|---------------|--------------|---------------------|
| 1. 報酬を得て行う仕事 | 6. 介護 | 11. 健康づくり |
| 2. ボランティア | 7. 趣味 | 12. その他（具体的に：_____） |
| 3. 自治会などの地域活動 | 8. 勉強 | _____ |
| 4. 家事 | 9. 家族のだんらん | _____） |
| 5. 子育て | 10. 友人とのつきあい | 13. 特にない |

【社会貢献について】

問33 あなたは、日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っていますか。それとも、あまりそのようなことは考えていませんか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | | |
|----------|--------------|----------|
| 1. 思っている | 2. あまり考えていない | 3. わからない |
|----------|--------------|----------|

問34 問33で「1. 思っている」と回答した方にお聞きします。何か社会のために役立ちたいと思っているのはどのようなことですか。 【回答数：あてはまるものすべてに○印】

- | |
|---|
| 1. 青少年健全育成に関する活動（ボーイスカウト・ガールスカウト活動、子ども会など） |
| 2. 体育・スポーツ・文化に関する活動（スポーツ・レクリエーション指導、祭り、学校でのクラブ活動における指導など） |
| 3. 自主防災活動や災害援助活動 |
| 4. 公共施設での活動（学校や図書館、老人福祉センター等でのボランティアなど） |
| 5. 生涯学習活動に関する指導、助言、運営協力などの活動（料理、英語、書道など） |
| 6. 国際交流（協力）に関する活動（通訳、難民援助、技術援助、留学生援助など） |
| 7. 社会福祉に関する活動（老人や障がい者などに対する介護、身の回りの世話、給食、保育など） |
| 8. 保健・医療・衛生に関する活動（病院ボランティアなど） |
| 9. 自然・環境保護に関する活動（環境美化、リサイクル活動、牛乳パックの回収など） |
| 10. 交通安全に関する活動（子どもの登下校時の安全監視など） |
| 11. 募金活動、チャリティーバザー等への参加 |
| 12. 町内会などの地域活動（地区の役員、防犯や防火活動など） |
| 13. 家事や子どもの養育を通して |
| 14. 自分の職業を通して |
| 15. その他（具体的に：_____） |
| 16. わからない |

8. 人や地域のつながりや地域自治活動、行政と住民の協働について

【人や地域のつながりについて】

問35 あなたは、日常的に身近な地域の方々とあいさつをしていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|---------|-----------|--------------|--------------|----------|
| 1. している | 2. まあしている | 3. どちらともいえない | 4. あまりしていません | 5. していない |
|---------|-----------|--------------|--------------|----------|

問36 あなたは、登下校ですれ違う子ども達とのあいさつ運動を行っていますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|----------|------------|--------------|--------------|-----------|
| 1. 行っている | 2. まあ行っている | 3. どちらともいえない | 4. あまり行っていない | 5. 行っていない |
|----------|------------|--------------|--------------|-----------|

問37 あなたは、高齢者や障がいのある人、ベビーカーを使っている人などまちで困っている人に出会った時、手助けをしたことがありますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 手助けをしたことがある |
| 2. そのような場面に出会ったことはないが、手助けできると思う |
| 3. そのような場面に出会った時はあるが、手助けできなかった |
| 4. そのような場面に出会ったとしても、なかなか手助けはできないと思う |
| 5. そのような場面に出会ったことがないので、わからない |

【地域自治活動について】

問38 大口町では、平成22年にまちづくり基本条例を制定し、これに基づき3つの小学校区毎に地域自治組織を設置して、行政区の範囲を超えた地域の課題を把握してその改善等を進めていくための活動を始めています。あなたは、こうしたことをご存じですか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | |
|--|
| 1. その活動に関わっており、よく知っている |
| 2. その活動に関わっていないが、設立したことやどのような活動をしているかについて概ね知っている |
| 3. 設立したこと程度は知っている |
| 4. 設立されていることも知らない |

問39 あなたは、地域自治組織の活動に参加したいと思いますか。 【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | |
|-------------|-------------|---------------|----------|----------|
| 1. 既に参加している | 2. 参加したいと思う | 3. あまり参加したくない | 4. 参加しない | 5. 興味もない |
|-------------|-------------|---------------|----------|----------|

【ボランティア活動への参加について】

問40 あなたは、ここ1年間の中で、ボランティア活動にどの程度参加していますか。【回答数：○印を1つだけ】

- | |
|------------------------|
| 1. 積極的に参加している |
| 2. 内容によって参加している |
| 3. 参加する考えはあるが、参加できていない |
| 4. ほとんど参加していない |
| 5. まったく参加していない |

【住民と行政の協働について】

問41 住民の町行政への関わりについて、あなたのお考えに最も近いのはどれですか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | |
|--|
| 1. 行政が責任を持って施策・計画をつくりそれを実施し、住民へはその経過を情報提供するだけでよい |
| 2. 事前に住民の意見を聞いて行政が責任を持って施策・計画をつくり、それを実施すればよい |
| 3. 住民参加により施策・計画をつくり、住民と行政が協力しながらそれを実施するべきである |
| 4. 施策・計画への住民参加だけではなく、実施にあたっては住民の自主性・主体性に任せ、行政はできるだけ支援に徹するべきである |
| 5. その他（具体的に：_____） |
| 6. わからない |

問42 住民の参画と参加のまちづくりのために、町ではどのようなことを進める必要があると思いますか。【回答数：3つまで○印】

- | |
|---|
| 1. 広報紙や町のホームページの充実など広報活動の充実 |
| 2. 町政懇談会や住民相談など広聴活動の充実 |
| 3. 情報提供・情報公開の拡充 |
| 4. アンケートや聞き取り調査の実施 |
| 5. FAXやメールなどによる住民提案・意見箱の充実（わかりやすい場所への設置や設置数の増加など） |
| 6. 委員会や審議会などにおける住民の公募枠の拡大 |
| 7. 町民会議やワークショップなど、直接的な住民参加機会の拡大 |
| 8. 住民のまちづくりへの参加や住民自治を進めるための条例や制度づくり |
| 9. 議会、審議会などの議事録のわかりやすい提示 |
| 10. 区や自治会を通じて地域住民の要望を町政に反映させる仕組みづくり |
| 11. 議員を通じて地域住民の要望を町政に反映させる仕組みづくり |
| 12. その他（具体的に：_____） |
| 13. 特にない |

問43 町では、地域の自治を大切にして、これから町民の皆さんと一緒にあったまちづくりを一段と強く進めていこうと考えています。そこで、次に掲げる①～⑩の活動について、あなたのお考えに最も近いのはどれですか。

【回答数：それぞれ①～⑩について1つずつあてはまる番号に○印】

	地域・住民が 自ら行う ことができる	行政の支援 のもと住民 が主体的に 行うことが できる	行政が 主体的に行 うべき	わから ない
①日常の安否確認や外出支援など 高齢者の生活を支える活動	1	2	3	4
②点訳や要約筆記、手話通訳など 障がい者の生活を支える活動	1	2	3	4

	地域・住民が 自ら行うこと ができる	行政の支援 のもと住民 が主体的に 行うことが できる	行政が 主体的に行 うべき	わから ない
③子育て相談や緊急時の預かりなど 子育て家庭を支援する活動	1	2	3	4
④道路の清掃や花植えなど まちの環境を美しくする活動	1	2	3	4
⑤ごみの減量や省エネルギーなど 環境問題に対応する活動	1	2	3	4
⑥スポーツや趣味・芸術活動など 生涯学習・スポーツに関する活動	1	2	3	4
⑦パトロール活動など 交通安全や防犯に関する活動	1	2	3	4
⑧火災や災害に備えた 消防や防災に関する活動	1	2	3	4
⑨通訳や交流イベントなど 国際交流に関する活動	1	2	3	4
⑩公民館や公園など 地域施設の管理・運営する活動	1	2	3	4

9. 地域の情報化について

問44 町では、毎月1回「広報おおぐち」を全戸配布していますが、あなたは、広報おおぐちを
読んでいますか。 【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. 毎回よく読んでいる | 4. ほとんど読んだことがない |
| 2. 日を通す程度であるが毎回読んでいる | 5. 今までまったく読んだことがない |
| 3. 時々必要事項を選んで読んでいる | |

問45 町では、毎朝（午前7時20分）と毎夕（午後7時15分）に防災無線の個別受信機を通じ
て「各課のお知らせ」を放送しています。あなたは、この放送を聴いていますか。
【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. ほぼ毎日聴いている | 4. ほとんど聴かない（年に数回程度） |
| 2. たまに聴いている（週に1～2回程度） | 5. 今まで聴いたことはない |
| 3. あまり聴かない（月に1～2回程度） | 6. 個別受信機がない |

問46 あなたは、ご家庭でインターネットを利用していますか。

【回答数：○印を1つだけ】

- | |
|-------------------------------|
| 1. 利用している |
| 2. 利用していない |
| 3. 利用したいが、パソコンがないなどの理由で利用できない |

問47 あなたは、インターネットを活用した地域情報化施策を進めることに、どのような効果を期待しますか。【回答数：2つまで○印】

- | |
|---------------------------------------|
| 1. コミュニケーションが活発になり、町民と行政、町民と町民の関係が深まる |
| 2. まちづくりへの参画と参加が進む |
| 3. 町政に町民の意見が細かく反映されるようになる |
| 4. 役場への届出や申請などの手続きが窓口以外でも可能になり、便利になる |
| 5. 公共施設の利用状況の確認や予約が容易にできるようになる |
| 6. 税金や保険料などの支払いが容易にできるようになる |
| 7. 役場各課からのお知らせや地域情報など、さまざまな情報が提供される |
| 8. その他（具体的に：_____） |
| 9. 特にない |

10. 町の事業やサービスなどの認知状況について

問48 あなたは、以下の①～⑫の大口町が実施している事業やサービスなどについて知っていますか。

【回答数：①～⑫の項目それぞれについて1と2のどちらか一方に○印】

項目	知ってる	知らない
① 桜さんの何でも言っちゃメール	1	2
② あんしん・安全ねっと	1	2
③ 自宅近くの浸水場所	1	2
④ 自宅近くの避難所	1	2
⑤ 防災行政無線のデジタル化	1	2
⑥ AEDの使い方	1	2
⑦ 資源リサイクルセンター	1	2
⑧ 剪定枝や草の回収場所（豊田地内、二ツ屋地内）	1	2
⑨ コミュニティバスの運行	1	2
⑩ まちづくり基本条例	1	2
⑪ 消防団活動	1	2
⑫ 太陽光発電助成	1	2

項 目	知ってる	知らない
⑬ 自宅の耐震診断助成	1	2
⑭ 自宅の耐震工事助成	1	2
⑮ リフレッシュリゾート助成	1	2
⑯ 学校給食の半額・保育園主食代の全額助成	1	2
⑰ 戸籍保険課（住民票発行）の窓口延長	1	2
⑱ 食育とは	1	2

11. 公共施設と住民負担の関係について

問49 あなたは、ここ1年以内に町内の公共施設（総合運動場、テニスコート、温水プールなど）を利用したことはありますか。【回答数：○印を1つだけ】

1. 利用したことがある
2. 利用したことがない

問50 現在、町の公共施設（総合運動場、テニスコート、温水プール、中央公民館等）は使用（利用）するときに決められた使用料が必要ですが、これらの施設の維持管理には多くの税金が使われています。これからの公共施設の利用と負担の関係について、あなたの考えに最も近いのは何ですか。 【回答数：○印を1つだけ】

1. 公共施設の維持管理は、できる限り町民の税金で行うことが望ましい
2. 公共施設の維持管理は、ある程度は税金で負担し、公共施設を利用する人の使用料で維持管理することが望ましい
3. 税金で維持管理することはやめて、公共施設を利用する人の使用料で維持管理することが望ましい
4. その他（具体的に：_____）

12. あなた自身のことについて

問51 あなたの性別はどちらですか【回答数：○印を1つだけ】

1. 男性
2. 女性

問52 あなたの年齢はいくつですか【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | |
|---------|---------|------------|------------|
| 1. 20歳代 | 3. 40歳代 | 5. 60歳～64歳 | 7. 70歳～74歳 |
| 2. 30歳代 | 4. 50歳代 | 6. 65歳～69歳 | 8. 75歳以上 |

問53 あなたは、どの地区にお住まいですか。【回答数：○印を1つだけ】

- | | | | | | |
|-------|--------|-------|--------|--------|-----------|
| 1. 秋田 | 3. 大屋敷 | 5. 河北 | 7. 上小口 | 9. 下小口 | 11. さつきヶ丘 |
| 2. 豊田 | 4. 外坪 | 6. 余野 | 8. 中小口 | 10. 垣田 | |

問54 あなたは大口町に住んで何年くらい経ちますか。【回答数：○印を1つだけ】

- | | | |
|--------------|---------------|----------|
| 1. 5年未満 | 3. 10年以上20年未満 | 5. 30年以上 |
| 2. 5年以上10年未満 | 4. 20年以上30年未満 | |

問55 あなたの職業は次のうちどれですか。 【回答数：○印を1つだけ】

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1. 農業従事者 | 6. パート・アルバイト、フリーター |
| 2. 自営業・自由業 | 7. 家事従事・無職 |
| 3. 会社員・店員等 | 8. 学生 |
| 4. 公務員・団体職員 | 9. その他 |
| 5. 会社・団体の役員 | |

問56 あなたの同居家族の中には、次のいずれかにあてはまる方はいますか。あなたご自身も含めてご回答ください。 【回答数：あてはまるものすべてに○印】

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 乳児（1歳未満） | 6. 大学（院）生・専門学校生 |
| 2. 幼児（1歳から小学校入学前まで） | 7. 65～74歳の高齢者 |
| 3. 小学生 | 8. 75歳以上の高齢者 |
| 4. 中学生 | 9. 1～8にあてはまる人はいない |
| 5. 高校生 | |

●これからの大口町のまちづくりについてアイデアやご意見がありましたら、どんなことでも結構ですので、自由にご記入ください。[箇条書き]

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。